

2011 平成 23年度

授業計画書 経済学部

Syllabus Faculty of Economics



敬愛大学

2011年度「授業計画書 (Syllabus)」 利用について

授業計画書 (シラバス) は、皆さんがこれから学び修得してゆく知識の全容です。学生の皆さんにとっては、これからの進路や興味にあわせて授業科目を選択したり、予習・復習をするとき、研究や卒業論文を作成する時の指針になります。また、教員にとっては、授業の進行状況をチェックするためのチェックリストの役目を果たします。

授業計画書を持ち運びに便利のようにコンパクトにしました。いつも携帯し、有効に活用してください。

成績評価の基準について

授業科目の成績評価は各科目それぞれの特性や受講学生数等の諸条件を考慮して最終的には各教員が決定しますが、原則的には次によります。(平成11年7月教授会決定)

1. 各科目の成績評価の対象者
各科目の開講時間の3分の2以上出席した者
2. 評価基準およびその割合

成績の基準	評価	割合	備考
90点以上	秀	30%	※評価の割合はあくまで目安であり、 左記に縛られるものではありません。
80点以上	優		
70点以上	良	30%	
60点以上	可	30%	
59点以下	不可	10%	

2011年度(平成23年度)

授業計画書

履修要項

シラバス

規程

授業計画書

総目次

履修要項

I 教育課程 1 2011(平成23)年度入学者に適用する	(5)
II 教育課程 2 2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する	(29)
III 教育課程 3 2008(平成20)年度入学者に適用する	(45)
IV 教育職員免許状取得のための課程	(53)

シラバス

I もくじ	(67)
II 各授業内容	1
III ライセンスプログラム	185
IV 教職及び教科に関する科目	187
V 2008～2011年度科目名変更一覧	205
VI カリキュラム表	215

規程

I 敬愛大学経済学部規程	241
--------------	-----

五十音順索引	245
--------	-----

履 修 要 項

- I** 教育課程 1
2011(平成23)年度入学者に適用する …………… (5)
- II** 教育課程 2
2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する … (29)
- III** 教育課程 3
2008(平成20)年度入学者に適用する …………… (45)
- IV** 教育職員免許状取得のための課程 …………… (53)

履 修 要 項

I 教育課程 1

2011(平成23)年度入学者に適用する教育課程
(学籍番号の上3ケタが、111の学生向け)

I 教育課程 1

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2011（平成23）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」に基づき、卒業に必要な就業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済系」と「経営系」の2つの教育課程を用意しています。
3. 「経済系」・「経営系」にはそれぞれ4つの専門的な学習コースがあり、2系8コースの選択方法は、1年次の履修を経て、2年次の履修登録時にコースを決定します。
2年次以降は自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき、各自が選択したコースの科目を具体的に体系的に履修していくことになっています。
4. 経済学部では、2009年度より新たなカリキュラムを導入し、教育課程には、学部共通科目を基礎として、基礎科目群、言語科目群、教養科目群、キャリア科目群、演習科目群を配しており、「経済系」・「経営系」の専門分野にあつては、基本科目群、経済系専門科目群、経営専門科目群、展開科目群で構成しています。
また、基礎科目を、必修科目もしくは選択必修科目として1年次に多く配置し、よりスムーズに高度な専門分野へ移行できる段階的な教育を実践します。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「I（前期）・II（後期）」科目の「II」の履修にあつては、条件付科目があるので、シラバス（本冊子00頁以降）で確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。
7. 「敬愛プログラム」を2009年度より新設しました。「敬愛プログラム」は、学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動の支援を目的とする制度です。学生は、ボランティア活動、クラブ活性化活動、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成したうえで、当該年度に成果の発表を行います。その成果が評価に値するものと認定されれば、活動そのものが卒業単位として認められ、さらに支援金の支給を受けることができます。

2. 2系8コースの概要と教育目標①

経済系(4コース)

日本・世界経済コース

経済学を基礎から応用まで学習します。この学習を通じて、日本経済と世界経済が直面している諸問題を考える力が身につきます。

めざせる進路

商社／貿易会社／サービス業／製造業などの民間企業／国際機関／NGO／大学院進学

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／通関士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

環境・福祉コース

環境問題に関する最新の知識と事例を学習します。また、生活に深くかわりのある社会保障、医療、年金、介護などの知識を学びます。

めざせる進路

環境関連企業／環境関係のNPO／地方自治体の環境部門／福祉関連企業／社会福祉協議会

取得できる免許・資格

社会保険労務士／社会福祉士／介護福祉士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(公民)教員免許／グリーンアドバイザー

公共サービスコース

公共サービスを理解するために金融・財政政策、公共経済学、公共選挙論などを学びます。法律科目を学び行政実務に精通することもできます。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員(県庁、市役所、町村役場、警察官、消防士など)／政府関連企業

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／行政書士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

金融・証券コース

金融論、証券経済論、保険論などを学んで、金融市場や資産運用などの問題を考えます。金融の実務についても学んでいきます。

めざせる進路

都市銀行／地方銀行／信用金庫／信用組合／証券会社／生命保険会社／損害補償会社／日本郵政会社系金融機関(UP)／ノンバンク金融機関

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／証券アナリスト／ファイナンシャルプランナー

2. 2系8コースの概要と教育目標②

経営系(4コース)

経営・会計コース

企業のさまざまな活動を分析する学問である経営学の理論を基礎から段階的に学びます。授業では実際に企業が直面する事例を多く取り上げ、実践力育成を重視した指導を行います。

めざせる進路

民間企業／経営コンサルタント／起業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／日商簿記／経営学検定試験／
中小企業診断士／公認会計士／税理士／高校1種(商業)教員免許

ビジネス情報コース

情報システムの仕事に必要なコンピュータの操作方法や技術的な理論を身につけます。あわせて、システム開発に必要な経営学や会計学に関する知識も学びます。

めざせる進路

システムエンジニア／プログラマー

取得できる免許・資格

Microsoft® Office Specialist /
基本情報技術者／高校1種(情報)教員免許

現代産業コース

卒業後に地元で活躍したい人のためのコースです。地域や産業を分析する方法や地域活性化の事例について学びます。さらに、流通業やサービス業における実践的な知識も習得します。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員／経営コンサルタント／小売・外食・レジャー産業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／中小企業診断士／
高校1種(商業・地理歴史)教員免許

スポーツビジネスコース

スポーツを経済学や経営学の視点から学ぶとともに、スポーツ科学理論やスポーツ実技を総合的に学びます。これにより、経営学的な知識とスキルを併せ持った人材、地域スポーツに貢献できる人材を育成するとともに生涯スポーツに携わる団体職員や、警察官・消防士などの公務員になるための知見を養い、実践的知識を身に付けます。

めざせる進路

一般企業／スポーツ企業／スポーツ施設／スポーツショップ経営／
スポーツ商品販売／公務員(警察官・消防士・一般行政職)／教員

取得できる免許・資格

中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地歴・公民・商業・情報)教員免許

3. 科目区分および卒業要件単位略図(2011年度入学者)

科目区分		履修区分	卒業要件単位	
学部共通科目	基礎科目	基礎科目A	必修科目	16
		基礎科目B	選択科目	2
	言語科目	言語科目A	必修科目	4
		言語科目B	選択科目	4
	教養科目		選択科目	16
	キャリア科目		選択科目	4
	演習科目		必修科目	10
経済系・ 経営系別 専門科目	基本科目	基本科目A	必修科目	8
		基本科目B	選択科目	16
	経済系専門科目	(日本・世界経済コース科目) (環境・福祉コース科目) (公共サービスコース科目) (金融・証券コース科目)	選択科目	12
	経営系専門科目	(経営・会計コース科目) (ビジネス情報コース科目) (現代産業コース科目) (スポーツビジネスコース科目)		
	展開科目		選択科目	14
学部共通科目	自由選択科目	選択科目	18	
卒業要件単位数			124	

4. 2011年度卒業要件概念図①

科目区分		1年次	2年次	3年次
学 部 共 通 科 目	基礎科目A 必修科目	文章表現、口頭表現、基礎数学、 入門経済学、入門経営学、 キャリアプランニング、 健康科学、情報基礎Ⅰ・Ⅱ		
	基礎科目B 選択科目	敬天愛人講座、入門経済学実習、 入門経営学実習		
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ・Ⅱ	英語Ⅲ・Ⅳ	
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ・Ⅱ、 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 日本語Ⅰ・Ⅱ、英会話Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅲ・Ⅳ、ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、 中国語Ⅲ・Ⅳ、日本語Ⅲ・Ⅳ、 英会話Ⅲ・Ⅳ	
		ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、時事英語Ⅰ・Ⅱ		
	教養科目 選択科目	敬愛プログラム、スポーツ教育、哲学、心理学、社会心理学、日本の文学、比較文学、歴史学、法学、 日本の政治、社会学、数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、環境科学、地球科学、情報概論、Webデザイン、 プログラミング入門(VB)・(C)・(Perl)、VBプログラミング、Cプログラミング、Perlプログラミング、 データベースオペレーション、プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、総合科目Ⅰ・Ⅱ、海外事情研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、		
	教職専門科目 選択科目	日本史概論Ⅰ・Ⅱ、世界史概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌学Ⅰ・Ⅱ、哲学概論Ⅰ・Ⅱ、 自然地理学Ⅰ・Ⅱ、環境地理学Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア科目 選択科目		実践会話Ⅰ・Ⅱ、 キャリア基礎開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	キャリアディベロップメント、 キャリア教育特殊講義、 インターンシップ
演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	専門演習Ⅰ・Ⅱ	

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	16	22単位以上	全科目16単位必修
	2		3科目から2単位以上選択必修
	4		全科目4単位必修
	4	20単位以上	4単位以上選択必修（同一言語科目を継続して履修する。ただし、「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。）
憲法Ⅰ・Ⅱ、政治学、Excelデータ解析、情報検索入門、地域ボランティア活動	16		16単位以上選択必修
比較政治学、社会学概論、			教職課程履修者のみ対象
	4	4単位以上	4単位以上選択必修
卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文	10	10単位	全科目10単位必修

4. 2011年度卒業要件概念図②

科目区分		1年次	2年次	3年次
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ、 日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目		経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、経済学史Ⅰ・Ⅱ、 金融論Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、社会政策Ⅰ・Ⅱ、 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	日本・世界経済コース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済地理、 世界経済地理、入門経済刑法、サイバー刑法、商法、会社法、	国際貿易論、開発経済学、 アメリカ経済事情Ⅰ・Ⅱ、 労働経済論Ⅰ・Ⅱ
	環境・福祉コース科目 選択科目		環境と生活、開発と環境、都市環境とまちづくり、環境ビジネス、 環境政策、家族と地域社会、福祉経済論、社会福祉論、保険論、 民法Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ、労働経済論Ⅰ・Ⅱ、 医療の経済学、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、
	公共サービスコース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、公共選択論、地域経済論、 入門経済刑法、サイバー刑法、行政法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、 民法Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、地方自治論演習	地方財政論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
	金融・証券コース科目 選択科目		金融事情Ⅰ・Ⅱ、資産運用論、保険論、商法、会社法、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ、証券経済論Ⅰ・Ⅱ、 計量経済学Ⅰ・Ⅱ
	展開科目 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、金融経済の基礎知識		
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位選択必修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位選択必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
	12	各系のコース別に 12単位以上	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ、 アジア経済論、中東経済論、	12		環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
資源エネルギー論、 環境問題Ⅰ・Ⅱ	12		公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
財政赤字の経済学、	12		金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
銀行論Ⅰ・Ⅱ、企業金融論Ⅰ・Ⅱ、	12		この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
経済数学Ⅰ・Ⅱ、経営学概論Ⅰ・Ⅱ、 中小企業論Ⅰ・Ⅱ、 知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、食料経済論、	14	14単位以上	この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	18	18単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、18単位以上選択必修
124単位			

4. 2011年度卒業要件概念図③

科目区分		1年次	2年次	3年次
経営系専門科目	基本科目A 必修科目	経営学概論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、 産業論Ⅰ・Ⅱ、マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、経営史Ⅰ・Ⅱ、 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、経営分析Ⅰ・Ⅱ、 経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ		
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ・Ⅱ、消費者行動論Ⅰ・Ⅱ、商法、会社法、 民法Ⅰ・Ⅱ		原価計算論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論Ⅰ・Ⅱ、 マーケティングリサーチ、 企業文化論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、
	ビジネス情報コース科目 選択科目	経営情報論Ⅰ・Ⅱ、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、 OS論、ネットワークシステム論、情報セキュリティ論、 アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、システム設計論Ⅰ・Ⅱ、情報システム開発論		流通情報論、データベース論、 知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、
	現代産業コース科目 選択科目	産業立地論Ⅰ・Ⅱ、流通論、流通経営論Ⅰ・Ⅱ、 観光事業論Ⅰ・Ⅱ、地域産業論、地域調査論		流通情報論、サービス産業論、 産業組織論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、 都市環境とまちづくり
	スポーツビジネス科目 選択科目	スポーツ科学概論、 スポーツ経営論、 スポーツ産業論		スポーツキャリア実習、 スポーツビジネス論、 スポーツマーケティング論、 生涯スポーツ実習Ⅰ
	展開科目 選択科目	金融経済の基礎知識 経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、金融論Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、日本経済論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、国際貿易論、 地域企業会計論、企業再生論、環境ビジネス、環境問題Ⅰ・Ⅱ、 外国経営書講読Ⅰ・Ⅱ		
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	全科目8単位必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
財務管理論、 国際経営論、企業倫理論、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	12	各系のコース別に 12単位以上	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
シミュレーション論、 サイバー刑法、情報経済論	12		ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ITサービス産業論、 地域経済論、都市地理学、	12		現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
生涯スポーツ実習Ⅱ	12		スポーツビジネスコースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 ベンチャービジネス論、 企業金融論Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、	14		この欄の科目群並びに経営系基本科目B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	18	18単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、18単位以上選択必修
124単位			

4. 2011年度卒業要件概念図④

ライセンスプログラム科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
ライセンスプログラム科目 選択科目	検定英語Ⅰ・Ⅱ、検定経営学、検定経済学、財務諸表論、簿記論、税法、建設業経理事務士Ⅰ・Ⅱ、情報処理入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、情報システム概論、検定簿記Ⅰ・Ⅱ、秘書検定Ⅰ・Ⅱ、販売士Ⅰ・Ⅱ、検定ビジネス能力Ⅰ・Ⅱ				12単位までを限度とし、認定する

教職及び教科に関する科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
教職及び教科に関する科目 選択科目	教育原論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、発達心理学、教職概論、教育行政、教育法規、教育方法論、社会科・地歴科指導法Ⅰ・Ⅱ、地理歴史科指導法、社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ、公民科指導法、商業科指導法、商業科教材研究、情報科指導法Ⅰ・Ⅱ、情報と職業、道徳教育研究、特別活動研究、生徒指導論、教育相談、教職総合演習、教職時事演習、教育実践研究、中学校教育実習、高等学校教育実習、教育福祉論、職業指導Ⅰ・Ⅱ、学校事務概論				教職課程履修者のみ対象

5. 教育課程の具体的履修方法

(1) 学部共通科目

(1) 基礎科目A

基礎科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1年次で合計16単位を取得する必要があります。

(2) 基礎科目B

基礎科目Bは、選択必修科目であり、3科目ある中から1年次で2単位以上を取得する必要があります。

なお、「敬天愛人講座」の「敬天愛人」とは、本学（園）の創立者である故長戸路政司先生が、創立の基盤となる建学の精神として掲げたものですが、シラバスに記載のとおり、建学の理念をはじめとして、今日的で総合的な視点により、多様な講義テーマを設定しているため、多くの学生諸君の履修を勧めます。

また、「入門経済学実習」、「入門経営学実習」は幾つかの業種について現場へ出向き、視察も予定しています。

(3) 言語科目A

言語科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1・2年次で4単位を取得する必要があります。

なお、クラス分けについては、入学時に実施した「基礎学力テスト」及び2年次終了時に実施する「プレースメントテスト」の結果により、習熟度別に編成されます。

(4) 言語科目B

言語科目Bは、選択必修科目であり、5科目（「日本語Ⅰ・Ⅱ」は、留学生のみが対象）ある中から、1・2年次で同一言語科目を4単位以上取得する必要があります。

ただし、「Ⅲ・Ⅳ」にあつては、「ビジネス英語」「時事英語」への変更を可とします。

(5) 教養科目

教養科目は、選択必修科目であり、この科目の中から4年間で16単位以上を取得する必要があります。

「スポーツ教育」には、学内で開講するキャンパススポーツと学外で開講するシーズンスポーツがあり、どちらを履修する（履修しなくても良い（選択科目））かについては、本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けてください。

なお、キャンパススポーツ（アリーナで実施）を履修するには、専用シューズの購入が必要となり、シーズンスポーツ（学外で実施）を履修するには実習実費が必要となります。

※ 詳細は、オリエンテーション実施要領を参照

(6) キャリア科目

キャリア科目は、選択必修科目であり、2年次から4単位以上を取得する必要があります。また、卒業後の就職へ向けて取り組む上で、欠かすことのできない科目群でもあります。

(7) 演習科目

演習科目は、必修科目であり、卒業までに各学年において、2単位（前期1単位、後期1単位）ずつ「卒業論文」も含め合計10単位を取得する必要があります。

1年次は「基礎演習」を履修します。2年次は「専門導入演習」を履修し、経済系あるいは経営系に分かれて、それぞれの専門分野を学ぶ上での専門導入と位置づけています。さらに3年次は

「専門演習」・4年次は「卒業演習」を履修し、より専門的にその分野を修得すべく、深くより高度な内容が展開されます。また、4年次には併せて、卒業論文作成の指導を受けることとなります。

(2) 経済系専門科目

経済系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、選択必修科目であり、「経済理論AⅠ・AⅡ」または「BⅠ・BⅡ」から1科目4単位を、「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」または「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」から1科目4単位を履修し、合計8単位を1・2年次で取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経済系基本科目A・Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(3) 経営系専門科目

経営系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、必修科目であり、1・2年次で2科目とも合計8単位を取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経営系基本科目Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(4) 自由選択科目（学部共通科目）

自由選択科目は、「ライセンスプログラム科目」「教職及び教科に関する科目（この科目は教職課程履修者のみ履修可能）」を含めて、その他の全科目群（演習科目等の必修科目を除き、各科目群の必要取得単位数を超えて取得した科目）から、18単位以上を取得する必要があります。

(5) 演習科目

2年次以降のゼミナールの履修は、2年ゼミ（専門導入演習Ⅰ・Ⅱ）、3年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）、

4年ゼミ（卒業演習Ⅰ・Ⅱ）、を同じ担当者のもとで、通して3年間学ぶことが原則です。

どうしてもゼミを移りたい学生については、2年ゼミから3年ゼミに進むときに限り、他のゼミに移ることが認められます。ただし、希望するゼミに移れるかどうかは、当該ゼミの所属ゼミ生数や、3年ゼミから中途参加するための条件などが勘案され、3年ゼミ担当者によって決定されます。

2年ゼミと同じ担当者を引き続き希望する学生も、確認のため、3年ゼミのゼミ希望登録を行なう必要があります。ゼミ希望登録を怠ると、希望するゼミに入れなくなりますから、必ず登録して下さい。

6. 履修方法の概要

(1) 授 業

本学では、学生が自ら選んで作った履修計画により、各授業担当教員の許可を得、予習・復習を含めた学習に努め、考査に合格すれば単位を授与します。その結果、所定の科目及び単位が充足すれば卒業となります。

(2) 単位の計算方法

単位の算定は、大学設置基準の定めにより、1単位の授業時間を45時間の学修（各自が行う自習時間を含む）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、各大学において定めることとされています。

本学では、原則として、講義の科目については15時間の授業をもって1単位、演習・外国語及び実技の科目については30時間の授業をもって1単位と定めています。

授業の単位計算

講義の単位算定	演習・外国語の単位算定	実技の単位算定
授業15時間＋自習30時間 45時間＝1単位	授業30時間＋自習15時間 45時間＝1単位	授業30時間 1単位

授業科目の単位数の実際

授業の方法	授業開講の形態	授業時間数	単位数
講 義	セメスター科目 (週1回授業)	2時間 × 15週＝30時間	2 単位
	セメスター科目(週1回授業)	2時間 × 15週＝30時間	1 単位
実 技	集中講義		1 単位

教室内の授業に出席するためには、予習、復習、調査、資料収集などの教室外の学習が必要です。ただ授業時間だけ出席をし単位の修得のみを望むということは単位制度の趣旨に反するものです。

(3) 授業時間

授業時間は原則として次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

時間割は印刷した授業時間割表を配布します。

(4) 年間履修単位等

- (1) 1年間に履修し得る単位数は1年次から4年次まで46単位です。
- (2) 「教職専門科目」及び「教職及び教科に関する科目」の単位数は年間の履修単位数に含まず、履修上限の単位数を超えても履修ができます。
- (3) 履修人数制限のある科目、情報処理関連科目（情報処理実習室で授業を行う科目）及び英会話、時事英語、ビジネス英語を履修する者は第1回目の授業に出席し担当教員から履修許可を得なければなりません。

(5) 履修科目の登録

学生は、学年の初めに1年間の履修計画にもとづいて履修登録（Web履修）をします。この履修登録は、決められた期間内に学内の情報処理室等のパソコンから各個人が入力（学内のみから）することにより履修科目の登録が完了します。

なお、病気等により期限を過ぎて提出しようとする場合には、診断書または理由書（保証人連署）等の提出により、特に履修登録を認める場合があります。また、Web履修については、ガイダンス等で入力方法（登録手順等）の詳細な説明をするので、必ず出席してください。

※履修や学則の取り扱いについての疑問や相談は必ず修学支援室に問い合わせてください。くれぐれも自分勝手な解釈や学生同士での判断のまま放置しておく、卒業できなくなる場合がありますので、遠慮なく相談することが大切です。

(6) 経済系・経営系コースの登録

- (1) 系・コースの定員は設けていません。
- (2) 系・コースの登録は第2年次の履修登録と同時に行います。ただし第3年次編入学者等は第3年次の履修科目の登録時とします。
- (3) 系・コースを変更する場合は系・コースを登録した翌年度の履修科目の登録時に1回のみ認めます。

7. 単位の認定等

(1) 考査について

考査の方法は期末定期試験（前期及び後期）、論文レポート、試問その他の方法によって行われ評価します。

考査を受ける基準は次のとおりとします。

- (1) 考査の成績は100点満点とし、90点以上を秀、89点から80点までを優、79点から70点までを良、69点から60点までを可とし、可以上を合格とします。（秀の評価は平成12年度入学者からです。）59点以下を不可として不合格とします。
- (2) 授業日数の2／3以上出席がない者は単位の認定が行われません。
- (3) 学生証を携帯しない者は考査を受けることができません。
- (4) 授業料を納付しない者は履修登録を行うことができません。また、考査を受けることもできません。
- (5) 特別教育科目のうち「ライセンスプログラム」科目については合格証を提出する事により単位が認定されます。

(2) 期末定期試験について

前期定期試験（7月下旬～8月上旬）及び後期定期試験（1月下旬～2月上旬）は日時を定めて、一斉に行います。その詳細は別に示します。

試験時間は原則として50分です。

(3) 受験心得

- (1) 学生証は試験監督者の点検し易いように机上通路側に呈示しておく。
- (2) 答案用紙には学年、学籍番号、氏名を必ずボールペンで明瞭に記入する。
- (3) 試験室では許可されたもの以外はバッグ等に収納する。
- (4) 試験中は物品を貸し借りしてはならない。
- (5) 試験開始20分以上経過した遅刻者及び、試験中一度退室した者は試験室に入ることはできない。
- (6) 試験開始後30分を経過するまでは答案用紙を提出し退室することはできない。
- (7) 答案用紙は所定の箇所に提出すること。答案用紙を試験室外に持ち出すことはできない。
- (8) 試験監督者の指示に従わなければならない。
- (9) 試験中、私語をしたり、持込許可物を貸し借りすること及びテキスト等、1冊の持込許可物を2人以上で使用することは不正行為に該当する。
- (10) 試験中、不正行為を行った者には「試験不正行為取扱いについての内規」により処分する。
- (11) 学生証不携帯者は受験することができないので、仮学生証の交付を受けること。
- (12) 携帯電話等は電源を切りバッグ等に収納する。
- (13) 電子辞書の持ち込みは、担当教員から指示がある場合を除き、認めない。

(4) 試験不正行為取扱いについて

- (1) 定期試験は厳正に実施します。
- (2) 学生諸君は「受験心得」（前掲）を守らなければなりません。
- (3) 試験時にカンニング等の不正行為を行った時は、「試験不正行為取扱いについての内規」にもとづき厳正に処分します。

(5) 追試験

(1) 下記に示すやむをえない事由に該当し、定期試験を欠席した者は、その事由を証明する文書（診断書、証明書等）を添えて欠席した日より3日以内に追試験受験願を提出することができます。

ただし、出席不足等により追試験を受験できない場合があるので注意すること。

欠席事由

- ①二親等以内の親族（二親等の姻族を除く）の死亡の場合
- ②傷病の場合
- ③就職試験日と重なった場合
- ④その他やむをえない事由（交通機関の事故等）による場合

(2) 追試験の方法については筆記試験、レポート、面接試験その他担当教員の指示によります。

(6) 再試験

再試験の取り扱いは次のとおりです。

- ①全学年を対象に再試験を行います。
- ②上記該当者の受験科目は当該年度に登録し、試験で不合格となった科目に限ります。（教育実習と演習は含まれません。）
- ③再試験に合格した場合は、すべて60点の評価で単位が認定されます。
- ④再試験を受験しようとする者は、所定の手続きをしなければなりません。
- ⑤再試験の受験料は、1科目3,000円とします。

(7) 成績発表

学年成績は前期末及び後期末に成績表を交付して通知します。

(8) GPA 制度の導入について

(1) 2008（平成20）年度入学生より GPA 制度を導入します。

(2) GPA（Grade Point Average）とは、授業科目の成績評価に対して点数（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことを指します。そのため、不合格の科目も GPA 算出の対象となるため、試験を放棄した場合には GPA の値は低くなります。

この GPA は、各人の学習への取り組み状況が把握できるため、4年間の学習計画を具体的に策定する際の指針となります。

(3) 成績評価と計算方法

成績	成績標記	GP（グレードポイント）
90～100点	秀	4.0
80～89点	優	3.0
70～79点	良	2.0
60～69点	可	1.0
59点以下	標記せず（不可）	0

評価対象科目は、教職科目を含めた経済学部内で評価した全ての科目です。

なお、評価対象外科目は、経済学部以外の大学等で修得した単位（1年次入学・編入学前の認定単位、単位互換科目の単位、海外留学における修得認定単位）、教育実習、インターンシップ、及びライセンスプログラムとします。

〈GPA の計算方法〉

$$\frac{4 \times \text{秀の修得単位数} + 3 \times \text{優の修得単位数} + 2 \times \text{良の修得単位数} + 1 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数}}$$

(4) 通知方法

成績表に GPA を記載します。記載される GPA は、入学時からの通算です。

なお、GPA の詳細については、オリエンテーション時にも説明します

(9) 単位互換

- (1) 学則第25条第1項に基づき放送大学及び千葉県内の私立大学及び短期大学（単位互換締結大学のみ）と単位互換を実施します。
- (2) 同条第2項に基づき修得した単位は60単位を超えない範囲で、本学の卒業単位として認定します。
- (3) 放送大学の科目を履修できるのは2年次以上とし、4年次については放送大学の2学期の出願は認めません。その他の大学の科目を履修する場合はこの限りではありません。
- (4) 単位互換の履修単位は年次別履修単位数に関する内規に定める単位に含みます。従って、履修届には互換科目名を記載し単位数を加えなければなりません。
- (5) 放送大学に出願するにあたり履修科目の選定は単位認定試験日程に注意すること。また、出願後の科目変更・取消はできません。
- (6) 所定の出願手続きを経て当該大学の特別聴講学生として受け入れ決定後、各大学の要項を参照して下さい。
- (7) 放送大学の学費は教材及び学生証の受領上、本学が一括納入しますが、当該学生は履修届提出後、指定の期日までに必ず納入すること。
- (8) 放送大学の学費は一旦当該学生が全額納入し、単位修得後本学が1/4を負担する。その他の大学については全て本人負担とします。
- (9) 単位互換で履修できる科目は本学で教育上有益と認めた科目とします。

(10) 既修得単位の認定

- (1) 本学に編入学、再入学又は転入学をした者、及び大学・短期大学を卒業又は中途退学した後、本学に入学した者の既修得単位の認定は、次の各号の単位を超えない範囲で学則第28条に定める単位として一括認定し、各科目群に配分します。
 - 一 1年次 19単位
 - 二 2年次 38単位
 - 三 3年次 65単位
- (2) 前項は、外国における大学等を卒業又は退学した者も適用します。

(11) 長期留学における単位認定の取り扱いについて（平成13年4月10日教授会決定）

海外提携校（オーストラリア・ウーロンゴン大学、中国・北京第2外国語学院）への長期留学をする場合は学生諸君の留学を支援するために次のとおり取り扱います。

- (1) 読み替え可能な科目についてはできる限り読み替え、その他の科目については、自由選択科目群に一括認定とします。
- (2) 3年次より留学する学生は、翌年に専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業演習Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修することを許可し4年間で卒業できるように配慮します。
- (3) 4年次より留学する学生は卒業演習Ⅰ・Ⅱのみで卒業要件を充足することを条件とし、卒業論文を指導教員に提出し、単位の認定を受けた場合、当該年度の卒業を許可します。

ただし、上記3)による混乱を避けるため、なるべく2・3年次に留学することが望ましい。

(12) 履修者の著しく少ない科目の取り扱いについて

履修登録確定後、一般講義科目（教職科目等を除く）及び外国書講読のうち履修者数が5名未満の科目は当該年度休講となる場合があります。

具体的な休講科目がある場合には掲示により周知します。

8. 学習支援体制

(1) 経済学常識試験

- (1) 経済学部では、全学年生を対象として「経済学常識試験」(Ⅰ(旧3級)・Ⅱ(旧2級)・上級(旧1級))を実施しています。
- (2) この「経済学常識試験」は、経済学部生として最低限理解しなければならない経済専門用語や概念の基礎的知識から、理論的・数理的な専門知識や幅広い経済政策等全般にわたって、自分の学習した成果を図る目安となっています。
- (3) この試験は、「Ⅰ」合格から順次「Ⅱ」、「上級」へとステップアップしてゆくことができます。
- (4) 「経済学常識試験」は、年間を通じてゼミの授業時や5限終了後の時間帯に実施しますが、実施時期・場所等については、掲示等によりお知らせします。
- (5) この試験の合格は70点とし、合格者には合格証を授与します。
- (6) また、上級合格者には、日本経済学教育協会が認定する「経済学検定試験」を受験する際の受験料を補助します。

(2) 特別指導室

経済学部では、4つの特別指導室を設けています。学習意欲のある学生諸君が自主的に運営するサークルですが、専任の先生が顧問として対応し、主に資格取得をめざすために、定例的な学習会・勉強会だけでなく、夏季・冬季休業中に合宿勉強会をおこなっています。

特別指導室に入室するとともに、ライセンスプログラムの学習と並行して学んでゆくと効果的です。

- (1) 特別会計指導室
- (2) 公務員指導室
- (3) 教職指導室
- (4) 金融研究会

なお、各指導室の詳細についてはキャンパスライフ及び掲示等を参考にしてください。

(3) 情報機器・サービス利用にあたって (メディアセンターからの注意事項)

皆さんは本学の情報機器利用規則の範囲内で、本学の各種情報機器・サービスを自由に利用できます。下記に代表的な機器・サービスを列挙します。

また各種サービスの講習会をメディアセンターにて行いますので操作方法等が分からない場合は参加して下さい。

学生生活の中で利用されることを希望します。

(1) ID、パスワード

本学では、全学生に本学の各種情報サービスを利用するためのIDを自動的に付与しています。端末にログインする、インターネット上のWeb閲覧をする、eメールを送受信する、その他各種システムを利用する際に入力し、個人を認証するものです。パスワードは厳重に管理し、絶対に他人に教えるはいけません。パスワードを忘れた場合はメディアセンターに問い合わせして下さい。

また、利用規則に反した場合は利用停止をする場合があります。

(2) ファイルの保存

作成したファイルを保存しておきます。保存容量に制限があります。

(3) eメールの利用

eメールを利用できます。保存容量に制限があります。

- (4) Web ページの閲覧 (データベース検索含む)
学内、およびインターネット上の Web ページを閲覧できます。
※ インターネットの Web ページを閲覧するためには情報倫理の試験に合格しなければなりません。
授業、卒論、就職活動で Web ページを閲覧することがありますので、必ず受験し合格して下さい。
- (5) 学内ホームページの利用
学内ホームページでは各種お知らせ、及び資料を公開しています。
- (6) 印刷
モノクロ印刷が可能です。一部端末ではカラー印刷が可能です。ただし、年間で枚数制限を設けています。
- (7) manaba の利用
Web ブラウザや携帯電話を利用し、いつでもどこでも休講情報や伝言が閲覧できるシステムです。
- (8) e-learning の利用
Web ブラウザを利用し、自学自習できるシステムです。
- (9) ノート PC 貸出
ノート PC の貸出が可能です。当日返却、長期貸出も可能です。詳細はメディアセンターに問い合わせして下さい。
- (10) デジタル編集機器
画像・動画等の編集機器やスキャナが利用できます。

(4) 学生相談員・キャンパスサポーター制度について

学生諸君が大学生活のなかで、勉強のことや友達のこと、また課外活動やアルバイトのことでの悩み事など、何でも気軽に相談に応じられる場所と人員を配置して、学生諸君の立場にたった解決の方法付けを行う 2 つの制度を設けています。

学生相談員・・・ベテランの専門相談員により担当した一人の学生を入学から卒業まで見守ります。

このなかでゼミの教員や担当の職員とも協力して相談を進めてゆきます。

キャンパスサポーター・・・お兄さん・お姉さんの立場で学生諸君に接するので、自由でごく気軽に話し合える立場で相談に応じます。

履 修 要 項

Ⅱ 教育課程 2

2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する教育課程(学籍番号の上3ケタが、091・101の学生向け)

Ⅱ 教育課程 2

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2009（平成21）年度から2010（平成22）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」に基づき、卒業に必要な就業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済系」と「経営系」の2つの教育課程を用意しています。
3. 「経済系」には4つ、「経営系」には3つの専門的な学習コースがあり、2系7コースの選択方法は、1年次の履修を経て、2年次の履修登録時にコースを決定します。
2年次以降は自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき、各自が選択したコースの科目を具体的に体系的に履修していくことになっています。
4. 経済学部では、2009年度より新たなカリキュラムを導入し、教育課程には、学部共通科目を基礎として、基礎科目群、言語科目群、教養科目群、キャリア科目群、演習科目群を配しており、「経済系」・「経営系」の専門分野にあつては、基本科目群、経済系専門科目群、経営専門科目群、展開科目群で構成しています。
また、基礎科目を、必修科目もしくは選択必修科目として1年次に多く配置し、よりスムーズに高度な専門分野へ移行できる段階的な教育を実践します。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）」科目の「Ⅱ」の履修にあつては、条件付科目があるので、シラバス（本冊子00頁以降）で確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。
7. 「敬愛プログラム」を2009年度より新設しました。「敬愛プログラム」は、学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動の支援を目的とする制度です。学生は、ボランティア活動、クラブ活性化活動、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成したうえで、当該年度に成果の発表を行います。その成果が評価に値するものと認定されれば、活動そのものが卒業単位として認められ、さらに支援金の支給を受けることができます。

2. 2系7コースの概要と教育目標①

経済系(4コース)

日本・世界経済コース

経済学を基礎から応用まで学習します。この学習を通じて、日本経済と世界経済が直面している諸問題を考える力が身につきます。

めざせる進路

商社／貿易会社／サービス業／製造業などの民間企業／国際機関／NGO／大学院進学

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC®／通関士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

環境・福祉コース

環境問題に関する最新の知識と事例を学習します。また、生活に深くかわりのある社会保障、医療、年金、介護などの知識を学びます。

めざせる進路

環境関連企業／環境関係のNPO／地方自治体の環境部門／福祉関連企業／社会福祉協議会

取得できる免許・資格

社会保険労務士／社会福祉士／介護福祉士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(公民)教員免許／グリーンアドバイザー

公共サービスコース

公共サービスを理解するために金融・財政政策、公共経済学、公共選挙論などを学びます。法律科目を学び行政実務に精通することもできます。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員(県庁、市役所、町村役場、警察官、消防士など)／政府関連企業

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC®／行政書士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

金融・証券コース

金融論、証券経済論、保険論などを学んで、金融市場や資産運用などの問題を考えます。金融の実務についても学んでいきます。

めざせる進路

都市銀行／地方銀行／信用金庫／信用組合／証券会社／生命保険会社／損害補償会社／日本郵政会社系金融機関(UP)／ノンバンク金融機関

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC®／証券アナリスト／ファイナンシャルプランナー

2. 2系7コースの概要と教育目標②

経営系(3コース)

経営・会計コース

企業のさまざまな活動を分析する学問である経営学の理論を基礎から段階的に学びます。授業では実際に企業が直面する事例を多く取り上げ、実践力育成を重視した指導を行います。

めざせる進路

民間企業／経営コンサルタント／起業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／日商簿記／経営学検定試験／
中小企業診断士／公認会計士／税理士／高校1種(商業)教員免許

ビジネス情報コース

情報システムの仕事に必要なコンピュータの操作方法や技術的な理論を身につけます。あわせて、システム開発に必要な経営学や会計学に関する知識も学びます。

めざせる進路

システムエンジニア／プログラマー

取得できる免許・資格

Microsoft® Office Specialist／基本情報技術者／
高校1種(情報)教員免許

現代産業コース

卒業後に地元で活躍したい人のためのコースです。地域や産業を分析する方法や地域活性化の事例について学びます。さらに、流通業やサービス業における実践的な知識も習得します。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員／経営コンサルタント／小売・外食・レジャー産業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／中小企業診断士／
高校1種(商業・地理歴史)教員免許

3. 科目区分および卒業要件単位略図（2009～2010年度入学者）

科目区分		履修区分	卒業要件単位	
学部共通科目	基礎科目	基礎科目A	必修科目	16
		基礎科目B	選択科目	2
	言語科目	言語科目A	必修科目	4
		言語科目B	選択科目	4
	教養科目		選択科目	16
	キャリア科目		選択科目	6
演習科目		必修科目	10	
経済系・ 経営系別 専門科目	基本科目	基本科目A	必修科目	8
		基本科目B	選択科目	16
	経済系専門科目	(日本・世界経済コース科目) (環境・福祉コース科目) (公共サービスコース科目) (金融・証券コース科目)	選択科目	12
	経営系専門科目	(経営・会計コース科目) (ビジネス情報コース) (現代産業コース)		
	展開科目		選択科目	14
学部共通科目	自由選択科目		選択科目	16
卒業要件単位数				124

4. 2009・2010年度卒業要件概念図①

科目区分		1年次	2年次	3年次
学部 共通 科目	基礎科目 A 必修科目	文章表現、口頭表現、基礎数学、 入門経済学、入門経営学、 キャリアプランニング、 健康運動科学、情報基礎Ⅰ・Ⅱ		
	基礎科目 B 選択科目	敬天愛人講座、入門経済学実習、 入門経営学実習		
	言語科目 A 必修科目	英語Ⅰ・Ⅱ	英語Ⅲ・Ⅳ	
	言語科目 B 選択科目	フランス語Ⅰ・Ⅱ、 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 日本語Ⅰ・Ⅱ、英会話Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅲ・Ⅳ、ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、 中国語Ⅲ・Ⅳ、日本語Ⅲ・Ⅳ、 英会話Ⅲ・Ⅳ	
		ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、時事英語Ⅰ・Ⅱ		
	教養科目 選択科目	敬愛プログラム、スポーツ教育、哲学、心理学、社会心理学、日本の文学、比較文学、歴史学、法学、日本の政治、社会学、数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、環境科学、地球科学、情報概論、Webデザイン、プログラミング入門 (VB)・(C)・(Perl)、VBプログラミング、Cプログラミング、Perlプログラミング、データベースオペレーション、プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、総合科目Ⅰ・Ⅱ、海外事情研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、		
	教職専門科目 選択科目	日本史概論Ⅰ・Ⅱ、世界史概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌学Ⅰ・Ⅱ、哲学概論Ⅰ・Ⅱ、自然地理学Ⅰ・Ⅱ、環境地理学Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア科目 選択科目		実践会話Ⅰ・Ⅱ、 キャリア基礎開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	キャリアディベロップメント、 キャリア教育特殊講義、 インターンシップ
演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	専門演習Ⅰ・Ⅱ	

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	16	22単位以上	全科目16単位必修
	2		3科目から2単位以上選択必修
	4		全科目4単位必修
	4	20単位以上	4単位以上選択必修（同一言語科目を継続して履修する。ただし、「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。）
憲法Ⅰ・Ⅱ、政治学、Excel データ解析、情報検索入門、地域ボランティア活動	16		16単位以上選択必修
比較政治学、社会学概論、			教職課程履修者のみ対象
	6	6単位以上	6単位以上選択必修
卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文	10	10単位	全科目10単位必修

4. 2009・2010年度卒業要件概念図②

科目区分		1年次	2年次	3年次
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ、 日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目		経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、経済学史Ⅰ・Ⅱ、 金融論Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、社会政策Ⅰ・Ⅱ、 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	日本・世界経済コース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済地理、 世界経済地理、入門経済刑法、サイバー刑法、商法、会社法、	国際貿易論、開発経済学、 アメリカ経済事情Ⅰ・Ⅱ、 労働経済論Ⅰ・Ⅱ
	環境・福祉コース科目 選択科目		環境と生活、開発と環境、都市環境とまちづくり、環境ビジネス、 環境政策、家族と地域社会、福祉経済論、社会福祉論、保険論、 民法Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ、労働経済論Ⅰ・Ⅱ、 医療の経済学、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、
	公共サービスコース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、公共選択論、地域経済論、 入門経済刑法、サイバー刑法、行政法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、 民法Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、地方自治論演習	地方財政論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
	金融・証券コース科目 選択科目		金融事情Ⅰ・Ⅱ、資産運用論、保険論、商法、会社法、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ、証券経済論Ⅰ・Ⅱ、 計量経済学Ⅰ・Ⅱ
	展開科目 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、金融経済の基礎知識		
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位選択必修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位選択必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
	12	各系のコース別に 12単位以上	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ、 アジア経済論、中東経済論、	12		環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
資源エネルギー論、 環境問題Ⅰ・Ⅱ	12		公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
財政赤字の経済学、	12		金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
銀行論Ⅰ・Ⅱ、企業金融論Ⅰ・Ⅱ、	12		この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
経済数学Ⅰ・Ⅱ、経営学概論Ⅰ・Ⅱ、 中小企業論Ⅰ・Ⅱ、 知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、食料経済論、		14単位以上	この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
		16単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群(演習科目・教職科目を除く)から、16単位以上選択必修
124単位			

4. 2009・2010年度卒業要件概念図③

科目区分		1年次	2年次	3年次
経営系 専門科目	基本科目A 必修科目	経営学概論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB		
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ・Ⅱ、消費者行動論Ⅰ・Ⅱ、商法、会社法、民法Ⅰ・Ⅱ		原価計算論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論Ⅰ・Ⅱ、マーケティングリサーチ、企業文化論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ
	ビジネス情報コース科目 選択科目	経営情報論Ⅰ・Ⅱ、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、OS論、ネットワークシステム論、情報セキュリティ論、アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、システム設計論Ⅰ・Ⅱ、情報システム開発論		流通情報論、データベース論、知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、
	現代産業コース科目 選択科目	産業立地論Ⅰ・Ⅱ、流通論、流通経営論Ⅰ・Ⅱ、観光事業論Ⅰ・Ⅱ、地域産業論、地域調査論		流通情報論、サービス産業論、産業組織論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、都市環境とまちづくり
	展開科目 選択科目	金融経済の基礎知識		
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	8	8単位	全科目8単位必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
財務管理論、 国際経営論、企業倫理論、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	12	各系のコース別に 12単位以上	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
シミュレーション論、 サイバー刑法、情報経済論	12		ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ITサービス産業論、 地域経済論、都市地理学、	12		現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 ベンチャービジネス論、 企業金融論Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、	14	14単位以上	この欄の科目群並びに経営系基本科目B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	16	16単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、16単位以上選択必修
124単位			

4. 2009・2010年度卒業要件概念図④

ライセンスプログラム科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
ライセンスプログラム科目 選択科目	検定英語Ⅰ・Ⅱ、検定経営学、検定経済学、財務諸表論、簿記論、税法、建設業経理事務士Ⅰ・Ⅱ、情報処理入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、情報システム概論、検定簿記Ⅰ・Ⅱ、秘書検定Ⅰ・Ⅱ、販売士Ⅰ・Ⅱ、検定ビジネス能力Ⅰ・Ⅱ				12単位までを限度とし、認定する

教職及び教科に関する科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
教職及び教科に関する科目 選択科目	教育原論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、発達心理学、教職概論、教育行政、教育法規、教育方法論、社会科・地歴科指導法Ⅰ・Ⅱ、地理歴史科指導法、社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ、公民科指導法、商業科指導法、商業科教材研究、情報科指導法Ⅰ・Ⅱ、情報と職業、道徳教育研究、特別活動研究、生徒指導論、教育相談、教職総合演習、教職時事演習、教育実践研究、中学校教育実習、高等学校教育実習、教育福祉論、職業指導Ⅰ・Ⅱ、学校事務概論				教職課程履修者のみ対象

5. 教育課程の具体的履修方法

(1) 学部共通科目

(1) 基礎科目 A

基礎科目 A は、必修科目であり、全科目を履修し、1 年次で合計16単位を取得する必要があります。

(2) 基礎科目 B

基礎科目 B は、選択必修科目であり、3 科目ある中から1 年次で2 単位以上を取得する必要があります。

なお、「敬天愛人講座」の「敬天愛人」とは、本学（園）の創立者である故長戸路政司先生が、創立の基盤となる建学の精神として掲げたものですが、シラバスに記載のとおり、建学の理念をはじめとして、今日的で総合的な視点により、多様な講義テーマを設定しているため、多くの学生諸君の履修を勧めます。

また、「入門経済学実習」、「入門経営学実習」は幾つかの業種について現場へ出向き、視察も予定しています。

(3) 言語科目 A

言語科目 A は、必修科目であり、全科目を履修し、1・2 年次で4 単位を取得する必要があります。

なお、クラス分けについては、入学時に実施した「基礎学力テスト」及び2 年次終了時に実施する「プレースメントテスト」の結果により、習熟度別に編成されます。

(4) 言語科目 B

言語科目 B は、選択必修科目であり、5 科目（「日本語 I・II」は、留学生のみが対象）ある中から、1・2 年次で同一言語科目を4 単位以上取得する必要があります。

ただし、「Ⅲ・Ⅳ」にあっては、「ビジネス英語」「時事英語」への変更を可とします。

(5) 教養科目

教養科目は、選択必修科目であり、この科目の中から4 年間で16 単位以上を取得する必要があります。

「スポーツ教育」には、学内で開講するキャンパススポーツと学外で開講するシーズンスポーツがあり、どちらを履修する（履修しなくても良い（選択科目））かについては、本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けてください。

なお、キャンパススポーツ（アリーナで実施）を履修するには、専用シューズの購入が必要となり、シーズンスポーツ（学外で実施）を履修するには実習実費が必要となります。

※ 詳細は、オリエンテーション実施要領を参照

(6) キャリア科目

キャリア科目は、選択必修科目であり、2 年次から6 単位以上を取得する必要があります。また、卒業後の就職へ向けて取り組む上で、欠かすことのできない科目群でもあります。

(7) 演習科目

演習科目は、必修科目であり、卒業までに各学年において、2 単位（前期1 単位、後期1 単位）ずつ「卒業論文」も含め合計10 単位を取得する必要があります。

1 年次は「基礎演習」を履修します。2 年次は「専門導入演習」を履修し、経済系あるいは経営系に分かれて、それぞれの専門分野を学ぶ上での専門導入と位置づけています。さらに3 年次は

「専門演習」・4年次は「卒業演習」を履修し、より専門的にその分野を修得すべく、深くより高度な内容が展開されます。また、4年次には併せて、卒業論文作成の指導を受けることとなります。

(2) 経済系専門科目

経済系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、選択必修科目であり、「経済理論AⅠ・AⅡ」または「BⅠ・BⅡ」から1科目4単位を、「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」または「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」から1科目4単位を履修し、合計8単位を1・2年次で取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経済系基本科目A・Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(3) 経営系専門科目

経営系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに3つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、必修科目であり、1・2年次で2科目とも合計8単位を取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経営系基本科目Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(4) 自由選択科目（学部共通科目）

自由選択科目は、「ライセンスプログラム科目」「教職及び教科に関する科目（この科目は教職課程履修者のみ履修可能）」を含めて、その他の全科目群（演習科目等の必修科目を除き、各科目群の必要取得単位数を超えて取得した科目）から、16単位以上を取得する必要があります。

(5) 演習科目

2年次以降のゼミナールの履修は、2年ゼミ（専門導入演習Ⅰ・Ⅱ）、3年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）、

4年ゼミ（卒業演習Ⅰ・Ⅱ）、を同じ担当者のもとで、通して3年間学ぶことが原則です。

どうしてもゼミを移りたい学生については、2年ゼミから3年ゼミに進むときに限り、他のゼミに移ることが認められます。ただし、希望するゼミに移れるかどうかは、当該ゼミの所属ゼミ生数や、3年ゼミから中途参加するための条件などが勘案され、3年ゼミ担当者によって決定されます。

2年ゼミと同じ担当者を引き続き希望する学生も、確認のため、3年ゼミのゼミ希望登録を行なう必要があります。ゼミ希望登録を怠ると、希望するゼミに入れなくなりますから、必ず登録して下さい。

6. 履修方法の概要

履修方法の概要については20ページ以下を参照。

7. 単位の認定等

単位の認定等については22ページ以下を参照。

8. 学習支援体制

学習支援体制については26ページ以下を参照。

履 修 要 項

Ⅲ 教育課程 3

2008(平成20)年度入学者に適用する教育課程
(学籍番号の上 3 ケタが、081の学生向け)

Ⅲ 教育課程 3

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2008（平成20）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」にもとづき、卒業に必要な修業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済系」と「経営系」の2つの教育課程（2系）を用意しています。
3. 「経済系」と「経営系」（2系）には、それぞれ3つの専門的な学習コース（6コース）があり、2系の選択方法は、2年次に仮登録し3年次に決定します。
6コースについても、2年次より自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき具体的・体系的に履修していくことになっています。
4. 教育課程には、基本科目群、専門導入科目群、基幹科目群、展開科目群等に科目を配置しているため、基礎的教養から高度な専門分野へスムーズに学習が進行できるようになっています。詳細はカリキュラム表やガイダンス時の配付資料参照。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）」科目の「Ⅱ」の履修にあっては、条件付科目があるので、シラバス（本冊子1頁以降）で確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。

(1) 2系6コースの概要と教育目標

●経済系（3コース）

日本経済コース
目標：経済学の理論を基礎から学び、日本経済を分析する力を身につけます。 ～ミクロ経済学、マクロ経済学にはじまる経済理論を基礎から応用まで学習します。この理論を用いて、日本経済が直面している問題を分析する方法を身につけます。
国際経済コース
目標：国際的な視野と経済学の知識を備えたビジネスパーソンを育成します。 ～世界各国の経済事情を学び、国際的な視点から新しい時代の経済と企業経営のあり方を考えます。英語を中心とした語学や異文化への理解もあわせて学びます。
生活経済コース
目標：社会保障、年金、資産運用などを幅広く学び、人生に必要な経済学の知識を身につけます。 ～市民の生活に深く関わりのある社会保障、医療、介護、住宅ローン、資産運用、税金などの知識を学びます。また環境問題に関する最新の知識と事例を学習します。

●経営系（3コース）

ビジネスマネジメントコース
目標：経営学・会計学の基本的な理論をさまざまな事例を用いて身につけます。 ～企業のさまざまな活動を分析する学問である経営学の理論を基礎から段階的に学びます。 授業では実際に企業が直面する事例を多く取り上げ、実践力育成を重視した指導を行います。
ビジネス情報コース
目標：経営学の理論と共に情報技術を実践的に身につけます。 ～情報システムの仕事に必要なコンピュータの操作方法や技術的な理論を身につけます。あわせてシステム開発に必要な経営学や会計学に関する知識も学びます。
現代産業コース
目標：経営学の理論をベースに地域やさまざまな産業の知識を学びます。 ～卒業後に地元で活躍したい人のためのコースです。地域や産業を分析する方法や地域活性化の事例について学びます。さらに、流通業やサービス業における実践的な知識も習得します。

2. 卒業必要科目および単位

2008（平成20）年度入学者に適用

区 分			卒業必要単位	摘 要			
基 本 科 目	選 択 科 目	人文分野	4	14単位以上	人文・社会・自然の各分野から最低4単位を選択必修した上で、スポーツ教育を含めて14単位選択必修		
		社会分野	4				
		自然分野	4				
保健体育科目	必修科目	健康運動科学	2			2単位	2単位必修
専 門 導 入 科 目	選 択 科 目	系共通科目	A群	経済原論 A	4	68単位以上	12単位以上選択必修 (経済原論 A・B から4単位選択必修、日本・西洋経済史から4単位選択必修、経済政策総論 A・B から4単位必修)
				経済原論 B	4		
				日本経済史 西洋経済史	4		
基 幹 科 目	選 択 科 目	経済系	B1群	16	B1群を最低12単位以上選択した上で、B1～2群全体から16単位以上選択必修		
			C1群	20	20単位以上選択必修		
			経営系	B2群	16	B2群を最低12単位以上選択した上で、B1～2群全体から16単位選択必修	
			C2群	20	20単位以上選択必修		
展 開 科 目	系共通科目	D群	法律科目	8	法律科目を最低8単位以上選択した上で、14単位以上選択必修		
			E群キャリア科目	6	6単位以上選択必修		
		演習科目	必修科目	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (卒業必修)	10	10単位	10単位必修
コミュニケーション科目 (言語)	必修科目	英語	4	4単位	4単位必修		
	選 択 科 目	フランス語	4	4単位以上	4単位選択必修		
		ドイツ語					
		中国語					
		日本語					
選択英語							
コミュニケーション科目 (情報)	必修科目	情報基礎Ⅰ・Ⅱ	2	2単位	2単位必修		
	選 択 科 目	コミュニケーション科目 (情報科目)	20単位以上	20単位以上	A～E群及びコミュニケーション科目(言語)からの選択を含めて20単位以上選択必修 (ただし、ライセンスプログラムの卒業認定単位数は12単位まで)		
総合科目・敬天愛人講座							
特別教育科目 (ライセンスプログラム)	特別教育科目 (ライセンスプログラムを含む)						

卒業所要単位 124単位以上
(ただし、124単位以上取得していても各分野において最低必要単位数を充足していない場合は卒業できません。)

3. 教育課程の具体的履修方法

(1) 基本科目

基本科目は、人文・社会・自然の各分野から、それぞれ4単位を選択必修したうえで、スポーツ教育を含めて合計14単位以上を修得しなければなりません。

なお、教職課程履修者には教職専門科目がありますので該当科目を履修して下さい。

(2) 保健体育科目

(1) 保健体育科目には、「スポーツ教育」(1単位)と「健康運動科学」(2単位)があり、「スポーツ教育」は選択科目として基本科目群のなかで単位を認定します。

「健康運動科学」(2単位)は必修科目です。

(2) 「スポーツ教育」は選択科目のため、履修するかどうかは本人の自由です。

ただし、教職科目を履修する学生は「スポーツ教育」を必ず履修しなければなりません。

「スポーツ教育」には、学内で行うキャンパススポーツと学外で行うシーズンスポーツがあり、どちらを履修する(履修しないことも可)かは本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けて下さい。なお、在学生(3年生以上)の履修希望者が多い場合には1年生の履修制限をする場合があります。

*キャンパススポーツ(アリーナで実施)を履修するには専用シューズの購入が必要となり、シーズンスポーツ(学外で実施)を履修するには実習実費が必要となります。

詳細は、オリエンテーション実施要領参照。

(3) 「健康運動科学」は必修科目で、全員が必ず履修し単位を修得しなければなりません。(学籍番号により前・後期履修の別を指定しています。)

(3) 専門導入科目、基幹科目、展開科目

(1) 専門導入科目、基幹科目、展開科目には、経済系・経営系双方の共通科目としてA群・D群・E群があり、経済系科目としてB1群とC1群、経営系科目としてB2群とC2群を開設しています。

(2) 経済系・経営系双方の共通科目としてのA群からは12単位以上を修得(選択必修)しなければなりません。

D群からは、法律科目を最低8単位以上修得(選択必修)したうえで14単位以上を修得(選択必修)しなければなりません。

また、E群は平成19年度新入生より開設した科目で、6単位以上修得(選択必修)しなければなりません。

(3) 経済系を学習したい学生は、経済系科目であるB1群と経営系科目のB2群を含めたB1・B2群全体及びC1群から次のように履修しなければなりません。

B1群を最低12単位以上選択した上で、B1群及びB2群全体から16単位以上を修得(選択必修)すること。

合わせて、C1群から20単位以上を修得(選択必修)すること。

48頁の表を参照のこと。

- (4) 経営系を学習したい学生は、経営系科目であるB2群と経済系科目のB1群を含めたB1・B2群全体及びC2群から次のように履修しなければなりません。

B2群を最低12単位以上選択した上で、B1群及びB2群全体から16単位以上を修得(選択必修)すること。

合わせて、C2群から20単位以上を修得(選択必修)すること。

専門導入科目、基幹科目、展開科目の科目群をどのように学習したらよいのか、そのための指針としてガイダンス等で「履修モデル」を提供しますので、それを参考に自分にあった具体的・体系的な学習を進めてゆく必要があります。

(4) 演習科目

- (1) 演習科目は、演習Ⅰ(1年次)2単位、演習Ⅱ(2年次)2単位、演習Ⅲ(3年次)2単位、演習Ⅳ(4年次)4単位、合計10単位を修得しなければなりません。
- (2) 演習Ⅱ(2年次)、演習Ⅲ(3年次)は、それぞれ学年の初めに登録希望届を提出する手続きを経て履修科目が決定します。
- (3) 演習Ⅱは原則として演習Ⅰと同じ科目を履修することができません。
- (4) 演習Ⅲ、演習Ⅳは2年間の教育計画によって進められ、演習Ⅳでは卒業論文を作成しなければなりません。(4年次に限り、演習ⅢとⅣの同時履修を認めることがあります。)
- (5) 演習Ⅰの再履修方法
演習Ⅰが不合格の場合は、「演習ⅠR」を履修しなければなりません。

(5) コミュニケーション科目(言語)

- (1) コミュニケーション科目としての言語には、必修科目としての英語(4単位)、及び選択科目としての語学(フランス語、ドイツ語、中国語、日本語、選択英語)があります。(4単位選択必修)
- (2) 英語は、1年次に「英語Ⅰ」(2単位)を、2年次に「英語Ⅱ」(2単位)を履修しなければなりません。
- (3) 2年次以降の英語の履修について
1年次に「英語Ⅰ」が合格した場合に、2年次で「英語Ⅱ」を履修します。
「英語Ⅱ」のクラス分けについても、習熟度別のクラス編成を予定しています。
- (4) 1年次に「英語Ⅰ」が不合格の場合には、2年次では「英語ⅠR」という再履修クラスを履修しなければなりません。
- (5) 選択科目としての語学(フランス語、ドイツ語、中国語、日本語、英会話、選択英語)は、1年次に2単位、2年次に2単位計4単位を履修します。
- (6) 履修方法は、自分の希望や学習意欲に従って科目を選択することができます。

(6) コミュニケーション科目(情報)

選択科目としての情報科目には、情報処理実習室での授業がほとんどのため、基本的なスキルや知識が求められます。また実習室は定員制のため受講制限を行う場合があるので最初の授業時間に指示を受けて下さい。

注) 選択科目としての情報科目はいずれも選択科目で、上記A群からE群及び総合科目、特別教育科目とこの科目群から20単位以上選択することが必要です。

(7) 総合科目

総合科目は選択科目ですが、この科目群の中で「敬天愛人講座」（2単位）を開講しています。

この科目の「敬天愛人」とは、本学（園）の創立者である故長戸路政司先生が、本学（園）創立の基盤となる建学の精神として掲げたものですが、シラバスに記載のとおり建学の理念をはじめとして今日的で総合的な視点により多様な講義テーマを設定しておりますので、多くの学生諸君の履修を勧めます。

注) 選択科目としての総合科目はいずれも選択科目で、上記 A 群から E 群及び情報科目、特別教育科目とこの科目群から20単位以上選択する必要があります。

(8) 特別教育科目

1) 特別教育科目は選択科目です。この科目群には、海外事情研修 I～IV、地域ボランティア活動及び各種ライセンスプログラムを用意しています。

2) 海外事情研修 I～IV 及び各種ライセンスプログラムの科目は正規の授業時間内では実施しません。海外事情研修は長期休業を利用して実施します。詳細はガイダンスに参加して説明を受ける必要があります。研修費用は別途負担。

各種ライセンスプログラムは、大学で用意する集中講座等を利用して学習し資格を取ることも又ダブルスクールの外部機関を利用して資格を取ることも可です。

講習費用は別途負担、なお、ライセンスプログラムを卒業要件として認める単位数は12単位までです。

詳細は、シラバス及びパンフレット等を参照のこと。

注) 選択科目としての特別教育科目はいずれも選択科目で、上記 A 群から E 群及び情報科目、総合科目とこの科目群から20単位以上選択する必要があります。

4. 履修方法

履修方法の概要については20ページ以下を参照

5. 単位の認定

単位の認定等については22ページ以下を参照

6. 学習支援体制

学習支援体制については26ページ以下を参照

履 修 要 項

IV 教育職員免許状取得のための課程

1. 2011(平成23)年度教職課程年間行事予定表…………… (54)
2. 教職課程を履修するにあたり、
みなさんに考えてもらいたいこと …………… (55)
3. 教職課程履修希望届および
教職課程履修費の納入について …………… (56)
4. 経済学部における教職課程の概要 …………… (57)

IV 教育職員免許状取得のための課程

1. 平成23年度教職課程年間行事予定表

月	日 時	事 項	対象学年			
			1年	2年	3年	4年
4月	5日(火)	新入生対象教職課程履修ガイダンス(新入生履修ガイダンス終了後)	◎			
	6日(水) 7日(木)	教職課程ガイダンス(3年・6日・2・4年・7日) ※3年次 教育実習準備説明会を兼ねる	◎	◎	◎	◎
	初旬	介護等体験申込期限 ※中学校免許取得希望者で前年度までに介護等体験未了者のみ		○	○	
	21日(木)	教職課程特別講演 16:30~		○	◎	◎
		特別講演終了後 教育実習直前指導(事前指導・個人指導) 教育実習記録簿配付				◎
	28日(木)	教職希望届受付提出期限(新規教職課程希望者のみ)	◎	○		
4月~6月末日	教育実習希望届提出(実習校内定)			◎		
5月	上旬	教職模擬試験(東京アカデミー受講者のみ)				◎
	5月下旬~ 6月初旬	介護等体験事前指導(「教育福祉論」の授業時実施) 授業時、当該年度実習参加者含む		○	○	
	5月~9月	教育実習(2~3週間)				◎
6月	2日間未定	特殊教育諸学校での介護等体験(於:桜が丘特別支援学校)		○	○	
	6月下旬	4年生による教育実習報告会 16:30~ ※2・3年生は必ず出席のこと		◎	◎	◎
		教育実習事後指導				◎
7月	7月	教員採用試験、私学教員適正検査				◎
8月	8月上旬	教員採用試験、2次対策講座				◎
9月	9月中旬~下旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
	未定	一日参観実習事前説明会			◎	
	未定	一日参観実習(千葉市立轟町中学校) 集合9:30 場所未定			◎	
	下旬	教職課程ガイダンス3・4年対象(成績発表後)				◎
11月	未定	教職模擬試験		◎	◎	
12月	上旬	教育職員免許状取得申請説明会 12:20~				◎
	上旬	教育職員免許状取得申請書等提出期限				◎
	下旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
2月	2月中旬	教職ガイダンス(成績発表後)		○	○	◎
		介護等体験実習申込受付~		◎	◎	
3月	上旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
	3月23日(金)	教育職員免許状伝達(卒業式)				◎

◎…全員対象 ○…対象者のみ

教職課程に関する連絡について

1号館1階の掲示板で連絡します。毎日、必ず掲示板を確認してください。

2. 教職課程を履修するにあたり、みなさんに考えてもらいたいこと

教育職員免許状を取得するためには、大学を卒業するための科目履修と併せて、免許取得のための単位修得が不可欠です。取得免許教科の多い人では4年間で200単位以上の単位修得が必要となります。また介護等体験実習や各種体験学習、さらに中学校、高等学校での教育実習など、やらなければならないことがたくさんあります。特に教育実習においては「どれだけ教員になりたいか」という各個人の姿勢が厳しく問われます。そのため、途中で免許状の取得を断念する学生も少なくありません。

みなさんには今一度、「なぜ教育職員免許状を取得するのか」を考えて欲しいと思います。もちろん「将来教員になりたいため」というのであれば問題はありません。「教員になりたい」という、その強い信念は辛い時に必ずあなたの支えになってくれるでしょう。また今、背負っている苦勞も将来の明確な目標達成のための強力なモチベーションになってくれるはずです。

もし明確な答えがみつからないのなら……、今あなたが背負っている苦勞は何のための苦勞なのか、なぜ自分は今、人より厳しい道を歩んでいるのか、そして教員に求められる資質・力量とは何か、そうしたことを問い直すべきではないでしょうか。

教育職員免許状取得の重みを各個人がしっかりと受け止めて、今後、免許状取得のために邁進されることを期待します。

3. 教職課程履修希望届および教職課程履修費の納入について

経済学部開設の教職課程を履修するためには、学則第30条第2項の規定にもとづき「教職課程履修希望届」を提出のうえ、「教職に関する科目履修費」を下記のとおり、納めることになっています。この履修費が納入されないと、教職科目の履修及び単位認定はできません。

納入方法、日時等については、掲示をよく確認し、その指示に従ってください。

記

1 教職に関する科目履修費	50,000円
(中学校・高等学校教育職員免許状取得希望者)	
2 介護等体験実習費	10,000円
(中学校教育職員免許状希望者のみ)	

(参照) 教職課程履修希望届

下記届は、修学支援室にあります。記入のうえ、同室へ期間内に提出して下さい。

(1) 届提出期間

2011年4月11日(月)～4月28日(木)

(2) 履修費納入時期

2011年5月中旬～6月中旬

※振込用紙は、届提出時に指示します。

教 職 課 程 履 修 希 望 届			
入学年月日	学籍番号	氏 名	
平成 年 月 日		ふりがな	
取得希望免許状の種類		実習希望校	
昭和 年 月 日 生(男・女)			
① 通学時現住所	〒		電話(携帯)
② "	〒		電話
保証人住所 場省地	〒		電話
学 歴			【小学校入学から記入のこと】
年・月・日	学 校 名	入学・卒業	
・			
・			
・			
・			
・			
・			
・			
特 技 資 格 等			
クラブ活動(高校)			
特 技			
既得諸資格・免許			
※教 職 履 修 費 (一括納入のこと)		備 考	
年 月 日 (円納入)			

敬愛大学経済学部 教職課程委員会 様

年 月 日

私 _____ は 教職課程を履修し、教育職員になることを希望しますので、
上記の届を提出致します。

学籍番号 _____ 氏 名 _____ 印

4. 経済学部における教職課程の概要

経済学部で取得できる教育職員免許状の種類

免許状名		教科
中学校	中学校1種免許状	社会
高等学校	高等学校1種免許状	地理歴史
		公民
		商業
		情報

1. 教職科目の履修について

—免許状を取得するために何を履修すべきか—

① 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許状の取得を希望する者は免許状の種類に拘わらず、以下の科目を必ず履修しなければなりません。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目	単位	備考
日本国憲法（2単位）	憲法Ⅰ	2	必修科目
	憲法Ⅱ	2	〃
体育（2単位）	健康運動科学	2	〃
	スポーツ教育（前）	1	選択科目
	スポーツ教育（後）	1	〃
外国語コミュニケーション（2単位）	英語Ⅰ	1	必修科目
	英語Ⅱ	1	〃
情報機器の操作（2単位）	情報基礎Ⅰ	1	〃
	情報基礎Ⅱ	1	〃
	情報検索入門A	2	選択科目
	情報検索入門B	2	〃

- ② 中学校教諭1種免許状「社会」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を24単位、及び選択科目を2単位以上修得しなければなりません。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目			
	必修科目		選択科目	
日本史及び外国史	日本史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅰ②	日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅱ②	日本経済史Ⅰ② 西洋経済史Ⅰ②	日本経済史Ⅱ② 西洋経済史Ⅱ②
地理学（地誌を含む）	地理学概論Ⅰ② 地誌学Ⅰ②	地理学概論Ⅱ② 地誌学Ⅱ②		
法律学・政治学	比較政治学②		憲法Ⅰ② 労働法Ⅰ② 民法Ⅰ②	憲法Ⅱ② 労働法Ⅱ②
社会学・経済学	社会学概論②		経済理論ⅠⅠ② 経済理論ⅠⅡ② 経済政策ⅠⅠ② 経済政策ⅠⅡ② 金融論Ⅰ② 財政学Ⅰ② 統計学総論Ⅰ② 社会政策Ⅰ② 日本経済論Ⅰ② 国際経済論Ⅰ② 社会保障論Ⅰ② 公共経済学② 計量経済学Ⅰ②	経済理論ⅠⅡ② 経済理論ⅡⅡ② 経済政策ⅠⅡ② 経済政策ⅡⅡ② 金融論Ⅱ② 財政学Ⅱ② 統計学総論Ⅱ② 社会政策Ⅱ② 日本経済論Ⅱ② 国際経済論Ⅱ② 社会保障論Ⅱ② 公共選択論計② 計量経済学Ⅱ②
哲学・倫理学・宗教学	哲学概論Ⅰ②	哲学概論Ⅱ②		
必要単位数	計12科目 24単位必修		上記科目より2単位以上選択必修	

※丸数字は単位数

- ③ 高等学校教諭1種免許状「地理歴史」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（教育福祉論、学校事務概論）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目			
	必修科目		選択科目	
日本史	日本史概論Ⅰ②	日本史概論Ⅱ②	日本経済史Ⅰ②	日本経済史Ⅱ②
外国史	世界史概論Ⅰ②	世界史概論Ⅱ②	西洋経済史Ⅰ② 経済学史Ⅰ② 社会思想史Ⅰ②	西洋経済史Ⅱ② 経済学史Ⅱ② 社会思想史Ⅱ②
人文地理学 及び 自然地理学	地理学概論Ⅰ② 自然地理学Ⅰ②	地理学概論Ⅱ② 自然地理学Ⅱ②	環境地理学Ⅰ② 日本経済地理② 都市地理学② 産業立地論Ⅰ②	環境地理学Ⅱ② 世界経済地理② 都市環境とまちづくり② 産業立地論Ⅱ②
地誌	地誌学Ⅰ②	地誌学Ⅱ②	地域産業論②	地域調査論②
必要単位数	計10科目 20単位必修		上記科目より14単位以上選択必修	

※丸数字は単位数

④ 高等学校教諭1種免許状「公民」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（教育福祉論、学校事務概論）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目	
	必修科目	選択科目
法律学(国際法を含む)・政治学(国際政治を含む)	比較政治学②及び 右欄の選択科目から4単位以上必修	憲法Ⅰ② 憲法Ⅱ② 労働法Ⅰ② 労働法Ⅱ② 国際法Ⅰ② 国際法Ⅱ② 民法Ⅰ②
社会学・経済学 (国際経済を含む)	社会学概論② 経済理論AⅠ② } 1科目選択必修 経済理論AⅡ② } 経済理論BⅠ② } 経済理論BⅡ② } 経済政策AⅠ② } 1科目選択必修 経済政策AⅡ② } 経済政策BⅠ② } 経済政策BⅡ② } ※ここでは計3科目を履修する	金融論Ⅰ② 金融論Ⅱ② 財政学Ⅰ② 財政学Ⅱ② 統計学総論Ⅰ② 統計学総論Ⅱ② 社会政策Ⅰ② 社会政策Ⅱ② 日本経済論Ⅰ② 日本経済論Ⅱ② 国際経済論Ⅰ② 国際経済論Ⅱ② ヨーロッパ経済論Ⅰ② ヨーロッパ経済論Ⅱ② アメリカ経済事情Ⅰ② アメリカ経済事情Ⅱ② 社会保障論Ⅰ② 社会保障論Ⅱ② 計量経済学Ⅰ② 計量経済学Ⅱ② 公共経済学② 公共選択論②
哲学・倫理学・宗教学・心理学	哲学概論Ⅰ② 哲学概論Ⅱ②	
必要単位数	計10科目 20単位必修	上記科目より14単位以上選択必修

※丸数字は単位数

(注意) 必修科目(法律学・政治学)として履修した選択科目(4単位分)は選択科目として重複カウントはしない。

⑤ 高等学校教諭一種免許状「商業」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（インターンシップ、キャリア教育特殊講義）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目	
	必修科目	選択科目
商業の関係科目	マーケティング論Ⅰ② マーケティング論Ⅱ② 会計学Ⅰ② 会計学Ⅱ② 経営学概論Ⅰ② 経営学概論Ⅱ② 情報基礎Ⅰ① 情報基礎Ⅱ① 情報概論②	国際金融論Ⅰ② 国際金融論Ⅱ② 簿記論AⅠ② 簿記論AⅡ② 簿記論BⅠ② 簿記論BⅡ② 経営分析Ⅰ② 経営分析Ⅱ② 経営史Ⅰ② 経営史Ⅱ② 経済数学Ⅰ② 経済数学Ⅱ② 原価計算論Ⅰ② 原価計算論Ⅱ② 証券経済論Ⅰ② 証券経済論Ⅱ② 金融事情Ⅰ② 金融事情Ⅱ② 税務会計論Ⅰ② 税務会計論Ⅱ② 人的資源管理Ⅰ② 人的資源管理Ⅱ② 産業論Ⅰ② 産業論Ⅱ② 産業組織論Ⅰ② 産業組織論Ⅱ② 観光事業論Ⅰ② 観光事業論Ⅱ② 消費者行動論Ⅰ② 消費者行動論Ⅱ② 商法② 会社法② 有価証券法Ⅰ② 有価証券法Ⅱ② 入門経済刑法Ⅰ② 情報検索入門② プログラミング入門② 中小企業論② 流通経営論Ⅰ② 流通経営論Ⅱ② 流通総論② 流通情報論②
職業指導	職業指導Ⅰ② 職業指導Ⅱ②	
必要単位数	計10科目 20単位必修	上記科目より14単位以上選択必修

※丸数字は単位数

⑥ 高等学校教諭一種免許状「情報」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を40単位、及び選択科目を6単位以上修得しなければなりません。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目	
	必修科目	選択科目
情報社会 及び 情報倫理	◎情報社会と倫理② ◎知的財産権論Ⅰ② サイバークリミナル法②	経営情報論Ⅰ② 経営情報論Ⅱ②
コンピュータ 及び 情報処理 (実習を含む)	◎ハードウェアシステム論② ◎OS論② ◎アルゴリズム論Ⅰ② ◎アルゴリズム論Ⅱ② △VBプログラミング② △Cプログラミング② △Perlプログラミング②	1科目 選択
コンピュータ 及び 情報処理 (実習を含む)	◎システム設計論Ⅰ② ◎情報システム開発論② ◎データオペレーションA② ◎データオペレーションB② ◎データベース論② ◎Excelデータ解析② 流通情報論②	選択 システム設計論Ⅱ② 経済統計Ⅰ② 経済統計Ⅱ②
情報通信ネットワーク (実習を含む)	◎ネットワークシステム論② 情報セキュリティ論②	
マルチメディア 表現及び技術 (実習を含む)	◎Webデザイン② プレゼンテーション論Ⅰ② プレゼンテーション論Ⅱ②	シミュレーション論②
情報と職業	◎情報と職業②	ベンチャービジネス論② ITサービス産業論②
必要単位数	計20科目 40単位必修	上記科目より6単位以上選択必修

※丸数字は単位数

(注意) ◎印の科目については原則として3年次終了までに単位修得しておくこと。

△印の科目については3科目のうち、1科目選択必修、原則として3年次までに単位修得しておくこと。

2. 教職に関する科目の履修

免許法施行規則に定める科目区分等				本学開講科目	単位数	中学必修	高校必修	備考	
	科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数						
第1欄	教職に関する科目								
第2欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教 職 概 論	2	2	2	選択	
		教育の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む）							
		教職という職業の進路選択に資する各種機会の提供等		教 職 時 事 演 習	2				
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教 育 原 論 I	2	2	2		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		発 達 心 理 学	2	2	2		
				教 育 心 理 学	2	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教 育 行 政	2	2	2		
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学…12 高校…6	教 育 原 論 II	2	2	2	中学 8単位	
		各科目の指導法		社会	社会科・地歴科指導法 I	2	2		
				社会科・地歴科指導法 II	2	2			
				社会科・公民科指導法 I	2	2			
				社会科・公民科指導法 II	2	2			
				地歴	社会科・地歴科指導法 I	2		2	
				社会科・地歴科指導法 II	2		2		
				地理歴史科指導法	2		2		
		公民		社会科・公民科指導法 I	2		2		
		社会科・公民科指導法 II		2		2			
		公民科指導法		2		2			
		商業		商 業 科 指 導 法	2		2		
		商業科教材研究		2		2			
情報	情 報 科 指 導 法 I	2		2					
情報科指導法 II	2		2						
道徳の指導法	道 徳 教 育 研 究	2	2		中学免許のみに適用				
特別活動の指導法	特 別 活 動 研 究	2	2	2					
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	教 育 方 法 論	2	2	2					
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法	4	生 徒 指 導 論	2	2	2	進路指導を含む		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		教 育 相 談	2	2	2			
第5欄	総 合 演 習	2	教 職 総 合 演 習 ※ 教 職 実 践 演 習 ※	2 2	2	2			
第6欄	教 育 実 習	中学…5 高校…3	教 育 実 践 研 究	1	1	1	中・高免許 取得者に適用		
			中 学 校 教 育 実 習	4	4				
			高 等 学 校 教 育 実 習	2		2			
※免許法上の最低修得単位数の合計			中学…31 高校…23	本学での必修単位数の合計		中学 39	高校 29以上		

※ 08・09年度入学者は教職総合演習、10年度以降の入学者は教職実践演習となる。

3. 教科又は教職に関する科目の履修

中学校免許取得希望者は「教育福祉論」（2単位）を履修のうえ、2、3年次のうちに必ず介護等体験に参加しなければなりません。

高校「地理歴史」「公民」免許取得希望者は「学校事務概論」（2単位）の修得単位を、高校「商業」免許取得希望者は「インターンシップ」（2単位）「キャリア教育特殊講義」（2単位）の修得単位を教科に関する選択科目の単位数に含めることができます。

4. 教育実習の履修条件

教育実習は原則として4年次に各自、実習校で行います。教育実習を履修するにあたっては、以下の要件を満たした上で、教職課程委員会における審査を受ける必要があります。

- 1) 2年次終了までに原則として80単位以上修得していること。
- 2) 3年次終了までに次の3科目の履修を済ませていること。

教育原論・発達心理学・教育方法論

- 3) 3年次終了までに教科指導法、教科に関する科目として、各取得免許教科につき以下の科目を履修していること。

免許名	本学開講科目	
	教科教育法	教科に関する科目
中学校 (社会)	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ	・日本史概論Ⅰ・Ⅱ又は世界史概論Ⅰ・Ⅱ ・地理学概論Ⅰ・Ⅱ又は地誌学Ⅰ・Ⅱ ・比較政治学 又は憲法Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (地理歴史)	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 地理歴史科指導法	・日本史概論Ⅰ・Ⅱ又は世界史概論Ⅰ・Ⅱ ・地理学概論Ⅰ・Ⅱ又は自然地理学Ⅰ・Ⅱ ・地誌学Ⅰ・Ⅱ又は地域調査論
高等学校 (公民)	社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ 公民科指導法	・比較政治学 又は法学Ⅰ・Ⅱ ・社会学概論 又は経済理論A又はB ・哲学概論Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (商業)	商業科指導法 商業科教材研究	・マーケティング論Ⅰ・Ⅱ又は経営学概論Ⅰ又はⅡ ・会計学Ⅰ・Ⅱ又は情報基礎Ⅰ・Ⅱ ・職業指導Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (情報)	情報科指導法Ⅰ 情報科指導法Ⅱ	61ページの⑥表中の開講科目欄を参照のこと

- 4) 「教育実践研究」（教育実践に係る事前・事後の指導）を3年次から履修していること。加えて、「一日参観実習」も終了していること。
- 5) 中学校教諭1種免許状取得予定者は、「介護等体験実習」を終了していること。
- 6) 健康上、教育実習に支障のないこと
- 7) 教育実習説明会に出席し、所定の手続き（「教職課程履修希望届」、「教育実習希望届」、「教育実習生個人調査書」の提出、教職課程履修費の納入等）を完了していること。

シラバス

I	もくじ	(67)
II	各授業内容	1
III	ライセンスプログラム	185
IV	教職及び教科に関する科目	187
V	2008～2011年度科目名変更一覧	205
VI	カリキュラム表	215

シラバス

I もくじ

I 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈学部共通科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基礎科目A		
文章表現1・2・3・4	教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
口頭表現1・2・3・4	教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
基礎数学1・2・3・4	教務部委員会（小林 誠）	3
入門経済学A	折原 裕（世話人）	3
入門経済学B	折原 裕（世話人）	4
入門経営学A	経営系専任教員	4
入門経営学B	経営系専任教員	5
キャリアプランニング	キャリアセンター	5
健康科学A・B	藤田 明男	6
情報基礎 I	清水 麻実	6
情報基礎 I	上之藪和宏	7
情報基礎 I	成富 慶子	7
情報基礎 II	清水 麻実	8
情報基礎 II	上之藪和宏	8
情報基礎 II	成富 慶子	9
情報基礎 I R	清水 麻美	9
情報基礎 II R	清水 麻美	10
2 基礎科目B		
敬天愛人講座（分）A	教務部委員会	10
敬天愛人講座（分）B	教務部委員会	11
入門経済学実習	折原 裕（世話人）	11
入門経営学実習	経営系専任教員	12
3 言語科目A		
英語 I -EX	武井みち子	12
英語 II -EX	武井みち子	13
英語 I -1	松中 完二	13
英語 II -1	松中 完二	14
英語 I -2	内野 泰子	14
英語 II -2	内野 泰子	15
英語 I -3	小野ゆき子	15
英語 II -3	小野ゆき子	16
英語 I -4	松中 完二	16
英語 II -4	松中 完二	17
英語 I -5	伊東 隆子	17
英語 II -5	伊東 隆子	18

授業科目	担当者	掲載頁
英語Ⅰ-6	小野ゆき子	18
英語Ⅱ-6	小野ゆき子	19
英語Ⅰ-P	伊東 隆子	19
英語Ⅱ-P	伊東 隆子	20
英語ⅠR (a)・ⅡR (a)	松中 完二	20
英語ⅠR (b)・ⅡR (b)	田 文揚	21
英語Ⅲ-1	小野ゆき子	21
英語Ⅳ-1	小野ゆき子	22
英語Ⅲ-2	松中 完二	22
英語Ⅳ-2	松中 完二	23
英語Ⅲ-3	伊東 隆子	23
英語Ⅳ-3	伊東 隆子	24
英語Ⅲ-4	武井みち子	24
英語Ⅳ-4	武井みち子	25
英語Ⅲ-5	伊東 隆子	25
英語Ⅳ-5	伊東 隆子	26
英語Ⅲ-6	松中 完二	26
英語Ⅳ-6	松中 完二	27
英語ⅢR (a)・ⅣR (a)	松中 完二	27
英語ⅢR (b)・ⅣR (b)	武井みち子	28

4 言語科目B

フランス語Ⅰ-A	寺尾いづみ	28
フランス語Ⅱ-A	寺尾いづみ	29
フランス語Ⅰ-B	白川 理恵	29
フランス語Ⅱ-B	白川 理恵	30
フランス語Ⅲ-A	寺尾いづみ	30
フランス語Ⅳ-A	寺尾いづみ	31
フランス語Ⅲ-B	白川 理恵	31
フランス語Ⅳ-B	白川 理恵	32
ドイツ語Ⅰ-A	高島 明	32
ドイツ語Ⅱ-A	高島 明	33
ドイツ語Ⅰ-B	志村 哲也	33
ドイツ語Ⅱ-B	志村 哲也	34
ドイツ語Ⅲ-A	高島 明	34
ドイツ語Ⅳ-A	高島 明	35
ドイツ語Ⅲ-B	志村 哲也	35
ドイツ語Ⅳ-B	志村 哲也	36
中国語ⅠA・B	矢澤 秀昭	36
中国語ⅡA・B	矢澤 秀昭	37

授業科目	担当者	掲載頁
中国語Ⅰ R (A)	矢澤 秀昭	37
中国語Ⅱ R (A)	矢澤 秀昭	38
中国語Ⅰ R (B)	矢澤 秀昭	38
中国語Ⅱ R (B)	矢澤 秀昭	39
中国語Ⅲ -A・B・C	矢澤 秀昭・黄 麗華	39
中国語Ⅳ -A・B・C	矢澤 秀昭・黄 麗華	40
中国語Ⅲ R	矢澤 秀昭	40
中国語Ⅳ R	矢澤 秀昭	41
日本語Ⅰ -A	沢野美由紀	41
日本語Ⅱ -A	沢野美由紀	42
日本語Ⅰ -B	銅直 信子	42
日本語Ⅱ -B	銅直 信子	43
日本語Ⅰ -C	高柳 真理	43
日本語Ⅱ -C	高柳 真理	44
日本語Ⅰ -D	銅直 信子	44
日本語Ⅱ -D	銅直 信子	45
日本語Ⅰ -E	高柳 真理	45
日本語Ⅱ -E	高柳 真理	46
日本語Ⅲ -A	高柳 真理	46
日本語Ⅳ -A	高柳 真理	47
日本語Ⅲ -B	沢野美由紀	47
日本語Ⅳ -B	沢野美由紀	48
日本語Ⅲ -C	銅直 信子	48
日本語Ⅳ -C	銅直 信子	49
英会話Ⅰ	ニック・デルマン	49
英会話Ⅱ	ニック・デルマン	50
英会話Ⅲ	ニック・デルマン	50
英会話Ⅳ	ニック・デルマン	51
ビジネス英語Ⅰ	内野 泰子	51
ビジネス英語Ⅱ	内野 泰子	52
時事英語Ⅰ	内野 泰子	52
時事英語Ⅱ	内野 泰子	53

5 教養科目

敬愛プログラム	教務部委員会	53
スポーツ教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ・Ⅲ・Ⅳ)	藤田 明男	54
スポーツ教育Ⅰ (シーズンスポーツⅠ：ゴルフⅠ)	藤田 明男	54
スポーツ教育Ⅱ (シーズンスポーツⅡ：マリンスポーツ)	開講しません	
スポーツ教育Ⅲ (シーズンスポーツⅢ：ゴルフⅡ)	藤田 明男	55
スポーツ教育Ⅳ (シーズンスポーツⅣ：スノースポーツ)	開講しません	

授業科目	担当者	掲載頁
哲学	高島 明	55
心理学	藤井 輝男	56
社会心理学	藤井 輝男	56
日本の文学	畑中 千晶	57
比較文学	畑中 千晶	57
歴史学	山本 健	58
法学	覚正 豊和	58
憲法Ⅰ	山内 義廣	59
憲法Ⅱ	山内 義廣	59
政治学	櫛田 久代	60
日本の政治	櫛田 久代	60
社会学	菊池 真弓	61
数学Ⅰ	小林 忠	61
数学Ⅱ	小林 忠	62
統計学Ⅰ	小林 忠	62
統計学Ⅱ	小林 忠	63
環境科学	中村 圭三	63
地球科学	濱田 浩美	64
情報概論	井手 雅哉	64
Web デザイン	井手 雅哉	65
Excel データ解析	井手 雅哉	65
プログラミング入門 VB	小林 忠	66
プログラミング入門 C	染谷 広幸	66
プログラミング入門 Perl	染谷 広幸	67
VB プログラミング	小林 忠	67
C プログラミング	染谷 広幸	68
Perl プログラミング	染谷 広幸	68
情報検索入門	井手 雅哉	69
データベースオペレーション A・B	成富 慶子	69
プレゼンテーション論Ⅰ A・B	成富 慶子	70
プレゼンテーション論Ⅱ	井手 雅哉	70
総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	71
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	71
海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	教務部委員会	72
海外事情研修Ⅱ(中国)	教務部委員会	72
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	教務部委員会	73
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	教務部委員会	73
地域ボランティア活動	松藤 和生	74

6 教職専門科目

日本史概論Ⅰ	小山 幸伸	74
日本史概論Ⅱ	小山 幸伸	75
世界史概論Ⅰ	山本 健	75
世界史概論Ⅱ	山本 健	76
地理学概論Ⅰ	永野 征男	76
地理学概論Ⅱ	永野 征男	77
地誌学Ⅰ	大八木英夫	77
地誌学Ⅱ	大八木英夫	78
哲学概論Ⅰ	小林 秀樹	78
哲学概論Ⅱ	小林 秀樹	79
比較政治学	櫛田 久代	79
社会学概論	菊池 真弓	80
自然地理学Ⅰ	近藤 昭彦	80
自然地理学Ⅱ	近藤 昭彦	81
環境地理学Ⅰ	三澤 正	81
環境地理学Ⅱ	三澤 正	82

7 キャリア科目

実践会話Ⅰ	斉木かおり	82
実践会話Ⅱ	斉木かおり	83
キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	83
キャリア基礎開発Ⅱ	キャリアセンター	84
キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	84
キャリアディベロップメント	キャリアセンター	85
キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	85

8 演習科目

基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ		86
基礎演習ⅠR(a)・ⅡR(a)	田 文揚	87
基礎演習ⅠR(b)・ⅡR(b)	熊木 恒夫	87
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	加茂川益郎	87
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	鈴木 明男	87
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	牧野 俊重	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	野口 明宏	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	仁平 耕一	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	森谷 英樹	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	青木 英一	89

授業科目	担当者	掲載頁
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	折原 裕	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	飯野由美子	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	小山 幸伸	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	和田 良子	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	馬場 正弘	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	森島 隆晴	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	畢 滔滔	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	星 真実	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	金子林太郎	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	岸本 太一	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	添田 利光	91
専門演習Ⅰ・Ⅱ	鈴木 明男	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ	牧野 俊重	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ	野口 明宏	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ	仁平 耕一	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ	森谷 英樹	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ	青木 英一	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ	折原 裕	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ	飯野由美子	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ	小山 幸伸	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ	和田 良子	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ	馬場 正弘	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ	森島 隆晴	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ	畢 滔滔	95
専門演習Ⅰ・Ⅱ	添田 利光	95

9 ライセンスプログラム

ライセンスプログラム（科目一覧）	186
------------------	-----

10 教職及び教科に関する科目

教育原論Ⅰ	中山 幸夫	188
教育原論Ⅱ	中山 幸夫	188
教育心理学（分）A・B	藤井 輝男	189
発達心理学（分）A・B	藤井 輝男	189
教職概論	坂本 義孝	190
教育行政	小西 紀男	190
教育法規	小西 紀男	191
教育方法論	柳原由美子	191
社会科・地歴科指導法Ⅰ	坂東 佶司	192

授業科目	担当者	掲載頁
社会科・地歴科指導法Ⅱ	坂東 侑司	192
地理歴史科指導法	福田 靖	193
社会科・公民科指導法Ⅰ	福田 靖	193
社会科・公民科指導法Ⅱ	福田 靖	194
公民科指導法	福田 靖	194
商業科指導法	坂本 義孝	195
商業科教材研究	坂本 義孝	195
情報科指導法Ⅰ	須之内義昭	196
情報科指導法Ⅱ	須之内義昭	196
情報と職業	須之内義昭	197
道德教育研究(分)A・B	中山 幸夫	197
特別活動研究	坂東 侑司	198
生徒指導論	坂東 侑司	198
教育相談	藤井 輝男	199
教職総合演習	中山 幸夫	199
教職時事演習	上野 正道	200
教育実践研究	坂東 侑司	200
中学校・高等学校教育実習	中山 幸夫	201
教育福祉論	佐藤真生子	201
職業指導Ⅰ	須之内義昭	202
職業指導Ⅱ	須之内義昭	202
学校事務概論	向笠 博昭	203

Ⅱ 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈経済系専門科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基本科目A		
経済理論AⅠ	加茂川益郎	99
経済理論AⅡ	加茂川益郎	100
経済理論BⅠ	和田 良子	100
経済理論BⅡ	和田 良子	101
日本経済史Ⅰ	小山 幸伸	101
日本経済史Ⅱ	小山 幸伸	102
西洋経済史Ⅰ	牧野 俊重	102
西洋経済史Ⅱ	牧野 俊重	103
2 基本科目B		
経済政策AⅠ	馬場 正弘	103
経済政策AⅡ	馬場 正弘	104
経済政策BⅠ	仁平 耕一	104
経済政策BⅡ	仁平 耕一	105
経済学史Ⅰ	加茂川益郎	105
経済学史Ⅱ	加茂川益郎	106
金融論Ⅰ	添田 利光	106
金融論Ⅱ	添田 利光	107
財政学Ⅰ	金子林太郎	107
財政学Ⅱ	金子林太郎	108
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	108
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	109
社会政策Ⅰ	星 真実	109
社会政策Ⅱ	星 真実	110
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	110
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	111
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	111
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	112
3 日本・世界経済コース科目		
日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	112
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	113
国際経済論Ⅰ	阿部 容子	113
国際経済論Ⅱ	阿部 容子	114
日本経済地理	青木 英一	114
世界経済地理	青木 英一	115
入門経済刑法	山内 義廣	115

授業科目	担当者	掲載頁
サイバー刑法	山内 義廣	116
商法	野口 明宏	116
会社法	野口 明宏	117
国際貿易論	阿部 容子	117
開発経済学	開講しません	
ヨーロッパ経済論Ⅰ	飯野由美子	118
ヨーロッパ経済論Ⅱ	飯野由美子	118
アメリカ経済事情Ⅰ	牧野 俊重	119
アメリカ経済事情Ⅱ	牧野 俊重	119
アジア経済論	中川 雅彦	120
中東経済論	水口 章	120
労働経済論Ⅰ	星 真実	121
労働経済論Ⅱ	星 真実	121

4 環境・福祉コース科目

環境と生活	永野 征男	122
開発と環境	永野 征男	122
都市環境とまちづくり	永野 征男	123
環境ビジネス	柳瀬 雄二	123
環境政策	作本 直行	124
家族と地域社会	菊池 真弓	124
福祉経済論	星 真実	125
社会福祉論	星 真実	125
保険論	千々松 愛子	126
民法Ⅰ	古川 晴雄	126
民法Ⅱ	古川 晴雄	127
社会保障論Ⅰ	星 真実	127
社会保障論Ⅱ	星 真実	128
労働経済論Ⅰ	星 真実	121
労働経済論Ⅱ	星 真実	121
資源エネルギー論	水口 章	128
医療の経済学	仁平 耕一	129
環境経済学Ⅰ	和田 良子	129
環境経済学Ⅱ	和田 良子	130
環境問題Ⅰ	金子林太郎	130
環境問題Ⅱ	金子林太郎	131

5 公共サービスコース科目

日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	112
--------	-------	-----

授業科目	担当者	掲載頁
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	113
公共経済学	仁平 耕一	131
公共選択論	仁平 耕一	132
地域経済論	開講しません	
入門経済刑法	山内 義廣	115
サイバー刑法	山内 義廣	116
行政法Ⅰ	小野寺 邦広	132
行政法Ⅱ	小野寺 邦広	133
労働法Ⅰ	高橋 良裕	133
労働法Ⅱ	高橋 良裕	134
民法Ⅰ	古川 晴雄	126
民法Ⅱ	古川 晴雄	127
地方自治論Ⅰ	伊藤 和歌子	134
地方自治論Ⅱ	牧瀬 稔	135
地方自治論実習	牧瀬 稔	135
地方財政論Ⅰ	金子林太郎	136
地方財政論Ⅱ	金子林太郎	136
財政赤字の経済学	仁平 耕一	137
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	137
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	138
社会保障論Ⅰ	星 真実	127
社会保障論Ⅱ	星 真実	128

6 金融・証券コース科目

金融事情Ⅰ	飯野由美子	138
金融事情Ⅱ	飯野由美子	139
資産運用論	佐藤 正明	139
保険論	千々松 愛子	126
商法	野口 明宏	116
会社法	野口 明宏	117
有価証券法Ⅰ	野口 明宏	140
有価証券法Ⅱ	野口 明宏	140
国際金融論Ⅰ	添田 利光	141
国際金融論Ⅱ	添田 利光	141
証券経済論Ⅰ	加藤 史夫	142
証券経済論Ⅱ	加藤 史夫	142
銀行論Ⅰ	添田 利光	143
銀行論Ⅱ	添田 利光	143
企業金融論Ⅰ	三田村 智	144
企業金融論Ⅱ	三田村 智	144

授業科目

担当者

掲載頁

計量経済学Ⅰ	馬場 正弘	145
計量経済学Ⅱ	馬場 正弘	145

7 展開科目

簿記論Ⅰ(分)A	鈴木 明男	155
簿記論Ⅱ(分)A	鈴木 明男	155
簿記論Ⅰ(分)B	塚本 利平	156
簿記論Ⅱ(分)B	塚本 利平	156
社会思想史Ⅰ	折原 裕	146
社会思想史Ⅱ	折原 裕	146
経済学方法論Ⅰ	折原 裕	147
経済学方法論Ⅱ	折原 裕	147
経済数学Ⅰ	小林 忠	148
経済数学Ⅱ	小林 忠	148
経営学概論Ⅰ	高木 朋代	153
経営学概論Ⅱ	高木 朋代	153
産業論Ⅰ	森谷 英樹	157
産業論Ⅱ	森谷 英樹	157
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154
産業立地論Ⅰ	青木 英一	172
産業立地論Ⅱ	青木 英一	172
産業組織論Ⅰ	森谷 英樹	177
産業組織論Ⅱ	森谷 英樹	178
流通論	畢 滔滔	173
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	178
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	179
財務管理論	石鍋 信孝	165
都市地理学	永野 征男	179
企業文化論	千葉 雄二	149
地域産業論	青木 英一	176
地域調査論	青木 英一	175
知的財産権論Ⅰ	開講しません	
知的財産権論Ⅱ	開講しません	
食料経済論	稲葉 弘道	149
農業政策	稲葉 弘道	150
外国経済書講読Ⅰ	渡辺 善次	150
外国経済書講読Ⅱ	渡辺 善次	151
国際法Ⅰ	野澤 基恭	151
国際法Ⅱ	野澤 基恭	152
金融経済の基礎知識	伊崎 岳夫	152

Ⅲ 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈経営系専門科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基礎科目A		
経営学概論Ⅰ	高木 朋代	153
経営学概論Ⅱ	高木 朋代	153
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154
2 基礎科目B		
簿記論Ⅰ（分）A	鈴木 明男	155
簿記論Ⅱ（分）A	鈴木 明男	155
簿記論Ⅰ（分）B	塚本 利平	156
簿記論Ⅱ（分）B	塚本 利平	156
産業論Ⅰ	森谷 英樹	157
産業論Ⅱ	森谷 英樹	157
マーケティング論Ⅰ	畢 滔滔	158
マーケティング論Ⅱ	畢 滔滔	158
経営史Ⅰ	平山 勉	159
経営史Ⅱ	平山 勉	159
経営戦略論Ⅰ	岸本 太一	160
経営戦略論Ⅱ	岸本 太一	160
経営組織論Ⅰ	高木 朋代	161
経営組織論Ⅱ	高木 朋代	161
経営分析Ⅰ	平屋 伸洋	162
経営分析Ⅱ	平屋 伸洋	162
経済理論AⅠ	加茂川益郎	99
経済理論AⅡ	加茂川益郎	100
経済理論BⅠ	和田 良子	100
経済理論BⅡ	和田 良子	101
3 経営・会計コース		
人的資源管理Ⅰ	開講しません	
人的資源管理Ⅱ	開講しません	
消費者行動論Ⅰ	開講しません	
消費者行動論Ⅱ	開講しません	
商法	野口 明宏	116
会社法	野口 明宏	117
民法Ⅰ	古川 晴雄	126
民法Ⅱ	古川 晴雄	127
原価計算論Ⅰ	柴田 寛幸	163

授業科目	担当者	掲載頁
原価計算論Ⅱ	柴田 寛幸	163
税務会計論Ⅰ	鈴木 明男	164
税務会計論Ⅱ	鈴木 明男	164
財務管理論	石鍋 信孝	165
マーケティングリサーチ	開講しません	
国際経営論	長島 芳枝	165
企業倫理論	川島 孝夫	166
企業文化論	千葉 雄二	149
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	178
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	179
有価証券法Ⅰ	野口 明宏	140
有価証券法Ⅱ	野口 明宏	140

4 ビジネス情報コース科目

経営情報論Ⅰ	開講しません	
経営情報論Ⅱ	開講しません	
情報社会と倫理	井手 雅哉	166
ハードウェアシステム論	森島 隆晴	167
OS論	森島 隆晴	167
ネットワークシステム論	森島 隆晴	168
情報セキュリティ論	森島 隆晴	168
アルゴリズム論Ⅰ	豊原 明	169
アルゴリズム論Ⅱ	豊原 明	169
システム設計論Ⅰ	高橋 和子	170
システム設計論Ⅱ	開講しません	
情報システム開発論	開講しません	
流通情報論	畢 滔滔	170
データベース論	森島 隆晴	171
シミュレーション論	開講しません	
知的財産権論Ⅰ	開講しません	
知的財産権論Ⅱ	開講しません	
サイバー刑法	山内 義廣	116
情報経済論	森島 隆晴	171

5 現代産業コース科目

産業立地論Ⅰ	青木 英一	172
産業立地論Ⅱ	青木 英一	172
流通論	畢 滔滔	173
流通情報論	畢 滔滔	170

授業科目	担当者	掲載頁
流通経営論Ⅰ	畢 滔滔	173
流通経営論Ⅱ	畢 滔滔	174
観光事業論Ⅰ	奥山 隆哉	174
観光事業論Ⅱ	奥山 隆哉	175
地域調査論	青木 英一	175
地域産業論	青木 英一	176
サービス産業論	横山 貞夫	176
ITサービス産業論	横山 貞夫	177
産業組織論Ⅰ	森谷 英樹	177
産業組織論Ⅱ	森谷 英樹	178
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	178
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	179
地域経済論	開講しません	
都市地理学	永野 征男	179
都市環境とまちづくり	永野 征男	123

6 スポーツビジネスコース（11カリキュラムのみ対象）

スポーツ科学概論	開講しません
スポーツ経営論	開講しません
スポーツ産業論	開講しません
スポーツキャリア実習	開講しません
スポーツビジネス論	開講しません
スポーツマーケティング論	開講しません
生涯スポーツ実習Ⅰ	開講しません
生涯スポーツ実習Ⅱ	開講しません

7 展開科目

経済政策AⅠ	馬場 正弘	103
経済政策AⅡ	馬場 正弘	104
経済政策BⅠ	仁平 耕一	104
経済政策BⅡ	仁平 耕一	105
金融論Ⅰ	添田 利光	106
金融論Ⅱ	添田 利光	107
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	108
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	109
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	110
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	111
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	111
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	112

授業科目

担当者

掲載頁

日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	112
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	113
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	137
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	138
国際貿易論	阿部 容子	117
ベンチャービジネス論	川西 正己	180
地域企業会計論	高橋 隆明	180
企業再生論	高橋 隆明	181
環境政策	作本 直行	124
環境問題Ⅰ	金子林太郎	130
環境問題Ⅱ	金子林太郎	131
企業金融論Ⅰ	三田村 智	144
企業金融論Ⅱ	三田村 智	144
労働法Ⅰ	高橋 良裕	133
労働法Ⅱ	高橋 良裕	134
外国経営書講読Ⅰ	黄 和秀	181
外国経営書講読Ⅱ	黄 和秀	182
金融経済の基礎知識	伊崎 岳夫	152

IV 2008年度入学生（08カリキュラム）一覧

授業科目

担当者

掲載頁

1 基本科目

人文分野	哲学Ⅰ（哲学）	高島 明	55
	哲学Ⅱ	開講しません	
	心理学Ⅰ（心理学）	藤井 輝男	56
	心理学Ⅱ（社会心理学）	藤井 輝男	56
	文学Ⅰ（日本の文学）	畑中 千晶	57
	文学Ⅱ（比較文学）	畑中 千晶	57
	歴史学Ⅰ（歴史学）	山本 健	58
	歴史学Ⅱ	開講しません	
	人文地理学Ⅰ（環境と生活）	永野 征男	122
	人文地理学Ⅱ（開発と環境）	永野 征男	122
	日本史概論Ⅰ	小山 幸伸	74
	日本史概論Ⅱ	小山 幸伸	75
	世界史概論Ⅰ	山本 健	75
	世界史概論Ⅱ	山本 健	76
	地理学Ⅰ（地理学概論Ⅰ）	永野 征男	76
	地理学Ⅱ（地理学概論Ⅱ）	永野 征男	77
	地誌学Ⅰ	大八木英夫	77
	地誌学Ⅱ	大八木英夫	78
	哲学概論Ⅰ	小林 秀樹	78
	哲学概論Ⅱ	小林 秀樹	79
社会分野	法学Ⅰ（法学）	覚正 豊和	58
	法学Ⅱ	開講しません	
	政治学Ⅰ（政治学）	櫛田 久代	60
	政治学Ⅱ（日本の政治）	櫛田 久代	60
	社会学Ⅰ（社会学）	菊池 真弓	61
	社会学Ⅱ（家族と地域社会）	菊池 真弓	124
	入門経済学A	折原 裕（世話人）	3
	入門経済学B	折原 裕（世話人）	4
	入門経営学A・B	開講しません	
	比較政治学	櫛田 久代	79
	社会学概論	菊池 真弓	80
	自然分野	生命科学Ⅰ	開講しません
生命科学Ⅱ		開講しません	
数学（数学Ⅰ・Ⅱ）		小林 忠	61
統計学（統計学Ⅰ・Ⅱ）		小林 忠	62
環境科学Ⅰ（環境科学）		中村 圭三	63
環境科学Ⅱ		開講しません	

授業科目	担当者	掲載頁
地球科学Ⅰ（地球科学）	濱田 浩美	64
地球科学Ⅱ	開講しません	
自然地理学Ⅰ	近藤 昭彦	80
自然地理学Ⅱ	近藤 昭彦	81
環境地理学Ⅰ	三澤 正	81
環境地理学Ⅱ	三澤 正	82
保健体育科目		
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（キャンパススポーツⅠ～Ⅳ）	藤田 明男	54
スポーツ教育Ⅰ（シーズンスポーツⅠ：ゴルフ）	藤田 明男	54
スポーツ教育Ⅱ（シーズンスポーツⅡ：マリンスポーツ）	開講しません	
スポーツ教育Ⅲ（シーズンスポーツⅢ：ゴルフ?）	藤田 明男	55
スポーツ教育Ⅳ（シーズンスポーツⅣ：スノースポーツ）	開講しません	
健康運動科学A・B	藤田 明男	6

2 専門導入科目

系共通科目	経済原論A（経済理論AⅠ・AⅡ）	経済原論B（経済理論BⅠ・BⅡ）	日本経済史（日本経済史Ⅰ・Ⅱ）	西洋経済史（西洋経済史Ⅰ・Ⅱ）	経済政策総論A（経済政策AⅠ・AⅡ）	経済政策総論B（経済政策BⅠ・BⅡ）	担当者	掲載頁
							加茂川益郎	99・100
							和田 良子	100・101
							小山 幸伸	101・102
							牧野 俊重	102・103
							馬場 正弘	103・104
							仁平 耕一	104・105

3 基幹科目

経済系科目（B1群）	経済学史Ⅰ	経済学史Ⅱ	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅱ	国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅱ	金融論Ⅰ	金融論Ⅱ	財政学総論Ⅰ（財政学Ⅰ）	財政学総論Ⅱ（財政学Ⅱ）	統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅱ	社会政策総論Ⅰ（社会政策Ⅰ）	社会政策総論Ⅱ（社会政策Ⅱ）	ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	掲載頁
																	加茂川益郎	105
																	加茂川益郎	106
																	馬場 正弘	112
																	馬場 正弘	113
																	阿部 容子	113
																	阿部 容子	114
																	添田 利光	106
																	添田 利光	107
																	金子林太郎	107
																	金子林太郎	108
																	稲葉 弘道	108
																	稲葉 弘道	109
																	星 真実	109
																	星 真実	110
																	渡辺 善次	110
																	渡辺 善次	111

授業科目	担当者	掲載頁
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	111
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	112
経営系科目 (B2群)		
簿記原理ⅠA (簿記論ⅠA)	鈴木 明男	155
簿記原理ⅡA (簿記論ⅡA)	鈴木 明男	155
簿記原理ⅠB (簿記論ⅠB)	塚本 利平	156
簿記原理ⅡB (簿記論ⅡB)	塚本 利平	156
産業総論Ⅰ (産業論Ⅰ)	森谷 英樹	157
産業総論Ⅱ (産業論Ⅱ)	森谷 英樹	157
経営学原理Ⅰ (経営学概論Ⅰ)	高木 朋代	153
経営学原理Ⅱ (経営学概論Ⅱ)	高木 朋代	153
会計学原理Ⅰ (会計学Ⅰ)	鈴木 明男	154
会計学原理Ⅱ (会計学Ⅱ)	鈴木 明男	154
マーケティング論Ⅰ	畢 滔滔	158
マーケティング論Ⅱ	畢 滔滔	158
経営史Ⅰ	平山 勉	159
経営史Ⅱ	平山 勉	159
経済系科目 (C1群)		
経済学方法論Ⅰ	折原 裕	147
経済学方法論Ⅱ	折原 裕	147
経済数学Ⅰ	小林 忠	148
経済数学Ⅱ	小林 忠	148
公共経済学	仁平 耕一	131
公共選択論	仁平 耕一	132
日本経済地理	青木 英一	114
世界経済地理	青木 英一	115
地方財政論Ⅰ	金子林太郎	136
地方財政論Ⅱ	金子林太郎	136
計量経済学Ⅰ	馬場 正弘	145
計量経済学Ⅱ	馬場 正弘	145
国際金融論Ⅰ	添田 利光	141
国際金融論Ⅱ	添田 利光	141
国際貿易論	阿部 容子	117
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	137
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	138
ヨーロッパ経済論Ⅰ	飯野由美子	118
ヨーロッパ経済論Ⅱ	飯野由美子	118
アメリカ経済事情Ⅰ	牧野 俊重	119
アメリカ経済事情Ⅱ	牧野 俊重	119
社会保障論Ⅰ	星 真実	127
社会保障論Ⅱ	星 真実	128

授業科目	担当者	掲載頁
労働経済論Ⅰ	星 真実	121
労働経済論Ⅱ	星 真実	121
証券経済論Ⅰ	加藤 史夫	142
証券経済論Ⅱ	加藤 史夫	142
環境経済学（環境経済学Ⅰ）	和田 良子	129
環境経済学Ⅱ	和田 良子	130
アジア経済論	中川 雅彦	120
中東経済論	水口 章	120
多国籍企業論	開講しません	
新エネルギー論（資源エネルギー論）	水口 章	128
開発経済学	開講しません	
生活経済論Ⅰ（資産運用論）	佐藤 正明	139
生活経済論Ⅱ（保険論）	千々松 愛子	126
福祉経済論	星 真実	125
社会福祉論	星 真実	125
経営系科目（C2群）		
産業立地論Ⅰ	青木 英一	172
産業立地論Ⅱ	青木 英一	172
産業組織論Ⅰ	森谷 英樹	177
産業組織論Ⅱ	森谷 英樹	178
人的資源管理Ⅰ	開講しません	
人的資源管理Ⅱ	開講しません	
原価計算論Ⅰ	柴田 寛幸	163
原価計算論Ⅱ	柴田 寛幸	163
経営分析Ⅰ	平屋 伸洋	162
経営分析Ⅱ	平屋 伸洋	162
地域産業論	青木 英一	176
税務会計論Ⅰ	鈴木 明男	164
税務会計論Ⅱ	鈴木 明男	164
流通経営論Ⅰ	畢 滔滔	173
流通経営論Ⅱ	畢 滔滔	174
経営戦略論Ⅰ	岸本 太一	160
経営戦略論Ⅱ	岸本 太一	160
サービス産業論	横山 貞夫	176
ITサービス産業論	横山 貞夫	177
経営組織論Ⅰ	高木 朋代	161
経営組織論Ⅱ	高木 朋代	161
国際経営論	長島 芳枝	165
ベンチャービジネス論	川西 正己	180
地域企業会計論	高橋 隆明	180
企業再生論	高橋 隆明	181

授業科目	担当者	掲載頁
経営情報論Ⅰ	開講しません	
経営情報論Ⅱ	開講しません	
流通総論（流通論）	畢 滔滔	173
流通情報論	畢 滔滔	170
中小企業論（中小企業論Ⅰ）	岸本 太一	178
マーケティングリサーチ	開講しません	
消費者行動論Ⅰ	開講しません	
消費者行動論Ⅱ	開講しません	
財務管理論	石鍋 信孝	165
企業倫理論	川島 孝夫	166
観光事業論Ⅰ	奥山 隆哉	174
観光事業論Ⅱ	奥山 隆哉	175
データベース論Ⅱ（データベース論）	森島 隆晴	171
情報システム開発論	開講しません	
アルゴリズム論Ⅰ	豊原 明	169
アルゴリズム論Ⅱ	豊原 明	169
システム設計論Ⅰ	高橋 和子	170
システム設計論Ⅱ	開講しません	
シミュレーション論	開講しません	
情報社会と倫理	井手 雅哉	166
ハードウェアシステム論	森島 隆晴	167
OS論	森島 隆晴	167
ネットワークシステム論	森島 隆晴	168
情報セキュリティ論	森島 隆晴	168

4 展開科目

系共通科目（D群）	外国書講読Ⅰ（外国経済書講読Ⅰ）	渡辺 善次	150
	外国書講読Ⅱ（外国経済書講読Ⅱ）	渡辺 善次	151
	外国書講読Ⅰ（外国経営書講読Ⅰ）	黄 和秀	181
	外国書講読Ⅱ（外国経営書講読Ⅱ）	黄 和秀	182
	社会思想史Ⅰ	折原 裕	146
	社会思想史Ⅱ	折原 裕	146
	都市地理学Ⅰ（都市地理学）	永野 征男	179
	都市地理学Ⅱ（都市環境とまちづくり）	永野 征男	123
	金融事情Ⅰ	飯野由美子	138
	金融事情Ⅱ	飯野由美子	139
	食料経済論	稲葉 弘道	149
	農業政策	稲葉 弘道	150
	地域調査論	青木 英一	175
	環境ビジネス	柳瀬 雄二	123
	環境アセスメント（環境政策）	作本 直行	124

授業科目	担当者	掲載頁
環境マネジメント	開講しません	
地域経済学（地域経済論）	開講しません	
企業文化論Ⅰ（企業文化論）	千葉 雄二	149
企業文化論Ⅱ	開講しません	
ジェンダーの社会学	開講しません	
知的財産権論Ⅰ	開講しません	
知的財産権論Ⅱ	開講しません	
法律科目		
憲法Ⅰ	山内 義廣	59
憲法Ⅱ	山内 義廣	59
民法Ⅰ	古川 晴雄	126
民法Ⅱ	古川 晴雄	127
入門経済刑法	山内 義廣	115
サイバー刑法	山内 義廣	116
労働法Ⅰ	高橋 良裕	133
労働法Ⅱ	高橋 良裕	134
商法	野口 明宏	116
会社法	野口 明宏	117
有価証券法Ⅰ	野口 明宏	140
有価証券法Ⅱ	野口 明宏	140
国際法Ⅰ	野澤 基恭	151
国際法Ⅱ	野澤 基恭	152
キャリア科目（E群）		
基礎学力総合講座Ⅰ（国語）	羽村 美和子	182
基礎学力総合講座Ⅱ（国語）	羽村 美和子	183
基礎学力総合講座Ⅲ（数学）	前田 弘	183
基礎学力総合講座Ⅳ（数学）	前田 弘	184
キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	85
キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	83
キャリア基礎開発Ⅱ	キャリアセンター	84
キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	84
会話表現Ⅰ（実践会話Ⅰ）	斉木かおり	82
会話表現Ⅱ（実践会話Ⅱ）	斉木かおり	83

5 演習科目

必修科目			
演習IR (a)（基礎演習IR (a)・IR (a)）	田 文揚	87	
演習IR (b)（基礎演習IR (b)・IR (b)）	熊木 恒夫	87	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	加茂川益郎	87	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	鈴木 明男	87	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	牧野 俊重	88	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	野口 明宏	88	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	仁平 耕一	88	
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	森谷 英樹	88	

授業科目

担当者

掲載頁

演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	青木 英一	89
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	折原 裕	89
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	飯野由美子	89
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	小山 幸伸	89
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	和田 良子	90
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	馬場 正弘	90
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	森島 隆晴	90
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	畢 滔滔	90
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	金子林太郎	91
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	添田 利光	91
演習Ⅱ（専門導入演習Ⅱ）	岸本 太一	91
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	鈴木 明男	92
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	牧野 俊重	92
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	野口 明宏	92
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	仁平 耕一	92
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	森谷 英樹	93
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	青木 英一	93
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	折原 裕	93
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	飯野由美子	93
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	小山 幸伸	94
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	和田 良子	94
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	馬場 正弘	94
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	森島 隆晴	94
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	畢 滔滔	95
演習Ⅲ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）	添田 利光	95
演習Ⅳ	鈴木 明男	95
演習Ⅳ	牧野 俊重	95
演習Ⅳ	野口 明宏	96
演習Ⅳ	仁平 耕一	96
演習Ⅳ	森谷 英樹	96
演習Ⅳ	青木 英一	96
演習Ⅳ	折原 裕	97
演習Ⅳ	飯野由美子	97
演習Ⅳ	小山 幸伸	97
演習Ⅳ	和田 良子	97
演習Ⅳ	馬場 正弘	98
演習Ⅳ	森島 隆晴	98
演習Ⅳ	畢 滔滔	98
演習Ⅳ	星 真実	98
演習Ⅳ	金子林太郎	99
演習Ⅳ	添田 利光	99

6 コミュニケーション科目 (言語)

必修科目	英語ⅠR (a) (英語ⅠR (a)・ⅠR (a))	松中 完二	20
	英語ⅠR (b) (英語ⅠR (b)・ⅠR (b))	田 文揚	21
	英語ⅡR (a) (英語ⅡR (a)・ⅡR (a))	松中 完二	27
	英語ⅡR (b) (英語ⅡR (b)・ⅡR (b))	武井みち子	28
選択必修科目	フランス語Ⅰ-A (フランス語Ⅰ-A)	寺尾いづみ	28
	フランス語Ⅰ-A (フランス語Ⅱ-A)	寺尾いづみ	29
	フランス語Ⅰ-B (フランス語Ⅰ-B)	白川 理恵	29
	フランス語Ⅰ-B (フランス語Ⅱ-B)	白川 理恵	30
	フランス語Ⅱ-A (フランス語Ⅲ-A)	寺尾いづみ	30
	フランス語Ⅱ-A (フランス語Ⅳ-A)	寺尾いづみ	31
	フランス語Ⅱ-B (フランス語Ⅲ-B)	白川 理恵	31
	フランス語Ⅱ-B (フランス語Ⅳ-B)	白川 理恵	32
	ドイツ語Ⅰ-A (ドイツ語Ⅰ-A)	高島 明	32
	ドイツ語Ⅰ-A (ドイツ語Ⅱ-A)	高島 明	33
	ドイツ語Ⅰ-B (ドイツ語Ⅰ-B)	志村 哲也	33
	ドイツ語Ⅰ-B (ドイツ語Ⅱ-B)	志村 哲也	34
	ドイツ語Ⅱ-A (ドイツ語Ⅲ-A)	高島 明	34
	ドイツ語Ⅱ-A (ドイツ語Ⅳ-A)	高島 明	35
	ドイツ語Ⅱ-B (ドイツ語Ⅲ-B)	志村 哲也	35
	ドイツ語Ⅱ-B (ドイツ語Ⅳ-B)	志村 哲也	36
	中国語ⅠR (a) (中国語ⅠR (a))	矢澤 秀昭	37
	中国語ⅠR (a) (中国語ⅡR (a))	矢澤 秀昭	38
	中国語ⅠR (b) (中国語ⅠR (b))	矢澤 秀昭	38
	中国語ⅠR (b) (中国語ⅡR (b))	矢澤 秀昭	39
	中国語ⅡR (中国語ⅢR)	矢澤 秀昭	40
	中国語ⅡR (中国語ⅣR)	矢澤 秀昭	41
	日本語Ⅰ-A (日本語Ⅰ-A)	沢野美由紀	41
	日本語Ⅰ-A (日本語Ⅱ-A)	沢野美由紀	42
	日本語Ⅰ-B (日本語Ⅰ-B)	銅直 信子	42
	日本語Ⅰ-B (日本語Ⅱ-B)	銅直 信子	43
	日本語Ⅰ-C (日本語Ⅰ-C)	高柳 真理	43
	日本語Ⅰ-C (日本語Ⅱ-C)	高柳 真理	44
	日本語Ⅰ-D (日本語Ⅰ-D)	銅直 信子	44
	日本語Ⅰ-D (日本語Ⅱ-D)	銅直 信子	45
	日本語Ⅰ-E (日本語Ⅰ-E)	高柳 真理	45
	日本語Ⅰ-E (日本語Ⅱ-E)	高柳 真理	46
	日本語Ⅱ-A (日本語Ⅲ-A)	高柳 真理	46
	日本語Ⅱ-A (日本語Ⅳ-A)	高柳 真理	47

授業科目	担当者	掲載頁
日本語Ⅱ-B(日本語Ⅲ-B)	沢野美由紀	47
日本語Ⅱ-B(日本語Ⅳ-B)	沢野美由紀	48
日本語Ⅱ-C(日本語Ⅲ-C)	銅直 信子	48
日本語Ⅱ-C(日本語Ⅳ-C)	銅直 信子	49
英会話Ⅰ(英会話Ⅰ)	ニック・デルマン	49
英会話Ⅰ(英会話Ⅱ)	ニック・デルマン	50
英会話Ⅱ(英会話Ⅲ)	ニック・デルマン	50
英会話Ⅱ(英会話Ⅳ)	ニック・デルマン	51
ビジネス英語(ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ)	内野 泰子	51
時事英語(時事英語Ⅰ・Ⅱ)	内野 泰子	52

7 コミュニケーション科目

情報			
情報基礎ⅠR	清水 麻美	9	
情報基礎ⅡR	清水 麻美	10	
情報概論	井手 雅哉	64	
Webデザイン	井手 雅哉	65	
Excelデータ解析	井手 雅哉	65	
プログラミング入門VB	小林 忠	66	
プログラミング入門C	染谷 広幸	66	
プログラミング入門Perl	染谷 広幸	67	
情報検索入門	井手 雅哉	69	
VBプログラミング	小林 忠	67	
Cプログラミング	染谷 広幸	68	
Perlプログラミング	染谷 広幸	68	
データベース論Ⅰ(データベースオペレーションA・B)	成富 慶子	69	
プレゼンテーション論ⅠA・B	成富 慶子	70	
プレゼンテーション論Ⅱ	井手 雅哉	70	

8 総合科目

総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	71
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	71
敬天愛人講座ⅠA・B	教務部委員会	10・11

9 特別教育科目

選択科目		
海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	教務部委員会	72
海外事情研修Ⅱ(中国)	教務部委員会	72
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	教務部委員会	73
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	教務部委員会	73
地域ボランティア活動	松藤 和生	74

授業科目	担当者	掲載頁
ライセンスプログラム ライセンスプログラム (科目一覧)		186
教職及び教科に関する科目		
教育原論Ⅰ	中山 幸夫	188
教育原論Ⅱ	中山 幸夫	188
教育心理学 (分) A・B	藤井 輝男	189
発達心理学 (分) A・B	藤井 輝男	189
教職概論	坂本 義孝	190
教育行政	小西 紀男	190
教育法規	小西 紀男	191
教育方法論	柳原由美子	191
社会科・地歴科教育法 (社会科・地歴科指導法Ⅰ)	坂東 侑司	192
地理歴史科教育法	福田 靖	193
社会科公民科教育法 (社会科・公民科指導法Ⅰ)	福田 靖	193
公民科教育法	福田 靖	194
商業科教育法	坂本 義孝	195
商業科教材研究	坂本 義孝	195
情報科教育法Ⅰ	須之内義昭	196
情報科教育法Ⅱ	須之内義昭	196
情報と職業	須之内義昭	197
道德教育研究 (分) A・B	中山 幸夫	197
特別活動研究	坂東 侑司	198
生徒指導論	坂東 侑司	198
教育相談	藤井 輝男	199
教職総合演習	中山 幸夫	199
教職時事演習	上野 正道	200
教育実践研究	坂東 侑司	200
中学校・高等学校教育実習	中山 幸夫	201
教育福祉論	佐藤真生子	201
職業指導Ⅰ	須之内義昭	202
職業指導Ⅱ	須之内義昭	202
学校事務概論	向笠 博昭	203

シラバス

Ⅱ 各授業内容

科目名	文章表現 1・2・3・4 「TPOにあった日本語の使い方を学ぶ」		
担当者	教務部委員会（戸口恵子・石井勲）		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPOにあった日本語を使いこなせるようになることである。

■授業の進め方（履修条件等）

オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。

■成績評価方法・基準

定期試験（40％）・授業内中間テスト（20％）・出席（40％）積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等）および正当な理由なき途中入室・退室は、出席とみなさない。出席日数が全体の3分の2を満たさない場合、定期試験の受験資格を失う。結果として単位取得ができなくなるので、注意すること。

■授業の予習・復習

授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。

■教科書

オリジナルプリント教材を使用する。

■参考文献

表記の手引き 第四版（教育出版編集局編、教育出版）
新装版 日本語の作文技術（本多勝一著、講談社）
文章は接続詞で決まる（石黒圭著、光文社新書）、国語便覧（出版社は問わない）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認
2 自己紹介をする(1)	自己紹介に関するスピーチ
3 自己紹介をする(2)	自己紹介に関するスピーチ
4 適切な表記・表現とは(1) 漢字テスト(1)	文体、一人称、口語表現
5 適切な表記・表現とは(2) 漢字テスト(2)	誤字、送りかな
6 わかりやすい文を書く(1) 漢字テスト(3)	文の乱れ（呼応関係、主語と述語のねじれ）
7 わかりやすい文を書く(2) 漢字テスト(4)	修飾関係、主述関係、あいまいな表現、冗長な文
8 中間テスト	第1～7講までの範囲で出題
9 正しい言葉遣い(1) 漢字テスト(5)	敬語①（敬語の基本、あいさつ、受け答え）
10 正しい言葉遣い(2) 漢字テスト(6)	敬語②（メール・手紙の書き方）
11 正しい言葉遣い(3) 漢字テスト(7)	敬語③（電話のかけ方・受け方）
12 わかりやすい文章を書く(1) 漢字テスト(8)	接続関係
13 相手に伝わる文章を書く(2) 漢字テスト(9)	自己アピール文を書く
14 自己紹介をする(3)	前期の内容をふまえ、自己紹介に関するスピーチをおこない、批評する。
15 自己紹介をする(4)	前期の内容をふまえ、自己紹介に関するスピーチをおこない、批評する。
16 定期試験	前期全範囲から出題

科目名	口頭表現 1・2・3・4 「TPOにあった日本語の使い方を学ぶ」		
担当者	教務部委員会（戸口恵子・石井勲）		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPOにあった日本語の話し方を習得することである。

■授業の進め方（履修条件等）

オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。

■成績評価方法・基準

定期試験（40％）・授業内中間テスト（20％）・出席（40％）積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等）および正当な理由なき途中入室・退室は、出席とみなさない。出席日数が全体の3分の2を満たさない場合、定期試験の受験資格を失う。結果として単位取得ができなくなるので、注意すること。

■授業の予習・復習

授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。

■教科書

オリジナルプリント教材を使用する。

■参考文献

説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて（海保博之著、共立出版）
現代プレゼンテーション正攻法（プリプル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版）
小室淑恵の超実践プレゼン講座（小室淑恵著、日経BPムック）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期の復習(1) 漢字テスト(1)	文章表現のまとめ
2 前期の復習(2) 漢字テスト(2)	敬語のまとめ
3 話し方のポイントを学ぶ(1) 漢字テスト(3)	わかりやすく話すための技術を学ぶ グループワーク（自らの話し方の癖を知る）
4 話し方のポイントを学ぶ(2) 漢字テスト(4)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク（自らの振る舞いや表情の傾向を知る）
5 話し方のポイントを学ぶ(3) 漢字テスト(5)	問いかけと受け答えについて学ぶ。 グループワーク（仲間にインタビューする）
6 ロールプレイ(1)	実際に人前で話してみる
7 ロールプレイ(2)	実際に人前で話してみる
8 中間テスト	第1～7講までの範囲で出題
9 プレゼンテーションの方法と実践(1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク（顔合わせ、自己紹介）
10 プレゼンテーションの方法と実践(2) 漢字テスト(6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ① グループワーク（調査、発表内容の決定）
11 プレゼンテーションの方法と実践(3) 漢字テスト(7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ② グループワーク（調査、発表内容の決定）
12 プレゼンテーションの方法と実践(4) 漢字テスト(8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ② グループワーク（台本作り）
13 プレゼンテーションの方法と実践(5) 漢字テスト(9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ② グループワーク（リハーサル）
14 プレゼンテーションの方法と実践(6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する
15 プレゼンテーションの方法と実践(7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する
16 定期試験	後期全範囲から出題

科目名	基礎数学 1・2・3・4		
担当者	教務部委員会（小林誠）		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習は必要ありませんが、授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。

■教科書

使用しません。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の方針、計算パズル
2	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法
3	小数・概算	CAB（暗算）の過去問演習、割合の考え方
4	分数	分数の四則計算、約数と倍数
5	文字式	累乗、簡単な文字式の必要性・意味・扱い
6	方程式（1）	等式の性質、一次方程式の解法
7	方程式（2）	一次方程式とその応用
8	中間試験	
9	不等式	不等式を用いた表現、一次不等式の解法
10	平方根	平方根と根号（ $\sqrt{\quad}$ ）の必要性・意味・扱い
11	連立方程式	2元一次連立方程式の解法とその応用
12	座標平面（1）	点の座標、比例・反比例・一次関数のグラフ
13	座標平面（2）	連立方程式の解とグラフ
14	展開・因数分解（1）	簡単な式の展開と因数分解
15	展開・因数分解（2）	展開と因数分解の応用
16	定期試験	

科目名	入門経済学A		
担当者	折原 裕（世話人） Yutaka Orihara (manager)		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

新入生諸君に、経済学の幅の広さと面白さを知ってもらうのが、最大の目標です。「日本・世界経済コース」、「環境・福祉コース」、「公共サービスコース」、「金融・証券コース」という、経済系4コースの違いを知ってもらうことも重要です。

■授業の進め方（履修条件等）

経済系の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい（1年次生のみ）。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（50%）、レポート及びその他の課題（50%）（各コースごとの評価を平均します。）この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。
（具体的には各回の担当者の指示にしたがって下さい。）

■教科書

市販のテキストは用いません。必要に応じてプリント等を配布します。

■参考文献

指定しません。

■授業内容（前期）

	日程	授業項目	授業内容	担当者
1	4/12	ガイダンス	講義の目的・授業の進め方	加茂川
2	4/19	日本・世界 経済コース	世界経済について	牧野
3	4/26		日本経済について	小山
4	5/10		まとめと小テスト	折原
5	5/17		環境経済学はどのような問題を解決するのか	和田
6	5/24	環境・福祉 コース	社会政策はどのような問題を解決するのか（1）	星
7	5/31		社会政策はどのような問題を解決するのか（2）	星
8	6/7	公共サービ スコース	公共サービスコースの概要説明	仁平
9	6/14		公共サービスの元手である税金の話（1）	金子
10	6/21		公共サービスの元手である税金の話（2）	金子
11	6/28		公務員の仕事と公務員制度改革	仁平
12	7/5	金融・証券 コース	金融入門	添田
13	7/12		証券金融	飯野
14	7/19		政府と金融	馬場

科目名	入門経済学（分）B		
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara（世話人）		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

新入生諸君に、経済学の幅の広さと面白さを知ってもらうのが、最大の目標です。「日本・世界経済コース」、「環境・福祉コース」、「公共サービスコース」、「金融・証券コース」という、経済系4コースの違いを知ってもらうことも重要です。

■授業の進め方（履修条件等）

経済系の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい（1年次生のみ）。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（50%）、レポート及びその他の課題（50%）（各コースごとの評価を平均します。）
この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。
（具体的には各回の担当者の指示にしたがって下さい。）

■教科書

市販のテキストは用いません。必要に応じてプリント等を配布します。

■参考文献

指定しません。

■授業内容〔後期〕

回数	日程	授業項目	授業内容	担当者
1	9/27	ガイダンス	講義の目的・授業の進め方	加茂川
2	10/4	日本・世界経済コース	世界経済について	牧野
3	10/11		日本経済について	小山
4	10/18		まとめと小テスト	折原
5	10/25		環境経済学はどのような問題を解決するのか	和田
6	11/1	環境・福祉コース	社会政策はどのような問題を解決するのか（1）	星
7	11/8		社会政策はどのような問題を解決するのか（2）	星
8	11/15	公共サービスコース	公共サービスコースの概要説明	仁平
9	11/22		公共サービスの元手である税金の話（1）	金子
10	11/29		公共サービスの元手である税金の話（2）	金子
11	12/6		公務員の仕事と公務員制度改革	仁平
12	12/13	金融・証券コース	金融入門	添田
13	12/20		証券金融	飯野
14	1/17		政府と金融	馬場

科目名	入門経営学A		
担当者	経営系専任教員 Faculty Members of Management Department		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営系にある「経営・会計」、「ビジネス情報」と「現代産業」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

2008年以前の入学者は履修登録することができません。経営系の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。

■成績評価方法・基準

出席とレポートによって評価します。この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。
復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。

■教科書

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

■授業内容〔後期〕

	日程	授業項目	授業内容	担当者
1	9/27	ガイダンス	本科目の概要と運営方針	青木
2	10/4	ビジネス情報コースの学習内容	情報社会と経営学	森島
3	10/11		情報社会と無料ビジネス	森島
4	10/18	経営・会計コースの学習内容	「経営学」とは、どのような学問？	岸本
5	10/25		会計が社会で果たす役割と会計諸規定の概要	鈴木
6	11/1		決算書（財務諸表）の種類とそのしくみ	鈴木
7	11/8		付加価値ということ	森谷
8	11/15		企業の成果・活動をどう計るか	森谷
9	11/22	現代産業コースの学習内容	会社法上の会社とは	野口
10	11/29		株主はなぜ有限責任なのか	野口
11	12/6	現代産業コースの学習内容	現代産業コースの概要、産業立地論から見たトヨタの特色	青木
12	12/13		産業立地論から見たソニーの特色	青木
13	12/20		「製造業（ものづくり）」とは、どういう産業？	岸本
14	1/17		マーケティングへの招待	畢
15	1/24		レポート	畢

■参考文献

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

科目名	入門経営学B		
担当者	経営系専任教員 Faculty Members of Management Department		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営系にある「経営・会計」、「ビジネス情報」と「現代産業」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

2008年以前の入学者は履修登録することができません。経営系の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。

■成績評価方法・基準

出席とレポートによって評価します。この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。

復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。

■教科書

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

科目名	キャリアプランニング		
担当者	キャリアセンター		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像（ロールモデル）を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

1年生は必修科目です。20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ（ゼミ）で、ワイワイガヤガヤとディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席および提出物の内容、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習・復習：講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。

■教科書

必要に応じて、プリント等を配布いたします。

■参考文献

その都度、紹介します。

■授業内容（前期）

日程	授業項目	授業内容	担当者
1 4/12	ガイダンス	本科目の概要と運営方針	青木
2 4/19	ビジネス情報コースの学習内容	情報社会と経営学	森島
3 4/26		情報社会と無料ビジネス	森島
4 5/10		「経営学」とは、どのような学問？	岸本
5 5/17		会計が社会で果たす役割と会計諸規定の概要	鈴木
6 5/24	経営・会計コースの学習内容	決算書（財務諸表）の種類とそのしくみ	鈴木
7 5/31		付加価値ということ	森谷
8 6/7		企業の成果・活動をどう計るか	森谷
9 6/14		会社法上の会社とは	野口
10 6/21		株主はなぜ有限責任なのか	野口
11 6/28		現代産業コースの概要、産業立地論から見たトヨタの特色	青木
12 7/5	現代産業コースの学習内容	産業立地論から見たソニーの特色	青木
13 7/12		「製造業（ものづくり）」とは、どういう産業？	岸本
14 7/19		マーケティングへの招待	畢
15 7/26		レポート	畢
16	定期試験		

■参考文献

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

■授業内容

	授業内容
1	キャリアとは《全体講義》
2	コミュニケーションの基礎① ～自分を語ろう・相手を知ろう～
3	コミュニケーションの基礎② ～姿勢・動作・表情の基礎を知ろう～
4	コミュニケーションの基礎③ ～話し方の基本・話し方の違いによる違いを知ろう～
5	ゲスト・スピーカー 《全体講義》
6	ビジョンボードを創ろう 《少人数制クラスでのファシリテーション》
7	チバイチバンカ《チ》チームワーク①
8	チバイチバンカ《チ》チームワーク②
9	チバイチバンカ《バ》バイタリティ①
10	チバイチバンカ《バ》バイタリティ②
11	チバイチバンカ《イ》イノベーション
12	チバイチバンカ《チ》知識
13	チバイチバンカ《バ》バランス感覚
14	チバイチバンカ《ン》気づき notice
15	まとめ コンピテンシーモデルの作成

科目名	健康科学A・B		
08年度入学：健康運動科学			
担当者	藤田 明男 <i>Akio Fujita</i>		
対象学年	1年	単位	2単位

- 授業のねらいと到達目標
健康と運動に関する科学的知見に基づき人体に及ぼす運動の効用や健康に生きるための諸要因について考察する。
- 授業の進め方（履修条件等）
可能な限り視聴覚教材を用いて授業を展開していく。
- 成績評価方法・基準
定期試験（50%）・授業内小テスト（10%）・出席（40%）
- 授業の予習・復習
予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。
復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。
- 教科書
なし
- 参考文献
藤田明男他著『健康・体力科学』杏林書院

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業に詳細説明
2 筋肉と骨	運動が筋肉や骨に及ぼす影響
3 筋肉	ウサギがカメに負けた本当の訳
4 骨（1）	骨は万病のもと
5 骨（2）	骨粗鬆症
6 薬物	薬物について
7 酒	飲酒の効用と弊害
8 糖分	糖分の取りすぎに注意
9 体脂肪（1）	体脂肪の恐怖
10 体脂肪（2）	燃える体脂肪と燃えない体脂肪
11 体脂肪（3）	酸素不足は脂肪が燃えない
12 体脂肪（4）	体脂肪の新改善術
13 生活習慣病	太る！疲れる！老ける生活習慣
14 運動不足	運動不足が危ない
15 まとめ	総括
16 定期試験	

科目名	情報基礎 I		
担当者	清水 麻実 <i>Mami Shimizu</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Wordの知識・操作方法を学習します。実社会においてWordを有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。
- 授業の進め方（履修条件等）
基本をしっかりと身につける為Windowsの基本操作やネチケットなど学習します。また、Wordについて学習し、表・図形を含めた基本的な文書作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60%）・出席（40%）出席点の最高は40点です。遅刻や課題を提出しない等、授業態度が思わしくない場合は減点します。
- 授業の予習・復習
予習：普段からタイピング練習をしておいてください。
復習：テキスト・プリント等を見直して復習し、次回授業時にはわからないところがないようにしましょう。
- 教科書
ビジネス文書のためのワード活用法【Ver.2003&2007対応編】創成社（税込¥1,050）
- 参考文献
特になし

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・ログインとログオフ・パスワード変更
2 Windows入門	Windowsの基本操作
3 タイピングソフト/ネチケット	キーボードマスターの使い方・E-Learningによる学習
4 メール入門	メールの送受信・Grace Mailの使用方法
5 インターネット入門	インターネットの基礎知識・IEの概要・基本操作
6 コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について
7 IME入門	文字の入力と編集・単語登録・検索
8 Word入門	Wordの概要・画面構成・設定・文字の編集
9 //	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①
10 //	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入
11 //	組織図・図形・グラフ挿入
12 //	ビジネス文書作成①（社内文書）
13 //	ビジネス文書作成②（社外文書）
14 //	総合問題
15 まとめ	試験対策
16 定期試験	

科目名	情報基礎 I		
担当者	上之藺 和宏 <i>Kazuhiro Uenosono</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Wordの知識・操作方法を学習します。実社会においてWordを有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

基本をしっかり身につける為Windowsの基本操作やネチケットなど学習します。また、Wordについて学習し、表・図形を含めた基本的な文書作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・出席（40%）
出席点の最高は40点です。遅刻や課題を提出しない等、授業態度が恐ろしくない場合は減点します。

■授業の予習・復習

予習：普段からタイピング練習をしておいてください。
復習：テキスト・プリント等を見直して復習し、次回授業時にはわからないところがないようにしましょう。

■教科書

授業時に指示する

■参考文献

特になし

科目名	情報基礎 I		
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている。本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネチケットなどを理解し、Microsoft® Wordを使用した基本的な文書作成を習熟してもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

Windowsの基本操作からネチケットを学習し、Microsoft® Word を使用して、実習を通して文書作成を行う。

■成績評価方法・基準

出席点（40%）と実技テスト（60%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する、またブラインドタッチができるよう練習する。
復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する。

■教科書

FOM出版 Microsoft® Office Word 2007 基礎
978-4-89311-669-7

■参考文献

FOM出版 Microsoft® Office Word 2007 ドリル

■授業内容（前期）

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者の確認・ログインとログオフ・パスワード変更
2	Windows入門	Windowsの基本操作
3	タイピングソフト/ネチケット	キーボードマスターの使い方・E-Learningによる学習
4	メール入門	メールの送受信・Grace Mailの使用方法
5	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IEの概要・基本操作
6	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について
7	IME入門	文字の入力と編集・単語登録・検索
8	Word入門	Wordの概要・画面構成・設定・文字の編集
9	〃	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①
10	〃	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入
11	〃	組織図・図形・グラフ挿入
12	〃	ビジネス文書作成①（社内文書）
13	〃	ビジネス文書作成②（社外文書）
14	〃	総合問題
15	まとめ	試験対策
16	定期試験	

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン、ログオフ、パスワード変更
2	Officeの基礎知識	Windowsの基本操作 コマンドの実行 ファイルの互換性
3	ブラインドタッチ	タイピングソフト
4	メール入門	メールの送受信 GraceMailの使用方法
5	インターネット入門	インターネットの基礎知識 IEの基本操作
6	Wordの基礎知識	Wordの概要 IME2007の設定
7	Word入門	文書の作成
8	〃	表の作成
9	〃	文書の編集
10	〃	表現力をアップする機能1
11	〃	表現力をアップする機能2
12	〃	文例の利用
13	〃	ビジネス文書の基礎知識
14	〃	総合問題1
15	〃	総合問題2
16	定期試験	

科目名	情報基礎Ⅱ		
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社の表計算ソフトExcelは実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつと学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的な操作はテキストを中心にを行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に出席状況を加味します。
遅刻や課題を提出しないなど、授業態度が思わしくない場合は減点します。

■授業の予習・復習

予習：タイピングは各自練習するようにしてください。
復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

実務に必須！ Excel活用法【Ver.2003&2007対応編】 創成社（税込¥1,155）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者確認、ログインとログオフ
2 Windowsの操作・Excelの概要	ファイル削除・フォルダ作成・Excelの概要
3 ネットワークフォルダ・Excelの基本	Publicの参照方法、画面名称・入力・保存
4 Excelの基本	拡張子について・オートフィル機能・行/列の操作
5 //	式の入力と修正・四則演算子・相対参照
6 //	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照
7 //	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト
8 //	シートの操作・シートの保護・オプションの設定
9 //	グラフ作成・グラフの編集・関数②
10 //	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定
11 //	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター
12 //	複合グラフ・Wordへの表の貼り付け
13 //	データベース機能・オブジェクトの作成
14 //	テンプレートの利用・リンク貼り付け
15 まとめ	試験対策
16 定期試験	

科目名	情報基礎Ⅱ		
担当者	上之蘭 和宏 Kazuhiro Uenosono		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社の表計算ソフトExcelは実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつと学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的な操作はテキストを中心にを行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に出席状況を加味します。
遅刻や課題を提出しないなど、授業態度が思わしくない場合は減点します。

■授業の予習・復習

予習：タイピングは各自練習するようにしてください。
復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

授業時に指示する

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者確認、ログインとログオフ
2 Windowsの操作・Excelの概要	ファイル削除・フォルダ作成・Excelの概要
3 ネットワークフォルダ・Excelの基本	Publicの参照方法、画面名称・入力・保存
4 Excelの基本	拡張子について・オートフィル機能・行/列の操作
5 //	式の入力と修正・四則演算子・相対参照
6 //	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照
7 //	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト
8 //	シートの操作・シートの保護・オプションの設定
9 //	グラフ作成・グラフの編集・関数②
10 //	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定
11 //	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター
12 //	複合グラフ・Wordへの表の貼り付け
13 //	データベース機能・オブジェクトの作成
14 //	テンプレートの利用・リンク貼り付け
15 まとめ	試験対策
16 定期試験	

科目名	情報基礎Ⅱ		
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている。本講義では表計算ソフト Microsoft® Excelを使用した基本操作を習熟してもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft® Excelを使用して、実習を通して表計算を行う。

■成績評価方法・基準

出席点（40%）と実技テスト（60%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する

復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習をする

■教科書

FOM出版 Microsoft Office Excel 2007 基礎
978-4-89311-667-3

■参考文献

FOM出版 Microsoft Office Excel 2007 ドリル

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2	Excelの基礎知識	Excelの概要
3	Excel入門	データの入力 編集
4	//	表の作成1
5	//	表の作成2
6	//	数式の入力1
7	//	数式の入力2
8	//	数式の入力3
9	//	複数のシートの操作
10	//	グラフの作成1
11	//	グラフの作成2 印刷設定
12	//	データベースの利用
13	//	Wordとの相互活用
14	//	総合問題1
15	//	総合問題2
16	定期試験	

科目名	情報基礎ⅠR		
08年度入学：情報基礎ⅠR			
担当者	清水 麻実 <i>Mami Shimizu</i>		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社のWordは実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2007の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的な操作はテキストを中心に行います。ビジネス文書やWordの知識についてプリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に出席状況を加味します。

遅刻や課題を提出しないなど、授業態度が思わしくない場合は減点します。

■授業の予習・復習

予習：タイピングは各自練習するようにしてください。

復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

ビジネス文書のためのワード活用法【Ver.2003&2007対応編】
創成社（税込¥1,050）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者確認、タイピング
2	Windowsの操作・ネットワークフォルダ	フォルダ作成・Publicの参照
3	ネチケット・GRACEメール	ネチケット・メールの送受信
4	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IMEの概要
5	Wordの基本	画面名称・入力・保存・拡張子について
6	//	書式設定・ヘッダーとフッター
7	//	表の作成と編集、計算式の挿入
8	//	クリップアート・ワードアートの挿入と編集
9	//	セクション区切り、ページ設定
10	//	組織図・グラフの挿入と編集
11	//	テンプレートの利用、PDFへの変換
12	//	ビジネス文書（社外文書）・地図の作成
13	//	ビジネス文書（社外文書）・印刷レビュー、印刷
14	//	総合問題
15	まとめ	試験対策
16	定期試験	

■参考文献

科目名	情報基礎ⅡR		
08年度入学：情報基礎ⅡR			
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社の表計算ソフトExcelは実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつと学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に出席状況を加味します。遅刻や課題を提出しないなど、授業態度が思わしくない場合は減点します。

■授業の予習・復習

予習：タイピングは各自練習するようにしてください。
 復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

実務に必須！Excel活用法【Ver.2003&2007対応編】 創成社（¥1,155）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション、Windowsの操作	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成
2 ネットワークフォルダ、Excelの概要	Publicの参照方法、Excelの概要
3 Excelの基本	画面名称・入力・保存、拡張子について
4 //	オートフィル機能・行/列の操作・式の入力と修正
5 //	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数
6 //	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定
7 //	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定
8 //	グラフの作成・編集・関数②
9 //	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定
10 //	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター
11 //	複合グラフ・Wordへの表の貼り付け
12 //	データベース機能・オブジェクトの作成
13 //	テンプレートの利用・リンク貼り付け
14 //	総合問題
15 まとめ	試験対策
16 定期試験	

■参考文献

科目名	敬天愛人講座（分）A		
08年度入学：敬天愛人講座A			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

本講座は、本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」に関する12のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい（本学ホームページからのアクセスが可能）。

■授業の予習・復習

12のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について解答する（論文形式）。出席：40%、筆記試験：60%。

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

■参考文献

長戸路信行「野の花」

■授業内容

回数	日程	授業内容	講師	備考
1	4月8日（金）	オリエンテーション	高田洋子	敬愛大学教授、教務部長
2	4月15日（金）	建学の理念	角田叡	横芝敬愛高校校長
3	4月22日（金）	品性と知性	館野受男	敬愛大学名誉教授
4	5月6日（金）	青年期の心・愛	松丸明子	敬愛学園高校カウンセラー
5	5月13日（金）	命の尊厳性（いじめ、自殺、死刑など）Ⅰ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学園長
6	5月20日（金）	命の尊厳性（いじめ、自殺、死刑など）Ⅱ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学園長
7	5月27日（金）	ボランティア（社会貢献・国際貢献）	山本 健	敬愛大学教授
8	6月3日（金）	異文化理解	村川庸子	敬愛大学教授
9	6月10日（金）	環境問題	中村圭三	敬愛大学教授
10	6月17日（金）	格差社会	星 真実	敬愛大学准教授
11	6月24日（金）	循環型社会に向けて	金子林太郎	敬愛大学准教授
12	7月1日（金）	道德教育の可能性	池谷美佐子	敬愛大学准教授
13	7月8日（金）	個性を伸ばす	平野智美	上智大学名誉教授
14	7月15日（金）	敬天愛人の具現化をめざして	土井 修	敬愛大学学長
15	7月22日（金）	総括		

科目名	敬天愛人講座（分）B		
08年度入学：敬天愛人講座B			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

本講座は、本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」に関する12のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい（本学ホームページからのアクセスが可能）。

■授業の予習・復習

12のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について解答する（論文形式）。出席：40%、筆記試験：60%。

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配付する。

■参考文献

長戸路信行「野の花」

科目名	入門経済学実習		
担当者	折原 裕（世話人） Yutaka Orihara (manager)		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

経済学の実習的てほどこきを通じて、新入生諸君に、経済学の実際の学び方のいくつかを習得してもらいます。

■授業の進め方（履修条件等）

「日本・世界経済コース」、「環境・福祉コース」、「公共サービスコース」、「金融・証券コース」という、経済系の4コースごとに、実験・実習、課題作成を行ないます。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（50%）、レポート及びその他の課題（50%）（各コースごとの評価を平均します。）

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。
（具体的には各回の担当者の指示にしたがって下さい。）

■教科書

市販のテキストは用いません。必要に応じてプリント等を配布します。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

回数	日程	授業内容	講師	備考
1	9月30日（金）	オリエンテーション	高田洋子	敬愛大学教授、教務部長
2	10月7日（金）	建学の理念	角田 叡	前・敬愛大学八日市場高校校長
3	10月14日（金）	品性と知性	館野受男	敬愛大学名誉教授
4	10月21日（金）	青年期の心・愛	松丸明子	敬愛学園高校カウンセラー
5	10月28日（金）	命の尊厳性（いじめ、自殺、死刑など）Ⅰ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学園長
6	11月4日（金）	命の尊厳性（いじめ、自殺、死刑など）Ⅱ	長戸路政行	敬愛大学名誉教授、学園長
7	11月11日（金）	ボランティア（社会貢献・国際貢献）	山本 健	敬愛大学教授
休講	11月18日（金）			* 大学祭準備による休講措置
8	11月25日（金）	異文化理解	村川庸子	敬愛大学教授
9	12月2日（金）	環境問題	中村圭三	敬愛大学教授
10	12月9日（金）	格差社会	星 真実	敬愛大学准教授
11	12月16日（金）	循環型社会に向けて	金子林太郎	敬愛大学准教授
12	1月12日（木）	個性を伸ばす	平野智美	上智大学名誉教授
13	1月20日（金）	道德教育の可能性	池谷美佐子	敬愛大学准教授
14	1月27日（金）	敬天愛人の具現化をめざして	土井 修	敬愛大学学長

■授業内容（前期）

	日程	授業項目	授業内容	担当者
1	4/12	ガイダンス	講義の目的・授業の進め方	折原
2	4/19	日本・世界経済コース	配布リストの図書をMCから借り出す	折原
3	4/26		読書感想文を提出、提出できない学生のフォロー	折原
4	5/10		読書感想文の講評、まとめ	小山
5	5/17	環境・福祉コース	負の公共財と囚人のジレンマ、動学的不整合性	和田
6	5/24		排出権取引実験	和田
7	5/31		車椅子を使った介護の基礎	星
8	6/7		ベッドを使った介護の基礎	星
9	6/14	公共サービスコース	市政出前講座に関する事前学習	金子
10	6/21		市政出前講座、質疑応答	金子
11	6/28		レポート作成、講評（テストを兼ねる）	仁平
12	7/5	金融・証券コース	金融・証券の時事解説、課題提示	添田
13	7/12		課題レポート作成	馬場
14	7/19		課題回収、PCを活用した演習	飯野

科目名	入門経営学実習		
担当者	経営系専任教員 Faculty Members of Management Department		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

新入生の皆さんに、経営学に関する様々なテーマについて自分で調べたり、考えたり、視察をしたり、レポートを作成したりする機会を提供します。経営学に関する大学生らしい主体的かつ実践的な学びのきっかけを得ることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

2008年以前の入学者は履修登録することができません。本科目はWeb履修登録の対象外です。履修人数を最大20名に制限します。履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して下さい。経営系の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に課題を提示します。皆さんにはそれに取り組んでもらいます。

■成績評価方法・基準

出席とレポート（100%）

出席は重要です。出席、課題の提出状況と内容に基づき評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内容についてインターネット等で検索し、どんな実習が行われるのか、大まかなイメージを持って下さい。
復習：興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。

■教科書

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

科目名	英語 I - EX		
担当者	武井 みち子 Michiko Takei		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語でコミュニケーション出来るように、英語総合力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

文法事項の定着を図り、読解力、聴力、作文力を伸ばします。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業への積極的参加度（30%）・出席（20%）
2/3以上の出席が必要です。

■授業の予習・復習

予習：わからない単語を調べて授業に出席して下さい。
復習：文法事項の確認。

■教科書

『Access To Simple English』成美堂

■参考文献

特に指定しません。

■授業内容（後期）

	日程	授業項目	授業内容	担当者	
1	9/27	ガイダンス	本科目の概要と運営方針	畢	
2	10/4	経営・会計 コースの実習	実例により財務諸表の構造と見方を学ぶ	鈴木	
3	10/11		実例により財務諸表から会社の現状を知る	鈴木	
4	10/18		売上高、利益、効率性	森谷	
5	10/25		資金調達と設備投資	森谷	
6	11/1		会社の政治献金	野口	
7	11/8		取締役の善管注意義務と忠実義務	野口	
8	11/15		経営学の調査手法の紹介①「ケーススタディー」	岸本	
9	11/22		経営学の調査手法の紹介②「データ分析」	岸本	
10	11/29		ビジネス情報	シミュレーションを体験しよう	森島
11	12/6		コースの実習		
12	12/13	工業立地とは何か	青木		
13	12/20	現代産業コースの実習	工業立地の比較（千葉と神奈川）		
14	1/17		日本の流通業	畢	
16	1/24		商店街とまちづくり	畢	

■参考文献

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	プリント教材	発音とアクセント
2	プリント教材	英語の基本文型
3	Chapter 1	基本3時制
4	Chapter 2	進行形
5	Chapter 3	完了形
6	Chapter 4	受動態
7	Chapter 4	//
8	Chapter 5	使役
9	Chapter 6	5文型
10	Chapter 7	文の種類
11	Chapter 8	不定詞
12	Chapter 9	動名詞
13	Chapter10	分詞
14	Chapter10	//
15	総復習	
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－EX		
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
英語でコミュニケーション出来るように、英語総合力の向上を目指します。
- 授業の進め方（履修条件等）
文法事項の定着を図り、読解力、聴力、作文力を伸ばします。
- 成績評価方法・基準
定期試験（50%）・授業への積極的参加度（30%）・出席（20%）
2/3以上の出席が必要です。
- 授業の予習・復習
予習：わからない単語を調べて授業に出席して下さい。
復習：文法事項の確認。
- 教科書
『Access To Simple English』成美堂
- 参考文献
特に指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Chapter11	句と節
2	Chapter12	前置詞
3	Chapter13	接続詞
4	Chapter14	話法
5	Chapter15	関係代名詞
6	Chapter16	関係副詞
7	Chapter17	助動詞
8	Chapter18	仮定法
9	//	//
10	Chapter19	冠詞と名詞
11	Chapter20	代名詞
12	Chapter21	形容詞と
13	Chapter22	比較
14	Chapter23	否定
15	Chapter24	特殊構文
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－1		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4		
5	Lesson 2	//
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12		
13	Lesson 6	//
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－1		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4		
5	Lesson 2	//
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12	Lesson 6	//
13		
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－2		
担当者	内野 泰子 <i>Yasuko Uchino</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
国際コミュニケーションの手段としての英語力を高めるとともに米国の生活文化についても学習します。
- 授業の進め方（履修条件等）
大学生TakeshiがN.Y.を旅するというストーリーを通じて日常会話に必要なスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能の向上をはかります。N.Y.や米国の生活文化に関する映像教材も使用します。
- 成績評価方法・基準
平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。
- 授業の予習・復習
予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。
- 教科書
Let's go abroad! (H. Nishikage等著、センゲージ・ラーニング)
- 参考文献
授業内で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	前期の導入	英語コミュニケーションの重要性について考えましょう。
2	英語で自己紹介	各自英語で自己紹介しましょう。
3	教科書 Unit 1	N.Y.に向う機内でのコミュニケーション①
4	教科書 Unit 1	N.Y.に向う機内でのコミュニケーション②
5	教科書 Unit 2	N.Y.の空港でのコミュニケーション①
6	教科書 Unit 2	N.Y.の空港でのコミュニケーション②
7	教科書 Unit 3	N.Y.の空港でのコミュニケーション③
8	教科書 Unit 3	N.Y.の空港でのコミュニケーション④
9	教科書 Unit 4	N.Y.観光でのコミュニケーション①
10	教科書 Unit 4	N.Y.観光でのコミュニケーション②
11	教科書 Unit 5	N.Y.観光でのコミュニケーション③
12	教科書 Unit 5	N.Y.観光でのコミュニケーション④
13	応用とまとめ	応用とまとめ①
14	応用とまとめ	応用とまとめ②
15	応用とまとめ	応用とまとめ③
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ-2		
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino		
対象学年	1年	単 位	1単位

■授業のねらいと到達目標

国際コミュニケーションの手段としての英語力を高めるとともに米国の生活文化についても学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

大学生TakeshiがN.Y.を旅するというストーリーを通じて日常会話に必要なスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能の向上をはかります。N.Y.や米国の生活文化に関する映像教材も使用します。

■成績評価方法・基準

平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。

■教科書

Let's go abroad! (H. Nishikage等著、センゲージ・ラーニング)

■参考文献

授業内で指示します。

科目名	英語Ⅰ-3		
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono		
対象学年	1年	単 位	1単位

■授業のねらいと到達目標

作文が苦手という学生が多い。会社に入ってからすぐに戦力となれるよう、実社会でよく使われる手紙文の書き方の演習を進める。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の語順をしっかりと教え、一人一人を丁寧にしながら指導していく。小テストを随時行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%） 小テスト（10%） 授業参加度（20%）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は欠席1回とみなす。

■授業の予習・復習

予習：次週にやる問題の予習を必ずすること。
復習：当然のことながら、その日のうちに復習を必ずすること。

■教科書

「やさしい英文手紙の書き方」 鳳書房

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	前期の復習・後期の導入	前定期末テストの返却、解説 等
2	夏休みについて	各自の夏休みについて英語で話しましょう。
3	教科書 Unit 6	レストランでのコミュニケーション①
4	教科書 Unit 6	レストランでのコミュニケーション②
5	教科書 Unit 8	ドラッグストアでのコミュニケーション①
6	教科書 Unit 8	ドラッグストアでのコミュニケーション②
7	教科書 Unit 9	買い物でのコミュニケーション①
8	教科書 Unit 9	買い物でのコミュニケーション②
9	教科書 Unit10	スポーツ観戦でのコミュニケーション①
10	教科書 Unit10	スポーツ観戦でのコミュニケーション②
11	教科書 Unit12	ホテルでのコミュニケーション①
12	教科書 Unit12	ホテルでのコミュニケーション②
13	応用とまとめ	応用とまとめ①
14	応用とまとめ	応用とまとめ②
15	応用とまとめ	応用とまとめ③
16	定期試験	

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	1課	手紙文の基礎知識
2		同上
3	2課	お世話になった方へのお礼状
4		同上
5	3課	留学
6		同上
7	4課	ホテルの予約
8		同上
9	5課	昇進のお祝い状
10		同上
11	6課	お礼状
12		同上
13	7課	クレーム
14		同上
15		総復習
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－3		
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

作文が苦手という学生が多い。会社に入ってからすぐ戦力となれるよう、実社会でよく使われる手紙文の書き方の演習を進める。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の語順をしっかりと教え、一人一人を丁寧にしながら指導していく。小テストを随時行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）小テスト（10%）授業参加度（20%）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は欠席1回とみなす。

■授業の予習・復習

予習：次週にやる問題の予習を必ずすること。
復習：当然のことながら、その日のうちに復習を必ずすること。

■教科書

「やさしい英文手紙の書き方」 鳳書房

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

授業項目		授業内容
1	8課	退任する方へ
2		同上
3	9課	個人輸入
4		同上
5	10課	取引の申し込み・引き合い
6		同上
7	11課	オファー・注文
8		同上
9	12課	正式ディナーへの招待状
10		同上
11	13課	信用状
12		同上
13	14課	出張のスケジュール
14	15課	履歴書
15		総復習
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－4		
担当者	松中 完二 Kanji Matsunaka		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業で教上で話します。

■成績評価方法・基準

初回の授業で教上で話します。

■授業の予習・復習

予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。

■教科書

教上で指示します。

■参考文献

教上で指示します。

■授業内容

授業項目		授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4	Lesson 2	//
5		
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12	Lesson 6	//
13		
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－4		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	1年	単 位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方法等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4		
5	Lesson 2	//
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12	Lesson 6	//
13		
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－5		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	1年	単 位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
英語の基本事項を学習しつつ、それに関連する和訳と作文をしっかりと身につけていく。
- 授業の進め方（履修条件等）
各Unit 4 ページをしっかりと予習してることが前提条件で、reading repeat、文法の説明は教師が行い、各問題は学生に当てて進めていく。テキストにきちんと書きこんだ後、教師のチェックがある。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60%）、Short Test（10%）、出席日数（20%）、ノート点（10%）
- 授業の予習・復習
予習：各Unit文法事項の問題を解いてくる。未知の単語の意味を調べておく。
復習：学習した重要事項をreadingし暗記する。
- 教科書
Simply Grammar 南雲堂
- 参考文献
'Putting Common Verbs to work for you'（朝日出版社）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方とノートのとり方、予習復習の方法
2	Unit 1	be動詞
3	Unit 2	一般動詞
4	Unit 3	未来形
5	//	//
6	Unit 4	助動詞
7	//	//
8	Unit 5	冠詞
9	//	//
10	Unit 6	代名詞
11	//	//
12	Unit 7	前置詞
13	//	//
14	Unit 8	接続詞
15	// まとめ	学習事項の整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－5		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英文法の中核となる事項の学習とさらなる発展学習の和訳と英作文の学習で英語の基本事項を十分身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

英文法の説明は教師が行い、reading repeat、和訳と英作文の問題解答は学生が行い、その解釈説明は教師が行う。授業後半にノートチェックがある。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、出席日数（20%）、Short Test（10%）、ノート点（10%）

■授業の予習・復習

予習：各Unitの未知の英単語を調べ、和訳・英作文の問題を解答しておく。

復習：各Unit重要事項の理解と暗記。

■教科書

Simply Grammar

■参考文献

大学生の英文法

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 9	比較
2	//	//
3	10	進行形
4	//	//
5	11	不定詞
6	//	//
7	12	動名詞
8	//	//
9	13	受動態
10	//	//
11	14	現在完了
12	//	//
13	15	関係詞
14	//	//
15	まとめ	各文法事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－6		
担当者	小野 ゆき子 <i>Yukiko Ono</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語の長文を速く、正確に読み、理解できるよう指導していく。

■授業の進め方（履修条件等）

大切な構文や熟語に線を引いてもらい、「読む」、「書く」の二点に重きを置いて指導していく。

■成績評価方法・基準

定期テスト（60%） 授業参加度（40%）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は欠席1回とみなす。

■授業の予習・復習

予習：必ず、単語を引いて授業に臨むこと。

復習：必ず復習し、わからない箇所は、次週の授業中に質問すること。

■教科書

World Today 鳳書房

■参考文献

授業中に指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1		Famine
2	Chapter 2	同上
3		同上
4		Animals in Danger
5	Chapter 3	同上
6		同上
7		Holocaust
8	Chapter 5	同上
9		同上
10		Space Exploration
11	Chapter 9	同上
12		同上
13	Chapter10	Information Explosion
14		総復習
15		総復習
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－6		
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono		
対象学年	1年	単 位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
英語の長文を速く、正確に読み、理解できるよう指導していく。
- 授業の進め方（履修条件等）
大切な構文や熟語に線を引いてもらい、「読む」、「書く」の二点に重きを置いて指導していく。
- 成績評価方法・基準
定期テスト（60％） 授業参加度（40％）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。
- 授業の予習・復習
予習：必ず、単語を引いて授業に臨むこと
復習：必ず復習し、わからない箇所は、次週の授業中に質問すること。
- 教科書
World Today 鳳書房
- 参考文献
授業中に指示する。

■授業内容

授業項目		授業内容
1		Biotechnology
2	Chapter 11	同上
3		同上
4		Robots
5	Chapter12	同上
6		同上
7		Men and Women and Manners
8	Chapter13	同上
9		同上
10		Diets
11	Chapter14	同上
12		同上
13		Thanksgiving Dinner
14	Chapter15	同上
15		同上
16	定期試験	

科目名	英語Ⅰ－P		
担当者	伊東 隆子 Takako Ito		
対象学年	1年	単 位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
英文法の基本を学習し、それから派生する和訳と英作文へと学習を発展させていく。
- 授業の進め方（履修条件等）
文法事項の説明は教師が行い、reading repeat、和訳と英作文は学生自身にやってもらうので未知の単語の意味を調べておくこと、テキストに書き込みと解答は授業後半に教師がチェックする。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60％）、出席日数（20％）、ノート点（20％）
- 授業の予習・復習
予習：各Unitの未知の英単語を調べてくる。
復習：授業中の重要事項の暗記。
- 教科書
Simply Grammar 南雲堂
- 参考文献
大学生の英文法

■授業内容

授業項目		授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ノートのとり方、予習・復習の方法
2	Unit 1	be動詞
3	//	//
4	2	一般動詞
5	//	//
6	3	未来形
7	//	//
8	4	助動詞
9	//	//
10	5	冠詞
11	//	//
12	6	代名詞
13	//	//
14	7	前置詞
15	まとめ	学習事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅱ－P		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英文法の中核となる事項を十分に理解し、問題解答しながら各英文法事項の十分な習得をする。

■授業の進め方（履修条件等）

文法事項説明、reading repeat、和訳と英作文は学生が解答する。授業後半にノートチェックを教師が行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、出席日数（20%）、ノート点（20%）

■授業の予習・復習

予習：各Unitの未知の英単語を調べてくる。

復習：授業中の重要事項の暗記。

■教科書

Simply Grammer 南雲堂

■参考文献

“Puffy Common Verbs to work for you”（朝日出版社）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 8	接続詞
2	//	//
3	9	比較
4	//	//
5	10	進行形
6	//	//
7	11	不定詞
8	//	//
9	12	動名詞
10	//	//
11	13	受動態
12	//	//
13	14	現在完了形
14	//	//
15	まとめ	学習した事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語ⅠR (a)・ⅡR (a)		
08年度入学：英語ⅠR			
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	2～4年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業で教上で話します。

■成績評価方法・基準

初回の授業で教上で話します。

■授業の予習・復習

予習：初回の授業で教上で話します。

復習：初回の授業で教上で話します。

■教科書

教上で指示します。

■参考文献

教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4	Lesson 2	//
5		
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12		
13	Lesson 6	//
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語 I R (b)・II R (b)		
08年度入学：英語 I R			
担当者	田 文揚 <i>Fumiaki Den</i>		
対象学年	2～4年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

これまでの英語学習の中で見落とししたり、理解が不十分な英語力について学力を補充し、より高次の英語力の涵養へと導く。

■授業の進め方（履修条件等）

主にテキストを用い、各テーマやトピックスごとに設問に答えることを通して、ListeningやReadingの力を付けさせる。適宜投げ込み教材や今日的な話題を取り入れ多くの表現に慣れさせる。

■成績評価方法・基準

定期考査（60％）・授業内小テスト（10％）・出席（20％）・レポートおよび課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各チャプターの未知の単語や熟語を調べ、文法について復習しておく。
復習：既習事項をCD等を用いて反芻する。

■教科書

『First Things First』 Essential English Elements for College Students マクミラン ランゲージハウス

■参考文献

特になし

科目名	英語Ⅲ－1		
担当者	小野 ゆき子 <i>Yukiko Ono</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語を理解する上で大切な文法を完全なものにし、さらに、TOEICなどの資格検定試験で高得点が取れるよう長文読解の指導もおこなう。

■授業の進め方（履修条件等）

数多くの問題を解く。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％） 授業への参加度（30％）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■授業の予習・復習

予習：文法問題に関しては、必ず予習をしてくること。
復習：読解に関しては、授業中に解いた問題文の中で知らない単語があれば調べ、復習すること。

■教科書

『速習！基礎から身につく英文法』英潮社フェニックス

■参考文献

授業中に指示する。

■授業内容
〔前期〕

授業項目	授業内容
1 前期講義のガイダンス・ミニテスト	講義予告と受講要領説明・弱点チェックテスト
2 テスト返却・英語学習について	テストの解説と課題確認・弱点補強の方法
3 Tasty My Blog (小テスト)	語と文に関する要素と構造の理解・品詞の区別
4 Yuck That's Gross	名詞、動詞、形容詞の役割と用法
5 The World's Most Dangerous Car	品詞による修飾と文の組み立ての実際
6 A Wind up Computer (小テスト)	句による修飾と文の組み立ての実際
7 Offside Ref!	分詞による修飾と文も組み立ての実際
8 An Alaskan Story	従属接続詞、相関接続詞の用法
9 King Kong (小テスト)	前置詞、副詞の役割と用法の実際
10 Curious Cooking	不定詞、動名詞の役割と用法の実際
11 Move Over Barbie	助動詞、関係詞の役割と用法の実際
12 Soccer in America (小テスト)	英文の中の時制のとらえ方と用法の実際
13 Reality TV (復習テスト)	否定表現の構造と用法の実際
14 Short Stories	簡単なストーリーを読む。
15 Consolidation	前期の学習をまとめる。
16 定期試験	

■授業内容
〔後期〕

授業項目	授業内容
1 後期講義のガイダンス・課題テスト	講義予告と休業中のアサインメントに関するテスト
2 Check It Out	単文、重文、複文の区別と表現について
3 Office Conversation (小テスト)	話法、代名詞の用法の実際
4 Newspaper and the Media	無生物主語、名詞構文の用法の実際
5 Gender Issues (小テスト)	強調、倒置表現と用法の実際
6 Banking and Shopping	疑問詞の種類と用法の実際
7 The Transportation (小テスト)	知覚動詞と使役動詞の用法の実際
8 Finding place to Live	省略、倒置、同格の表現と用法の実際
9 Hospitals and Medicine	仮定法の表現と用法の実際
10 Children's Issues (小テスト)	品詞、時制、代名詞を意識してストーリーを読む
11 Merry Christmas	展開の仕方を追いファニーストーリーを読む
12 (A Current Topics)	情報を正しくとらえニュースを読む
13 Lateral Thinking	メインアイデアを探し、論説文を読む
14 Proverb・Abbreviation	プラスアルファの力を付ける。
15 Consolidation	後期及び1年の学習をまとめる。
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1	文型と動詞
2 Unit 1	同上
3	同上
4	助動詞
5 Unit 2	同上
6	同上
7	比較
8 Unit 3	同上
9	同上
10	関係詞
11	同上
12 Unit 4	同上
13	同上
14	総復習
15	総復習
16 定期試験	

科目名	英語Ⅳ－1		
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語を理解する上で大切な文法を完全なものにし、さらにTOEICなどの資格検定試験で高得点が取れるよう長文読解の指導も行う。

■授業の進め方（履修条件等）

数多くの問題を解く。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%） 授業への参加度（30%）
3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■授業の予習・復習

予習：文法問題に関しては、必ず予習をしてくること。
復習：読解に関しては、授業中に解いた問題文の中で知らない単語があれば調べ、復習すること。

■教科書

「速習！ 基礎から身につく英文法」 英潮社フェニックス

■参考文献

授業中に指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	不定詞
2	Unit 5
3	同上
4	同上
5	Unit 6
6	同上
7	受動態・能動態
8	Unit 7
9	同上
10	仮定法
11	Unit 8
12	同上
13	総復習
14	総復習
15	総復習
16	定期試験

科目名	英語Ⅲ－2		
担当者	松中 完二 Kanji Matsunaka		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業で教上で話します。

■成績評価方法・基準

初回の授業で教上で話します。

■授業の予習・復習

予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。

■教科書

教上で指示します。

■参考文献

教上で指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	はじめに
2	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
3	Lesson 1
4	Lesson 2
5	Lesson 3
6	Lesson 4
7	Lesson 5
8	Lesson 6
9	Lesson 6
10	Lesson 6
11	Lesson 6
12	Lesson 6
13	Lesson 6
14	Lesson 6
15	まとめ、試験の対策など
16	定期試験

科目名	英語Ⅳ－２		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	２年	単位	１単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価の方法等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		
4	Lesson 2	//
5		
6	Lesson 3	//
7		
8	Lesson 4	//
9		
10	Lesson 5	//
11		
12	Lesson 6	//
13		
14		
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅲ－３		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	２年	単位	１単位

- 授業のねらいと到達目標
英語の基礎力を強化しつつ、分かりやすくTOEICの学習を促す。学習した内容の繰り返し練習とさらなる発展問題を身につけていく。
- 授業の進め方（履修条件等）
問題解答は学生が行い、文法説明は教師が行う。重要事項は暗記し、時々テストを行う。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60%）、出席日数（20%）、ノート点（20%）
- 授業の予習・復習
予習：問題を解答し、その際未知の英単語の意味を調べておく。
復習：各Unitの重要事項の暗記。
- 教科書
The Next Stage to the TOEIC Test -Basic-（金星堂）
- 参考文献
『大学生の英文法』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ノートのとり方
2	Unit 1	文の構成要素（旅行・出張）Part I-IV
3	//	// Part V-VII
4	2	8品詞（電話応対）Part I-IV
5	//	// Part V-VII
6	3	5文型（銀行・金融）Part I-IV
7	//	// Part V-VII
8	4	自動詞と他動詞（看板・標識）Part I-IV
9	//	// Part V-VII
10	5	名詞（健康・病気）Part I-IV
11	//	// Part V-VII
12	6	代名詞（料理・レストラン）Part I-IV
13	//	// Part V-VII
14	7	形容詞（天気）Part I-IV
15	//	// Part V-VII
16	定期試験	

科目名	英語Ⅳ－3		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

TOEIC学習のさらなる発展の問題解答を経て、十分な英語学習の理解を深めていく。

■授業の進め方（履修条件等）

学生が行う問題解答に文法・文章解釈を教師がつけていく。重要事項の暗記のテストやreading repeatを行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、出席日数（20%）、ノート点（20%）

■授業の予習・復習

予習：未知の英単語を調べておく。

復習：重要事項の暗記。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test -Basic-（金星堂）

■参考文献

『Putting Common Verbs to work for you』（朝日出版社）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 8	副詞（コンピュータ）Part I -IV
2	〃	〃 PartV-VII
3	9	前置詞①（道案内・交通）Part I -IV
4	〃	〃 PartV-VII
5	10	前置詞②（広告）Part I -IV
6	〃	〃 PartV-VII
7	11	冠詞（交渉・取引）Part I -IV
8	〃	〃 PartV-VII
9	12	助動詞①（組織・人事）Part I -IV
10	〃	〃 PartV-VII
11	13	助動詞②（オフィスワーク）Part I -IV
12	〃	〃 PartV-VII
13	14	接続詞（政治・社会）Part I -IV
14	〃	〃 PartV-VII
15	まとめ	学習事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅲ－4		
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

様々なテーマに関する英文を効率的に読む英語力を養うとともに、英語を聴く力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、授業への積極的参加度（30%）、出席（20%）2/3以上の出席が必要です。

■授業の予習・復習

予習：わからない単語を調べて授業にのぞんで下さい。

復習：文法の確認。

■教科書

『Power Up English <Basic>』南雲堂

■参考文献

特に指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	発音	発音とアクセントの学習
2	英語の基本文型	英語の語順の学習
3	Unit 1	Personal Correspondence（1）
4	Unit 2	〃（2）
5	Unit 3	Biography（1）
6	Unit 4	〃（2）
7	Unit 5	Events & Festivals
8	Unit 1～5の復習	
9	Unit 6	Directions & Locations（1）
10	Unit 7	〃（2）
11	Unit 8	〃（3）
12	Unit 9	Occupations（1）
13	Unit10	〃（2）
14	Unit 6～の復習	
15	模擬試験	
16	定期試験	

科目名	英語Ⅳ－４		
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>		
対象学年	２年	単位	１単位

■授業のねらいと到達目標

様々なテーマに関する英文を効率的に読む英語力を養うとともに、英語を聴く力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、授業への積極的参加度（30%）、出席（20%）2/3以上の出席が必要です。

■授業の予習・復習

予習：わからない単語を調べて授業にのぞんで下さい。
復習：文法の確認。

■教科書

『Power Up English <Basic>』南雲堂

■参考文献

特に指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit11	Instructions
2	Unit12	Health & physical Conditions
3	Unit13	Service Requests
4	Unit14	Special Orders
5	Unit15	Money
6	Unit11～15の復習	
7	Unit16	Public signs
8	Unit17	Sports
9	Unit16～17の復習	
10	Unit18	History
11	//	//
12	Unit19	Sightseeing
13	Unit20	Science
14	仮定法	仮定法の学習
15	模擬試験	
16	定期試験	

科目名	英語Ⅲ－５		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	２年	単位	１単位

■授業のねらいと到達目標

英語の基礎力を強化し、TOEICの学習の促進を計る。学習内容の繰り返し練習と発展問題解答でTOEIC問題の学習の定着を計る。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に問題解答は学生が行い、文法事項説明は教師が行う。重要事項暗記し、授業後半にノートをチェックする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、出席日数（20%）、ノート点（20%）

■授業の予習・復習

予習：各Unitの問題を解答し、その際未知の英単語は調べておく。
復習：重要事項の暗記。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test -Basic-（金星堂）

■参考文献

『大学生の英文法』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ノートのとり方
2	Unit 1	文の構成要素（旅行・出張）Part I-IV
3	//	// PartV-VII
4	2	8品詞（電話応対）Part I-IV
5	//	// PartV-VII
6	3	5文型（銀行・金融）Part I-IV
7	//	// PartV-VII
8	4	自動詞と他動詞（看板・標識）Part I-IV
9	//	// PartV-VII
10	5	名詞（健康・病気）Part I-IV
11	//	// PartV-VII
12	6	代名詞（料理・レストラン）Part I-IV
13	//	// PartV-VII
14	7	形容詞（天気）Part I-IV
15	まとめ	学習事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅳ－5		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
TOEIC学習のさらなる発展問題を解きながら、英語の基礎をしっかりと身につけていく。
- 授業の進め方（履修条件等）
問題解答は学生が行い、文法・文章解釈を教師が行う。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60%）、出席日数（20%）、ノート点（20%）
- 授業の予習・復習
予習：未知の英単語の意味を調べておく
復習：重要事項の暗記
- 教科書
The Next Stage to the TOEIC Test -Basic-（金星堂）
- 参考文献
『Putting Common Verbs to work for you』（朝日出版社）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 8	副詞（コンピュータ）Part I -IV
2	//	// PartV-VII
3	9	前置詞①（道案内・交通）Part I -IV
4	//	// PartV-VII
5	10	前置詞②（広告）Part I -IV
6	//	// PartV-VII
7	11	冠詞（交渉・取引）Part I -IV
8	//	// PartV-VII
9	12	助動詞①（組織・人事）Part I -IV
10	//	// PartV-VII
11	13	助動詞②（オフィスワーク）Part I -IV
12	//	// PartV-VII
13	14	接続詞（政治・社会）Part I -IV
14	//	// PartV-VII
15	まとめ	学習事項の総整理
16	定期試験	

科目名	英語Ⅲ－6		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		//
4	Lesson 2	//
5		//
6	Lesson 3	//
7		//
8	Lesson 4	//
9		//
10	Lesson 5	//
11		//
12		//
13	Lesson 6	//
14		//
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語Ⅳ－6		
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		//
4	Lesson 2	//
5		//
6	Lesson 3	//
7		//
8	Lesson 4	//
9		//
10	Lesson 5	//
11		//
12		//
13	Lesson 6	//
14		//
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語ⅢR (a)・ⅣR (a)		
08年度入学：英語ⅡR			
担当者	松中 完二 <i>Kanji Matsunaka</i>		
対象学年	3～4年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
日英語の発想と表現の相違について学び、有効なコミュニケーションのあり方を探ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
初回の授業で教上で話します。
- 成績評価方法・基準
初回の授業で教上で話します。
- 授業の予習・復習
予習：初回の授業で教上で話します。
復習：初回の授業で教上で話します。
- 教科書
教上で指示します。
- 参考文献
教上で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	あいさつ、授業の進め方、評価方等の説明。
2	Lesson 1	教科書にそって、1課ずつ進みます。
3		//
4	Lesson 2	//
5		//
6	Lesson 3	//
7		//
8	Lesson 4	//
9		//
10	Lesson 5	//
11		//
12		//
13	Lesson 6	//
14		//
15	まとめ、試験の対策など	授業のまとめと試験に向けての対策。
16	定期試験	

科目名	英語ⅢR (b)・ⅣR (b)		
08年度入学：英語ⅡR			
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>		
対象学年	3～4年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
文法の理解に重点をおき、英語の基礎力を修得します。
- 授業の進め方（履修条件等）
多数の練習問題に取り組み、英文を読んだり書いたりする力がつくよう指導します。
- 成績評価方法・基準
定期試験（50%）、授業への参加度及び出席（50%）
2／3以上の出席が必要です。
- 授業の予習・復習
その日学習したことを必ず復習して下さい。
- 教科書
『Second Steps to English Grammar』南雲堂
- 参考文献
特に指定しません。

科目名	フランス語Ⅰ－A		
08年度入学：フランス語Ⅰ			
担当者	寺尾 いづみ <i>Izumi Terao</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
自然な会話を通して、フランス語の最初歩の文法を学ぶ。フランス語特有の文法用語や、発音・つづりに慣れ、自己紹介や好きなものについて話すことができるようにする。
- 授業の進め方（履修条件等）
教科書の会話文・例文の音読や、簡単なやりとりの繰り返しにより、文法の体得を目指す。毎回小テストを行い、学習内容の定着度を確認する。話す訓練が中心となるので、学生の積極的な参加が不可欠である。
- 成績評価方法・基準
授業内小テスト（20%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（60%）の合計点で評価する。
- 授業の予習・復習
予習：教科書のCDを聞きながら、会話文・例文の意味の見当をつけ、わからない単語を辞書で調べる。
復習：教科書のCDを聞きながら、会話文・例文を音読する。
- 教科書
『ヌーヴォー・ユピー！』黒田恵梨子、小溝佳代子、平山弓月著
朝日出版社、2010年発行
- 参考文献
仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容 【前期】

	授業項目	授業内容
1	Unit 1	第1～3文型
2	Unit 2	第4・5文型
3	Unit 4	現在完了
4	Unit 5	過去完了
5	Unit 7	助動詞（1）
6	Unit 8	助動詞（2）
7	Unit 9	受動態（1）
8	Unit 10	受動態（2）
9	Unit 11	受動態（3）
10	Unit 12	不定詞（1）
11	Unit 13	不定詞（2）
12	Unit 14	分詞
13	Unit 15	分詞構文
14	Unit 16	動名詞
15	Unit 17	比較～原級
16	定期試験	

【後期】

	授業項目	授業内容
1	Unit 18	比較級（1）
2	Unit 19	比較級（2）
3	Unit 20	最上級
4	Unit 21	関係代名詞（1）
5	Unit 22	関係代名詞（2）
6	Unit 23	関係副詞
7	Unit 24	仮定法
8	Unit 25	話法
9	Unit 26	複文構造
10	Unit 27	様々な副詞節
11	Unit 28	否定表現
12	Unit 29	名詞
13	Unit 30	代名詞
14	Unit 31	冠詞
15	Unit 32	形容詞
16	定期試験	

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	0課	アルファベ、つづりと発音、あいさつ
2	1課：受付にて	男性名詞と女性名詞、単数と複数
3	//	不定冠詞、定冠詞
4	//	名詞の性と数、数字（1～10）
5	//	提示表現、数字（11～20）
6	2課：廊下で	不規則動詞être、国籍・職業の言い方
7	//	不規則動詞avoir、年令の言い方
8	//	否定文
9	//	部分冠詞
10	//	自己紹介の表現
11	3課：キッチンで	形容詞Ⅰ：性数の変化と語順
12	//	形容詞Ⅱ：特殊な女性形・複数形
13	//	第1群規則動詞
14	//	感情を表わす表現
15	まとめ	1～3課の復習
16	定期試験	

科目名	フランス語Ⅱ－A		
担当者	寺尾 いづみ Izumi Terao		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

前期と同様、日常生活に必要な表現を通して、基礎的な文法を学ぶ。聞く・話す・読む・書く能力を、バランスよく身につけることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期と同じだが、書く練習を増やし、正しいつづりを覚えるようにする。前期にフランス語ⅠAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（20%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（60%）の合計点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書のCDを聞きながら、会話文・例文の意味の見当をつけ、わからない単語を辞書で調べる。

復習：教科書のCDを聞きながら、会話文・例文を音読する。

■教科書

『ヌーヴォー・ユピー！』黒田恵梨子、小溝佳代子、平山弓月著
朝日出版社、2010年発行

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4課：誘いの電話	疑問文
2	//	否定のde
3	//	否定疑問文
4	//	第2群規則動詞
5	//	不規則動詞Ⅰ：faire, prendre
6	5課：バス停へ	命令法
7	//	不規則動詞Ⅱ：aller, venir
8	//	近接未来・近接過去
9	//	道順をたずねる・教える表現
10	6課：店の前で	指示形容詞
11	//	疑問形容詞
12	//	不規則動詞Ⅲ：devoir, pouvoir, vouloir
13	//	所有形容詞
14	//	非人称の表現
15	まとめ	4～6課の復習
16	定期試験	

科目名	フランス語Ⅰ－B		
08年度入学：フランス語Ⅰ			
担当者	白川 理恵 Rie Shirakawa		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、初歩のフランス語文法を学び、基本会話に必要な語彙と基礎知識を習得することを目指す。日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。

復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『パスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（1年次で前半を使用）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	あいさつをする
2	Leçon 0	いろいろなものの名前を発音する
3	Leçon 1	国籍を言う（動詞être）
4	Leçon 1	国籍を言う（国籍を表す名詞）
5	Leçon 2	名前を言う（Je m'appelle...）
6	Leçon 2	職業を言う（職業を表す名詞）
7	Leçon 2	職業を言う（形容詞の性・数）
8	発音と綴り字のまとめ	フランス語の発音と綴り字の読み方
9	Leçon 3	これは～です（指示代名詞）
10	Leçon 3	これは～です（不定冠詞）
11	Leçon 3	～を持っています（動詞avoir）
12	Leçon 4	趣味を語る（定冠詞）
13	Leçon 4	趣味を語る（疑問文）
14	Leçon 4	趣味を語る（疑問形容詞）
15	Exercices 1	Leçon 1～4のまとめ、Civilisation フランスの文化
16	定期試験	

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

科目名	フランス語Ⅱ－B		
担当者	白川 理恵 Rie Shirakawa		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、初歩のフランス語文法を学び、基本会話に必要な語彙と基礎知識を習得することを目指す。日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。
復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『パスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（1年次で前半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

科目名	フランス語Ⅲ－A		
08年度入学：フランス語Ⅱ			
担当者	寺尾 いづみ Izumi Terao		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

昨年度に引き続き、パリで暮らす日本人留学生の会話と、関連した文章を通して、観光や外食に必要な表現を学ぶ。仏検5級相当の文法事項の習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

会話を音読し、文法のポイントを含む簡単なやりとりを繰り返し練習する。重要な語は学生に板書してもらい定着をはかる。昨年度フランス語ⅠA、ⅡAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（20%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（60%）の合計点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：学習中の課の会話文を、教科書添付のCDを聞きながら音読する。わからない単語は辞書で調べておく。
復習：学習した文法事項を使って、自分が実際に言いそうな文を作ってみる。

■教科書

『ヌーヴォー・ユピー！』黒田恵理子、小溝佳代子、平山弓月著
朝日出版社、2010年発行（1年次で前半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の説明と前期の復習
2 Leçon 5	誰か尋ねる（否定文）
3 Leçon 5	誰か尋ねる（疑問代名詞qui）
4 Leçon 5	～がある（非人称構文il y a...）
5 Leçon 6	したいことを尋ねる （前置詞と定冠詞の縮約）
6 Leçon 6	したいことを尋ねる（指示形容詞）
7 Leçon 6	したいことを尋ねる（否定疑問文と応答）
8 動詞の活用のまとめ	動詞の活用表の見方 （動詞-er, -ir, vouloir, pouvoir）
9 Leçon 7	住んでいる所を言う（人称代名詞の強勢形）
10 Leçon 7	住んでいる所を言う（所有形容詞）
11 Leçon 7	住んでいる所を言う（動詞connaître）
12 Leçon 8	何をしているか尋ねる（疑問代名詞que）
13 Leçon 8	何をしているか尋ねる（場所を表す前置詞）
14 Leçon 8	何をしているか尋ねる（動詞faire）
15 Exercices 2	Leçon 5 ～ 8のまとめ、Civilisation フランスの文化
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	1年次の学習内容の補足と復習
2 7課：クロエの部屋で	補語人称代名詞
3 //	補語人称代名詞の語順
4 //	強勢形
5 //	疑問代名詞
6 //	疑問副詞
7 8課：ヴェルサイユ宮殿で	複合過去（1）
8 //	複合過去（2）
9 //	中性代名詞
10 //	日付の表現
11 9課：レストランで	関係代名詞
12 //	代名動詞（現在形）
13 //	代名動詞（複合過去形）
14 //	レストランでの表現
15 まとめ	7～9課の復習
16 定期試験	

科目名	フランス語Ⅳ－A		
担当者	寺尾 いづみ Izumi Terao		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

前期に続き、買い物・ストライキ・パーティーなどの場面でのやりとりを通して、仏検4級に相当する文法事項を学ぶ。フランス語特有の事象のとらえ方にも触れる。

■授業の進め方（履修条件等）

前期と同じ。前期にフランス語ⅢAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（20%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（60%）の合計点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：学習中の課の会話文を、教科書添付のCDを聞きながら音読する。わからない単語は辞書で調べておく。

復習：学習した文法事項を使って、自分が実際に言いそうな文を作ってみる。

■教科書

『ヌーヴォー・ユビー！』黒田恵理子、小満佳代子、平山弓月著
朝日出版社、2010年発行（1年次で前半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	前期の学習内容の補足と復習
2 10課：蚤の市にて	比較級
3 //	最上級
4 //	直接法半過去
5 //	強調構文
6 //	半過去と複合過去の使い分け
7 11課：ストライキ	直説法単純未来
8 //	現在分詞
9 //	ジェロンディフ
10 //	指示代名詞を使った表現
11 12課：おおみそかの夜	条件法現在（1）
12 //	条件法現在（2）
13 //	接続法現在
14 //	希望の表現
15 まとめ	10～12課の復習
16 定期試験	

科目名	フランス語Ⅲ－B		
08年度入学：フランス語Ⅱ			
担当者	白川 理恵 Rie Shirakawa		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

一年次に学んだフランス語の基本を復習しながら、基礎知識の応用とフランス語文法のさらなる習得を目指す。旅行中に使うことのできる簡単な会話表現を中心に、「聞き」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に、教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。

復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『パスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（2年次で後半を使用）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の説明と1年次の復習
2 Leçon 9	家族を語る（否定のde）
3 Leçon 9	家族を語る（形容詞の女性形の特異な形）
4 Leçon 10	年齢を言う（数字）
5 Leçon 10	年齢を言う（疑問副詞）
6 Leçon 11	時刻を言う（非人称構文、時刻の言い方）
7 Leçon 11	時刻を言う（時を表す前置詞）
8 Exereices 3	Leçon 9～11のまとめ、civilisation フランスの文化
9 Leçon 12	紹介する（補語人称代名詞）
10 Leçon 12	紹介する（指示代名詞）
11 Leçon 13	日常生活の表現（代名動詞）
12 Leçon 13	日常生活の表現（近接未来と近接過去）
13 Leçon 14	量を表す（部分冠詞）
14 Leçon 14	量を表す（中性代名詞en）
15 Exereices 4	Leçon 12～14のまとめ、civilisation フランスの文化
16 定期試験	

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

科目名	フランス語Ⅳ－B		
担当者	白川 理恵 Rie Shirakawa		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

一年次に学んだフランス語の基本を復習しながら、基礎知識の応用とフランス語文法のさらなる習得を目指す。旅行中に使うことのできる簡単な会話表現を中心に、「聞き」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

AV機器を活用し、「聞き」「話す」練習を行う。同時に、教科書と付属CDの練習問題で、繰り返し基礎文法と語彙力をつけていく。授業は毎回の積み重ねを前提に進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講姿勢（30%）、出席状況（20%）
上記を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書付属のCDをよく聞いておくこと。
復習：授業のはじめに、前回学んだ内容について簡単な書き取りを行うので、指定された文章をCDでよく聞き復習しておくこと。

■教科書

『パスカル・オ・ジャポン』藤田裕二著、白水社、2006年（2年次で後半を使用）

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書可也）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の説明と前期の復習
2 Leçon 15	天候を言う（命令形）
3 Leçon 15	天候を言う（中性代名詞y）
4 Leçon 15	天候を言う（非人称構文、天候の表現）
5 Leçon 16	比較する（比較級）
6 Leçon 16	比較する（指示代名詞）
7 Leçon 17	過去のことを語る（avoirで作る複合過去形）
8 Leçon 17	過去のことを語る（êtreで作る複合過去形）
9 Leçon 17	過去のことを語る（過去分詞の作り方、調べ方）
10 Leçon 18	未来のことを語る（単純未来形）
11 Leçon 18	未来のことを語る（単純未来形の作り方、調べ方）
12 Leçon 18	未来のことを語る（時制と法）
13 Exercices 5	Leçon 16～18のまとめ、civilisation フランスの文化
14 総復習	実用フランス語検定試験5級にむけて総まとめ
15 総復習	実用フランス語検定試験4級をめざして総まとめ
16 定期試験	

科目名	ドイツ語Ⅰ－A (ドイツへ行こう)		
08年度入学：ドイツ語Ⅰ			
担当者	高島 明 Akira Takashima		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

毎回意欲をもって学べるよう、授業を進め、ドイツ語で挨拶ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語の単語が読めるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40%）
2/3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行く箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著『新しい太郎と花子のドイツ語教室』

■参考文献

在間進編『エクセル独和辞典』郁文堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ドイツ語圏ドイツ・オーストリア・スイス
2 アルファベットと発音練習	アルファベットの読み方 母音と子音の発音
4 第1課	太郎と花子はドイツ語を学ぶ
5 動詞の現在人称変化(1)	練習問題(1) lernenの現在人称変化
6 (1)	練習問題(2) seinの現在人称変化
7 第2課	大学食堂で
8 動詞の現在人称変化(2)・命令法	練習問題(1) habenの現在人称変化
9 (2)	練習問題(2) 疑問代名詞
10 第3課	太郎と花子にはドイツ人の友人がいる
11 名詞と格変化	練習問題(1) 定冠詞の格変化
12	練習問題(2) 不定冠詞の格変化
13	前期の復習(1) 動詞の現在人称変化
14 前期のまとめ	前期の復習(2) 冠詞の格変化
15	前期の復習(3) 小テスト
16 定期試験	

科目名	ドイツ語Ⅱ－A (ドイツへ行こう)		
担当者	高島 明 Akira Takashima		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

毎回意欲をもって学べるよう、授業を進め、ドイツ語で挨拶ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語で自己紹介ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40%）
2／3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著『新しい太郎と花子のドイツ語教室』

■参考文献

在間進編『エクセル独和辞典』郁文堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1	太郎と花子はヘルムートについて語る
2	第4課 不定冠詞類と定冠詞類
3	練習問題（1）不定冠詞類
4	練習問題（2）定冠詞類
	練習問題（3）人称代名詞
5	太郎はヘルムートの部屋のじゅうたんの上に座っている
6	第5課 前置詞
7	練習問題（1）2, 3, 4格支配の前置詞
8	練習問題（2）3格と4格支配の前置詞
	練習問題（3）前置詞の融合形
9	花子は太郎にヘルムートのことに関して尋ねる
10	第6課 形容詞の変化・序数
11	練習問題（1）形容詞の変化
12	練習問題（2）比較級と最高級
13	練習問題（3）序数
14	後期のまとめ
15	後期の復習（1）不定・定冠詞類
	後期の復習（2）形容詞の変化
	後期の復習（3）小テスト
16	定期試験

科目名	ドイツ語Ⅰ－B		
08年度入学：ドイツ語Ⅰ			
担当者	志村 哲也 Tetsuya Shimura		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語の基礎の基礎を身に付ける。正確な読み書きの練習から始め、最重要文法項目に習熟する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（45%）・授業内小テスト（45%）・出席（10%）。
テキストの持参および授業プリントの提出をもって出席と認められる。

■授業の予習・復習

予習：自発的にテキストを読んでおくこと。

復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

『新ドイツ語コミュニケーション』三修社。入谷幸江ほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	序
3	受講の心得
4	Das Alphabet、つづりと発音
5	Lektion 1
6	動詞の人称変化、語順
7	Lektion 1
8	基本練習、応用練習
9	Lektion 2
10	sein, habenの人称変化
11	Lektion 2
12	基本練習、応用練習
13	プレテスト 1
14	序 - Lektion 2
15	Lektion 3
16	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞の変化
17	Lektion 3
18	基本練習、応用練習
19	Lektion 4
20	不規則動詞の人称変化
21	Lektion 4
22	基本練習、応用練習
23	Lektion 5
24	人称代名詞の3・4格
25	Lektion 5
26	基本練習、応用練習
27	プレテスト 2
28	Lektion 3-5
29	まとめ
30	総復習
31	定期試験

科目名	ドイツ語Ⅱ－B		
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語Ⅰに引き続きドイツ語の基礎を身に付ける。ドイツ語検定4級レベルの習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（45%）・授業内小テスト（45%）・出席（10%）。テキストの持参および授業プリントの提出をもって出席と認められる。

■授業の予習・復習

予習：自発的にテキストを読んでおくこと。
復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

『新ドイツ語コミュニケーション』三修社。入谷幸江ほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講の心得
2 ドイツ語Ⅰ復習	Lektion 1-5
3 Lektion 6	不定冠詞類（所有冠詞と否定冠詞）、定冠詞類
4 Lektion 6	基本練習、応用練習
5 Lektion 7	前置詞（1）
6 Lektion 7	基本練習、応用練習
7 Lektion 8	前置詞（2）
8 Lektion 8	基本練習、応用練習
9 プレテスト1	Lektion 6-8
10 Lektion 9	助動詞の人称変化、助動詞を含む文
11 Lektion 9	基本練習、応用練習
12 Lektion 10	分離動詞
13 Lektion 10	基本練習、応用練習
14 プレテスト2	Lektion 9-10
15 まとめ	総復習
16 定期試験	

科目名	ドイツ語Ⅲ－A (ドイツへ行こう)		
08年度入学：ドイツ語Ⅱ			
担当者	高島 明 <i>Akira Takashima</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語圏であるドイツ、オーストリア・スイスに行った時に、簡単な日常会話ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語で挨拶ができ、しかも、ドイツ語の日常会話ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40%）
2/3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。
復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著『新しい太郎と花子のドイツ語教室』

■参考文献

在間進編『エクセル独和辞典』郁文堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1	留学生係で（1）基数
2	// （2）挨拶の仕方
3 ドイツ語Ⅰの復習 (聞き取り練習)	やっと部屋を見つけた（1）電話のかけ方
4	// （2）住所の書き方
5	// （3）天候
6	太郎は花子に電話をする
7 第7課 複合動詞・再帰動 詞・非人称のes	練習問題（1）複合動詞
8	// （2）再帰動詞
9	// （3）非人称のes
10	太郎と花子はカフェテリアで談笑する
11 第8課	練習問題（1）助動詞の現在人称変化
12 話法の助動詞	// （2）未来形
13	// （3）接続詞
14	復習（1）再帰代名詞
15	復習（2）小テスト
16 定期試験	

科目名	ドイツ語Ⅳ－A (ドイツへ行こう)		
担当者	高島 明 Akira Takashima		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語圏であるドイツ、オーストリア・スイスに行った時に、簡単な日常会話ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語の日常会話ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40%）
2 / 3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著『新しい太郎と花子のドイツ語教室』

■参考文献

在間進編『エクセル独和辞典』郁文堂

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	太郎と花子はヘルムートを訪ねる	
2	第9課 動詞の3基本形と過去時称	
3		練習問題（1）規則動詞の過去形
4		// （2）不規則動詞の過去形
5	// （3）seinとhabenの過去形	
6	第10課 完了形・受動態	
7		練習問題（1）完了形
8		// （2）sein支配の動詞
9	// （3）受動態	
9	第11課 zuを伴う不定詞・現在分詞と過去分詞の用法・関係代名詞	
10		太郎と花子は同じ小学校で学んだ
11	練習問題（1）現在分詞と過去分詞	
12	// （2）関係代名詞	
12	第12課 接続法	
13		花子は太郎の所にいる
14	練習問題 接続法	
14	今までのまとめ	
15		復習（1）動詞の三基本形
16	復習（2）小テスト	
16	定期試験	

科目名	ドイツ語Ⅲ－B		
08年度入学：ドイツ語II			
担当者	志村 哲也 Tetsuya Shimura		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

長文読解を中心としたテキストを用い、初級文法の復習を交えつつ徐々に高度なドイツ語の習得を目指す。また独和辞典を使いこなせるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（45%）・授業内小テスト（45%）・出席（10%）。
テキストの持参および授業プリントの提出をもって出席と認められる。

■授業の予習・復習

予習：長文の単語調べは宿題とし、授業で答え合わせをする。
復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

『ヴァインスペルクー私の郷里の町』朝日出版社。ヴェルナー・アンゲリカほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ復習
3	初級文法
3	Lektion 1
4	文法・練習問題
4	Familie Müller
5	長文読解
5	Lektion 2
6	文法・練習問題
6	Die Freunde
7	長文読解
7	Lektion 3
8	文法・練習問題
8	Das Essen
9	長文読解
9	Lektion 4
10	文法・練習問題
10	Sprachprobleme
11	長文読解
11	Lektion 5
12	文法・練習問題
12	Sonntag
13	長文読解
13	Lektion 6
14	文法・練習問題
14	Der Brief
15	長文読解
15	まとめ
16	総復習
16	定期試験

科目名	ドイツ語Ⅳ－B		
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語Ⅲに引き続き中級独文法に習熟しつつ、更に高度な長文読解力を身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（45%）・授業内小テスト（45%）・出席（10%）。
テキストの持参および授業プリントの提出をもって出席と認められる。

■授業の予習・復習

予習：長文の単語調べは宿題とし、授業で答え合わせをする。
復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

『ヴァインスベルクー私の郷里の町』朝日出版社。ヴェルナー・アンゲリカほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講の心得
2 ドイツ語Ⅲ復習	Lektion 1 - 6
3 Lektion 7	文法・練習問題
4 Der Geburtstag	長文読解
5 Lektion 8	文法・練習問題
6 Der Spaziergang	長文読解
7 Lektion 9	文法・練習問題
8 Das Stadtfest	長文読解
9 Lektion 10	文法・練習問題
10 Die Geschichte der Stadt Weinsberg	長文読解
11 Lektion 11	文法・練習問題
12 Die „Weibertreu“	長文読解
13 Lektion 12	文法・練習問題
14 Weinsberg und der Wein	長文読解
15 まとめ	総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅠA・B		
担当者	矢澤 秀昭 <i>Hideaki Yazawa</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言語の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（5%）・出席（5%）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『日中いぶこみ広場』朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 発音 1	四声の練習
3 発音 1	単母音、復母音
4 発音 2	鼻母音
5 発音 2	唇音、舌尖音、舌根音
6 発音 3	舌面音、そり舌音、舌歯音
7 発音 3	変調及びピンインの綴り方
8 発音 4	発音の総合練習
9 第1課	挨拶言葉による発音練習
10 第2課	名前の聞き方、答え方
11 第2課	判断動詞
12 第3課	人称代名詞、指示代名詞
13 第4課	構造助詞
14 第4課	動詞句
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅡA・B		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『日中いぶこみ広場』朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語Ⅰの復習
3 第5課	形容詞句
4 第5課	修飾語としての形容詞
5 第5課	数量詞
6 第6課	二重目的語の動詞句
7 第6課	存在及び所有
8 第6課	方位詞
9 第7課	時間の表現
10 第7課	比較表現
11 第7課	助動詞（願望）
12 第8課	前置詞
13 第8課	動態助詞
14 第8課	数量保護
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅠR（A）		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言語の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『入門中国語の小窓』同学社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 発音1	四声の練習
3 発音2	単母音、復母音
4 発音3	鼻母音
5 発音4	唇音、舌尖音、舌根音
6 発音5	舌面音、そり舌音、舌歯音
7 発音6	変調及びピンインの綴り方
8 発音7	発音の総合練習
9 第1課	挨拶言葉による発音練習
10 第2課	名前の聞き方、答え方
11 第2課	判断動詞
12 第3課	人称代名詞、指示代名詞
13 第4課	構造助詞
14 第4課	動詞句
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅡR (A)		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『入門中国語の小窓』 同学社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語ⅠRの復習
3 第5課	形容詞句
4 第5課	修飾語としての形容詞
5 第6課	数量詞
6 第7課	二重目的語の動詞句
7 第7課	存在及び所有
8 第8課	方位詞
9 第9課	時間の表現
10 第9課	比較表現
11 第10課	助動詞（願望）
12 第11課	前置詞
13 第11課	動態助詞
14 第12課	数量保護
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅠR (B)		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言語の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『話し放題中国語（スリム版）』 金星堂

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 発音1	四声の練習
3 発音2	単母音、復母音
4 発音3	鼻母音
5 発音4	唇音、舌尖音、舌根音
6 発音5	舌面音、そり舌音、舌歯音
7 発音6	変調及びピンインの綴り方
8 発音7	発音の総合練習
9 第1課	挨拶言葉による発音練習
10 第2課	名前の聞き方、答え方
11 第2課	判断動詞
12 第3課	人称代名詞、指示代名詞
13 第4課	構造助詞
14 第4課	動詞句
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅡR (B)		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	2～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施し、その度に解説する。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『話し放題中国語（スリム版）』金星堂

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語ⅠRの復習
3 第5課	形容詞句
4 第6課	修飾語としての形容詞
5 第7課	数量詞
6 第8課	二重目的語の動詞句
7 第9課	存在及び所有
8 第10課	方位詞
9 第11課	時間の表現
10 第11課	比較表現
11 第12課	助動詞（願望）
12 第13課	前置詞
13 第14課	動態助詞
14 第14課	数量保護
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語Ⅲ－A・B・C		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa 黄 麗華 Huang Lihua		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ、発音の矯正を行う。発音の後には、文法等の解説をする。その後、練習問題を解いてもらい、解説をする。基本的に練習問題は毎回提出し、小テスト扱いとする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは、予め辞書等で調べ把握しておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『中国語@キャンパス』朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語Ⅰ・Ⅱの復習
3 第10課	動態助詞（経験等）
4 第10課	強調構文
5 第10課	進行表現
6 第11課	持続表現
7 第11課	語気助詞
8 第11課	動態助詞（完了）
9 第12課	動態助詞（変化）
10 第12課	動詞の重ね型
11 第12課	動量詞
12 第13課	禁止表現
13 第13課	動詞句の特殊表現
14 第13課	存現文
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語Ⅳ－A・B・C		
担当者	矢澤 秀昭 <i>Hideaki Yazawa</i> 黄 麗華 <i>Huang Lihua</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ、発音の矯正を行う。発音の後は、文法等の解説をする。その後、練習問題を解いてもらい、解説をする。基本的に練習問題は毎回提出し、小テスト扱いとする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは、予め辞書等で調べ把握しておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『中国語@キャンパス』朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語Ⅲの復習
3 第14課	程度補語
4 第14課	可能表現
5 第14課	方向補語
6 第15課	受け身
7 第15課	意味上の受け身
8 第15課	使役
9 第16課	兼語文
10 第16課	受け身と使役の違い
11 第17課	近未来表現
12 第17課	処置文
13 第18課	形容詞の重ね型
14 第18課	特殊形容詞
15 総合的復習	今期の総復習
16 定期試験	

科目名	中国語ⅢR		
担当者	矢澤 秀昭 <i>Hideaki Yazawa</i>		
対象学年	3～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ、発音の矯正を行う。発音の後は、文法等の解説をする。その後、練習問題を解いてもらい、解説をする。基本的に練習問題は毎回提出し、小テスト扱いとする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは、予め辞書等で調べ把握しておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『2011年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 復習	中国語Ⅰ・Ⅱの復習
3 第1課	上海万博
4 第2課	大陸からの観光客と値段交渉
5 第2課	大陸からの観光客と値段交渉
6 第3課	曹操の墓は本物か
7 第3課	曹操の墓は本物か
8 第4課	中国の端午の節句
9 第4課	中国の端午の節句
10 第5課	新しい世代の農民労働者
11 第5課	新しい世代の農民労働者
12 第6課	大風の歌、高らかに
13 第7課	辛亥革命百周年
14 第7課	辛亥革命百周年
15 第8課	ウェディングドレス
16 定期試験	

科目名	中国語ⅣR		
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa		
対象学年	3～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ、発音の矯正を行う。発音の後、文法等の解説をする。その後、練習問題を解いてもらい、解説をする。基本的に練習問題は毎回提出し、小テスト扱いとする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（5％）・出席（5％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは、予め辞書等で調べ把握しておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『2011年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意
2 第9課	鉄道の魅力
3 第9課	鉄道の魅力
4 第10課	中国サッカー
5 第10課	中国サッカー
6 第11課	大都市ごぼれ話
7 第11課	大都市ごぼれ話
8 第12課	移民
9 第12課	移民
10 第13課	アメリカの若者：「山寨文化って？」
11 第13課	アメリカの若者：「山寨文化って？」
12 第14課	子供の一生に関わる字典
13 第14課	子供の一生に関わる字典
14 第15課	今日の旅順
15 第15課	今日の旅順
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅰ－A		
08年度入学：日本語Ⅰ			
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学の講義を受講するために必要な日本語力の向上を目指す。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に伸ばすこと、また、レポートや論文を作成するための日本語表現技術の習得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し演習問題を行いながら、補強すべきと思われる点については適宜資料を配布し、学習する。時事問題の理解のために新聞記事の読解やニュースの聞き取りなども行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％） 授業内小テスト（15％） レポート及びその他の課題（25％） 出席（10％）

■授業の予習・復習

予習：新たに学習する課について、新出語彙等の確認をしておくこと。その他、予習の方法と内容については、その都度指示を行う。

復習：講義で学習した項目について、与えられた課題を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円
その他、適宜資料を配布する

■授業内容

授業項目	授業内容
1 1 日本語の表記 ①	表記のしかた
2 日本語の表記 ②	句読点の打ち方・原稿用紙の使い方
3 2 日本語の文体 ①	文章の種類と文体
4 日本語の文体 ②	書き言葉の文体
5 3 文体のモードチェンジ①	小論文の文体
6 文体のモードチェンジ②	叙述文
7 4 文の構造①	主語と述語
8 文の構造②	修飾語・被修飾語、文末制限
9 5 文のつながり①	指示語
10 文のつながり②	接続の表現
11 6 小論文に用いる表現①	文末表現
12 小論文に用いる表現②	助詞相当語
13 7 段落①	段落と中心文
14 段落②	中心文・支持文
15 まとめ	
16 定期試験	

■参考文献

科目名	日本語Ⅱ－A		
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

日本語Ⅰで学んだことをベースに、更なる日本語力の向上を目指す。日本語Ⅱでは、各自テーマを決めアンケート調査を行って、レポートを作成する。また、プレゼンテーションの技法を学び、調査結果について発表を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。補強すべきと思われる点については、適宜資料を配布し、学習する。また、時事問題に加え、ビジネス日本語なども学ぶ。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％） 授業内小テスト（15％） レポート及びその他の課題（25％） 出席（10％）

■授業の予習・復習

新たに学習する課、また、講義で学習した項目について、その都度予習と復習の内容と方法を指示する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円
その他、適宜資料を配布する

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 8 要約文の書き方①	一段落の文の要約
2 要約文の書き方②	複数の段落の文の要約
3 9 説明文の書き方①	具体的な表現とは
4 説明文の書き方②	客観的な文を書くために
5 10 意見文の書き方①	事実と意見
6 意見文の書き方②	意見文を書くために
7 11 事実について書く①	数値の示し方
8 事実について書く②	文章の引用のしかた
9 12 小論文の形式①	序章の書き方
10 小論文の形式②	本論と結びの書き方
11 アンケート調査①	アンケートのテーマと目的を決める
12 //	② 質問項目の作成
13 //	③ データの分析と考察
14 //	④ プレゼンテーションのアウトラインを考える
15 //	⑤ プレゼンテーション・フィードバック
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅰ－B		
08年度入学：日本語Ⅰ			
担当者	銅直 信子 Nobuko Dobeta		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅰ」では特に「話す・聞く」能力を向上させることを目的とする。表現したい内容を分かりやすく、簡潔に述べるにはどのような技法と作法を学べばいいのか、グループワークなどを通して実践的に学んでいく。各グループでブック・レポートの発表を行う。また、CDを聞いて発表内容の重要点を書き取っていく練習を重ね、各グループの発表に備える。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って授業を進めていく。各課の要点を理解した後、練習問題から演習問題へと進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し文法項目の復習・語彙の増強を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験50％、授業内小テスト10％、レポートおよびその他の課題30％、出席10％で評価する。

■授業の予習・復習

予習：練習問題を宿題としてやる。語彙表の漢字の読み方・意味を調べておく。
復習：添削後返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「表記のしかた」・「メモ」を取る練習
2	「表記のしかた」・「メモ」を取る練習
3	「文体」・「メモ」を見ながら口頭練習
4	「文体」・「メモ」を見ながら口頭練習
5	「話し言葉から書き言葉へ」
6	「話す技術」ブックレポート紹介
7	①資料や文献を収集
8	②レジュメの作成
9	③グループ発表→質疑応答
10	④グループ発表→質疑応答
11	「正しい構造の文」・「言葉と文化」 CDを聞いて練習問題に答える。
12	「正しい構造の文」・「不登校」 CDを聞いて練習問題に答える。
13	「文のつながり」・「高校生とバイク」 CDを聞いて練習問題に答える。
14	「文のつながり」・「食料自給率」 CDを聞いて練習問題に答える。
15	「小論文によく使われる表現」
16	定期試験

■参考文献

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房
『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

科目名	日本語Ⅱ－B		
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅱ」では特に「読む・書く」能力を向上させることを目的とする。論文分析を行うことで、構成や展開での日本語表現を学ぶ。また表現したい内容を分かりやすく簡潔に書くにはどのような技法と作法を学べばいいのか、各自アンケート調査を行いレポートに仕上げることで学んでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めていくが、加えて語彙力の強化を図るため日本語上級レベルの読解文を読む。また、ビデオ・DVDなどを視聴し、内容を簡条書きしたり、識者の主張をまとめたり各自の意見を発表する。課題は授業時間内に仕上げ提出する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業内テスト小テスト10%、レポートおよびその他の課題30%、出席10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：指示どおりに練習問題を宿題としてやる。語彙表の漢字の読み方・意味を調べておく。

復習：添削後返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「書く技術」要約文の書き方。
2	「書く技術」新聞教材を要約する。
3	「書く技術」ビデオを見て事実を簡条書きする。
4	「書く技術」報告文を書く。
5	「書く技術」説明文を書く。
6	「書く技術」感想文を書く。
7	「書く技術」ビジネス文書の紹介
8	意見文を書く。論文の書き方①
9	意見文を書く。論文の書き方②
10	「分析と考察」論文の書き方③
11	「分析と考察」論文の書き方④
12	「レポートを書こう」テーマを決める。アンケートシートを作る。
13	「レポートを書こう」アウトラインを書く。
14	調査結果をまとめる。
15	調査結果を分析し、考察を書く。
16	定期試験

■参考文献

『大学で学ぶための日本語ライティング』The Japan Times
『大学・大学院留学生の日本語』①読解編②作文編
出版社アルク

科目名	日本語Ⅰ－C		
08年度入学：日本語Ⅰ			
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学に必要な日本語表現に関する基礎的な事柄を学び、日本語表現力の向上を目指す。特に文章による表現技術に重点をおき養成する。的確な表現を使い、正しい構成の文章が書ける等、日本語で事実や状況を正確に伝えたり、自分の意見を論理的に説明したりする力を伸ばす。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。テキスト以外に適宜配布資料も用いて進める。各課の要点理解後、演習問題を行い、実力を確認する。日本語表現全般にわたる興味や関心を引き起こすような内容を織り込んで進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・発表／レポート及びその他の課題（20%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容部分のテキストや配布資料を読む。分からない部分の日本語表現などは、自分で調べておく。

復習：学習内容の確認し、整理する。宿題、授業内小テストの準備を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1,600円
その他、配布資料

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	オリエンテーション 自己紹介する	初対面での自己表現
2	表記の仕方（1）	日本語の表記ルールの復習
3	表記の仕方（2）	原稿用紙の書き方 原稿用紙に文章を書く
4	文体（1）	さまざまな文章の特徴
5	文体（2）	話し言葉と書き言葉 普通体で文章を書く
6	モードチェンジ（1）	話し言葉から書き言葉への切り替え
7	モードチェンジ（2）	硬い文章を書く時の言葉・表現
8	正しい構造の文（1）	主語と述語の関係、修飾する語とされる語の関係
9	正しい構造の文（2）	簡潔な文を書く
10	文のつながり（1）	指示詞の使い方
11	文のつながり（2）	接続詞の使い方
12	小論文でよく使われる表現（1）	主観的表現と客観的表現
13	小論文でよく使われる表現（2）	小論文でよく使われる文末表現
14	小論文でよく使われる表現（3）	小論文でよく使われる表現、句
15	今学期のまとめ	小論文を書く
16	定期試験	

■参考文献

科目名	日本語Ⅱ－C		
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

実践を通して様々な目的で書かれる文章を学ぶ。日本社会で必要とされる文章の形式、表現を学ぶ。学期末では、各自レポートを作成し、その発表を行う。アカデミックな場面での日本語表現の養成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。適宜配布資料で様々な文章に触れ、文章の特徴を学び、文章を書く練習を行う。学生が、自分の文章、日本語表現を自己評価できるような視点を持つためのフィードバックも重視して行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・授業内小テスト及び課題提出物（25%）・発表／レポート（30%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：授業で出された課題を行う。

復習：授業内容の整理、ファイリングをする。宿題や、授業内小テストの準備をする。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1,600円
その他、配布資料

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 文の構成を考える(1)	段落のある文章
2 文の構成を考える(2)	段落の構成のしかた
3 要約文(1)	文章を読み、要点を把握する
4 要約文(2)	要約文を書く
5 説明文(1)	説明文を読み、特徴を学ぶ
6 説明文(2) レポートについて	説明文を書く
7 意見文(1) レポート準備	意見と事実を分けて書く レポートのテーマ
8 意見文(2) レポート準備	論拠を書く アンケート用紙作成方法
9 意見文(3) レポート準備	意見文を書く アンケート用紙確認
10 グラフの説明(1) レポート準備	数値を示す アンケート集計、資料作成
11 グラフの説明(2) レポート準備	説明表現 資料作成、資料分析
12 日本語総まとめ(1) レポート作成	レポート構成 レポート作成
13 日本語総まとめ(2) レポート作成	レポート最終確認 発表表現と発表練習
14 日本語総まとめ(3)	口頭発表／評価
15 日本語総まとめ(4)	口頭発表／評価
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅰ－D		
08年度入学：日本語Ⅰ			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅰ」では特に「話す・聞く」能力を向上させることを目的とする。表現したい内容を分かりやすく、簡潔に述べるにはどのような技法と作法を学べばいいのか、グループワークなどを通して実践的に学んでいく。各グループでブック・レポートの発表を行う。また、CDを聞いて発表内容の重要点を書き取っていく練習を重ね、各グループの発表に備える。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って授業を進めていく。各課の要点を理解した後、練習問題から演習問題へと進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し文法項目の復習・語彙の増強を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業内小テスト10%、レポートおよびその他の課題30%、出席10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：指示どおりに練習問題を宿題としてやる。語彙表の漢字の読み方・意味を調べておく。

復習：添削後返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「表記のしかた」・「メモ」を取る練習
2	「表記のしかた」・「メモ」を取る練習
3	「文体」・「メモ」を見ながら口頭練習
4	「文体」・「メモ」を見ながら口頭練習
5	「話し言葉から書き言葉へ」
6	「話す技術」ブックレポート紹介
7	①資料や文献を収集
8	②レジュメの作成
9	③グループ発表→質疑応答
10	④グループ発表→質疑応答
11	「正しい構造の文」・「言葉と文化」 CDを聞いて練習問題に答える。
12	「正しい構造の文」・「不登校」 CDを聞いて練習問題に答える。
13	「文のつながり」・「高校生とバイク」 CDを聞いて練習問題に答える。
14	「文のつながり」・「食料自給率」 CDを聞いて練習問題に答える。
15	「小論文によく使われる表現」
16	定期試験

■参考文献

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房
『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

科目名	日本語Ⅱ-D		
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅱ」では特に「読む・書く」能力を向上させることを目的とする。論文分析を行うことで、構成や展開での日本語表現を学ぶ。また表現したい内容を分かりやすく簡潔に書くにはどのような技法と作法を学べばいいのか、各自アンケート調査を行いレポートに仕上げることで学んでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めていくが、加えて語彙力の強化を図るため日本語上級レベルの読解文を読む。また、ビデオ・DVDなどを視聴し、内容を箇条書きしたり、識者の主張をまとめたり各自の意見を発表する。課題は授業時間内に仕上げ提出する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業内テスト小テスト10%、レポートおよびその他の課題30%、出席10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：指示どおりに練習問題を宿題としてやる。語彙表の漢字の読み方・意味を調べておく。

復習：添削後返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「書く技術」要約文の書き方。
2	「書く技術」新聞教材を要約する。
3	「書く技術」ビデオを見て事実を箇条書きする。
4	「書く技術」報告文を書く。
5	「書く技術」説明文を書く。
6	「書く技術」感想文を書く。
7	「書く技術」ビジネス文書の紹介
8	意見文を書く。論文の書き方①
9	意見文を書く。論文の書き方②
10	「分析と考察」論文の書き方③
11	「分析と考察」論文の書き方④
12	「レポートを書こう」テーマを決める。アンケートシートを作る。
13	「レポートを書こう」アウトラインを書く。
14	調査結果をまとめる。
15	調査結果を分析し、考察を書く。
16	定期試験

■参考文献

『大学で学ぶための日本語ライティング』The Japan times
『大学・大学院留学生の日本語』①読解編②作文編
出版社アルク

科目名	日本語Ⅰ-E		
08年度入学：日本語Ⅰ			
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学に必要な日本語表現に関する基礎的な事柄を学び、日本語表現力の向上を目指す。特に文章による表現技術に重点をおき養成する。的確な表現を使い、正しい構成の文章が書ける等、日本語で事実や状況を正確に伝えたり、自分の意見を論理的に説明したりする力を伸ばす。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。テキスト以外に適宜配布資料も用いて進める。各課の要点理解後、演習問題を行い、実力を確認する。日本語表現全般にわたる興味や関心を引き起こすような内容を織り込んで進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・発表／レポート及びその他の課題（20%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容部分のテキストや配布資料を読む。分からない部分の日本語表現などは、自分で調べておく。

復習：学習内容の確認し、整理する。宿題、授業内小テストの準備を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1,600円
その他、配布資料

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	オリエンテーション 自己紹介する	初対面での自己表現
2	表記の仕方（1）	日本語の表記ルールの復習
3	表記の仕方（2）	原稿用紙の書き方 原稿用紙に文章を書く
4	文体（1）	さまざまな文章の特徴
5	文体（2）	話し言葉と書き言葉 普通体で文章を書く
6	モードチェンジ（1）	話し言葉から書き言葉への切り替え
7	モードチェンジ（2）	硬い文章を書く時の言葉・表現
8	正しい構造の文（1）	主語と述語の関係、修飾する語とされる語の関係
9	正しい構造の文（2）	簡潔な文を書く
10	文のつながり（1）	指示詞の使い方
11	文のつながり（2）	接続詞の使い方
12	小論文でよく使われる表現（1）	主観的表現と客観的表現
13	小論文でよく使われる表現（2）	小論文でよく使われる文末表現
14	小論文でよく使われる表現（3）	小論文でよく使われる表現、句
15	今学期のまとめ	小論文を書く
16	定期試験	

■参考文献

科目名	日本語Ⅱ－E		
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

実践を通して様々な目的で書かれる文章を学ぶ。日本社会で必要とされる文章の形式、表現を学ぶ。学期末では、各自レポートを作成し、その発表を行う。アカデミックな場面での日本語表現の養成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。適宜配布資料で様々な文章に触れ、文章の特徴を学び、文章を書く練習を行う。学生が、自分の文章、日本語表現を自己評価できるような視点を持つためのフィードバックも重視して行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・授業内小テスト及び課題提出物（25%）・発表／レポート（30%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：授業で出された課題を行う。

復習：授業内容の整理、ファイリングをする。宿題や、授業内小テストの準備をする。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1,600円
その他、配布資料

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 文の構成を考える(1)	段落のある文章
2 文の構成を考える(2)	段落の構成のしかた
3 要約文(1)	文章を読み、要点を把握する
4 要約文(2)	要約文を書く
5 説明文(1)	説明文を読み、特徴を学ぶ
6 説明文(2) レポートについて	説明文を書く
7 意見文(1) レポート準備	意見と事実を分けて書く レポートのテーマ
8 意見文(2) レポート準備	論拠を書く アンケート用紙作成方法
9 意見文(3) レポート準備	意見文を書く アンケート用紙確認
10 グラフの説明(1) レポート準備	数値を示す アンケート集計、資料作成
11 グラフの説明(2) レポート準備	説明表現 資料作成、資料分析
12 日本語総まとめ(1) レポート作成	レポート構成 レポート作成
13 日本語総まとめ(2) レポート作成	レポート最終確認 発表表現と発表練習
14 日本語総まとめ(3)	口頭発表／評価
15 日本語総まとめ(4)	口頭発表／評価
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅲ－A		
08年度入学：日本語Ⅱ			
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学で求められる専門の文章を読むために必要な様々なストラテジーを身につけ、読解力を高めるとともに、学んだ知識を活かし、構成のしっかりした論理的な文章が書けることを目指す。また、日本語を通して様々な角度から見えてくる日本の現状、日本文化・日本社会を学び、自分の意見を日本語で表現する力も養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って行う。テキスト以外に各課で学ぶ内容に合った生教材を使い、読む技術のみでなく、話す、聞く、書く技術の実践練習も行う。各課終了後、理解度を確認する問題を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・レポート及びその他の課題（25%）・授業への積極的参加度（10%）

■授業の予習・復習

予習：配布された資料を自分で予習して授業に臨む。分担作業では、担当部分の準備をする。

復習：授業で行った内容、資料の整理をする。小テストの準備をする。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク 1,200円
その他 配布資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション 第1課(1)	キーワードを見つける
2 第1課(2)	キーワードを見つけるストラテジー 練習問題
3 第1課(3)	要約文の書き方
4 第1課(4)	文章を読み、要約文を書く
5 第2課(1)	要約文のFB / 論点表示文
6 第2課(2)	文章のポイントを掴むストラテジー 練習問題
7 第2課(3)	文章を読み、要約文を書く
8 第3課(1)	要約文のFB / 結論表示文
9 第3課(2)	結論を理解するストラテジー 練習問題
10 第3課(3)	文章を読み、要約文を書く
11 第3課(4)	要約文のFB / 3部構成の文章を書く
12 第3課(5)	3部構成の文章を書く
13 第4課(1)	歴史を扱った文章
14 第4課(2)	時間軸、因果関係をみるストラテジー 練習問題
15 第4課(3)まとめ	文章を読み、要約文を書く
16 定期試験	

■参考文献

科目名	日本語Ⅳ－A		
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学で求められる専門の文章を読むために必要な様々なストラテジーを身につけ、読解力を高めるとともに、学んだ知識を活かし、構成のしっかりした論理的な文章が書けることを目指す。また、的確な情報の理解、得た情報を目的に応じて日本語で適切に表現できる技術を高める。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って行う。テキスト以外に各課で学ぶ内容に合った生教材を使い、読む技術のみでなく、話す、聞く、書く技術の実践練習も行う。各課終了後、理解度を確認する問題を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・レポート及びその他の課題（25%）・授業への積極的参加度（10%）

■授業の予習・復習

予習：配布された資料を自分で予習して授業に臨む。分担作業では、担当部分の準備をする。

復習：授業で行った内容、資料の整理をする。小テストの準備をする。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク 1,200円
その他 配布資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	前期の総復習
2 第5課（1）	二項対立の文章
3 第5課（2）	二項対立の文章を理解するストラテジー 練習問題
4 第5課（3）	文章を読み、要約文を書く
5 第5課（4）	要約文のFB / 賛否を問うテーマについて意見をまとめる
6 第6課（1）	意見文
7 第6課（2）	筆者の立場を見ぬくストラテジー 練習問題
8 第6課（3）	文章を読み、要約文を書く
9 第6課（4）	要約文のFB / 自分の意見を展開した文章を書く
10 第7課（1）	意見文を評価する / 長い文章
11 第7課（2）	長い文章を理解するストラテジー 練習問題
12 第7課（3）	長い文章を読み、要約文を書く
13 第7課（4）	要約文のFB / 長い文章を読み、意見交換をする
14 日本語総まとめ（1）	レポートを書く
15 日本語総まとめ（2）	レポートを書く
16 定期試験	

■参考文献

科目名	日本語Ⅲ－B		
08年度入学：日本語Ⅱ			
担当者	沢野 美由紀 <i>Miyuki Sawano</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学ぶ。レポート・論文などの資料を理解するために必要な日本語の表現、文の構成等について学習し、専門的な資料が読めるようになることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。さらに、新聞、雑誌の記事や一般書、時事問題とともに、ディスカッションや意見発表を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業内小テスト（15%） レポート及びその他の課題（25%） 出席（10%）

■授業の予習・復習

予習：事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。

復習：内容と方法はその都度指示する。

■教科書

一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク ¥1,200
その他、適宜資料を配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 1 文の内容理解①	キーワードの探し方
2 文の内容理解②	キーワードを用いた要約
3 文の内容理解③	応用文の読解
4 2 文の主題①	主題を探す・論点表示文
5 文の主題②	序論と本論
6 文の主題③	応用文の読解
7 3 文の主張①	文章の「問い」を探す
8 文の主張②	論点表示文
9 文の主張③	応用文の読解
10 4 歴史を扱った文章①	ものごとの因果関係、前後関係を理解する
11 歴史を扱った文章②	時系列に沿った文章の読み方
12 歴史を扱った文章③	応用文の読解
13 新聞・時事問題を読む	
14 新聞・時事問題を読む	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅳ－B		
担当者	沢野 美由紀 <i>Miyuki Sawano</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

日本語Ⅲ同様、論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学び、それらを応用して専門にかかわるレポートが書けるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。後半は各自が専門にかかわる課題を設定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業内小テスト（15%） レポート及びその他の課題（25%） 出席（10%）

■授業の予習・復習

予習：事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。
復習：内容と方法はその都度指示する。

■教科書

一橋大学留学生センター「留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方」 スリーエーネットワーク ￥1,200
その他、適宜資料を配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 5 二項対立の文①	対比をあらわす表現
2 二項対立の文②	二項多対立の文の構造
3 二項対立の文③	応用文の読解
4 6 立場を明確にする表現①	譲歩・逆接をあらわす表現
5 立場を明確にする表現②	立場による主張の方法
6 立場を明確にする表現③	応用文の読解
7 7 順序を示すことば①	列挙の構造
8 順序を示すことば②	接続の表現
9 順序を示すことば③	応用文の読解
10 レポートの作成①	テーマを設定する
11 レポートの作成②	参考文献を読む
12 レポートの作成③	アウトラインを考える
13 レポートの作成④	レポートを書く
14 レポートの作成⑤	プレゼンテーション・フィードバック
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	日本語Ⅲ－C		
08年度入学：日本語Ⅱ			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

口頭表現・文章表現の応用能力の習得を到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文を分析することで、読む力、書く力を向上させる。また、ビデオ・DVDを用いて聞く力、自分の考えを発表する力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して、日本の文化や社会を考えてみることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中でできた語彙の理解を完全なものにする。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。発表で全員が情報を共有した後、各自で小レポートにまとめ提出する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業内小テスト10%、レポートおよびその他の課題30%、出席10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：配布された語彙表の漢字の読み方と意味を調べておく。
復習：添削後返却された小レポートの誤用を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

「留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方」
一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「何の話かをつかむ」・論文の書き方①
2	「何の話かをつかむ」
3	「何が問題になっているかをつかむ」
4	「何が問題になっているかをつかむ」
5	「言いたいことは何かをつかむ」・論文の書き方②
6	「言いたいことは何かをつかむ」
7	「歴史を扱った文章を読む」
8	「歴史を扱った文章を読む」
9	「日本で活躍する外国人」（1）・論文の書き方③
10	「日本で活躍する外国人」（2）
11	「日本で活躍する外国人」（3）
12	「小論文のはじめと終わり」
13	資料を収集する。・論文の書き方④
14	アウトラインを書く。
15	レポートを書く。
16	定期試験

■参考文献

『果てなく美しい日本』 Donald・キーン 講談社学術文庫
『日本人の発想・日本語の表現』 森田良行 中公新書

科目名	日本語Ⅳ－C		
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

口頭表現・文章表現の応用能力の習得を到達目標とする。特に教科書に掲載の「二項対立」の文章を精読し、ディベートマッチに備える。ディベート活動で収集した資料に基づいて、各自テーマを決め意見文を完成させる。これらの活動を通じて読む力、聞く力、発表する力、書く力を向上させる。

■授業の進め方（履修条件等）

「日本語Ⅲ」と同様に教科書に沿って授業を進めていく。同じテーマの新聞教材を読み理解を深めたり、DVDを見て感想を発表したり感想文・意見文を書いて提出する。読解では文法的・意味的關係を捉える練習をし設問に答える。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業内小テスト10%、レポートおよびその他の課題30%、出席10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：配布された語彙表の漢字の読み方と意味を調べておく。
復習：添削後返却された小レポートの誤用を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円

■授業内容

授業項目	授業内容
1	「二項対立を見抜く」・死刑制度廃止論
2	「二項対立を見抜く」・外国人の参政権
3	「筆者の立場を見抜く」・環境税導入
4	「筆者の立場を見抜く」・夫婦別姓制度
5	新聞教材を読む。
6	「日本文化論」を読み設問に答える。
7	DVDを見て、識者の意見をまとめる。
8	「貨幣」について読み設問に答える。
9	「文章を整理して理解する」・国際関係におけるNGOの意義
10	「文章を整理して理解する」・IT革命が企業を変える。
11	ディベートマッチの準備
12	テーマを決める。立論を考える。
13	反論の準備・役割分担
14	ディベートマッチ評価とコメント
15	意見文を書く。
16	定期試験

■参考文献

『留学生のための時代を読み解く上級日本語』
スリーエーネットワーク
『石原千秋先生の国語教室』 読売新聞社

科目名	英会話 I		
08年度入学：英会話 I			
担当者	ニック・デルマン		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

自分自身や趣味、身の周りのことを英語で話すことに慣れ、また相手に質問して会話を広げながら、英語を用いてコミュニケーションすることの楽しさを実感する。ネイティブスピーカーと英語を話すことに慣れ、基本的な日常会話表現を身に付けることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、会話の土台となる文法事項を確認する。その後、トピック別の対話練習を行い、単語ではなくセンテンスで発話できるようにする。写真を見てそこから会話を広げるテクニックも学ぶ。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%） 会話クラスであるので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：事前配布プリントの完成、テキスト付属CDを用いてのリスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 1” (McMillan Languagehouse)を使用

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	講義ガイダンス Unit 1	講座内容・レッスンの進め方紹介、挨拶・自己紹介
2	Unit 1（続き）	相手に質問して会話を広げる/初対面の挨拶
3	Unit 2	疑問詞のつく質問を使いこなす/質問への答え方
4	Unit 2（続き）	趣味についての話題/空港での会話
5	Unit 3	大きさ・量についての質問/場所・方向の表現
6	Unit 3（続き）	写真を見ながら説明する/道を尋ねる・教える
7	Unit 4	過去のことを表現する/許可を求める
8	Unit 4（続き）	ホテルの予約をする/ Unit 1－4の確認テスト
9	Unit 5	現在完了形の会話での用い方/謝罪の表現
10	Unit 5（続き）	ホテルのチェックイン/スポーツの話題
11	Unit 6	未来の予定、状況について話す/招待に関する表現
12	Unit 6（続き）	ショッピングを楽しむ
13	Unit 7	感謝の述べ方/ there ~の使い方
14	Unit 7（続き）	会話練習：書物とTVの話題について
15	総まとめ	前期学んだことの復習と自由会話、Q & A
16	定期試験	

科目名	英会話Ⅱ		
担当者	ニック・デルマン		
対象学年	1年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英会話の入門レベルを終えた学生を対象に、英語でのコミュニケーション上「言えること」ではなく、「言いたいこと」を自らの言葉でより多く発話できるように数多くの会話練習を行う。日常のトピックからディスカッションまで、ネイティブスピーカーとの会話の広がりを楽しむことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

自分自身や身の周りの事についてすでに簡単な会話ができるレベルを対象。様々なトピックについて会話を展開し、使える語彙を増やす。また文法知識を整理し、発話の正確さに活かす会話練習を数多く行う。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%） 会話クラスであるので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：付属CDを用いて、リスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 2” (McMillan Languagehouse)を使用

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス / Unit 1	テキストとレッスンの進め方紹介/会話の中の仮定法
2	Unit 1 (続き)	人に勧める表現 / ホームタウンについて話す
3	Unit 2	付加疑問文 / Short answer に慣れる
4	Unit 2 (続き)	旅行・休暇の過ごし方について話す
5	Unit 3	会話に便利な基本動詞を用いたイディオム
6	Unit 3 (続き)	レンタカーを借りる / 驚いた・困った経験を話す
7	Unit 4	近い未来を用いた表現 / 商品の返品
8	Unit 4 (続き)	遺失物取扱所での会話 / Unit 1-4 の確認テスト
9	Unit 5	I used to ~を用いた表現 / 不平を言う表現
10	Unit 5 (続き)	交通手段に関する表現 / 能力・実績について話す
11	Unit 6	不確定な予定について話す / 助言を与える・貰う
12	Unit 6 (続き)	部屋を借りる表現 / 予想・計画・希望について話す
13	Unit 7	受動態 / 意見を述べる、依頼する
14	Unit 7 (続き)	自己性格診断、写真を見ての会話展開練習
15	前期の総まとめ	前期学んだことの復習と自由会話、Q & A
16	定期試験	

科目名	英会話Ⅲ		
08年度入学：英会話Ⅱ			
担当者	ニック・デルマン		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語でのコミュニケーションにおいて、「言えること」ではなく「言いたいこと」がより多く発話できるようにしながら、実践に役立つ会話の広がりを楽しむ。

■授業の進め方（履修条件等）

自分自身や身の周りの事についてすでに簡単な会話ができるレベルを対象。毎回トピックに沿って会話を広げながら実践語彙を増やす。より「言いたいこと」を発話するための文法ポイントを確認し、様々な実践場面で役立つ会話を身につける。言語知識だけでなく、異なる文化を背景とする英語でのコミュニケーションに必要なテクニックを活用し、より効果的な発話につなげる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%） 会話クラスであるので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：付属CDを用いて、リスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（語彙暗記）

■教科書

New All Talk 2 David Peaty (Macmillan Language House) を使用

■参考文献

指定しない。

■授業内容

	授業項目	授業内容
前 期		
1	オリエンテーション / Unit 1	テキスト・レッスンの進め方 / 仮定法を会話に生かす
2		人に勧める表現 ホームタウンについて話す
3	Unit 2	Tag Question / Short answer に慣れる
4		ホリデーについて話す
5	Unit 3	会話に便利な基本動詞を用いたイディオム
6		レンタカーを借りる / 驚いた・困った経験を話す
7	Unit 4	I was going to ~を用いた表現 / 商品の返品
8		遺失物取り扱い所での会話 / Unit 1-4 の確認テスト
9	Unit 5	I used to ~を用いた表現 / 不平を言う表現
10		交通手段に関する表現 / 能力・実績について話す
11	Unit 6	不確定な予定について話す / 忠告を与える・もらう
12		部屋を借りる表現 / 予想・計画について話す
13	実践英会話	自由英会話 / ディスカッション
14		時事トピックについての会話
15	前期の総復習	
16	定期試験	

科目名	英会話Ⅳ		
担当者	ニック・デルマン		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

英語でのコミュニケーションにおいて、「言えること」ではなく「言いたいこと」がより多く発話できるようにしながら、実践に役立つ会話の広がりを楽しむ。

■授業の進め方（履修条件等）

自分自身や身近の事についてすでに簡単な会話ができるレベルを対象。毎回トピックに沿って会話を広げながら実践語彙を増やす。より「言いたいこと」を発話するための文法ポイントを確認し、様々な実践場面で役立つ会話力を身につける。言語知識だけでなく、異なる文化を背景とする英語でのコミュニケーションに必要なテクニックを活用し、より効果的な発話につなげる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%） 会話クラスであるので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：付属CDを用いて、リスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（語彙暗記）

■教科書

New All Talk 2 David Peaty (Macmillan Language House) を使用

■参考文献

指定しない。

科目名	ビジネス英語Ⅰ		
08年度入学：ビジネス英語			
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino		
対象学年	1～2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

経済のグローバル化が進む中、日本の企業でも英語を公用語化するなど、ビジネス英語の必要性が高まっています。この授業では、こうした動きに対応できるよう、ビジネスの様々な場面で英語コミュニケーションに触れ、その基礎力を固めることを目指します。また、TOEIC受験の準備にも役立つ授業を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを通じて国内外のビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディング力を向上させ、ビジネス英語を身近に感じられるようにして行きます。

■成績評価方法・基準

平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。

■教科書

First Steps to Office English (Tae Kudo著、センゲーラーニング)

■参考文献

授業内で指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
後 期	
1	オリエンテーション / Unit 7
2	受動態を会話に生かす / 自分の意見を述べる
3	人の性格・プロフィールについて話す
4	too ~ to, enough to を用いた表現
5	賛成・反対を表す / Unit 5-8 の確認テスト
6	Unit 8
7	Unit 9
8	直接 / 間接話法の会話での用い方
9	電話英語の基本表現を学ぶ
10	Unit 10
11	コミュニケーションテクニックを効果的に用いる
12	結婚関連の話題について話す
13	Unit 11
14	様々な予約を取る表現 / 場所を正確に表現する
15	Unit 12
16	外国の都市・自分の国について話す
17	関係詞を用いて文を長くしてみる
18	つなぎ言葉を用いて手順を説明する
19	実践英会話
20	自由英会話 / ディスカッション
21	時事トピックについての会話
22	後期の総復習
23	定期試験

■授業内容

授業項目	授業内容
1	導入
2	Unit 1-①
3	Unit 1-②
4	Unit 2-①
5	Unit 2-②
6	Unit 3-①
7	Unit 3-②
8	Unit 4-①
9	Unit 4-②
10	Unit 5-①
11	Unit 5-②
12	Unit 6-①
13	Unit 6-②
14	Unit 7-①
15	Unit 7-②
16	定期試験

科目名	ビジネス英語Ⅱ		
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino		
対象学年	1～2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

経済のグローバル化が進む中、日本の企業でも英語を公用化するなど、ビジネス英語の必要性が高まっています。この授業では、こうした動きに対応できるよう、ビジネスの様々な場面の英語コミュニケーションに触れ、その基礎力を固めることを目指します。また、TOEIC受験の準備にも役立つ授業を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを通じて国内外のビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディング力を向上させ、ビジネス英語を身近に感じられるようにして行きます。

■成績評価方法・基準

平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。

■教科書

First Steps to Office English (Tae Kudo著、センゲージラーニング)

■参考文献

授業内で指示します。

科目名	時事英語Ⅰ		
08年度入学：時事英語			
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino		
対象学年	1～2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

世界中で起こっている色々な出来事の多くは私達の生活とも密接に関連しています。テレビ、新聞、インターネットなどで報じられる英語ニュースを読んだり聞いたりして英語力のアップをはかるとともに、私達をとりまく様々な問題や出来事についての関心を深め、視野を広げて行きましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

右記のような種々のトピックをめぐり、よく使われる英語表現を学習し、時事英語の基礎力を固めましょう。また、テレビやネットに登場した最新の英語ニュースと一緒に学習し考察して行きましょう。

■成績評価方法・基準

平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。

■教科書

配布プリント（教科書不使用）

■参考文献

授業内で指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	前期試験の返却・解説、後期の導入等
2 Unit 8-①	催し物への招待・感謝①
3 Unit 8-②	催し物への招待・感謝②
4 Unit 9-①	職場での雑談①
5 Unit 9-②	職場での雑談②
6 Unit10-①	会社の所在地や配置について聞く・話す①
7 Unit10-②	会社の所在地や配置について聞く・話す②
8 Unit11-①	道案内①
9 Unit11-②	道案内②
10 Unit12	オフィス機器の使い方を聞く・話す
11 Unit13	出張先のホテルでのチェックイン・チェックアウト
12 Unit14	出張先での買い物
13 Unit15	出張先での外食
14 応用①	英語での会議
15 応用②	英語でのビジネス交渉
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	時事英語とは？+最新ニュース
2 トピック1-①	天気ニュース・天気予報①
3 トピック1-②	天気ニュース・天気予報②
4 トピック2-①	災害・事故ニュース①
5 トピック2-②	災害・事故ニュース②
6 トピック3-①	スポーツ・ニュース①
7 トピック3-②	スポーツ・ニュース②
8 トピック4-①	エンタメ・ニュース①
9 トピック4-②	エンタメ・ニュース②
10 トピック5-①	環境問題ニュース①
11 トピック5-②	環境問題ニュース②
12 トピック6-①	国内政治・経済ニュース①
13 トピック6-②	国内政治・経済ニュース②
14 まとめ①	まとめ①+応用
15 まとめ②	まとめ②+応用
16 定期試験	

科目名	時事英語 II		
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino		
対象学年	1 ~ 2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

世界中で起こっている色々な出来事の多くは私達の生活とも密接に関連しています。テレビ、新聞、インターネットなどで報じられる英語ニュースを読んだり聞いたりして英語力のアップをはかるとともに、私達をとりまく様々な問題や出来事についての関心を深め、視野を広げて行きましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

右記のような種々のトピックをめぐり、よく使われる英語表現を学習し、時事英語の基礎力を固めましょう。また、テレビやネットに登場した最新の英語ニュースと一緒に学習し考察して行きましょう。

■成績評価方法・基準

平常点50%（出席、授業態度、小テスト等）、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業内で予習必要箇所を指示します。
復習：授業内で復習必要箇所を指示します。

■教科書

配布プリント（教科書不使用）

■参考文献

授業内で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	前期のまとめ、後期の導入	前期試験の返却・解説等+最新ニュース
2	トピック1-①	夏休み中に報じられた重要ニュース①
3	トピック1-②	夏休み中に報じられた重要ニュース②
4	トピック2-①	犯罪ニュース①
5	トピック2-②	犯罪ニュース②
6	トピック3-①	科学・医療ニュース①
7	トピック3-②	科学・医療ニュース②
8	トピック4-①	スポーツ・エンタメ・ニュース①
9	トピック4-②	スポーツ・エンタメ・ニュース②
10	トピック5-①	国際政治経済ニュース①
11	トピック5-②	国際政治経済ニュース②
12	トピック6-①	ビジネス・ニュース①
13	トピック6-②	ビジネス・ニュース②
14	まとめ①	まとめ①+応用
15	まとめ②	まとめ②+応用
16	定期試験	

科目名	敬愛プログラム		
08年度入学：敬愛プログラム			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果は公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。

■成績評価方法・基準

公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。

■授業の予習・復習

自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならない。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。

■授業内容

■敬愛プログラムのテーマ例

- ①千葉を知る（歴史、地理、経済、文化、環境など）
- ②大学を活性化する（教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど）
- ③敬愛人講座を実践する

科目名	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)		
08年度入学：スポーツ教育			
担当者	藤田 明男 Akio Fujita		
対象学年	1～2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

スポーツを通して体力づくり、仲間づくり、健康づくりをめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

学内（敬愛アリーナ）で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。運動着および運動靴（赤い靴紐を右靴につけたもの）を必ず着用する。

■成績評価方法・基準

出席状況（50%）、実技テスト（50%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ることが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男『バドミントン教室』大修館書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2 バトボン	ハーフコートシングルス
3 //	//
4 //	//
5 //	//
6 //	オールコートダブルス
7 //	//
8 //	//
9 //	//
10 ミニバレーボール	四人制バレーボール
11 //	//
12 //	//
13 //	//
14 //	//
15 //	//
16 定期試験	

科目名	スポーツ教育Ⅰ (シーズンスポーツⅠ：ゴルフ)		
08年度入学：シーズンスポーツ			
担当者	藤田 明男 Akio Fujita		
対象学年	1～2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

生涯スポーツを楽しむ基礎知識と基礎技術を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

学外で3泊4日の集中授業（ゴルフ：ショートコース）を実施する。履修には実習費が必要となる。日程及び場所は別途連絡。

■成績評価方法・基準

学習態度およびテストで評価する。

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ることが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

なし

科目名	スポーツ教育Ⅲ (シーズンスポーツⅢ：ゴルフ2)		
08年度入学：シーズンスポーツ			
担当者	藤田 明男 <i>Akio Fujita</i>		
対象学年	1～2年	単位	1単位

- 授業のねらいと到達目標
生涯スポーツを楽しむ基礎知識と基礎技術を学ぶ。
- 授業の進め方（履修条件等）
学外で3泊4日の集中授業（ゴルフ：本コース）を実施する。
履修には実習費が必要となる。日程及び場所は後日連絡。
- 成績評価方法・基準
学習態度およびテストで評価する。
- 授業の予習・復習
予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。
復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。
- 教科書
なし
- 参考文献
なし

科目名	哲学 (働くこと・生きること・愛すること)		
08年度入学：哲学Ⅰ			
担当者	高島 明 <i>Akira Takashima</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

- 授業のねらいと到達目標
哲学を学ぶということは、どのような意義があり、これが自己実現にどのように役立つのかを考察する。思考力の育成に努める。
- 授業の進め方（履修条件等）
哲学の課題を与えるのでそれについて考えてもらい、その後授業を通して答えていくという形式で授業を進める。
- 成績評価方法・基準
定期試験（60％）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40％）
2／3以上、授業に出席すること。
- 授業の予習・復習
予習：次週に行う箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。
復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。
- 教科書
高島明著『生きることと愛すること』
- 参考文献
高島明（共）著『増補版ロゴスと神話』高文堂出版社
O・ハンセン著『20世紀からの手紙』山本隆久・高島明訳
シャローム印刷

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	なぜ哲学が必要なのか
2 哲学の定義	ラッセルの哲学の定義
3	ヤスパースの哲学の定義
4 哲学と哲学教育の在り方	哲学理解を妨げる三つの事情
5	哲学を学ぶ意義
6	ソクラテス・プラトン・アリストテレスの哲学
7 古代ギリシャの哲学	なぜ古代ギリシャの哲学を学ぶのか
8	日本人は道徳的かつ感情的、欧米人は宗教的かつ論理的である
9 ハイデッガーの「貧しさ」について	考えるとは
10	「貧しく・清く・美しく」生きること
11 労働観の変遷	旧約聖書・アリストテレス・ルターとカルヴァンの労働観
12	ヘーゲルとマルクスの労働観
13 キルケゴールの思想	「愛の三段階」「あれかこれか」
14 偽りの宗教と本当の宗教	信教の自由
15	日本仏教とキリスト教の特徴
16 定期試験	

科目名	心理学		
08年度入学：心理学Ⅰ			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

「行動科学」とも呼ばれている心理学の研究手法、研究成果を理解し、人間の行動を心理学的に理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的な研究例を取り上げ、初学者でも分かるように概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（10％）

■授業の予習・復習

■教科書

授業時に資料を配付する。

■参考文献

重野純『キーワードコレクション心理学』新曜社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	心理学とは	行動科学としての心理学
3	心理学の方法（1）	観察法、実験法について具体例をあげて解説
4	〃（2）	質問紙法、事例研究法などについて解説
5	心理学のもののとらえ方	心をどう考えるか、心を知るための研究とは
6	感覚・知覚（1）	視覚情報の入り口である目について解説
7	〃（2）	視覚の特性
8	〃（3）	錯視・錯覚現象について
9	学習（1）	古典的条件付け
10	〃（2）	道具的条件付け
11	〃（3）	学習理論と日常生活について
12	記憶（1）	記憶の構造について
13	〃（2）	記憶の種類（短期記憶と長期記憶）
14	〃（3）	忘却について
15	まとめ	まとめと質問
16	定期試験	

科目名	社会心理学		
08年度入学：心理学Ⅱ			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

対人行動に関連する心理学の研究成果を概観し、人間の行動に対して他者や環境がどのように影響を及ぼしているか心理学的に理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的な研究例を取り上げ、わかりやすく概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（10％）

■授業の予習・復習

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

使用しない。

■参考文献

重野純『キーワードコレクション心理学』新曜社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	動機（1）	動機の種類について
3	〃（2）	動機の働きについて
4	〃（3）	日常生活における動機について
5	感情、表情	シャクターの情動二要因説
6	性格（1）	性格の記述方法について
7	〃（2）	類型論、特性論
8	〃（3）	測定方法、性格検査について
9	〃（4）	性格に関しての事例研究の紹介
10	社会と個人	個人が集団からどのように影響を受けるか
11	態度変化（1）	態度変化はどのような状況で生じるのか
12	〃（2）	説得行動に関する代表的研究の紹介
13	〃（3）	日常生活における説得行動について
14	対人魅力	対人魅力を規定している要因について
15	まとめ	まとめと質問
16	定期試験	

科目名	日本の文学		
08年度入学：文学 I			
担当者	畑中 千晶 <i>Hatanaka Chiaki</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

人の「心の闇」を浮き彫りにしていく西鶴の短編小説を読みま
す。自分なりの視点で作品の謎に迫ることができるようになる
こと、これが到達目標です。文学を学ぶということは、文学史
を暗記することでも、有名な学説を覚えて唱えることでもあ
りません。自分の力で作品に向き合い、「読む」力を鍛えるこ
となのです。

■授業の進め方（履修条件等）

300年以上も前に書かれた日本語を読みます。つまり「古文」。
しかし、恐れる必要はありません。やさしい現代語訳付きのテ
キストを用います。留学生は、日本語能力試験N1（1級）程
度の日本語力を持つほうが望ましいでしょう。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通して流れを理解しておく。特に留学生
の場合は予習が必須です。
復習：クラスで出題されたタスクに取り組み、次回のクラスで
提出する。

■教科書

西鶴研究会編（2004）『西鶴が語る江戸のミステリー』
ぺりかん社

■参考文献

江本裕/谷脇理史編（1996）『西鶴事典』おうふう
乾克己/小池正胤/志村有弘/高橋真/鳥越文蔵編（1986）
『日本伝奇伝説大事典』角川書店

科目名	比較文学		
08年度入学：文学 II			
担当者	畑中 千晶 <i>Chiaki Hatanaka</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

異文化接触が人の精神・考えにどのような影響を及ぼすのか、
具体的な材料に基づいて語れるようになることが到達目標です。
この講義では、比較文学の方法論を用いて、①日本の作家が英
米文化をどのように理解し受容したのか、②来日外国人が日本
文化をどのように理解し受容したのか、この両面から検討を行
います。

■授業の進め方（履修条件等）

「比較文学」という学問の性質上、講義で用いる日本語レベル
は高度なものとなります。留学生の場合には、日本語能力試験
N1（1級）取得者であるか、もしくはそれに相当する日本語
理解力が必要です。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：配布資料に目を通す。
復習：指定の形式でノートを整理し、学習内容について再考す
る時間を持つ。

■教科書

配付資料を用いる。

■参考文献

秋山正幸/榎本義子編（2005）『比較文学の世界』南雲堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、「読む」ということ
2 読み始める前に	江戸時代について
3	西鶴について（映像資料を含む）
4 「殺されたふたりの女商人」	内容読解
5	ファンタジーの構造、本当は怖い後日譚
6 「一生にただ一人の男」	内容読解
7	空白（抜けている情報）を読む
8 「少女と異人殺し」	内容読解
9	悪の魅力、親子の物語
10 「瓜ふたつの謀略」	内容読解
11	心の謎を読む
12 「口は禍の門」	内容読解
13	謎絵が語っているものは
14 「逃げて追いついて来る怨霊」	内容読解
15	容姿の美醜という裏テーマ
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方など
2 総論 1	比較文学とは
3 総論 2	比較研究と対照研究
4 総論 3	文学と他の芸術
5 総論 4	越境する文学
6 夏目漱石におけるイギリス 1	略年譜、留学時代について
7 夏目漱石におけるイギリス 2	『カーライル博物館』の読解と分析
8 夏目漱石におけるイギリス 3	『倫敦塔』の分析、印象派の絵画との対比
9 有島武郎におけるアメリカ 1	略年譜、父の存在、キリスト教との出会い
10 有島武郎におけるアメリカ 2	留学時代、ホイットマン
11 有島武郎におけるアメリカ 3	『或る女』『カインの末裔』のあらすじ、 分析
12 ラフカディオ・ハー ンの日本 1	略年譜、文化的混淆、マイノリティの自覚
13 ラフカディオ・ハー ンの日本 2	『怪談』『耳なし芳一』『雪女』（映像視 聴・原文読解）
14 ラフカディオ・ハー ンの日本 3	新たに植え直された伝説
15 まとめ	学習内容の整理、補足項目等
16 定期試験	

科目名	歴史学		
08年度入学：歴史学 I			
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を見につけさせることが、本講義の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明しながら「協調」と「追隨」の功罪などを解説する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート（感想文や課題文）、出席状況などで評価する。

■授業の予習・復習

予習：前もって配布した「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。
復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。

■教科書

加藤哲郎『戦後意識の変貌』（岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No14、1989年）

■参考文献

- ①奥井知之『日本問題』（中公新書、1994年）
- ②富永健一『近代化の理論—近代化における東洋と西洋』（講談社学術文庫、1996年）
- ③野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』（日本経済新聞社、1993年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。
3 明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点
4 同上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景
5 同上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦
6 戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入欧」と変更されるアメリカの占領政策
7 「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味
8 模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭
9 石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来
10 日米経済摩擦	経済大国ジャパンの出現と日本異質論の台頭
11 バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析
12 湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一国繁栄主義」の日本
13 小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産
14 中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題
15 サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景
16 定期試験	

科目名	法学		
08年度入学：法学 I			
担当者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をおして法律学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方（legal mind）を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとく流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版

■参考文献

『コンサイス六法』三省堂

■授業内容

回数	授業内容
1	受講のガイダンス
2	法とはなにか
3	法と法則、法と道徳（法と道徳の相異、法と道徳の関係）
4	法の構造（規範構造からみた法と道徳の相異）
5	法の目的1（正義、法的安定性）
6	法の目的2（具体的事例の検討、比較法的考察）
7	法源論
8	成文法
9	不文法（慣習法、判例法）
10	法の分類（法二分説、法三分説など）
11	法の適用と解釈
12	法の実質的効力（規範的妥当性、実効性）
13	法の形式的効力（時間、場所、人）
14	権利と義務
15	まとめおよび質疑
16	定期試験

科目名	憲法 I		
08年度入学：憲法 I			
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>		
対象学年	1 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日本国憲法の基本原理、主として、国家による国民の基本的人権の保障の仕組みを理解し、その上で、それらの知識を国民生活に生かせることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールに従って授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時にはコピーした資料を配布したりして理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績やレポートおよび出席状況などを基に総合的に判定する。

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールに従って教科書をしっかり読むこと。

復習：授業の内容を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

■教科書

小林昭三監修 憲法政治学研究会編『日本国家法講義』成文堂

■参考文献

宮沢俊義著『憲法Ⅱ』（基本的人権）有斐閣法律学全集

■授業内容

授業項目	授業内容
1 憲法の原理（1）	明治憲法の制定とその基本原理
2 // （2）	日本国憲法の制定とその基本原理
3 天皇制と国民主権	天皇制の存続と国民主権との調和
4 憲法における平和主義	憲法前文および憲法9条と世界における日本の役割
5 基本的人権の保障（1）	基本的人権確立の意義とその歴史
6 // （2）	自由権の保障から社会権の保障へ
7 基本的人権の享有	自然人・法人・外国人の人権保障
8 法の下での平等	平等と合理的差別
9 基本的人権の限界	個人の尊厳と合理的差別
10 自由権の保障（1）	精神的自由の保障
11 // （2）	社会経済活動の自由の保障
12 // （3）	身体的活動の自由の保障
13 社会権の保障（1）	生存権の保障
14 // （2）	労働者の諸権利および教育権の保障
15 国家に対する請求権の保障	請求権の種類とその内容
16 定期試験	

科目名	憲法Ⅱ		
08年度入学：憲法Ⅱ			
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>		
対象学年	1 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日本国憲法の基本原理、主として、国家による統治機構の仕組みを理解し、その上で、それらの知識を国民生活に生かせることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールに従って授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時にはコピーした資料を配布したりして理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績やレポートおよび出席状況などを基に総合的に判定する。

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールに従って教科書をしっかり読むこと。

復習：授業の内容を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

■教科書

小林昭三監修 憲法政治学研究会編『日本国憲法講義』成文堂

■参考文献

清宮四郎著『憲法Ⅰ』（統治機構）有斐閣法律学全集

■授業内容

授業項目	授業内容
1 権力分立（三権分立）制	権力分立制確立の意義とその歴史
2 天皇制（1）	天皇制維持の歴史的過程
3 // （2）	象徴天皇と国民主権
4 国会と立法（1）	国会の構成とその活動
5 // （2）	国会および議員の権能
6 // （3）	国会議員の特権と国民主権
7 内閣と行政（1）	議院内閣制と内閣の権能
8 // （2）	内閣総理大臣および国務大臣の機能と国民主権
9 裁判所と司法（1）	司法権の意義と裁判所の構成・役割
10 // （2）	規則制定権および違憲立法審査権
11 // （3）	最高裁判官の国民審査と国民主権
12 財政と行政国家（1）	財政に関する憲法上の原則
13 // （2）	予算制度および決算制度に関する原則
14 地方自治と住民自治（1）	地方自治の原理と地方公共団体の権能
15 // （2）	地方分権改革
16 定期試験	

科目名	政治学		
08年度入学：政治学Ⅰ			
担当者	榊田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

国際学を学ぶための一つの方法論である政治学を学びます。なお、授業では、政治学の基礎概念や理論に重点を置いています。が、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
 復習：わからなかったことを自分で調べ、ノートに整理して下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）』（有斐閣、2003年）他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 政治を見る目	最近の日本の政治の動向
3 国家（1）	権力
4 ——（2）	国家
5 ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
6 ——（2）	民族のナショナリズム
7 民主政治（1）	民主政治の起源
8 ——（2）	民主政治の実態
9 ——（3）	民主政治への模索
10 ——（4）	民主政治制度の多様性
11 選挙（1）	選挙制度
12 ——（2）	選挙制度に関する考察
13 政治組織（1）	政党
14 ——（2）	利益集団
15 ——（3）	日本の政治と政党
16 定期試験	

科目名	日本の政治		
08年度入学：政治学Ⅱ			
担当者	榊田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論Ⅰで学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本の政治の中でどのように展開しているのかについて政治の実態を具体的に理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。
 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）』（有斐閣、2003年）他。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	国際社会の中における日本
2 政治を見る目（1）	日本政治が直面している課題
3 ——（2）	最近の日本政治の動向
4 行政部（1）	内閣・行政部の役割
5 ——（2）	行政部の現状と問題点
6 立法部（1）	国会の役割
7 ——（2）	立法過程
8 ——（3）	立法の現状と問題点
9 司法部（1）	司法部の役割
10 ——（2）	市民の司法参加
11 日本政治の諸問題	行政、立法、司法を通してみた日本政治の問題点
12 世論について	世論とマスコミ
13 地方自治と分権（1）	地方自治と分権をめぐる現状
14 ——（2）	地方自治と分権の今後
15 日本政治の今後	変革の時代を生きる
16 定期試験	

科目名	社会学		
08年度入学：社会学Ⅰ			
担当者	菊池 真弓 <i>Mayumi Kikuchi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。

また、家族、地域社会の基本的な視点を学び、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている虐待、介護、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考える力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方は、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材などの資料に基づき、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、授業内小レポート（20%）、授業態度（10%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次の講義までに指示するテキストを熟読して講義に臨むこと。

復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。
②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。

■教科書

久門道利他『スタートライン現代社会の諸相—社会学の視点』弘文堂、2008年

科目名	数学Ⅰ		
08年度入学：数学			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数の基礎部分を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房

■参考文献

齋藤正彦著『線型代数入門』東京大学出版会
高木貞二著『解析概論』岩波書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会学とは何か	社会学的な視点・方法
2	社会的存在としての人間	社会集団と文化
3	社会学の歴史（1）	社会学の成立・確立・展開（1）
4	社会学の歴史（2）	社会学の成立・確立・展開（2）
5	家族	家族とは、機能と役割
6	地域社会	都市と農村、コミュニティ形成
7	社会問題とは何か	社会問題の定義・視点
8	現代社会の社会問題（1）	少子高齢社会の現状と課題
9	現代社会の社会問題（2）	社会福祉の現状と課題
10	現代社会の社会問題（3）	環境問題の現状と課題
11	現代社会の社会問題（4）	ジェンダーの現状と課題
12	情報化	メディアの変容と情報化
13	国際化	エスニシティと地域社会
14	運動・ネットワーク	ネットワーキングと社会運動
15	社会学を応用する	社会調査・社会計画とは
16	定期試験	

■参考文献

秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991年森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	概論	線形代数論の紹介
2	行列	行列の定義、行列の演算
3	〃	特殊な行列、ベクトル、単位行列
4	〃	行列の演算の諸性質
5	〃	正方行列、逆行列の存在について
6	行列式	互換、奇順列、偶順列
7	〃	行列式の定義、計算例
8	〃	行列式の四つの特性（1）
9	〃	行列式の四つの特性（2）
10	〃	行列式の計算の簡素化
11	〃	行列式の計算の簡素化（余因子）
12	〃	行列式の余因子展開
13	行列と行列式	逆行列の求め方
14	〃	正則行列とその行列式の値（1）
15	〃	正則行列とその行列式の値（2）
16	定期試験	

科目名	数学Ⅱ		
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数と微積分の基礎部分を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

「数学Ⅰ」に続く講義である。「数学Ⅰ」を履修済みのこと。基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房

■参考文献

齋藤正彦著『線型代数入門』東京大学出版会

高木貞二著『解析概論』岩波書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 行列と行列式	連立一次方程式とクラメルの公式
2 ベクトル	ベクトルの一次独立、一次従属
3 //	斉次連立一次方程式と非自明解
4 //	行列の階数（1）
5 //	行列の階数（2）
6 概論	微積分学の紹介
7 準備	実数、数列の極限、関数の連続
8 //	三角関数と指数関数の定義
9 微分	微分の定義、微分の公式
10 //	多項式の微分
11 //	指数関数の微分
12 //	三角関数の微分
13 積分	原始関数、定積分
14 //	定積分と図形の面積、不定積分
15 //	微積分学の基本定理
16 定期試験	

科目名	統計学Ⅰ		
08年度入学：統計学			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

小寺平治著『新統計学入門』裳華房

■参考文献

東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 概論	
2 標本データの記述	データの分類、グラフによる表示
3 //	算術的記述
4 //	標準偏差の意味
5 //	中央値、最頻値
6 確率	標本空間、事象の確率
7 //	加法、乗法の定理
8 //	独立事象の乗法の定理
9 //	ベイズの定理
10 //	計数の方法、順列組合せ（1）
11 //	計数の方法、順列組合せ（2）
12 確率分布	確率変数、期待値、分散
13 //	離散型変数、連続型変数
14 //	確率分布の性質（1）
15 //	確率分布の性質（2）
16 定期試験	

科目名	統計学Ⅱ		
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

「統計学Ⅰ」に続く講義である。「統計学Ⅰ」を履修済みのこと。基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

小寺平治著『新統計学入門』裳華房

■参考文献

東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 主な確率分布	二項分布
2 //	正規分布（1）
3 //	正規分布（2）
4 //	大数の法則、中心極限定理
5 標本抽出	無作為抽出、不偏推定値
6 //	正規母集団からの抽出（1）
7 //	正規母集団からの抽出（2）
8 //	非正規母集団からの抽出
9 推定	点推定と区間推定
10 //	点推定の考え方とその手順
11 //	区間推定
12 仮説検定	検定の考え方
13 //	正規母集団に対する仮説検定
14 相関と回帰	直線回帰
15 //	最小二乗法
16 定期試験	

科目名	環境科学		
08年度入学：環境科学Ⅰ			
担当者	中村 圭三 <i>Keizo Nakamura</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

今日、地球環境は急激に変化しつつある。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのだろうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項をテキストの「基礎技法」で学習する。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

出席30%、定期試験70% の比率で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。

復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境科学概説
2 オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策
3 地球温暖化（1）	地球温暖化の発生原因
4 地球温暖化（2）	地球温暖化の影響と対策
5 環境と気象・気候（1）	山の気象・気候
6 環境と気象・気候（2）	海岸の気象・気候
7 環境と気象・気候（3）	平地の気象・気候
8 環境と気象・気候（4）	都市の気候
9 気候と生物	生物季節
10 酸性雨（1）	酸性雨の発生原因
11 酸性雨（2）	酸性雨の現状
12 酸性雨（3）	酸性雨の影響と対策
13 生活と環境（1）	水質
14 生活と環境（2）	水の利用
15 まとめ	総括
16 定期試験	

科目名	地球科学		
08年度入学：地球科学 I			
担当者	濱田 浩美 <i>Hiroimi Hamada</i>		
対象学年	1 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

地球誕生46億年の歴史を少しずつも解き、人間をとりまく地球科学的現象の基礎を理解する。太陽系惑星の中で唯一、大気と水が奇跡的に存在している地球の素晴らしさを改めて考え、地球科学的な見方を身につける。また、人間をとりまく水圏、地圏、気圏の各方面における現象の基礎を理解し、近年の地球環境問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

宇宙、太陽系と惑星の誕生に始まり、地球が形成され、今の我々人類の生活している地球を地質学、環境地球科学の観点から理解する。授業ではVTR、パワーポイントを多用し、視覚的に印象に残る講義を目指す。

■成績評価方法・基準

定期試験（35%）レポートおよびその他の課題（30%）・出席（35%）出席を重視する。出席率が不足している学生は定期試験を受験することができない。不公平のないよう、厳密に対処する。

■授業の予習・復習

予習：特に指定しないが、授業中に課題を課すことがある。
復習：黒板の利用も多く、次回講義までにノートに板書の整理をおこなう。

■教科書

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	情報概論		
08年度入学：情報概論			
担当者	井手 雅哉 <i>Masaya Ide</i>		
対象学年	1 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

コンピュータを用いた情報処理の概要解説をとおり、基礎的知識を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

通常の講義形式で、プリントを配布。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

■授業の予習・復習

予習：参考文献に目を通す

■教科書

なし

■参考文献

石田晴久、『新パソコン入門』（岩波新書新赤版）、岩波書店。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義の目的と内容の概要、地球科学とは
2 地球誕生	太陽系
3	太陽の誕生・惑星・地球の誕生
4 大気と海の誕生	惑星の大気と海
5	大気の進化と地球環境
6 陸の誕生	陸の起源・地殻とマントル
7	陸の誕生と成長
8	プレームテクトニクス
9 プレートテクトニクス	プレートテクトニクス
10	テクトニクスによる地球の変化
11	水循環と水収支
12 水環境の変化	水質測定
13	湖沼・河川
14 大気環境の変化	都市の大気環境
15	大気成分の変化と地球環境
16 定期試験	

■参考文献

必要な場合指示する。

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 情報処理とデジタルデータ	情報処理とは、デジタルとアナログ
3	文字コード、画像の表現
4	情報処理システムの構成
5	コンピュータの種類、PCアーキテクチャ
6	CPU、主記憶装置
7 ハードウェアについて	補助記憶装置
8	出力装置（表示装置、印刷装置）
9	ハードウェアその他
10	ソフトウェアの概要
11 ソフトウェアについて	OS
12	アプリケーションソフト
13 ネットワークについて	ネットワークの概要
14	インターネットについて
15 動向	新技術など
16 定期試験	

科目名	Web デザイン		
08年度入学：Web デザイン			
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide		
対象学年	1 ～ 4 年	単 位	2 単位

■授業のねらいと到達目標

WWWのしくみやファイル群の構成について理解し、デザインソフトによる編集、サーバへのセットを実行することで情報を発信することにも興味をもってもらいたい。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）

前半は例題を用いて、しくみや基本的な編集作業をマスターする。後半は、それらを踏まえたうえで自分なりの作品造りに取り組んでもらい、応用的技法とあわせて内容を高めていく。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：作品の構想を練ったり、資料・素材を集めておく

■教科書

桑名由美、『はじめてのホームページビルダー 14』、秀和システム、2010.1.28.

■参考文献

■授業内容〔後期〕

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	WWWの基礎知識、Webデザインソフトの概要
3	テキストの編集
4 WWWの基礎知識とWebデザインの基本的技法の習得	画像の配置
5	ハイパーリンク等の設定
6	表の編集
7	フレーム
8	テーマの設定、準備
9	作品の作成作業、プラグインツールの利用
10	作品の作成作業、ロールオーバー効果の設定
11 Webデザインの実践と応用的技法の習得	作品の作成作業、スライドショー
12	作品の作成作業
13	作品の作成作業、アップロードの準備
14	作品の作成作業、サーバへのアップロード
15	作品の作成作業、カウンタなどの設置
16 定期試験	

科目名	Excel データ解析		
08年度入学：Excel データ解析			
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide		
対象学年	1 ～ 4 年	単 位	2 単位

■授業のねらいと到達目標

データの加工や解析に表計算ソフトを利用することで、初歩的な統計分析を手軽に実行できる力を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

①「情報基礎Ⅱ」の単位を取得していること、②「統計学」の単位を取得していることが望ましい。

理論的解説と例題を踏まえた上で、練習問題に取り組んでもらい、その提出（2週に1度の割合）によって評価をおこなう。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

復習：関連書籍が多数出版されているので、それらを用いて同様な問題に取り組んでみる

■教科書

なし

■参考文献

竹田聡、『Excelによる経済データ分析』、東京図書、2001.10.
P.G.ホーエル『初等統計学』、培風館

■授業内容〔後期〕

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 Excelの基本操作の復習	解説と例題 練習問題
3	
4 構成比、変化率	解説と例題
5	練習問題
6 寄与度・寄与率、幾何平均	解説と例題 練習問題
7	
8 度数分布、分散・標準偏差	解説と例題 練習問題
9	
10 アンケート等の集計	解説と例題 練習問題
11	
12	解説と例題 1
13 回帰分析と検定	解説と例題 2
14	解説と例題
15 まとめ	解答例解説
16 定期試験	

科目名	プログラミング入門VB		
08年度入学：プログラミング入門VB			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

プログラミングに必要な基礎知識を解説します。簡単なサンプルを介してプログラムの構造、流れを説明します。

■授業の進め方（履修条件等）

受講者は「情報処理」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。言語はVBを使用し、コードを記述するだけで動作する環境を用意します。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績50%、出席状況と授業態度50%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

林晴比古著『新Visual Basic入門』ソフトバンク

■授業内容

授業項目	授業内容
1	概論
2	// OS、言語の歴史
3	// CPU、メモリー、二進数
4	// p進数、補数
5	乱数機能 サイコロを一億回振る
6	// 円の面積を求める
7	// 数当てゲーム
8	計算機能 浮動小数点数（1）
9	// 浮動小数点数（2）
10	// 桁の大きい整数の四則演算（1）
11	// 桁の大きい整数の四則演算（2）
12	// 桁の大きい整数の四則演算（3）
13	// 階乗の計算（1）
14	// 階乗の計算（2）
15	// 階乗の計算（3）
16	定期試験

科目名	プログラミング入門 C		
08年度入学：プログラミング入門 C			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

C言語を用いた実習形式による基本的な短いプログラムの作成を通し、基礎的な知識の習得と、プログラミングに対する理解を目的とします。また、実際のプログラミングの問題点、OSやハードに関する理解を深めます。到達目標は、ある目的を達成するために、知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

C言語などの基礎的な知識については講義形式で行い、コンピュータを用いてプログラムを入力し動かします。パソコンでの文章作成やディレクトリなどの基本的な知識があれば、プログラムの経験がなくても可能です。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・課題提出（30%）・出席および取組姿勢（40%）

■授業の予習・復習

予習：特に必要ないが、キーボード入力の練習やWindowsのファイル操作など関連知識を確認すること。

復習：動かなかったプログラムは次回までに修正を済ませ、できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。

■教科書

配付資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション 講義方法・成績評価など
2	プログラミング概要 プログラミングとは何か
3	プログラムに関する基本 作業方法と文字の表示
4	C言語の基本 文字や数字を表示する
5	表示の方法を指定する 表示の種類や桁数を整える
6	計算プログラムの作成 変数を用いた数値計算
7	条件分岐 条件により処理を変える
8	条件と選択 入力により処理を選ぶ
9	反復型プログラム(1) while文
10	反復型プログラム(2) for文
11	いろいろな値の入力 キーボードからのデータ入力
12	関数の作成と利用 処理をまとめる
13	配列と構造体 複数の数値や文字の扱い
14	ポインタ データの物理的位置を利用する
15	ファイルの操作 ファイルへの入出力を行う
16	前期定期試験

■参考文献

高橋麻奈『やさしいC』ソフトバンククリエイティブ
内田智文『C言語によるプログラミング 基礎編』オーム社

科目名	プログラミング入門Perl		
08年度入学：プログラミング入門Perl			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

WWWサーバなどで使われているプログラミング言語Perlに関する基礎的な知識の習得を目的として、プログラミングに必要なOSやハードなどの周辺知識を含めて総合的に学習します。到達目標はプログラムとは何かを理解し、ある目的を達成するために知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

Perl言語の文法知識については講義形式で行い、コンピュータを用いてプログラムを入力し動かします。パソコンでの文章作成やディレクトリなどの基礎知識があれば、プログラミングの経験がなくても可能です。

■成績評価方法・基準

定期試験（30％）・課題提出（30％）・出席および取組姿勢（40％）

■授業の予習・復習

予習：特に必要ないが、キーボード入力の練習やWindowsのファイル操作などの関連知識を確認しておくこと。
復習：動かなかったプログラムは次回までに修正を済ませ、できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。

■教科書

配付資料

科目名	VBプログラミング		
08年度入学：VBプログラミング			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

基本的な制御文、配列、ファイルの取扱い等を確かに理解し、簡単なプログラムが作れるようになることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

受講者は「プログラミング入門」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。言語はVBを使用し、コードモジュールを完成するだけで動作する環境を用意します。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績50％、出席状況と授業態度50％

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。
復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

林晴比古著『新Visual Basic入門』ソフトバンク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義方法・成績評価など
2 プログラミング概要	プログラミングとは何か
3 プログラミング環境	作業で使うソフトの操作方法等
4 プログラムの基本構造	文字を表示する
5 計算をする	データの種類と演算子
6 数と文字列	変数の使い方
7 条件判断	条件により処理を変える
8 反復型プログラム	繰り返して処理を行う
9 リスト	複数データの取り扱い
10 配列	配列を用いた処理
11 ハッシュ	データと名前の組み合わせ
12 サブルーチン	処理をまとめる
13 正規表現の基本	文字や数字を比べる
14 ファイルとデータ	ファイルの入出力
15 プログラムの動作とモジュール	スクリプトを分ける
16 前期定期試験	

■参考文献

結城浩『新版Perl言語プログラミングレッスン入門編』ソフトバンククリエイティブ（株）
（株）アंक『Perlの絵本』

■授業内容

授業項目	授業内容
1 プログラミング	万年暦を作る（1）
2 //	万年暦を作る（2）
3 //	万年暦を作る（3）
4 //	乱数を作る（1）
5 //	乱数を作る（2）
6 //	乱数を作る（3）
7 //	有理数の循環小数表示（1）
8 //	有理数の循環小数表示（2）
9 //	有理数の循環小数表示（3）
10 //	順列組合せのファイル作成（1）
11 //	順列組合せのファイル作成（2）
12 //	順列組合せのファイル作成（3）
13 //	巡回セールスマン問題（1）
14 //	巡回セールスマン問題（2）
15 //	巡回セールスマン問題（3）
16 定期試験	

科目名	Cプログラミング		
08年度入学：Cプログラミング			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

C言語の基礎的なプログラムができることを前提に、コンピュータの特性や効率的なプログラミングのための流れ図の使い方や基本的なアルゴリズム、データ構造について学習します。講義の後半では、ある程度まとまった大きさのプログラムを作成し、大規模プログラムの構造やシステム開発などにも触れます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期のプログラム入門Cの継続科目となっていますので、前期の講義の履修が前提となります。関連知識については講義形式で行い、実際にもコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（30％）・課題提出（40％）・出席および取組姿勢（30％）

■授業の予習・復習

予習：特に必要ないが、前期の内容や関連用語を調べておくことが望ましい。パソコン操作に苦手意識のある人はキーボードの練習をして入力速度を高める。

復習：動かなかったプログラムは次回までに修正を済ませ、できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。

■教科書

配付資料

科目名	Perl プログラミング		
08年度入学：Perl プログラミング			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

WWWサーバで利用されるCGIプログラムの作成を中心に複数のシステムを利用するネットワークに関係したプログラムについて学習し、オブジェクト指向などを考慮したプログラムを作成する。到達目標はプログラムとは何かを理解し、自分で問題を発見し、その解決のための処理を行うためのシステムが構築できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

プログラム入門Perlの継続科目となりますので、前期の講義の履修が前提となります。文法などの基礎的な知識については講義形式で行い、実際にコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（30％）・課題提出（40％）・出席および取組姿勢（30％）

■授業の予習・復習

予習：特に必要ないが、前期の内容や関連用語を調べておくことが望ましい。パソコン操作に苦手意識のある人はキーボードの練習をして入力速度を高める。

復習：動かなかったプログラムは次回までに修正を済ませ、できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。

■教科書

配付資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方と成績評価方法
2 処理の流れと作図	プログラムの構造と流れ図
3 基本的なアルゴリズム	処理の流れを操作する
4 関数、データの取り扱い	関数・配列・ポインタ
5 構造体	複数の値をまとめて扱う
6 標準ライブラリの利用	既存の関数を使用する
7 ファイル処理	外部データの読み書き
8 サーチ	複数データから目的の値を探す
9 ソート	データを並び替える
10 リスト構造	関連を持つデータの作成
11 木構造	大小の関連を持つデータ構造
12 二分探索	効率的なデータ探索
13 ハッシュ関数	データを代表する数値の作成
14 アドレス帳の作成	プログラムの分割とコンパイル
15 プログラム作成まとめ	プログラム開発手順
16 後期定期試験	

■参考文献

田中和明「C言語10課データ構造とアルゴリズム編」
内田智史「C言語によるプログラミング応用編」

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方と成績評価方法
2 数値の計算	変数と演算子
3 プログラムの流れ	制御構造（選択・繰返）
4 プログラムの構造	サブルーチンとデータ構造
5 外部データの利用	データ探索を用いた簡易DB
6 外部との関連	OSを利用した操作
7 リファレンス	アドレスなどの利用
8 オブジェクト指向	Perlでオブジェクト指向
9 外部プログラムの利用	モジュールなどの使い方
10 WWWの基本構造	Webで用いられるHTML
11 CGIについての基礎知識	色の指定など
12 Webを使ったデータの送受信	データの送信、受信など
13 Webから入力されたデータの処理	双方向的なプログラム
14 CGIの活用	簡易掲示板の作成
15 WebとPerlを用いたデータの利用	XML等のデータ処理
16 前期定期試験	

■参考文献

結城浩「新版Perl言語プログラミングレッスン入門編」ソフトバンククリエイティブ
武藤健志他「独習Perl第2版」(株)翔泳社

科目名	情報検索入門		
08年度入学：情報検索入門			
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

研究や業務に携わる際、各種資料のサーベイやデータの収集は不可欠であるので、それらへアクセスする力を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）

前半は、資料に関するデータベースを利用する上での基礎的知識、各種資料検索ツールの存在とその操作法を解説する。後半は、各自が設定したテーマに沿った実践的な検索作業をおこなうことで、基礎的知識や操作法の定着を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：（土台作りとして）…日常から、読書等により教養を身に付けておく（ツールの操作法は知っていても、語彙が貧困だと有効な検索作業ができない）

復習：他の科目の資料収集の際に活用する

■教科書

なし

科目名	データベースオペレーションA・B		
08年度入学：データベース論Ⅰ			
担当者	成富 慶子 Keiko Naritomi		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている本講義ではデータベースソフトMicrosoft® Accessによる実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft® Accessの操作を中心にデータベースの構築・作成を行う

■成績評価方法・基準

出席点（40%）と実技テスト（60%）で総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する

復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する

■教科書

FOM出版『Microsoft® Access2007 基礎』

■参考文献

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	資料検索に関する基礎知識
3	資料リストの記述形式
4	本学メディアセンター OPAC
5 資料検索に関する基礎知識と各種検索ツール	学外における蔵書検索 (Webcat, NDL-OPAC)
6	雑誌記事の検索 (CiNii)
7	新聞記事の検索 (日系テレコン21など)
8	Web情報の検索 (サーチエンジン)
9	テーマ設定
10	資料リストの作成作業
11	資料リストの作成作業
12 検索作業の実践	資料リストの作成作業
13	資料リストの作成作業
14	資料リストの作成作業
15	資料リストの作成作業
16 定期試験	

■参考文献

小笠原喜康、『新版 大学生のためのレポート・論文術』、講談社（現代新書）、2009.11.20

有吉博文・日経テレコン21研究会、『日経テレコン21 新・完全活用ガイド』、日本経済新聞社、2003.10.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 データベースとは	Accessの機能と概要
3 データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成
4 テーブルⅠ	フィールドの設定、主キーの設定
5 テーブルⅡ	プロパティの設定、データの入力
6 リレーションシップ	設定方法と種類、参照整合性
7 クエリⅠ	フィールドの結合、演算フィールドの作成
8 フォームⅠ	概要と種類、作成方法
9 フォームⅡ	レイアウトの変更
10 クエリⅡ	条件の抽出、データの集計
11 レポートⅠ	概要と種類、作成方法
12 レポートⅡ	レイアウトの変更
13 その他の機能	オブジェクトのグループ化、名称の変更
14 総合練習問題	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	プレゼンテーション論ⅠA・B		
08年度入学：プレゼンテーション論Ⅰ			
担当者	成富 慶子 <i>Naritomi Keiko</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている。本講義では実習を通して、Microsoft® PowerPointを習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft®PowerPointを使用して、プレゼンテーション資料を作成する

■成績評価方法・基準

出席点（40%）と実技テスト（60%）で総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する

復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習をする

■教科書

FOM出版『Microsoft®PowerPoint 1 2007』

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 プレゼンテーションとは	PowerPointの概要、画面構成
3 プレゼンテーションの作成	スライドの文字入力、挿入、スライドショー
4 プレースホルダと文字の編集	編集や配置の変更、文字の編集、スライドの編集
5 図やオブジェクト挿入と編集 1	イラスト、画像、動画の挿入
6 図やオブジェクト挿入と編集 2	グラフ、Excelの表の挿入
7 図形の作成と編集	図形の作成と編集に関する機能の学習
8 図解の基本と作成 1	スライドの内容を図解化する手法の学習
9 図解の基本と作成 2	図解の作成
10 特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行
11 プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成
12 その他の機能	Web発行、ブラウザ上でのプレゼンテーション
13 総合練習問題 1	
14 総合練習問題 2	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	プレゼンテーション論Ⅱ		
08年度入学：プレゼンテーション論Ⅱ			
担当者	井手 雅哉 <i>Masaya Ide</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

プレゼンテーションに際して心がけておくこと、ツールとしてのPowerpointの利用法について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）
プレゼンテーションの準備から実行までを順を追って進めていく。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（40%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：発表の構想を練ったり、資料・素材を集めておく

■教科書

なし

■参考文献

山口弘明、『プレゼンテーションの進め方』、日本経済新聞社（日経文庫）

技術評論社編集部著、『今すぐ使えるかんたんPowerPoint 2007』、技術評論社、2008.7.

■授業内容〔後期〕

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 テーマ設定	発表の目的等の考察
3 発表内容の具体化	「アウトライン」機能の利用
4 スライドの大まかなデザイン	「レイアウト」機能
5 字句の配置	テキスト編集
6 口述メモの準備	「ノート」機能
7	画像ファイルの配置
8	図表の準備
9	
10	組織図等の編集
11	スライドの仕上げ
12	
13 発表の予行演習	「スライドショー」機能
14 発表	発表と検討
15	発表と検討
16 定期試験	

科目名	総合科目Ⅰ 「国際社会を知る」		
08年度入学：総合科目ⅠA			
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino (世話人)		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な6つの国や地域を選んで、その国／地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国／地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。

■授業の進め方（履修条件等）

3人の先生がそれぞれの専門の国／地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国／地域に関し意見が持てる程度の学習が求められます。資料が配付されることもあります。基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ5回の講義で各国／地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。

■成績評価方法・基準

定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料のcopy & pastelは評価されません。評点は、出席状況・小テスト等を10～20%程度加味し、主として定期試験の結果によって決めます。

■授業の予習・復習

復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。

■教科書

テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。

科目名	総合科目Ⅱ 「国際社会を知る」		
08年度入学：総合科目ⅡA			
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino (世話人)		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な6つの国や地域を選んで、その国／地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国／地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。

■授業の進め方（履修条件等）

3人の先生がそれぞれの専門の国／地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国／地域に関し意見が持てる程度の学習が求められます。資料が配付されることもあります。基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ5回の講義で各国／地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。

■成績評価方法・基準

定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料のcopy & pastelは評価されません。評点は、出席状況・小テスト等を10～20%程度加味し、主として定期試験の結果によって決めます。

■授業の予習・復習

復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。

■教科書

テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。

■授業内容（前期）

	授業項目	授業内容
1		ガイダンス（飯野由美子）、東欧という地域について
2	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史を振り返る（19世紀以前を中心に）
3		東欧の歴史を振り返る（20世紀前半を中心に）
4		社会主義という経験（20世紀後半）
5		東欧のいま（21世紀のチェコを中心に）
6		アラブ諸国の形成
7	アラブ世界を知る (水口 章)	アラブの人々と宗教
8		アラブ諸国の経済と石油
9		アラブ諸国にある紛争の火種
10		アラブ諸国の近未来と日本
11		映像で見る中国の格差問題
12	中国・改革開放 政策の光と影 (家近 亮子)	改革開放までの道（1）… 建国から社会主義建設まで
13		改革開放までの道（2）… 経済調整と文化大革命
14		改革開放前期… 社会主義市場経済導入まで
15		改革開放後期…格差社会の出現
16	定期試験	

■参考文献

複数の先生による授業であるため参考文献の点数が多くなりますので、moodleのサイトでご覧下さい。http://shujou.u-keiai.ac.jp（要登録）

■オフィスアワー（飯野）

金曜日の12:10～12:50、不定期に火曜日の12:10～12:50、事前にメールで予定確認をお願いします（iino@u-keiai.ac.jp）

■授業内容（後期）

	日程	授業項目	授業内容
1	9月27日		ガイダンス（飯野）、南北朝鮮の人々の暮らし
2	10月4日	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北分断の歴史と統一問題
3	10月11日		韓国の政治と経済
4	10月18日		北朝鮮の政治と経済
5	10月25日		小テスト
6	11月1日		ベトナムの歴史と日本とのつながり
7	11月8日	ベトナムの現代史と人々の暮らし (小高 泰)	ベトナムから見た中国、ソ連、アメリカとの関係
8	11月15日		フランス、アメリカとの戦争と国民生活
9	11月22日		市場経済制度の中の生活の変化
10	11月29日		小テスト
11	12月6日	ロシアを知ろう (巽 由樹子)	ロシア帝国の時代
12	12月13日		ロシア革命
13	12月20日		スターリン時代
14	1月17日		戦後ソ連の生活文化
15	1月24日		現代ロシア社会
16	定期試験		

■参考文献

複数の先生による授業であるため参考文献の点数が多くなりますので、moodleのサイトでご覧下さい（要登録）。http://shujou.u-keiai.ac.jp

■オフィスアワー（飯野）

金曜日の12:10～12:50、不定期に火曜日の12:10～12:50、事前にメールで予定確認をお願いします（iino@u-keiai.ac.jp）

科目名	海外事情研修Ⅰ（アメリカ）		
08年度入学：海外事情研修Ⅰ（アメリカ）			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1～4年	単 位	2単位

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力の向上
- ②アメリカ社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①アメリカ・ポートランド州立大学での語学研修と本学での事前研修
- ②8月15日～9月10日を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※ホストファミリーとの自由時間は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

ポートランド州立大学の教材を使用

■参考文献

指定しません。

科目名	海外事情研修Ⅱ（中国）		
08年度入学：海外事情研修Ⅱ（中国）			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1～4年	単 位	2単位

■授業のねらいと到達目標

- ①中国語の向上
- ②中国社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①中国の北京第2外国語学院での語学研修と本学での事前研修
- ②7月30日～8月25日の3週間を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※寮での生活は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

北京第2外国語学院指定のテキスト使用

■参考文献

指定しません。

科目名	海外事情研修Ⅲ（オーストラリア）		
08年度入学：海外事情研修Ⅲ（オーストラリア）			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1～4年	単 位	2単位

- 授業のねらいと到達目標
 - ①英語力の向上
 - ②アメリカ社会に関する文化理解の増進
- 授業の進め方（履修条件等）
 - ①アメリカ・ポートランド州立大学での語学研修と本学での事前研修
 - ②8月15日～9月10日を予定
 - ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
 - ※ホストファミリーとの自由時間は人生の貴重な経験です
- 成績評価方法・基準
 - 出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
 - レポートは帰国後提出
- 授業の予習・復習
 - 研修中は予習・復習に時間を十分当てる
- 教科書
 - ポートランド州立大学の教材を使用
- 参考文献
 - 指定しません。

科目名	海外事情研修Ⅳ（イギリス）		
08年度入学：海外事情研修Ⅳ（イギリス）			
担当者	教務部委員会		
対象学年	1～4年	単 位	2単位

- 授業のねらいと到達目標
 - ①英語力の向上
 - ②イギリス社会に関する文化理解の増進
- 授業の進め方（履修条件等）
 - ①国立ウルバーハンプトン大学での語学研修と本学での事前研修
 - ②8月4日～8月31日を予定
 - ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
 - ※ホストファミリーおよび寮での時間は人生の貴重な経験です
- 成績評価方法・基準
 - 出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
 - レポートは帰国後提出
- 授業の予習・復習
 - 研修中は予習・復習に時間を十分当てる
- 教科書
 - ウルバーハンプトン大学の教材を使用
- 参考文献
 - 指定しません。

科目名	地域ボランティア活動		
08年度入学：地域ボランティア活動			
担当者	松藤 和生 Kazuki Matsufuji		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動をみつけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

ボランティア活動の基礎知識を講義により習得する。教員・福祉関係職を希望するものはもちろんだが、サービス職・営業職などを希望する学生でボランティア活動に興味がある学生は受講することが望ましい。

■成績評価方法・基準

各自のボランティア活動の体験や将来の取組みについてレポートを期末に提出。定期試験は、教科書持込によるボランティア活動の基礎的知識の確認。
定期試験30%・レポート30%・出席40%

■授業の予習・復習

予習：特に予習は必要ない。
復習：授業の中で紹介されたボランティア活動で自身の興味のあるものについて、インターネット等を利用して調べる。

■教科書

『いちばんはじめのボランティア』（樹村房）

■参考文献

なし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ボランティアの原理・原則	ボランティアとは何か？
2 ボランティア活動の理念	ボランティアの基本と性格
3 ボランティア活動の歴史	「ボランティア」の起源、ボランティア活動の歴史
4 ボランティア活動の法と制度	NPO法、ボランティア活動と助成団体、ボランティア保険
5 ボランティア関係機関	社会福祉協議会、ボランティアセンター
6 ボランティア活動の担い手	わが国のボランティア活動者の推移
7 地域社会とボランティア活動	小地域の定義と地域ボランティア活動
8 社会福祉施設とボランティア活動	社会福祉施設の種類の種類と社会福祉施設でのボランティア活動
9 福祉教育とボランティア活動	福祉教育としてのボランティア活動
10 災害支援とボランティア活動	災害時のボランティア活動
11 企業の地域貢献とボランティア活動	企業と地域の繋がり、日本企業の地域貢献活動
12 ボランティア活動の新しい形	NPO法、住民参加型有償サービス、地域通貨
13 国際社会とボランティア	海外のボランティア活動、海外支援
14 ボランティアコーディネーター	ボランティアコーディネーターの活動
15 これからのボランティア活動	ボランティア論再考、ボランティア活動再考
16 定期試験	

科目名	【教職科目】 日本史概論 I		
08年度入学：日本史概論 I			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

前近代における日本史の基礎知識と、各単元を授業で扱う際に注意すべき点などを紹介していく。この授業を通じて、高等学校の日本史あるいは中学校の社会科（歴史分野）の教員として、①各単元を指導する上での基礎知識を習得する。②各単元の指導案を作成することができる。③具体的に授業を実施する経験を積む。以上を到達目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業では、教科書やプリントを利用しながら、各単元の基礎知識と指導上の留意点を学習する。それを踏まえて、①毎回小テストを実施する、②小テストの解答解説授業を体験する、③指導案や板書ノートを作成する、という進め方をする。提出された指導案等は、可能な限り翌週には添削して返却する。

■成績評価方法・基準

定期試験（100）＋小テスト（10×10）＋指導案・板書ノート（10×10）＋実技（50）を実施し、総合点（350）を5段階で評価する。なお、出席率が2/3に達していない学生は、評価対象外とするので注意すること。

■授業の予習・復習

予習：高校時代に使用した日本史の教科書の内容を覚えておくこと
復習：授業で扱った単元の日本史用語を全部頭にいれておくこと。そして指導案を作成すること。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方
2 原始社会	文化のはじまり、農耕社会の成立
3 古墳時代、飛鳥文化	古墳とヤマト政権、飛鳥文化
4 律令国家	律令国家の成立、平城京の時代
5 律令制の再編	天平文化、平安朝廷の形成
6 摂関政治と国風文化	摂関政治、国風文化
7 荘園制と武士政権	荘園と武士、院政と平氏政権
8 鎌倉幕府の成立	鎌倉幕府の成立、武士の社会
9 鎌倉幕府の衰退	元寇、鎌倉文化
10 室町幕府の成立と衰退	室町幕府の成立、室町幕府の衰退と庶民の台頭
11 戦国時代	室町文化、戦国大名の登場
12 織豊政権	織豊政権、桃山文化
13 幕藩体制の展開	幕藩体制の成立、幕政の安定
14 元禄時代	経済の発展、元禄文化
15 幕藩体制の動揺	幕政改革、幕府の衰退、化政文化
16 定期試験	

■教科書

『山川 詳説日本史図録』第4版（山川出版）

■参考文献

『詳説日本史』（山川出版）、『日本史用語集』（山川出版）

科目名	【教職科目】 日本史概論Ⅱ		
08年度入学：日本史概論Ⅱ			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

近代における日本史の基礎知識と、各単元を授業で扱う際に注意すべき点などを紹介していく。この授業を通じて、高等学校の日本史あるいは中学校の社会科（歴史分野）の教員として、①各単元を指導する上での基礎知識を習得する。②各単元の指導案を作成することができる。③具体的に授業を実施する経験を積む。以上を到達目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業では、教科書やプリントを利用しながら、各単元の基礎知識と指導上の留意点を学習する。それを踏まえて、①毎回小テストを実施する、②小テストの解答解説授業を体験する、③指導案や板書ノートを作成する、という進め方をする。提出された指導案等は、可能な限り翌週には添削して返却する。

■成績評価方法・基準

定期試験（100）＋小テスト（10×10）＋指導案・板書ノート（10×10）＋実技（50）を実施し、総合点（350）を5段階で評価する。なお、出席率が2／3に達していない学生は、評価対象外とするので注意すること。

■授業の予習・復習

予習：高校時代に使用した日本史の教科書の内容を覚えておくこと
復習：授業で扱った単元の日本史用語を全部頭にいれておくこと。そして指導案を作成すること

■教科書

『山川 詳説日本史図録』第4版（山川出版）

科目名	世界史概論Ⅰ		
08年度入学：世界史概論Ⅰ			
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

前年度の講義を受けて、20世紀の世界大戦において、戦場にならなかったアメリカが世界経済の中心に座り超大国となった。この事実は20世紀の国家にとって、経済、とくに資本主義経済の動向（発展と崩壊）が一番の課題であることを理解させる。

■授業の進め方（履修条件等）

事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。また副本としての高校時代の『世界史』の教科書を音読させる。

■成績評価方法・基準

出席状況、試験そして質問（疑問）シートの提出状況などで総合評価。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
復習：受講後、質問シートを再評価すること。

■教科書

毎回配布するプリント

■参考文献

- 小林道憲『二十世紀とは何で会ったのか』（NHKブックス、1999年）
- 高校時代に利用した『世界史』の教科書

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	開国と幕末の動乱	開国、公武合体と尊王攘夷、討幕運動、幕末の文化
2	明治維新と富国強兵	戊辰戦争、中央集権化、殖産興業、自由民権運動
3	立憲国家の成立	立憲体制、初期議会、条約改正、日清戦争と三国干渉
4	立憲国家の展開	日露戦争、国際関係、桂園時代
5	近代産業	産業革命、近代産業の発展、社会運動の発生
6	近代文化	思想、教育、科学、文学、芸術
7	第一次世界大戦と日本	大正政変、第一次大戦、中国進出、大戦景気、米騒動
8	ワシントン体制	ワシントン体制、普選運動、護憲三派内閣
9	市民文化	市民文化、大正デモクラシー
10	恐慌の時代	戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、金解禁、昭和恐慌
11	軍部の台頭	満州事変、恐慌からの脱出、二二六事件
12	第二次世界大戦	日中戦争、戦時統制と耐乏生活、新体制
13	占領と改革	5大改革指令、憲法の制定
14	冷戦と講和	東西冷戦、逆コース、朝鮮戦争と講和条約
15	高度経済成長	55年体制、高度経済成長
16	定期試験	

■参考文献

『詳説日本史』（山川出版）、『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	前年度の講義の総括	第1次世界大戦の意義（世界初の総力戦）
3	ロシア革命	大戦で疲弊し混乱した経済がロシアの解体を招く
4	ソ連邦の誕生	世界初の社会主義政権の誕生
5	ヴェルサイユ体制①	国際連盟の誕生とドイツへの多額の賠償金の問題
6	ヴェルサイユ体制②	アメリカの動向（ドイツへの投資支援と中国進出）
7	トルコとインドの民族運動	西欧の政治スタイルへの2つの方法
8	東アジア（中国）の民族運動	文学革命から始まる中国統一運動
9	世界恐慌①	アメリカの過剰生産の行き詰まりによる経済崩壊
10	世界恐慌②	各国の対応（①ブロック経済陣営と②全体主義陣営）
11	ヴェルサイユ体制の崩壊	ナチス・ドイツの台頭（中産階級のヒットラー支持）
12	日中戦争	全体主義日本軍への中国の対応（国共合作）
13	第二次世界大戦①	ドイツの民族統一から始った戦争
14	第二次世界大戦②	日本参戦で世界規模の戦争へ。日本の優位は僅か半年。
15	マトメ	資本主義経済の動向に連動する国家の盛衰
16	定期試験	

科目名	世界史概論Ⅱ		
08年度入学：世界史概論Ⅰ			
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

第二次世界大戦後、世界平和の維持機関として国際連合が創設されるも、「第三次世界大戦」とも称すべき冷戦時代が到来し、「自由」か「平等」かの壮大なるプロバガンダ合戦が展開された。そして世界の人々が選択したのが「豊かさ」であり、「共存」であったことを理解させる。

■授業の進め方（履修条件等）

事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。また副本としての高校時代の『世界史』の教科書を音読させる。

■成績評価方法・基準

出席状況、試験そして質問（疑問）シートの提出状況などで評価。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
復習：受講後、質問シートの自分の疑問点を再検討すること。

■教科書

毎回配布したプリント

■参考文献

- ①小林道憲『二十世紀とは何であったか』（NHKブックス、1999年）
- ②高校時代に使用した『世界史』の教科書
- ③佐伯啓思『人間は進歩してきたのか 現代文明論（上）』（PHP新書、2003年）

科目名	【教職科目】 地理学概論Ⅰ		
08年度入学：地理学Ⅰ			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

わが国を地理的な見方から考察する一つの方法としては、諸外国との比較も重要なことである。つまり、異文化の理解は、自国の特性を知ることにつながり、講義の中では、具体的に多文化の社会の好事例であるアメリカ合衆国を取り上げ、わが国の現状と比較したい。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「地理歴史科」の教職履修者は必ず履修すること。毎回、配布するプリントを資料として講述する。合衆国という大国を取り上げるため、出来るだけ視聴覚器材を使う。中学・高校等で使用した地図帳のあることが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、出席状況（30%）として、総合的な評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

教科書は使用しない。配布プリントが資料となる。

■参考文献

参考文献は、関連する部分で紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 前期の講義の総括	第二次世界大戦の世界史的意義
3 国際連合の誕生	戦勝国中心の世界平和機構と敗戦国・独の対応
4 IMF体制の成立	アメリカを中心にしたドルの国際通貨と自由貿易拡大
5 冷戦の出現	自由主義陣営（米）と社会主義陣営（ソ連）の対立
6 冷戦の展開	両陣営の軍事ブロック化と大量破壊兵器の開発
7 朝鮮戦争	東アジアでの冷戦の勃発
8 アジア・アフリカの中立主義	米ソ両陣営に組み込まない「第三世界」の団結とその役割
9 中東戦争①	イギリスの二重外交から始ったパレスチナ問題
10 中東戦争②	イスラエルvs.アラブの中東戦争と世界経済への影響
11 中華人民共和国の成立	共産党を率いた毛沢東の大躍進と文化大革命での混乱
12 アメリカのアジア政策	米の外交政策に見るアジア各国の位置づけ
13 米ソ接近と東欧諸国の動揺	スターリン以後の平和共存
14 南北問題から南南問題へ	資源ナショナリズムと地域間で拡大する経済格差問題
15 マトメ	「豊かさ」と文明共存の重要性について
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義の主旨説明 近年の教職現場の説明
2 合衆国の認知度	アンケート調査の実施 回収後、正答に関して解説
3 歴史性	地名研究から分かること（1）
4	地名研究から分かること（2）
5 合衆国の教育システム	歴史からみた学校制度 複雑な高等教育制度
6 大学教育に学ぶこと	学生の身分と大学組織（1）
7	学生の身分と大学組織（2）
8 プロスクール	大学院の捉え方（1）
9	大学院の捉え方（2）
10 MBA制度	制度内容と人気の陰り
11 大学の海外進出	日本との関係 具体例の紹介
12	
13 マイノリティー教育	先住アメリカ人の事例 ヒスパニック教育
14	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	【教職科目】 地理学概論Ⅱ		
08年度入学：地理学Ⅱ			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

わが国と遠くて近い関係にあるアメリカ合衆国を事例として、同国の国民性について考察する。その国の国情は、民意によって形成される部分も大きい。そこで、長年、多文化社会を維持してきたこの国には、世界を知るための題材が多くある。そこで、改めて複雑なこの国を分析してみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「地理歴史科」の教職履修者は必ず履修すること。配布するプリントを資料として講述する。合衆国という大国を取り上げるため、出来るだけ視聴覚器材を使う。中学・高校等で使用した地図帳があることが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、出席状況（30%）として、総合的な評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

教科書は使用しない。

■参考文献

参考文献は、関連する部分で紹介する。

科目名	地誌学Ⅰ		
08年度入学：地誌学Ⅰ			
担当者	大八木 英夫 Hideo Oyagi		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

世界の地形・気候・陸水・生態・文化・産業などの基本的な地理的事象について講義を行います。そして、世界の地理的分布・特徴を理解することによって、世界各地で引き起こされている国際問題や環境問題について関心を持ち、解決に向けた能力を養うことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行いますが、出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

世界地誌に関する文献・資料は非常に多く多岐にわたるので、講義内の内容にとどまらず、普段から幅広い分野で関心を持ち、様々なものに目を通して置いて下さい。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義の主旨説明
2 少数民族	アメリカ国内における社会的な地位
3	北米大陸におけるルーツの解明
4 先住アメリカ人	マイノリティーとしての苦悩
5	現代社会における問題点
6	移民史的な観点から分析
7	ハワイ移民の歴史的な捉え方
8 日系アメリカ人	米本土における白人社会との確執
9	現代社会における日系人の活躍
10 ヒスパニック	アメリカ社会を変える集団
11 ユダヤ系アメリカ人	政財界における影響力
12 黒人	二極分化する現状分析
13	カリフォルニア州の分析（1）
14 具体的地域事例	カリフォルニア州の分析（2）
15 特殊事例	宗教的な集団居住者「アーミシュ」の紹介
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方と事前アンケート
2 地球と世界地図	世界地図の表現方法と地図投影法
3 世界の地域区分	大陸区分と大陸間境界
4 地形環境	地球の形と大きさ、大地形
5 気候環境	世界の気温と降水量の分布
6 水文環境	世界の水循環
7 生物圏環境	世界遺産と生物多様性
8 都市と人口	都市化と人口分布
9 農業と食料	世界の食糧生産
10 貿易と産業	鉱物資源と経済
11 動態地誌Ⅰ	アジアを例として
12 動態地誌Ⅱ	オーストラリアを例として
13 環境と発展	世界の環境問題
14 民族と国家	国際関係と紛争
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

科目名	地誌学Ⅱ		
08年度入学：地誌学Ⅱ			
担当者	大八木 英夫 <i>Hideo Oyagi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日本の各地域に広がる景観について講義し、人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴を学び、地域にある特徴の見方・捉え方を習得することを目指します。また、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界の日本の地理的関わり・位置づけについても理解することも目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行います。出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

予習：日本の各地域について関心を持ち、インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けること。
復習：授業で取り上げた地域・地名について、各自インターネットや地図等で概要や位置を確認しておくこと。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

科目名	【教職科目】 哲学概論Ⅰ		
08年度入学：哲学概論Ⅰ			
担当者	小林 秀樹 <i>Hideki Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みをもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅰ（前期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があることに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、出席状況および授業態度、ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、不明な点を明確にしておくこと。
復習：理解できなかった点を中心に調べるなど、講義内容をノートにまとめること。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	授業の進め方について
2 日本の領土・領域	日本の地域区分について
3 日本の風土と環境	日本の自然環境について
4 日本の自然観	日本人と自然環境について
5 日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて
6 平野・台地の人々の生活	日本の地形と人間生活についてⅠ
7 山地の人々の生活	日本の地形と人間生活についてⅡ
8 川・海の水と産業	日本の陸水と人間生活について
9 都市の人間活動	日本の都市における人間活動について
10 地域の環境と開発	日本の土地利用と自然環境について
11 地域と産業	日本人々の生活と産業について
12 地域と観光	日本の地域的特徴について
13 風土と食	日本の食と文化について
14 交通	日本の交通と移動
15 地域誌	日本と身近な地域
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション —哲学で学ぶこと	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか
2 自然哲学①	・古代のギリシャ世界（歴史、民族、文化） ・イオニア学派
3 自然哲学②	・エレア学派
4 自然哲学③	・多元論者、原子論者
5 ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ
6 ソクラテス①	・無知の知、問答法、魂への配慮
7 ソクラテス②	・ソフィストとの相違 ・正義について①
8 プラトン①	・イデア論
9 プラトン②	・国家論・正義について②
10 アリストテレス①	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学
11 アリストテレス②	・アリストテレスの論理学
12 アリストテレス③	・アリストテレスの倫理学 ・正義について③
13 ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム
14 ユダヤ・キリスト教 思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について
15 講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答
16 定期試験	

■参考文献

荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

科目名	【教職科目】 哲学概論Ⅱ		
08年度入学：哲学概論Ⅱ			
担当者	小林 秀樹 <i>Hideki Kobayashi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかもつ意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅱ（後期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、出席状況および授業態度、ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、不明な点を明確にしておくこと。

復習：理解できなかった点を中心に調べるなど、講義内容をノートにまとめること。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

科目名	比較政治学		
08年度入学：比較政治学			
担当者	櫛田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

国際学を学ぶための一つの方法論である政治学を学びます。なお、授業では、政治学の基礎概念や理論に重点を置いていますが、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。教職課程履修者は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。

復習：わからなかったことを自分で調べ、ノートに整理して下さい。

■教科書

毎回プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション —後期で学ぶこと	・前期の復習
2 ユダヤ教①	・ヘブライ民族の歴史 ・旧約聖書（創世記）について
3 ユダヤ教②	・モーセの出エジプト ・シナイ契約
4 キリスト教①	・キリストの生涯①
5 キリスト教②	・キリストの生涯②
6 キリスト教③	・贖罪論、教義の確立
7 中世の思想	・教父哲学 ・スコラ哲学の概要
8 ルネサンスの思想	・古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革
9 ベーコン	・イドラ論、帰納法
10 デカルト	・方法的懐疑 ・心身二元論
11 ロック	・イギリス経験論 ・社会契約論①
12 ルソー	・「自然に帰れ」 ・社会契約論②
13 カント①	・理性の限界、コペルニクスの転回
14 カント②	・義務倫理学
15 講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答
16 定期試験	

■参考文献

山形孝夫『聖書物語』岩波書店
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 政治を見る目	最近の日本の政治の動向
3 国家（1）	権力
4 —（2）	国家
5 ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
6 —（2）	民族のナショナリズム
7 民主政治（1）	民主政治の起源
8 —（2）	民主政治の実態
9 —（3）	民主政治への模索
10 —（4）	民主政治制度の多様性
11 選挙（1）	選挙制度
12 —（2）	選挙制度に関する考察
13 政治組織（1）	政党
14 —（2）	利益集団
15 —（3）	日本の政治と政党
16 定期試験	

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）』（有斐閣、2003年）他。

科目名	【教職科目】 社会学概論		
08年度入学：社会学概論			
担当者	菊池 真弓 <i>Mayumi Kikuchi</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材、ロールプレイなどに基づき、現代社会に起こっている社会問題と課題について学び、それらについて考え、討論につなげる力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方は、社会学の理論や方法論、歴史などの基礎を学びながら、私たちの身近な人間関係、集団との関係、現代社会に起こっている少子高齢化、環境、ジェンダーなどの問題と課題について考え、報告・討論を行う。

■成績評価方法・基準

レポート課題及び口頭発表（70%）、授業内の課題（10%）、授業態度（20%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次のテーマを事前予告して、資料収集や身近な社会問題に関心をもってもらう。

復習：毎回授業の終了時に授業を振り返り、質問時間を設ける。

■教科書

教科書は使用しない。新聞や統計・世論調査などの資料を必要に応じて資料を配布する。

科目名	【教職科目】 自然地理学 I		
08年度入学：自然地理学 I			
担当者	近藤 昭彦 <i>Akihiko Kondoh</i>		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。前期は主に地形学に関する内容を解説します。講義を通じて環境の特徴、すなわち多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って講義を進めますが、様々な地域の景観を観察するためプロジェクタを使って教科書にない画像・写真も紹介します。発展的内容、関連情報も紹介し、自然と人の関わりを総合的に理解することを目指します。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：基本は教科書を良く読むこと。

復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。

■教科書

古今書院、杉谷・平井・松本著『風景の中の自然地理』

■参考文献

講義中にその都度指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会学とは何か	社会学的な視点・方法
2	社会的存在としての人間	社会集団と文化
3	社会学の歴史	社会学の成立・確立・展開
4	家族とは何か	現代家族の機能・役割とその変化
5	地域社会とは何か	都市と農村の現状と課題、コミュニティ形成
6	社会問題とは何か	社会問題の捉え方
7	現代社会の社会問題(1)	少子高齢社会の現状と課題
8	現代社会の社会問題(2)	環境問題の現状と課題
9	現代社会の社会問題(3)	社会福祉の現状と課題
10	現代社会の社会問題(4)	ジェンダーの現状と課題
11	現代社会の社会問題(5)	情報化、国際化の現状と課題
12	社会調査・社会計画	社会調査・社会計画について
13	社会問題を考える(1)	発表・報告(1)
14	社会問題を考える(2)	発表・報告(2)
15	社会学を応用する	全体のまとめと今後の展望
16	定期試験	

■参考文献

秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991年
森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000年

■授業内容

【前・後期】

	授業項目	授業内容
1	講義概要概説	自然環境の仕組み
2	火山 I	日本の風土を形成する火山と人間の関わり
3	火山 II	//
4	山と川 I	地形を形成するプロセスと人間の関わり
5	山と川 II	//
6	台地と丘陵 I	人間生活に関わりの深い地形の性質
7	台地と丘陵 II	//
8	平野 I	人間活動の主要な場である平野の性質
9	平野 II	//
10	湖 I	湖沼の成因と人間による改変
11	湖 II	//
12	海岸 I	海岸地形の成因と人間による改変
13	海岸 II	//
14	日本の地形 I	日本各地の地形を空中写真により紹介
15	日本の地形 II	//
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 自然地理学Ⅱ		
08年度入学：自然地理学Ⅱ			
担当者	近藤 昭彦 Akihiko Kondoh		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。後期は気候・植生と災害について解説します。講義を通じて環境の特徴、すなわち多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書と配付資料に沿って講義を進めますが、プロジェクトを使って様々な画像・写真をみながら発展的内容、関連情報を紹介します。自然と人の関わりを理解し、自然の恵みを楽しむ態度の習得を目指します。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：基本は教科書を良く読むこと。
復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。

■教科書

古今書院、杉谷・平井・松本著『風景の中の自然地理』

■参考文献

講義中にその都度指示します。

科目名	【教職科目】 環境地理学Ⅰ		
08年度入学：環境地理学Ⅰ			
担当者	三澤 正 Masashi Misawa		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

気候環境のなりたちと人間生活との関連を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) 太陽エネルギーと地球 (2) 地球をめぐる大気の流れ (3) 環境としての気候の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（30％）

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当部分の予習が求められる。
復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。

■教科書

三澤正編『大気環境と人間』開成出版

■参考文献

高橋日出男・小泉武栄 編著『自然地理学概論 地理学基礎シリーズ2』朝倉書店

■授業内容
【前・後期】

授業項目	授業内容
1 講義概要概説	自然環境と人間の関わり
2 森林と人間Ⅰ	森林の景観の形成と人との関わり
3 森林と人間Ⅱ	//
4 水と森林Ⅰ	人の生活に関わる森林の機能
5 水と森林Ⅱ	//
6 沙漠と沙漠化	乾燥・半乾燥地域の環境
7 気象・気候と人間Ⅰ	気象・気候がもたらす恵みと災いについて
8 気象・気候と人間Ⅱ	//
9 自然災害Ⅰ	平野の災害－洪水
10 自然災害Ⅱ	山地の災害－地すべり、土石流
11 自然災害Ⅲ	地震災害
12 自然災害Ⅳ	火山災害
13 自然災害Ⅴ	その他の災害
14 地球温暖化と人間Ⅰ	気候変動と人間
15 地球温暖化と人間Ⅱ	食糧・水・エネルギー問題
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義内容の概要
2	地球をめぐるエネルギーの流れ
3 太陽エネルギーと地球	エネルギー収支
4	温室効果と日傘効果
5	地表面の熱収支
6	地表付近の大気の流れ
7 地球をめぐる大気の流れ	子午面循環
8	東西流と偏西風の波動
9	季節風・局地風
10	温度環境と人間生活
11	温度環境と植物
12 環境としての気候	水収支と気候の乾湿
13	水と人間生活
14	自然災害
15 まとめ	授業内容のまとめと討論
16 定期試験	

科目名	【教職科目】 環境地理学Ⅱ		
08年度入学：環境地理学Ⅱ			
担当者	三澤 正 Masashi Misawa		
対象学年	1～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

地球温暖化やヒートアイランドなど人為的影響による大気環境の変化を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

（1）気候変動（2）大気汚染（3）都市の自然環境の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（30％）

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当部分の予習が求められる。
復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。

■教科書

三澤正編『大気環境と人間』開成出版

■参考文献

福岡義隆編著『都市の風水土—都市環境学入門—』朝倉書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義内容の概要
2		地球気温の推移
3	気候変動	地球温暖化と気候変化
4		地球温暖化と季節推移の変化
5		気候変動の影響
6	大気汚染	大気汚染の変遷
7		都市の大気汚染
8		大気汚染の広域化
9		酸性雨と森林破壊
10	都市の自然環境	ヒートアイランド
11		都市の砂漠化
12		水質汚濁
13		都市の自然環境変化の要因
14		望ましい都市の自然環境
15	まとめ	授業内容のまとめと討論
16	定期試験	

科目名	実践会話Ⅰ		
08年度入学：会話表現Ⅰ			
担当者	斉木 かおり Kaori Saiki		
対象学年	2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手にわかりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさん言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけでなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。ゲーム感覚で、コミュニケーションスキルを楽しく身に付けていきます。

■成績評価方法・基準

発表内容及びスピーチ、授業へのとり組み（65％）、出席（35％）積極的な参加、意欲的な発表を重視します。

■授業の予習・復習

毎回の予習、復習の必要はありませんが、授業に応じてテーマを考えたり、資料を集めたりするなど、課題が出ることがあります。

■教科書

講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。
又、プリントをワークシートとして配布

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容	
1	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ	
2	声を出そう	聞きやすい声とは？ 発声、滑舌トレーニング	
3	会話術	話しことばと書きことばの違いは？	
4	インタビュー	言葉のキャッチボール	
5	実践会話術 —わかりやすく話す 為に—	言葉の持つ力、時間感覚など楽しいゲームを通して身に付けていく	
6			
7			
8	情報収集	気になる話題を集めて会話にいかす	
9	豊かな表現①	状況、情景描写にチャレンジ！	
10	〃 ②	比喩を使った表現	
11	パネルトーク①	写真をもとに、話を広げよう	
12	〃 ②	パネルを使って、紙しばいのように話をくみ立てる	
13	グループディスカッション	テーマを決めて討論	
14	スピーチはお任せ①	テーマを決めて実践スピーチに挑戦	
15	〃 ②	前期のまとめ ショートスピーチ	
16	定期試験		

科目名	実践会話Ⅱ		
08年度入学：会話表現Ⅱ			
担当者	斉木 かおり <i>Kaori Saiki</i>		
対象学年	2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高める事はもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけでなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。

■成績評価方法・基準

発表内容及びスピーチ、授業へのとり組み（65%）、出席（35%）積極的な参加、とり組みを評価します。

■授業の予習・復習

講義によっては、テーマを考えてくる等、課題がでることがあります。基本的には予習、復習の必要はありません。

■教科書

新聞、雑誌等を使用、プリントを作成し、ワークシートとして配布

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期まとめ	夏休みの出来事・体験を伝える
2 スピーチ実践	即興スピーチ、チェーンスピーチに挑戦
3 あなたもキャスター（スタジオ）	ニュースを解説してみよう
4 //（現場）	目の前の状況を伝えてみよう
5 プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得
6 敬語①	敬語の内容・使い方をロールプレイやプリントワークで実践的に学びます
7 // ②	
8 // ③	小テスト
9 グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか
10 自己PR①	自分史を作ってセールスポイントをさがす
11 // ②	実践自己PR あなたの印象が変わるには！
12 パフォーマンス表現法	身ぶり・手ぶり・身体を使って表現する
13 マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは
14 面接実践	好印象を持たれるには
15 私の主張	後期のまとめ、言葉の大切さを知る
16 定期試験	

科目名	キャリア基礎開発Ⅰ		
08年度入学：キャリア基礎開発Ⅰ			
担当者	キャリアセンター		
対象学年	2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

民間企業の就職活動において、筆記試験が第一関門。なかでも、SPIが実施率の高いため、SPI試験対策が就職活動上の重要なポイント。本科目ではSPIの言語・非言語について基礎学力の向上を目指すとともに、非言語の前提となる数学の基礎の対策を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストと補助冊子を中心に授業をすすめる。
数学の基礎：四則計算・小数分数比例・反比例・図形など、言語：同義語・反意語・ことわざ・四字熟語など、非言語：文章問題・判断推理などを指導。

■成績評価方法・基準

出席および小テスト・定期試験で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講師より出題された課題は事前に確認すること。
復習：毎時間講師が指示します。

■教科書

SPI対策テキスト（言語・非言語）および補助冊子（数学の基礎）。その他、配布プリント。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 SPI 非言語 1	ガイダンス、数学の基礎（基本計算、約数倍数）
2 SPI 非言語 2	数学の基礎（単位、平均、速さ）
3 SPI 言語 1	同義語・類義語、対義語・反対語、語句の関連意味
4 SPI 非言語 3	数学の基礎（割合、グラフ、比例と反比例）
5 SPI 非言語 4	数学の基礎（図形と計量）
6 SPI 言語 2	同音異義語、同訓異字、ことわざ・慣用語
7 SPI 非言語 5	n進法、食塩水、売買算、仕事算、
8 SPI 非言語 6	平均算、年齢算、時計算、
9 SPI 言語 3	故事成語、四字熟語、その他
10 SPI 非言語 7	速さの問題、虫食い算、場合の数と確率
11 SPI 非言語 8	図形の問題、表とグラフ、数学的な公式
12 SPI 言語 4	文章理解
13 SPI 非言語 9	物理の基礎、規則性の発見、数列
14 SPI 非言語 10	判断推理パズル、集合、論理
15 SPI 言語 5	文章理解
16 定期試験	

科目名	キャリア基礎開発Ⅱ		
08年度入学：キャリア基礎開発Ⅱ			
担当者	キャリアセンター		
対象学年	2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

ビジネス社会で必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：日本の社会での常識を積極的に学びたい人。
聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移すための講座です。授業を進めていく中で自信をつけさせていきます。

■成績評価方法・基準

定期試験（40％）・レポート及びその他の課題（20％）・出席（40％）
出席率は75％以上が望ましい。

■授業の予習・復習

講師からの課題は事前に必ず準備しておいてください。

■教科書

『面白いほどよくわかるビジネス文書の書き方』東條文千代著 日本文芸社
『はじめてのビジネスマナー』東條文千代著 同友館
を参考にします。購入不要

■参考文献

その都度紹介します。

科目名	キャリア基礎開発Ⅲ		
08年度入学：キャリア基礎開発Ⅲ			
担当者	キャリアセンター		
対象学年	2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

先入観や今の自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。

■授業の進め方（履修条件等）

グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形で進行していきます。シミュレーション教材（ソフト・ガード）を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていただきます。
・3年生を優先します（定員50名、充足時点で受付け停止とします）
・履修申し込みはキャリアセンターとします

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（40％）・出席（60％）
グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。
出席率は75％以上が望ましい。

■授業の予習・復習

前回講義のワークシート作成

■教科書

マイキャリアカード、ビジネスシュミレーション、コンビニエンスmodel、ワークシート

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらい
2 ビジスマナーとは	「知らなかった」では済まされない「知る」ことの必要性、重要性
3 ビジスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみ
4 言葉遣い①	尊敬語、謙譲語、丁寧語
5 言葉遣い②	言葉遣いの間違い
6 ビジネス文書①	文書の基本と作成手順
7 ビジネス文書②	文書作成実践
8 エメールの基本	メールの基本ルールとマナー
9 電話のかけ方と訪問	電話対応の基本
10 自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方
11 面接対応①	自己PRについて考える
12 面接対応②	志望動機について考える
13 面接対応③	グループディスカッション
14 ビジスマナー訓練	マナー実践
15 まとめ	振り返りと質疑応答
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ビジネスシミュレーション講座の進め方
2 行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？
3 MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編
4 MYキャリアデザインシート①	自分資源探索編
5 MYキャリアデザインシート②	ワークスタイル読解編
6 求人情報からみた企業データ	求人情報読解編
7 コンビニmodelシミュレーション①	買う側から売る側への視点転換
8 コンビニmodelシミュレーション②	データから絵を読む情報読解
9 コンビニmodelシミュレーション③	仮説・検証・修正の実践
10 コンビニmodelシミュレーション④	欲しい情報を引き出す質問
11 コンビニmodelシミュレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ
12 志望企業調査①	エントリーシート作成
13 志望企業調査②	エントリーシート作成
14 調査発表①	プレゼンテーション、振り返り
15 // ②	//
16 定期試験	

科目名	キャリアディベロップメント		
担当者	キャリアセンター		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

自己を分析、理解、認識させて行動、実践に結びつけるための理論と手法を体系的に学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

座学と実践演習を併用して進めていきます。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（40%）・出席（60%）
出席率75%以上が望ましい。
出席率と課題提出で評価します。

■授業の予習・復習

講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。

■教科書

毎回プリント配布。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	キャリア開発内容と手法の解説
2 経営システムと人事戦略	マーケティング戦略と人事戦略
3 人材開発とキャリア開発	組織における人材開発と個人のキャリア開発
4 人材開発システム	人事戦略と制度
5 自己分析 演習①	自己分析書記述
6 自己分析 演習②	解説と助言
7 自己分析 演習③	就職活動用シート作成
8 組織で求められる人物像	事例研究と求められる能力
9 自己開発プログラム①	キャリアアップのための具体的手法
10 自己開発プログラム②	キャリアアップのための具体的手法
11 求められる具体的能力研究①	リーダーシップとメンバーシップ
12 求められる具体的能力研究②	リーダーシップ向上の実践研究
13 キャリア開発の目標	タイプの類型と目標
14 自己開発プログラム演習①	キャリアアッププログラム作成
15 自己開発プログラム演習②	キャリアアッププログラム作成
16 定期試験	

科目名	キャリア教育特殊講義		
08年度入学：キャリア教育特殊講義			
担当者	キャリアセンター		
対象学年	3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、業界で営業を経験したことのある方から話を聞くことも重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。業界研究は就職活動の基本です。

■授業の進め方（履修条件等）

外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業システムを学んでいただけます。厳しい部分と楽しい部分、仕事のやりがいを語っていただきます。

■成績評価方法・基準

出席率、各回ごとの感想レポートを参考にします。遅刻、途中退回は絶対認めません。

■授業の予習・復習

予習：該当業界の事前研究
復習：興味業界の場合は一層の業界研究

■教科書

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 機械メーカー	日本精工
3 商社	三菱商事
4 金融（銀行）	みずほ銀行
5 電子機器メーカー	（株）ソニー
6 商社（鉄鋼貿易）	三井物産
7 小売（石油）	出光興産
8 機械メーカー	ノベラスシステムズ（半導体装置メーカー）
9 金融（証券）	みずほ銀行インベスター証券（法人営業）
10 食品メーカー	日本ハム
11 商社の鉄鋼ビジネス	丸紅
12 化学メーカー	三井デュボンホリケミカル
13 ファッションアパレル（繊維ビジネス）	元カネボウ興産（株）
14 飲料メーカー	アサヒビール
15 小売（スーパーマーケット）	イトーヨーカ堂
16 定期試験	

※上記授業内容は都合により、前後したり会社名が変更になることもあります。

科目名	インターンシップ		
08年度入学：インターンシップ			
担当者	キャリアセンター		
対象学年	3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

「参加者学内選考」→「マッチング（実習先決定）」→「事前指導」→「実習」→「事後指導」の5段階で進みます。形式は、全参加者を集めての「集合研修」、ならびに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業をすることを求めます。

■教科書

事前指導時に「講義資料」、実習に行く直前に「実習ノート」を配布します。

■参考文献

■授業内容

授業項目		授業内容
1	4月	ガイダンス
	5月	参加者学内選考
2	5月	マッチング
3	6月	ビジネスマナー①
4		ビジネスマナー②
5		ビジネスマナー③
6		グループワーク①
7		グループワーク②
8	7月	プレゼンテーション①
9		プレゼンテーション②
10		スピーチ
11		直前諸注意
	8月 9月	実習
12	9月	実習内容のふりかえり
13	10月	実習報告書の執筆・修正
14	11月	実習報告会のプレゼンテーションリハーサル
15		実習報告会

※事前・事後指導の日程の詳細は別途告知します。

科目名	基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ		
担当者	土井 修 Osamu Doi 加茂川 益郎 Masuro Kamogawa 牧野 俊重 Toshishige Makino 小林 忠 Tadashi Kobayashi 野口 明宏 Akihiro Noguchi 森谷 英樹 Hideki Moriya 藤田 明男 Akio Fujita 折原 裕 Yutaka Orihara 中山 幸夫 Yukio Nakayama 飯野 由美子 Yumiko Iino 小山 幸伸 Yukinobu Koyama 藤井 輝男 Teruo Fujii 金子 林太郎 Rintaro Kaneko 岸本 太一 Taichi Kishimoto		
対象学年	1年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

ゼミの仲間や指導者と親しみ、キャンパス・スキル、アカデミック・スキルを身に付け、コミュニケーションやプレゼンテーションの技法を学び、リテラシーやナレッジを深めて、大学生活を確実にスタートさせます。

■授業の進め方（履修条件等）

指導教員の指示にしたがって下さい。

■成績評価方法・基準

■授業の予習・復習

■教科書

『敬愛大学経済学部基礎演習ドリルⅠ』、他（指導教員の指示によります）。

■参考文献

科目名	基礎演習 IR (a)・IR (a)		
08年度入学：演習 IR (a)			
担当者	田 文揚 <i>Fumiaki Den</i>		
対象学年	2～4年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

既習事項の確認と基礎学力の定着を図る。大学での学習や演習及び研究活動へのスムーズなシフトを可能にする為の国語力・英語力の充実を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は現在の国語力を点検した上で弱点補強の為に実践的学習を行なう。後期は現在の英語力を点検した上で弱点補強の為に実践的学習を行なう。定期的に小テストを実施する。

■成績評価方法・基準

定期考査（60%）・出席率（30%）・小テスト及び課題テスト（10%）

■授業の予習・復習

予習：テキストの実践問題に事前に取り組み解答を試みる。与えられたプリント教材中の未知の単語を下調べしておく。
復習：テキストやプリントの実践問題に再度取り組み定着に努める。

■教科書

「実践国語セミナー」浜島書店（浜島書店編集部）

■参考文献

「国語便覧」第一学習社（稲賀敬二）

科目名	基礎演習 IR (b)・IR (b)		
08年度入学：演習 IR (b)			
担当者	熊木 恒夫 <i>Tsuneo Kumaki</i>		
対象学年	2～4年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

国語の基礎能力（読む・書く）を高め、各自の「読む力・書く力」を伸ばすことを目指す。長文の評論文や新聞記事を読んで、筆者の主張について自分の考えをまとめて文章化する。芥川賞作家の「エッセイ」を音読して、作者の心情や文章のリズム感を鑑賞したり、繰り返し「読む」実践を通して読書する楽しみを身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

文章を音読しながら、各段落ごとの内容について適宜質問される事項について自分の意見を発表する。題名にこめられた主旨をくみとったり、筆者が読者に訴えている要点は、何かを見つけ出し、感想文を完成させる。

■成績評価方法・基準

試験は行わない・基本は出席状況（70%）・毎回、「感想文」を提出する（20%）・発表、授業態度等（10%）。

■授業の予習・復習

予習：新聞に毎日目を通すことを心掛け、気になった記事について感想を書いてみる。
復習：参考文献としてあげられている評論家・作家の作品を読むことに発展して欲しい。

■教科書

教科書は使用しない。毎回プリントを配布する。

■参考文献

呉智英「言葉の常備薬」
柳美里「世界のひびわれと魂の空白を」

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	加茂川 益郎 <i>Masuro Kamogawa</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

演習のテーマは日本経済である。景気、成長、物価、財政、金融、産業、経営、雇用など、日本経済の現実を理解し、研究することを目標とする。2年生ではごく大まかに現実を把握し、日本経済の問題点を探りたい。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読しながら、基礎的経済用語の理解や分析方法の習得に努めたい。各自の関心によってグループを作り発表をおこなってもらおう。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、発表等の平常点（50%）。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと、発表をおこなうこと。
復習：ゼミでの討論を整理しノートしておくこと

■教科書

ゼミナール「日本経済入門」（日本経済新聞社）

■参考文献

なし

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	鈴木 明男 <i>Akio Suzuki</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

会計理論の勉強に進む基礎として簿記論の知識を修得する。当面の目標は日本商工会議所簿記検定試験3級に合格することである。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、学生諸君に順次読みあげてもらい、これに解説を加え、さらに練習問題を解く。

■成績評価方法・基準

出席を重視し、練習問題、課題への取り組み姿勢を加味して判断する。

■授業の予習・復習

予習：添付してある練習問題を予習すること。
復習：くり返しが大切であり、添付してある練習問題を、納得するまで復習すること。

■教科書

新検定簿記講義3級（商業簿記）北村敬子他 中央経済社

■参考文献

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
経済と経営についての理解を深め、知識を広め、専門導入の達成を図る。
- 授業の進め方（履修条件等）
配布したものを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。
- 成績評価方法・基準
レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。
- 授業の予習・復習
演習の時間に、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。
- 教科書
使用しない。コピーして配布する。
- 参考文献
学生の研究したい分野に応じて十分なる文献を紹介したい。

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
専門科目の基礎となる文献を皆で読み進めていきます。日本企業を中心にをなす株式会社の制度・しくみを理解します。
- 授業の進め方（履修条件等）
ゼミ生の発表を中心に授業を進めます。
- 成績評価方法・基準
出席と発表の状況にもとづいて評価します。
- 授業の予習・復習
予習：テキストの発表予定箇所を読んできてください。
復習：授業の後にテキストを読み直してください。
- 教科書
奥山宏『会社とはなにか』岩波ジュニア新書
- 参考文献
必要な時は授業時間に紹介します。

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	仁平 耕一 <i>Koichi Nidaira</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
専門導入演習は3、4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは「経済学の基礎」を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。
- 授業の進め方（履修条件等）
本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者（発表者）を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。
- 成績評価方法・基準
レポート及びその他の課題（60%）・出席（40%）
- 授業の予習・復習
予習：テキストは必ず予習してくる。発表者はレジメ（報告要旨）を作ることを義務づける。
復習：セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。
- 教科書
『スティグリッツ 入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ、藪下史郎、秋山太郎
- 参考文献
『経済学の考え方』HBJ出版局、モーリス・レヴィ著

科目名	専門導入演習 I・II		
08年度入学：演習 II			
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>		
対象学年	2年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
マーケティングを学ぶことにより企業行動について理解を深めてもらいます。単なる知識・教養ではなく現実と直面したとき自分なりの意見を持てるように指導します。
- 授業の進め方（履修条件等）
テキストを中心にしますが、新聞記事、ビデオなども教材にしてできるだけ事例に即して進めます。
- 成績評価方法・基準
出席40%、その他60%
- 授業の予習・復習
宿題があればしてきてください。なければ前回の復習をしてください。
- 教科書
『コトラー教授「マーケティング・マネジメント」入門 I』
総合法令出版 2006年
- 参考文献

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

日本の産業、特に工業が世界の中でどのような特色を持っているのかを、立地論という視点を通して学びます。授業の「産業立地論」では全体的な特色を講義を通して学びますが、ゼミではゼミ員一人一人がテーマを決めて主体的に取り組みます。日本の産業を立地論という視点で捉えることができるようになるのが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

Ⅰでは資料を利用して日本の産業の成り立ちや仕組みを調べます。Ⅱでは個別の企業を取り上げて立地上の特色を研究します。それぞれ研究対象の企業を決め、企業のホームページや文献を利用してレポートしてもらいます。「産業立地論Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

Ⅰ・Ⅱそれぞれ、レポート点60%、出席点20%、平常点20%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：産業や企業の情報を日頃から新聞や図書、ネット等から得てください。
復習：産業や企業の立地上の特色はどのような点にあるのかを必ず復習してください。

■教科書

使用しません

■参考文献

三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本（第8版）』東洋経済新報社

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史はありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。

■授業の進め方（履修条件等）

当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想—江戸期から現代まで—』(岩波書店、1991年)。

■参考文献

指定しません。

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	飯野 由美子 Yumiko Iino		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

卒論の目次+各章・節・項の概要を仕上げることを目標とする。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れる。この習慣が文章での表現にも現れることを期待する。

■授業の進め方（履修条件等）

パソコンを使って行うため、パソコン操作の基礎（日本語入力、インターネット接続）が出来ること。ディスカッションに参加してくれること。

3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強する。希望によって、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行う。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（30%）・出席（70%）

■授業の予習・復習

前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだらその回の作業を課題としてやっておいて下さい。

■教科書

特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。

■参考文献

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

前期はこれから専門分野（経済学）を学ぼうとする諸君と、経済学の基本的なテキストを輪読して理解を深めたい。この授業を履修することで、経済学の基礎的な知識を修得することが目標である。後期には近代社会と教育の関わりについて考察する。経済成長と教育の発展について理解を深めることが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し、そこで読み取った内容を簡潔に報告してもらう。その上で、若干の討論を行いたい。この1年間に、下記の参考文献のうち少なくとも1冊を読むこと。

■成績評価方法・基準

出席を重視する。出席率=成績と思っほしい。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読むこと
復習：テキストを再び読むこと

■教科書

前期：小暮本一著『マンガ+講義でよくわかる経済学超入門』東洋経済新報社、2010年
岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』ダイヤモンド社、2009年
後期：関連する論文をコピーして配布する。

■参考文献

伊藤元重著『入門経済学（第3版）』日本評論社、2009年
岩田規久男著『経済学を学ぶ』筑摩書房、1994年
スティグリッツ著『スティグリッツ入門経済学（第3版）』東洋経済新報社、2005年
ドラッカー著、上田惇生編訳『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社、2001年
辻本雅史・沖田行司編『教育社会史』新体系日本史16.山川出版社、2002年

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	和田 良子 Ryoko Wada		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

企業の成績表である、財務諸表の基礎的な知識を身に着けます。また、PPTを使って、様々なことを効果的にプレゼンする方法を学びます。就職活動にも必要なスキルを身に着けながら、3・4年の専門演習の準備をしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ほぼ毎時間、PPTの作成・発表を行います。履修条件は、基本的にありませんが、情報基礎を終えていることが望ましい。また出席が重視されます。

■成績評価方法・基準

授業中のプレゼンテーションの内容によって決まります。

■授業の予習・復習

予習：プレゼンの報告のための準備をします。

復習：PPTの使い方について、勉強したことを自分にメールしておきます。

■教科書

■参考文献

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作ることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

日本経済に関する入門的な教科書あるいは読み物を用い、そこから毎回1つのテーマを選び、どのような現象が生じ、どのように解決が求められているのかを考える。取り上げられた題材について、自分自身の意見を整理、発表し、理解を深める。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（50%）・出席（50%）。出席状況にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。

復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。

■教科書

未定。

■参考文献

上記のほかに、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、卒業論文作成時に必要なデータの分析や論文作成に必要なPCの操作方法を習得してもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

専門導入演習Ⅰ（前期）は、Excelを用いたデータの処理方法、表現方法を、専門導入演習Ⅱ（後期）は、レポートや卒論の作成に必要なWordとExcelを用いたデータの利用方法や文書の作成方法を習得してもらいます。前後期ともレポートを各3回合計6回提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

出席（50%）とレポート（50%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：1年時に習ったExcelやWordの操作方法を演習の前に復習しておいてください。

復習：習った内容を身につけるよう復習しておいてください

■教科書

必要なデータや資料は毎回配布します

■参考文献

飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

この演習では、近年驚異的な成功を収めたユニクロの躍進の原因を論じた2冊のビジネス書を輪読する。1冊目は、柳井正『わがドラッカー流経営論』（日本放送出版協会）である。2冊目は、小島健輔『ユニクロ症候群』（東洋経済新報社）である。ユニクロの成功を導いた経営方法を学ぶとともに、1990年代以降の日本の消費市場の特徴を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義時間中教科書の内容について受講者全員がディスカッションするため、教科書を事前に読むことが必須である。

復習：要求しない。

■教科書

柳井 正（2010）『わがドラッカー流経営論』日本放送出版協会。

小島健輔（2010）『ユニクロ症候群』東洋経済新報社。

■参考文献

指定しない。

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	星 真実 Masami Hoshi		
対象学年	2年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

労働と生活、ひいては人間そのものについて探求するゼミである。従って、自分のことにしか関心がないという学生の参加は望まない。実際に街頭調査などを行う予定である。

■授業の進め方（履修条件等）

前半は実態調査の種類や方法などを学んでもらい、後半は実際に調査を行ってもらう予定である。

■成績評価方法・基準

出席（100%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：実際に調査に出かける
復習：調査内容をまとめる

■教科書

特に使用しない

■参考文献

星真実「千葉県のパートタイマー 2008—アンケート調査報告（2008年6月～7月）—」（『敬愛大学研究論集』74号）

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	金子 林太郎 Rintaro Kaneko		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第1のねらいである。テキストの内容をレジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第2のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論をってもらうことが第3のねらいである。これらを通して、3、4年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを1週間に1章ずつ勉強していく。最初は輪読形式をとる。適当な時期から報告者を指名し、報告者の報告を聞き、それ以外の者はそれにコメントや質問をして、みんなで議論することで理解を深める。

■成績評価方法・基準

出席（原則毎回出席）、ゼミ中の態度（発言の量と質、レジュメの質）、漢字テスト等の成績で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの指定された範囲を読んで、疑問点、感想をまとめておくこと。
復習：疑問点や興味を持った内容についてメディアセンターやインターネット等でさらに調べて欲しい。

■教科書

梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書

■参考文献

金森・荒・森口『有斐閣経済事典』
井波律子『故事成語でたどる楽しい中国史』岩波ジュニア新書

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①：ビジネス書および経営学・経済学の教科書を読めるようになること。②：他人が容易に理解可能なプレゼンテーション資料を作成できるようになること。③：意味のあるディスカッションができるようになること。ゼミという形式は、この3点を学ぶには最適な形式です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。

■授業の予習・復習

予習：毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。
復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。

■教科書

小倉昌男著『小倉昌男 経営学』日経BP社

■参考文献

特にありません。

科目名	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅱ			
担当者	添田 利光 Toshimitsu Soeda		
対象学年	2年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

経済を包括的に理解するには、実物的な側面（モノの生産・販売や雇用など）だけでなく、カネの側面を理解する必要があります。しかも、カネの側面を良く理解し、その視点から実物的な側面を観察すると、まるで裏側から表舞台をみるような、広範で良好な視界を確保することができます。本演習では、入門的な金融論のテキストを用い、手堅い知識の獲得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読します。金融論を履修することをお勧めします。

■成績評価方法・基準

出席（60%）・報告などの成果（40%）

■授業の予習・復習

予習：テキストや参考文献を中心に行ってください。
復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。

■教科書

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社

■参考文献

日本経済新聞社編『ベーシック／金融入門』日本経済新聞
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
この他、演習の中で随時紹介します。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki		
対象学年	3年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
財務会計論とその関連分野に係る基礎的知識習得を狙いとし、社会人としての会計的常識及び財務の専門家への勉強の手がかりを得ることを目標とする。
- 授業の進め方（履修条件等）
技術的用語が多いことから、当初は学生諸君に順番に教科書を読んでもらい、これに解説を加える。訓れてきた段階で4～5人をチームとしてレジュメを発表してもらおう。また副教科書は必携で、随時これを参考にする。
- 成績評価方法・基準
出席状況と発表態度ならびに課題提出状況を総合的に判断して評価する。
- 授業の予習・復習
会計は特有の用語を使用している。そのため進度に応じた予習復習が学習には効果的である。特に発表者あるいは資格試験受験者は不可欠である。
- 教科書
『会計学教科書』千代田邦夫 中央経済社
『会計法規集』 中央経済社編
- 参考文献
『新財務諸表論』田中弘 税務経理協会
『セメスター法人税法』鈴木明男他 税務経理協会

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	牧野 俊重 Toshishige Makino		
対象学年	3年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。
- 授業の進め方（履修条件等）
(3年) テキストを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。出席は重視する。また、夏休みには新書版の本の中から選り1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。
(4年) 前年度の研究論文を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。
- 成績評価方法・基準
レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。
- 授業の予習・復習
演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。
- 教科書
猿谷 要著『物語アメリカの歴史』（中公新書 820円＋税）
- 参考文献
演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	野口 明宏 Akihiro Noguchi		
対象学年	3年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
日本経済の主な担い手である、株式会社を規制する会社法の基礎知識を理解します。とくに会社制度を基礎から考えていきます。
- 授業の進め方（履修条件等）
ゼミ生の発表を中心に授業を進めます。
- 成績評価方法・基準
出席回数と発表の状況にもとづいて評価します。
- 授業の予習・復習
予習：テキストの発表予定箇所を読んできてください。
復習：発表すみのレジュメをもとにテキストを読み返してください。
- 教科書
近藤光男編『現代商法入門（第8版）』有斐閣
- 参考文献
必要な時に授業のなかで紹介いたします。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira		
対象学年	3年	単位	各1単位

- 授業のねらいと到達目標
ミクロ経済学およびマクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。
- 授業の進め方（履修条件等）
テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは演習Ⅳにおいて指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。
- 成績評価方法・基準
授業中の報告（30%）・レポート及びその他の課題（40%）・出席（30%）
- 授業の予習・復習
予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。
復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。
- 教科書
『スティグリッツ 入門経済学（第3版）』東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著
- 参考文献
『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。

■教科書

『MBAマーケティング』改定3版
クロービス著、ダイヤモンド社

■参考文献

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

産業立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようにすることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

産業と地域の関係を明らかにするために夏休み（9月）にゼミ合宿を行います。いくつかの班に分かれて担当する産業を決め、現地に行って企業見学や調査を行います。演習Ⅰでは調査のための準備（資料集めや資料分析、調査項目の検討など）を行い、演習Ⅱでは調査結果のまとめを行います。レポートは班単位で提出してもらいます。ディベート練習も行います。

■成績評価方法・基準

Ⅰ・Ⅱそれぞれ、レポート60%、出席20%、授業内での発表20%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：図書館や官公庁での文献・資料収集、インターネットなどでの情報収集を予め行っておいてください。
復習：ゼミ時に指導された分析方法は必ず復習しておいてください。

■教科書

使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

青木英一『首都圏工業の構造』大明堂
辻 悟一編『経済地理学を学ぶ人のために』世界思想社
三菱総合研究所「産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本（第8版）』東洋経済新報社

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

一にも二にも、卒業論文の準備につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、折原が『敬愛大学・研究論集』に公表したものなどを材料に、論文の作成方法全般について学びます。後期は、夏休み中に書いてもらうレポートをもとに、卒業論文準備報告書を執筆することを目標にします。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

指定しません。

■参考文献

指定しません。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	飯野 由美子 Yumiko Iino		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

前期のうちに卒論草稿を書き進め、年内に書き上げること、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れること、後半は就職活動を進めること

■授業の進め方（履修条件等）

2年ゼミ同様楽しく、休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。

前期のうちに卒論草稿を書き進め、後期は卒論報告とグループディスカッションを重ねつつ、時々就職活動の情報交換をしましょう。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（50%）・出席（50%）

■授業の予習・復習

今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。スケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。

■教科書

特に指定せず。

■参考文献

それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

初等・中等教育機関における歴史分野で扱われている内容と、「経済史」での研究成果との齟齬について調査分析する。いま一つは、近現代の日本社会と私学教育との関わりについて考察していく。

■授業の進め方（履修条件等）

小・中・高の教科書を読み、当該単元での「経済分野」の取り上げ方を調査する。次に研究成果や大学でのテキストなどとの比較検討を行い、取り上げ方の妥当性について討論する。以上の内容を文章化して報告書を作成させる。

■成績評価方法・基準

出席は当然のことであるが、報告書の作成を以って評価する。

■授業の予習・復習

予習として経済学、経済史の関係文献をよく読むこと。復習として報告書の作成を必ず行うこと。

■教科書

特に指定はしない。

■参考文献

メディアセンターにある経済学・経済史に関する図書全般
小・中・高の歴史・公民分野のテキストを見つけておくこと

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	和田 良子 Ryoko Wada		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

MBAコースで学ぶファイナンスの内容に匹敵する専門知識を付けます。特に、企業の事業評価や、ポートフォリオ選択について学びます。

また、これによって、就職活動でも、最低限必要なIRにおける財務データの読み方が身に付きます。4年では、学んだ知識を用いて卒業論文を仕上げます。必ずデータを自ら取ってエクセルでグラフを作り、分析していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週、グロービス社「MBAファイナンス」を輪読します。

■成績評価方法・基準

授業での報告内容によって評価されます。また、報告の順番によっても評価されます。報告していない場合や、授業への出席が半分以下の場合は、確実に落第となります。（過去にも実例があります）出席が基本ですが、出席したら、毎時間全員があげられます。のんびりはできませんが、確実に力が身につけていきます。

■授業の予習・復習

予習：プレゼンの準備やテキストの予習で行います。

復習：自分に対して学んだ内容をメールします。これが、就職活動のときに役に立ちます。

■教科書

■参考文献

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次においては、日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認することを目標とする。この過程で卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、4年次における論文執筆の準備とする。4年次においては、前年に学んだ文献のなかで提示された様々な論点を中心にしつつ、受講者の関心に応じてそれ以外の日本経済や経済学に関する分野も含めたなかから自身の研究テーマを選択し、卒業論文の完成を目指す。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（50%）、出席および参加の状況（50%）を考慮して評価する。

■授業の予習・復習

予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。

復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。

■教科書

未定。マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集（日本語文献）を選定する。

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、経済学・経営学の基礎知識および卒業論文の作成・報告の方法について学んでもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

3年前期は、経済学および経営学の知識習得および文書作成能力向上を目的とした課題レポートの作成をしてもらいます。3年後期は卒論テーマ決定のための報告会を行います。4年次は報告会を通して前期は卒論の構成について、後期は作成した論文の内容についての検討（論文指導）を行います。

■成績評価方法・基準

専門演習Ⅰ・Ⅱは出席（20%）とレポート（80%）で専門演習Ⅲ・Ⅳは出席（20%）、報告内容（80%）、卒業論文は卒論（100%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：1年時に習ったExcelやWordの操作方法を演習の前に復習しておいてください。

復習：習った内容を身につけるよう復習しておいてください

■教科書

必要なデータや資料は毎回配布します

■参考文献

坂田せいじ他著『誰も教えなかった論文・レポートの書き方』総合法令

高橋 誠著『日経文庫 問題解決手法の知識<新版>』日経新聞社

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

この演習では、サム・ウォルトン「私のウォルマート商法—すべて小さく考えよ」(講談社プラスアルファ文庫)を輪読する。現代の小売業は、消費者の購買パターンを把握し、それに適合できる店舗を作ることが求められている。消費者の購買行動をどのように観察し、分析するのか。また、小売企業はどのように消費者により適合した店舗を作るのか。この演習ではこれらの問題を、世界最大の小売チェーンであるウォルマートの創業者による自伝を輪読することを通じて考える。

■授業の進め方(履修条件等)

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート(30%)、出席(40%)、授業態度(積極的に発言するなど)(30%)で評価する。

■授業の予習・復習

予習：演習の前に教科書を読み、レポートを作成することが必須である。復習：要求しない。

■教科書

サム・ウォルトン(2002)「私のウォルマート商法—すべて小さく考えよ」講談社プラスアルファ文庫。

■参考文献

指定しない。

科目名	専門演習Ⅰ・Ⅱ		
08年度入学：演習Ⅲ			
担当者	添田 利光 Toshimitsu Soeda		
対象学年	3年	単位	各1単位

■授業のねらいと到達目標

経済を包括的に理解するには、実物的な側面(モノの生産・販売や雇用など)だけでなく、カネの側面を理解する必要があります。しかも、カネの側面を良く理解し、その視点から実物的な側面を観察すると、まるで裏側から表舞台をみるような、広範囲で良好な視界を確保することができます。本演習では、金融論や金融機関論などについて学び、各自で論文をまとめます。

■授業の進め方(履修条件等)

初めの数か月で金融の基礎を学びます。この段階で、調査や資料集めの方法も学びます。つづいて、自分で研究テーマを見つけ、自由に研究してもらいます。この際、継続的かつ頻繁にアドバイスをもらうことが重要です。

■成績評価方法・基準

出席(60%)・報告などの成果(40%)

■授業の予習・復習

予習、復習のいずれにおいても、各自の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
高木仁『アメリカの金融制度』東洋経済新報社
その他、演習の中で随時紹介します。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

3年次で修得しきれなかった分野を継続的に学び、さらに財務諸表分析に進む。授業の後半では各自の研究テーマを中心に卒業論文作成の指導を行う。

■授業の進め方(履修条件等)

財務諸表分析では毎時間資料をもとに実際に分析作業を行い、全員判断結果を口頭発表する。卒業論文では各自テーマを選定し、レジュメ作成、発表を行い、全員で討論する。

■成績評価方法・基準

出席状況と発表態度ならびに課題提出状況を総合的に判断して評価する。

■授業の予習・復習

特に発表者には予習が不可欠であり、復習は学習効果を高めるには効果的である。

■教科書

3年次のテキストを継続使用し、必要に応じプリントを配布する。

■参考文献

卒業論文のテーマに応じ各自選定する。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	牧野 俊重 Toshishige Makino		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。

■授業の進め方(履修条件等)

前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

猿谷 要著『物語アメリカの歴史』(中公新書 820円+税)

■参考文献

演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
各自が選んだテーマについて卒業論文を作成し、完成させてもらいます。
- 授業の進め方（履修条件等）
ゼミ生ごとに個人指導をいたします。たとえば、テーマに関する資料収集の方法、書けた文書の修正などです。
- 成績評価方法・基準
出席回数、提出された卒業論文の内容などにもとづいて評価します。
- 授業の予習・復習
予習：自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌記事、HPなどを常に探してください。
復習：書けた文書を常に推敲してください。
- 教科書
使用しません。
- 参考文献
必要に応じて紹介します。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	仁平 耕一 <i>Koichi Nidaira</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。
- 授業の進め方（履修条件等）
4年次前期ではテキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。後期は卒論作成の指導をおこなう。卒論のテーマについては柔軟に対応するつもりであるが、経済政策に関連するテーマを選択することを望む。
- 成績評価方法・基準
授業中の報告（30%）・レポート及びその他の課題（40%）・出席（30%）
- 授業の予習・復習
予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。
復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。
- 教科書
『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著
- 参考文献

科目名	演習Ⅳ		
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。
- 授業の進め方（履修条件等）
講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。
- 成績評価方法・基準
出席40%、その他60%
- 授業の予習・復習
- 教科書
使用しない
- 参考文献

科目名	演習Ⅳ		
担当者	青木 英一 <i>Hidekazu Aoki</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
演習Ⅲ（3年次）で学んだ産業と地域の関係を明らかにする手法を使って、各自がテーマを定め、準備し調査して内容をまとめ、論文として発表できるように指導していきます。最終的には卒業論文としてまとめることが目標となります。
- 授業の進め方（履修条件等）
テーマの選定は3年次に済ませているので、4月～7月は調査のための準備を行い、順次発表して行きます。夏休みに調査を行って、後期に研究のまとめを行います。それぞれの段階で個別に指導を行います。
- 成績評価方法・基準
卒業論文60%、出席20%、ゼミでの発表など20%で評価します。
- 授業の予習・復習
予習：資料収集などには十分な時間をかけるようにしてください。
復習：ゼミで指摘されたことについては必ず対応してください。
- 教科書
使用しません。
- 参考文献
各自のテーマによって異なるので、一人一人に指示します。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
一にも二にも、卒業論文の準備につきます。
- 授業の進め方（履修条件等）
3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。
- 成績評価方法・基準
レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）と卒業論文との総合評価によります。
- 授業の予習・復習
進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。
- 教科書
指定しません。
- 参考文献
指定しません。
- オフィスアワー
開講日の昼休み。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	飯野 由美子 Yumiko Iino		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
卒論完成、内定取得
- 授業の進め方（履修条件等）
個人作業の比率が増えてきます。困った時、講師とメール・電話で連絡がつけられるようにしておいてください。
就職活動と調整しながらのゼミ進行になると思います。前期は連絡を取り合いながら卒論完成とエントリーシート等就職活動のお手伝い、後期は卒論報告と卒論草稿の修正作業で忙しくなります。
- 成績評価方法・基準
レポート及びその他の課題（90%）・出席（10%）
- 授業の予習・復習
個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。
- 教科書
特に指定しない
- 参考文献
それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	小山 幸伸		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
昨年度の演習Ⅲでの企業研究を踏まえて、各自が卒業論文で取り組もうと考えている企業や産業について調査し報告してもらう。まずHPや社史などを利用し、企業の歴史をまとめる。次に、有価証券報告書等を活用して経営指標から各時期の経営状態を分析する。最後にライバル企業との比較などを行う。これらは最終的に卒業論文としてまとめること。
- 授業の進め方（履修条件等）
各自が調査対象としている企業について、各自のペースで調査する。年間4回の中間報告を義務付ける。
- 成績評価方法・基準
演習Ⅳでは、とにかく出席すること。そして最後に卒業論文の完成度で評価する。
- 授業の予習・復習
報告準備を怠り無く行うこと。報告終了後は、報告原稿を加筆修正し論文文化して提出すること。
- 教科書
特に指定はしない。
- 参考文献
それぞれの研究テーマに応じて紹介する。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	和田 良子 Ryoko Wada		
対象学年	4年	単位	4単位

- 授業のねらいと到達目標
MBAコースで学ぶファイナンスの内容に匹敵する専門知識を付けます。特に、企業の事業評価や、ポートフォリオ選択について学びます。
また、これによって、就職活動でも、最低限必要なIRにおける財務データの読み方が身に付きます。4年では、学んだ知識を用いて卒業論文を仕上げます。必ずデータを自ら取ってエクセルでグラフを作り、分析していきます。
- 授業の進め方（履修条件等）
毎週、グロービス社「MBAファイナンス」を輪読します。
- 成績評価方法・基準
授業での報告内容によって評価されます。また、報告の順番によっても評価されます。報告していない場合や、授業への出席が半分以下の場合は、確実に落第となります。（過去にも実例があります）出席が基本ですが、出席したら、毎時間全員があげられます。のんびりはできませんが、確実に力が身につけていきます。
- 授業の予習・復習
予習：プレゼンの準備やテキストの予習で行います。
復習：自分に対して学んだ内容をメールします。これが、就職活動のときに役に立ちます。
- 教科書
- 参考文献

科目名	演習Ⅳ		
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次において日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認してきたものを基礎として、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、論文執筆の準備とする。4年次においては、前年に学んだ文献のなかで提示された様々な論点を中心しつつ、受講者の関心に応じてそれ以外の日本経済や経済学に関する分野も含めたなかから自身の研究テーマを選択し、卒業論文の完成を目指す。

■成績評価方法・基準

卒業論文、レポート、およびその他の課題（50%）、出席および参加の状況（50%）を考慮して評価する。

■授業の予習・復習

予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。
復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。

■教科書

マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

この演習では、学生にこれまで学んだ知識とデータ収集の技能を用いて、卒業論文を作成してもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生の卒業論文の発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に論文の原稿を作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者の原稿についてコメントしてもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：論文の原稿を事前に作成する。
復習：演習の時間でもらったコメントに基づいて原稿を修正する。

■教科書

指定しない。

■参考文献

戸山山和久（2002）『論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会。

科目名	演習Ⅳ		
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、経済学・経営学の基礎知識および卒業論文の作成・報告の方法について学んでもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

報告会を通して前期は卒論の構成について、後期は作成した論文の内容についての検討（論文指導）を行います。

■成績評価方法・基準

出席（10%）、報告内容（20%）、卒論（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎回報告用の卒論検討資料の作成準備をお願いします
復習：指摘事項に基づき、内容の再検討をお願いします

■教科書

なし

■参考文献

なし

科目名	演習Ⅳ		
担当者	星 真実 Masami Hoshi		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

演習Ⅲで行ったパートタイマー実態調査をベースとして、卒業論文作成の指導を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生のレジュメ報告と討論を軸として、卒論合宿で卒業論文を完成させる。

■成績評価方法・基準

卒論判定により成績とする。

■授業の予習・復習

予習：調査内容を報告書としてまとめる。
復習：質問で出た内容を埋めて、報告書の完成度を上げる。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

星真実『千葉県のパートタイマー 2008—アンケート調査報告（2008年6月～7月）—』（『敬愛大学研究論集』74号）

科目名	演習Ⅳ		
担当者	金子 林太郎 <i>Rintaro Kaneko</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

3年ゼミでの学習内容を踏まえ、4年次はひたすら卒論の完成を目指してもらう。7月末までに卒論のテーマと構成を固めること、11月末までに草稿を1度提出すること、年末までにほぼ完成という段階まで行くことを最低目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

4、5月は全員出席で卒論作成方法（テーマ設定、構成の仕方、文献の調べ方等）を解説する。6月以降は個別に卒論作成を進めてもらう。順番を決めて月に1回程度進捗状況を報告してもらい、必要な指導を行う。

■成績評価方法・基準

全員出席の日と個人報告の日の出席状況40%、卒論作成への取り組み方30%、卒論の出来栄を30%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：個人報告の際は、草稿のほかにレジュメを用意すること。
復習：指導された内容を踏まえ、適切に卒論の内容に反映させること。

■教科書

指定しない。

■参考文献

酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために」（共立出版）
小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」（講談社現代新書）

科目名	演習Ⅳ		
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>		
対象学年	4年	単位	4単位

■授業のねらいと到達目標

演習Ⅲにおける取り組みの延長として、卒業論文を完成させます。

■授業の進め方（履修条件等）

資料の集め方や論文の書き方などは、基本的に演習Ⅲで学習済みなため、本演習では卒業論文作成のための個別相談が中心となります。後期には、論文の完成度を一層上げるため、適宜報告会を開催します。

■成績評価方法・基準

出席（40%）・報告などの成果（60%）

■授業の予習・復習

予習、復習のいずれにおいても、各自の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
高木仁『アメリカの金融制度』東洋経済新報社
その他、演習の中で随時紹介します。

科目名	経済理論A I		
08年度入学：経済原論A			
担当者	加茂川 益郎 <i>Masuro Kamogawa</i>		
対象学年	経済系	1～2年	単位 2単位
	経営系	2～3年	

■授業のねらいと到達目標

商品、貨幣、資本から成る市場と産業資本によって遂行される社会的再生産の構造を学んで資本主義の全体像を把握する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと。
復習：ノートをまとめておくこと。

■教科書

小幡道昭『経済原論 基礎と演習』東京大学出版会

■参考文献

日高普『経済原論』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	経済原理の対象、方法、構成
2 商品	モノと商品、商品の二要因
3	価値形態
4 貨幣	価値尺度、流通手段
5	蓄積手段、商品売買の変形
6 資本	資本の概念、資本の多態化
7	市場の軸心
8 労働	労働過程、労働組織
9	賃金制度
10 生産	社会的再生産、剰余価値と剰余生産物
11	価値増殖過程
12	資本の蓄積
13 蓄積	労働市場
14	再生産表式
15 まとめ	市場と社会的再生産
16 定期試験	

科目名	経済理論A II			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	経済系	1 ~ 2年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

個別資本の競争が形成する価格機構、市場機構を学び、それら機構を具えた資本主義市場のもとで、資本蓄積が展開する景気循環を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使用して板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・出席（30％）

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと。
復習：ノートをもとめておくこと。

■教科書

小幡道昭『経済原論 基礎と演習』東京大学出版会

■参考文献

日高普『経済原論』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	費用価格と利潤	
2	生産価格	
3	価格機構	
4		市場価値
5		地代 I
6	地代 II	
7	商業資本	
8	商業信用	
9	市場機構	
10		銀行信用
11		銀行資本
12	株式資本	
13	景気循環	
14		原理的アプローチ
15		好況と不況
16	恐慌	
17	景気循環の形態	
18	まとめ	
19	資本主義的市場と景気循環	
20	定期試験	

科目名	経済理論B I			
08年度入学：経済原論B				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	1 ~ 2年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

経済学によって、経済や世界をどのように捉えることができるのかを学びます。マクロ経済学では、GDPや景気などの定義、財政問題を扱います。ミクロ経済学では、私たちの行動がどのような原理に基づいているのかを理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

2-3問の小テストを毎週課題とします。これによって授業内容の確認・理解を深めるとともに、復習と予習が可能になるようにします。

■成績評価方法・基準

小テストによって6割、期末テストによって4割を評価します。

■授業の予習・復習

予習：小テストを解いてくること
復習：ノートを見て小テストを解いてくること

■教科書

井堀利宏『コンパクト経済学』新世社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1	イントロダクション 経済学の考え方 重要な概念、マクロ経済の主体
2	マクロ経済学の目的 マクロ経済学の目的、GDPの定義、財政政策
3	GDPの三面等価 GDP成長率、実質と名目、インフレとデフレ
4	経済主体とその活動 家計の消費、企業の投資、政府の支出
5	経済主体とその活動 金融部門と海外部門
6	景気の定義 景気とは何か、景気の現状の見方と予測の仕方
7	乗数効果 乗数効果、限界消費性向
8	国内所得の決定 国内所得の大きさはどのように決まるのか
9	財政政策の評価 拡張的財政政策、均衡財政政策
10	経済政策とは何か 公共投資、経済政策の評価
11	貨幣と金融 貨幣需要とマネーサプライの供給
12	IS-LM分析 IS曲線とLM理論
13	金融政策の評価 IS-LM曲線のシフトと金融政策の評価
14	国際経済 貿易、国際収支と為替レート
15	まとめと補足 足りない内容を補足します
16	定期試験

科目名	経済理論B II			
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	1～2年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。

■成績評価方法・基準

小テストによって6割、期末テストによって4割を評価の対象とします。

■授業の予習・復習

予習：小テストによって行います

復習：小テストによって行います

■教科書

井堀利宏『コンパクト経済学』新世社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か
2 ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例
3 消費理論 1	選ぶということ、最も良い選び方、選好の仮定と効用
4 消費理論 2	選好の仮定と効用関数
5 消費理論 3	無差別曲線、予算制約
6 消費理論 4	限界代替率、効用の最大化
7 配分 1	配分とは何か配分方法、価格メカニズム
8 配分 2	パレート効率性、アローの一般不可能性
9 生産理論 1	企業の活動目的、ステークホルダー
10 生産理論 2	技術と生産関数
11 生産理論 3	利益の最大化と生産の理論
12 生産理論 4	費用最小化問題、平均費用、限界費用
13 社会選択の理論	選挙と多数決原理、マッチング理論
14 ゲームの理論	ゲームの理論、囚人のジレンマ
15 まとめと応用	環境経済学への応用
16 定期試験	

科目名	日本経済史 I			
08年度入学：日本経済史				
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	経済系	1～2年	単位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

日本における資本制社会の成立について理解することが本講義の目標である。そのため、① 前近代における全国市場が、近代化をスムーズに推進させたことを理解することができる。② 資本制社会に適応した社会構成体とはどのようなもので、それがどのように形成されたのかを知ることができる。③ 日本における産業革命が達成され資本制社会が形成された時期について考察することができる。以上が到達目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、授業内容を整理した「まとめプリント」を配布する。授業内容を理解した上で、授業終了後に、このプリントの解答を提出すること。授業自体は、毎回の授業テーマごとに、テーマ内容を講義するので、よく聞いてポイントをノートに取る。授業内容を理解するための資料も配布する。

■成績評価方法・基準

定期試験(100点) + 授業のまとめプリント(50点) + 予備試験(50点) = 合計200点
 180点以上 = 秀(90)、160～179点 = 優(80)、140～159点 = 良(70)、120～139点 = 可(60)、119点以下 = 不可(60未満)。
 なお出席率が2/3に達していない者は、評価の対象外とする。

■授業の予習・復習

予習：まず、高校までに学んだ日本史のうち、経済分野についての理解をしておくこと。その上で、テキストを読んでおくこと。
 復習：授業中に配布したプリントやノートをよく見直し、整理しておくこと。余力があれば、参考文献の関連する論文を読むこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 経済史入門	生産様式による時代区分、資本制社会の変化
3 幕藩制全国市場の成立	商品の流通ルート、金融市場の成立
4 近世の都市商業	問屋商人の成長、帳合法に見る経営管理
5 幕末の経済と開港	市場の変化、世界資本主義との接触
6 明治維新と資本制社会	資本制的社会構成体
7 明治期の財政・金融	地租改正、国立銀行
8 殖産興業	殖産興業政策、官業の払い下げ
9 大隈財政と松方財政	インフレとデフレ、大隈インフレ、松方デフレ
10 日本の産業革命	産業革命を巡る学説
11 近代産業の発達①	企業勃興ブーム、1890年恐慌
12 近代産業の発達②	大阪紡績会社、
13 日清・日露戦争期の日本経済	戦後経営、財閥の成立
14 予備試験と解答解説	
15 答案返却	答案返却、質問
16 定期試験	

■教科書

三和良一『概説日本経済史』第2編（東京大学出版会、2002年）

■参考文献

『日本経済史』全8巻（岩波書店）

科目名	日本経済史Ⅱ			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	経済系	1～2年	単位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

近現代日本の経済政策を紹介しながら、今日の社会がどのようにして形成されたのかを歴史的に理解することが、本講義の目標である。
そのため、①さまざまな経済政策が、どのような歴史的条件のなかで実施されたのかを考察することができる。②近現代日本における市場や消費社会のあり方について、歴史的に考察する力を身に付けることができる。以上が到達目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、授業内容を整理した「まとめプリント」を配布する。授業内容を理解した上で、授業終了後に、このプリントの解答を提出すること。授業自体は、毎回の授業テーマごとに、テーマ内容を講義するので、よく聞いてポイントをノートに取ること。授業内容を理解するための資料も配布する。

■成績評価方法・基準

定期試験（100点）＋授業のまとめプリント（50点）＋予備試験（50）＝合計200点
180点以上＝秀（90）、160～179点＝優（80）、140～159点＝良（70）、120～139点＝可（60）、119点以下＝不可（60未満）。なお出席率が2/3に達していない者は、評価の対象外とする。

■授業の予習・復習

予習：まず、高校までに学んだ日本史のうち、経済分野についての理解をしておくこと。その上で、テキストを読んでおくこと。
復習：授業中に配布したプリントやノートをよく見直し、整理しておくこと。余力があれば、参考文献の関連する論文を読むこと。

科目名	西洋経済史Ⅰ			
08年度入学：西洋経済史				
担当者	牧野 俊重 Toshishige Makino			
対象学年	経済系	1～2年	単位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

歴史と経済史を学ぶ意義とその研究方法を明らかにし、次いで総合的・グローバルな視点から経済発展を軸に経済史を考究する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%
出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

Joel Mokyr (ed.), The Oxford Encyclopedia of Economic History, 5 vols. (2003).
Rondo Cameron and Larry Neal, A Concise Economic History of the World, 4 th ed. (2003).
Elias H. Tuma, European Economic History (1971).
その他は講義中随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 第1次大戦期の日本経済	大戦ブーム、戦後恐慌
2 1920年代の日本経済	世界経済の新機軸、日本経済の新局面
3 金融恐慌	割引現在価値、震災手形処理問題、金融恐慌
4 金本位制と金解禁	国際金本位制の機能
5 昭和恐慌	昭和恐慌、ドル買いとテロ
6 高橋財政	高橋財政と有効需要の創出
7 戦時統制経済	ブロック経済、統制経済
8 戦後の経済改革	財閥解体、農地改革、労働改革
9 戦後の経済復興策	金融緊急措置令、傾斜生産方式、安定恐慌
10 戦後の経済構造	ドッジライン、シャープ税制勧告、ブレトンウッズ体制
11 高度経済成長①	高度経済成長と経済構造
12 高度液剤成長②	二重構造、公害問題、過疎と過密
13 安定成長からバブル経済	2つのショックと安定成長
14 予備試験と解答解説	
15 答案返却	答案返却、質問
16 定期試験	

■教科書

三和良一『概説日本経済史』第2編（東京大学出版会、2002年）

■参考文献

『日本経済史』全8巻（岩波書店）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 歴史の意義と経済史学	オリエンテーション
2 //	歴史とは何か
3 //	経済史学の研究対象
4 //	経済史学の研究方法
5 経済発展の要因と経済発展段階説	経済発展の要因：人口・資源・技術
6 //	経済発展の要因：資本・その他
7 //	経済発展の要因：シュンペーターとイノヴェーション
8 //	経済発展段階説：ドイツ歴史学派の諸説
9 //	経済発展段階説：ドイツ歴史学派の諸説（リストとロツシャの説）
10 //	経済発展段階説：ドイツ歴史学派の諸説（ヒルデブランドとビュッヒャーとシュモラーの説）
11 //	経済発展段階説：マルクスの経済発展論
12 //	W・W・ロストウの経済成長段階説：伝統的社会
13 //	W・W・ロストウの経済成長段階説：先行条件とテイク・オフ
14 //	W・W・ロストウの経済成長段階説：成熟への前進と高度大衆消費時代
15 //	W・W・ロストウの経済成長段階説：その後に来る社会
16 定期試験	

科目名	西洋経済史Ⅱ			
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	経済系	1～2年	単 位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

西洋諸国（西ヨーロッパ）の経済史的基盤とその経済的発達のプロセスを考究する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%

出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べて復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	封建社会と荘園制 封建社会の発達
2	〃
3	〃 荘園制と農村
4	中世都市の発達 中世都市の成立と都市経済の特質
5	〃
6	近代社会の成立と重商主義 ヨーロッパ近世の意義、文芸復興と宗教改革
7	〃 重商主義政策
8	〃
9	産業革命の進展 イギリスの産業革命
10	〃
11	〃 欧州諸国の産業革命
12	〃
13	独占資本主義の成立と両世界大戦 独占資本主義の成立、第一次世界大戦
14	〃
15	〃 戦間期の経済問題と第二次世界大戦後の世界
16	定期試験

科目名	経済政策AⅠ			
08年度入学：経済政策総論 A				
担当者	馬場 正弘 <i>Masahiro Baba</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

近代経済学の基礎的知識に基づいて、経済安定化および経済成長に関する政策を中心に、現代経済が直面している様々な政策上の問題のメカニズムとそれに対する政策手段を論じる。入門的な教科書を主に利用しながら、同時に、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容には何らかの形で教科書と対応する部分が多いが、それだけにとどめることはしない。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となろう。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどをを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	はじめに
2	経済政策の考え方 政府と政策、公共部門の意義と役割
3	景気循環と経済安定化（1） 景気循環の考え方
4	〃（2） 景気循環と失業・インフレーション
5	国民所得の理論と政策（1） 45度線モデルと生産物市場均衡
6	〃（2） 総需要管理政策（乗数効果）
7	〃（3） IS-LMモデルと安定化政策
8	〃（4） IS-LM曲線の形状と政策効果
9	〃（5） 国際収支とオープンマクロ経済学
10	〃（6） オープンマクロ経済学における財政・金融政策
11	経済成長の理論と政策（1） 経済成長の考え方
12	〃（2） 経済成長の理論
13	〃（3） 経済成長と資本蓄積
14	〃（4） 経済成長と労働、技術進歩
15	まとめと試験の準備 講義で触れられなかったこと／全体の復習
16	定期試験

■参考文献

必要に応じて講義時に紹介する。

科目名	経済政策A II			
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

近代経済学の基礎的知識に基づいて、失業とインフレに対する政策とその評価、産業政策などを中心に、現代経済が直面している様々な政策上の問題のメカニズムとそれに対する政策手段を論じる。入門的な教科書を主に利用しながら、同時に、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容には何らかの形で教科書と対応する部分が多いが、それだけにとどめることはしない。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となろう。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどをを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年。

■参考文献

必要に応じて講義時に紹介する。

科目名	経済政策 B I			
08年度入学：経済政策総論 B				
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、経済政策の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・授業内小テスト（15%）・出席（15%）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	
2 失業と物価問題（1）	失業とインフレーションの諸概念
3 // （2）	財政政策の手段
4 // （3）	金融政策の手段
5 // （4）	総需要管理政策をめぐる様々な議論
6 // （5）	非循環的失業と政府の役割①
7 // （6）	非循環的失業と政府の役割②
8 // （7）	供給インフレーション
9 産業政策（1）	産業構造と産業組織
10 // （2）	経済成長と産業政策
11 // （3）	独占の非効率性と競争政策
12 // （4）	直接規制政策～経済的規制と社会的規制
13 // （5）	直接規制政策の根拠と規制緩和
14 // （6）	技術革新と産業政策
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／講義全体の復習
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経済政策とは	市場の限界と経済政策の役割
2 バブル経済とデフレ	バブル経済とバブル崩壊のメカニズム
3 経済	デフレ下の経済政策
4	経済安定化政策の目的と手段
5	国民所得決定理論（1）
6 財政政策と経済の安定化	国民所得決定理論（2）
7	乗数効果と財政政策（1）：政府支出乗数
8	乗数効果と財政政策（2）：租税乗数
9	財政政策の有効性について
10	伝統的な金融政策の手段
11	金融政策とポリシーミックス
12 金融政策	信用秩序の維持と金融政策
13	不良債権の処理と金融秩序
14	ゼロ金利政策と量的緩和政策
15 授業のまとめ	
16 定期試験	

■参考文献

『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之

『日本経済読本【第17版】』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤 裕己

科目名	経済政策 B II			
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何か必要なのだろうか。本講義は、経済政策の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（15％）・出席（15％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない

科目名	経済学史 I			
08年度入学：経済学史 I				
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

古典派経済学を中心として経済学の形成史を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）と出席（30％）によって総合的に評価する

■授業の予習・復習

予習：テキストをよく読むこと

復習：ノートをまとめておくこと

■教科書

井上義朗『コア・テキスト経済学史』新世社

■参考文献

伊藤誠『経済学史』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	物価と貨幣数量説	
2	価格政策	
3		インフレ抑制策としての金融引締め
4		デフレ下の財政政策
5	デフレ下の金融政策	
6	社会資本とは何か	
7	社会資本の供給	
8	公共財としての社会資本の意味と役割	
9	経済発展の要因と貧困の悪循環	
10	経済発展政策	
11	資本蓄積と技術進歩	
12	発展途上国の成長政策の課題	
13	所得分配政策	
14		所得分配政策の手段
15		公的保険の概要と仕組み
16	日本の医療保険制度の課題	
17	日本の年金保険制度の課題	
18	授業のまとめ	
19	定期試験	

■参考文献

『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田

泰之

『日本経済読本【第17版】』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己

■授業内容

授業項目	授業内容
1	はじめに
2	経済学史の課題
3	重商主義
4	定義、貿易差学说、各国の重商主義
5	重農主義（1）
6	自然法思想、純生産物、三階級
7	重農主義（2）
8	経済表
9	古典派経済学の生成
10	スミスにおける経済学の生成
11	『国富論』の経済学（1）体系、富とは何か
12	古典派経済学の確立
13	（2）価値論
14	（3）資本蓄積論
15	（4）重商主義批判
16	マルサスー人口法則と私有財産制
17	リカードー穀物法論争と比較優位論
18	投下労働価値説
19	差額地代論
20	資本蓄積論
21	古典派と歴史学派
22	リストの批判、自由貿易帝国主義
23	定期試験

科目名	経済学史Ⅱ			
08年度入学：経済学史Ⅱ				
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

経済学の三大潮流であるマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）と出席（30%）によって総合的に評価する

■授業の予習・復習

予習：テキストをよく読むこと
復習：ノートをまとめておくこと

■教科書

井上義朗『コア・テキスト経済学史』新世社

■参考文献

伊藤誠『経済学史』有斐閣

■授業内容

授業項目		授業内容
1	マルクス経済学	マルクス経済学の生成
2		労働価値説
3		剰余価値論
4		資本蓄積・産業予備軍
5	新古典派経済学	新古典派経済学とは何か
6		限界効用理論
7		メンガーの効用価値論
8		ワルラスの一般均衡理論
9		マーシャルの動態的市場理論
10	ケインズ経済学	失業者の発生－新古典派の考え方
11		失業者の発生－ケインズの考え方
12		有効需要の原理－消費、貯蓄、乗数
13		投資と利子、流動性選好説
14		ケインズ政策、ケインズ経済学の思想
15	おわりに	現代経済学の課題
16	定期試験	

科目名	金融論Ⅰ			
08年度入学：金融論Ⅰ				
担当者	添田 利光 Toshimitsu Soeda			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

金融論とは、「おカネの動き」をめぐる議論です。個人、企業、政府などの経済活動の多くが、おカネを媒介として行われるため、金融論のあつかう（あるいは関連する）領域は極めて広いです。そこで、本講義では、金融の世界に特有の用語法や考え方の習得を基本課題とし、我々に身近な金融・経済現象を系統立てて理解する基礎を作ります。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントを使い、金融の世界の諸概念を説明します。また、これら諸概念のイメージを鮮明にするために、新聞記事やテレビ番組を多数活用します。期末試験は、講義の趣旨に鑑みて、用語の理解が十分かどうかを確かめるものとなります。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・出席（40%）
なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：テキストや参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

日本経済新聞社編『ベーシック／金融入門』日本経済新聞

■授業内容

授業項目		授業内容
1	オリエンテーション	授業の方針など
2	通貨とは何か	物々交換経済と貨幣経済、通貨の機能・範囲
3	金融とは何か	資金循環表、金融取引の典型、様々な金融
4	金利とは何か	金融サービスの対価、金利と景気、様々な金利
5	金融市場とは何か	広義の金融、金融商品、様々な金融市場
6	金融機関とは何か	金融の取引コスト、様々な金融機関
7	銀行の機能 1	銀行の様々な機能
8	銀行の機能 2	決済機能を中心に
9	中央銀行 1	中央銀行の機能
10	中央銀行 2	日本銀行の経緯・概要・目的
11	民間金融機関 1	都市銀行、その他普通銀行
12	民間金融機関 2	長期金融機関、協同組織金融機関
13	民間金融機関 3	証券会社、保険会社、その他金融機関
14	金融政策とは何か	金融政策の手段
15	まとめ	授業内容のまとめ
16	定期試験	

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	金融論Ⅱ			
08年度入学：金融論Ⅱ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

原則として「金融論Ⅰ」の履修者を対象に、金融に関する近年の動向や初歩的な理論、専門的なトピック、関連科目などを取り上げ、簡単に解説します。現実の具体的な問題を論理的に考察する力を養います。

■授業の進め方（履修条件等）

適宜にパワーポイントを使い、金融論の入門的な部分を解説します。この際、興味が途切れないように、新聞記事を多数活用します。期末試験は、講義の趣旨に鑑みて論述問題とします。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・出席（40％）
なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを配布します。

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	財政学Ⅰ			
08年度入学：財政学総論Ⅰ				
担当者	金子 林太郎 <i>Rintaro Kaneko</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学Ⅰでは、財政の役割を確認した上で、歳入面に注目し、わが国の税制の現状と課題を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごと）にレジュメ・資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。出席は毎回取る。出席カードのコメント欄にその日の授業内容に関することを書かないと、無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60％、出席点等40％）

■授業の予習・復習

予習：ニュース・新聞等で財政・税制に関する情報をチェックして欲しい。

復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 信用創造機能1	キーワード解説、統計
3 信用創造機能2	信用創造プロセス、計算問題
4 国際金融論入門1	国際収支の概念としくみ（前編）
5 国際金融論入門2	国際収支の概念としくみ（後編）
6 ファイナンス理論入門1	資産選択の理論、資本市場の均衡理論
7 ファイナンス理論入門2	企業金融の理論、市場の効率性・非効率性
8 金融の潮流1	現代の潮流、金融規制と自由化（前編）
9 金融の潮流2	金融規制と自由化（後編）
10 現代の金融市場と金融機関1	金融取引の費用と金融機関の役割
11 現代の金融市場と金融機関2	情報化による金融仲介業の変貌
12 現代の金融市場と金融機関3	銀行業衰退論と銀行の変貌
13 現代の金融市場と金融機関4	サブプライムローン問題と金融危機
14 現代の金融市場と金融機関5	リスクマネーの供給システム
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 財政の役割（1）	財政の意義
3 "（2）	財政の役割
4 租税の基礎（1）	租税の意義、課税要件
5 "（2）	租税の分類、租税体系
6 所得税（1）	所得税の意義
7 "（2）	所得税の仕組み
8 "（3）	所得税の課題
9 法人税（1）	法人税の意義と仕組み
10 "（2）	法人税の課題
11 消費税（1）	消費課税の意義と仕組み
12 "（2）	消費課税の仕組みと課題
13 資産課税	資産課税の意義、仕組み、課題
14 環境税	環境税の意義と可能性
15 まとめ	この講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

神野直彦『財政学（改訂版）』有斐閣
諏訪園健司『図説日本の税制（平成22年度版）』財経詳報社

科目名	財政学Ⅱ			
08年度入学：財政学総論Ⅱ				
担当者	金子 林太郎 <i>Rintaro Kaneko</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学Ⅱでは、歳出面に注目し、政府が公共支出を通じてどのように役割を果たそうとしているのかを学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごと）にレジュメ・資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。出席は毎回取る。出席カードのコメント欄にその日の授業内容に関することを書かないと、無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60%、出席点等40%）

■授業の予習・復習

予習：ニュース・新聞等で財政・税制に関する情報をチェックして欲しい。

復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

科目名	統計学総論Ⅰ			
08年度入学：統計学総論Ⅰ				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiroimichi Inaba</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

経済社会の諸現象を理解するには質的だけでなく数量的に分析することが不可欠です。数量的に分析するための手法としての統計学を初歩から勉強します。理論よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップの経営で必要となる統計手法を題材にしています。

■授業の進め方（履修条件等）

統計分析にはパソコン（EXCEL）を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。

復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行うこと。

特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 財政の役割	前期の復習
3 予算制度（1）	予算の意義、予算原則
4 "（2）	予算の内容、予算編成
5 公共支出の理論（1）	公共財の理論
6 "（2）	無償のサービス提供
7 歳出の状況（1）	経費分類、平成23年度予算の概要
8 "（2）	社会保障関係費
9 "（3）	文教及び科学振興費
10 "（4）	公共事業関係費、防衛関係費
11 "（5）	経済協力費、中小企業対策費
12 "（6）	財政投融资
13 "（7）	国債費、国債の現状
14 "（8）	主要国の財政状況との比較
15 まとめ	この講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『図説日本の財政（平成23年度版）』東洋経済新報社（夏頃刊行見込み）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2 パソコン操作基礎	パソコン操作の再確認
3 表計算操作法	表、グラフ作成
4	絶対参照座標
5 ポテトの長さは揃っている	平均と度数分布
6	分散と標準偏差
7 ポテトの本数はどのくらい	母集団と標本
8	区間推定の考えと信頼区間
9 ライバル店と売り上げを比較	仮説検定の考え方
10	カイ2乗検定
11 どちらの商品がウケていますか	平均の差の信頼区間
12	t検定（対応なし）
13	対応があるとは？
14	t検定（対応あり）
15 まとめ	まとめと質疑応答
16 定期試験	

■参考文献

小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社
唯是康彦編著『EXCELで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

科目名	統計学総論Ⅱ			
08年度入学：統計学総論Ⅱ				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

統計学総論Ⅰと同様に、理論的よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップとアイスクリームショップの経営に必要な統計学です。アイスクリームの需要と温度の関係など、実践的な分析手法を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

統計分析にはパソコン（EXCEL）を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。統計学総論Ⅰの内容を理解しているものとして、講義を進めます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社
 向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、「関係」の統計学』技術評論社

科目名	社会政策Ⅰ			
08年度入学：社会政策総論Ⅰ				
担当者	星 真実 <i>Masami Hoshi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

「社会政策」とは、歴史的には労働運動に対する国家の譲歩として成立した。そこで、本講義では、労働経済論の概念的意味を含めて、広く労働問題に関わって考察を行う。具体的には、労働時間、賃金、雇用などの各論を概説する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験65%・授業内小テスト20%・出席15%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。
 復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

土穴文人『社会政策制度史論』啓文社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2 3つ目のライバル店	3つどもえのポテト競争
3 現る	分散分析（1要因）
4 新メニューで差をつける	分散分析（2要因）
5 最高気温と客数の関係を知りたい	散布図
6 相関の強さを知りたい	相関係数の計算
7	相関係数の意味
8 その相関係数の意味はあるのか	無相関検定
9 最高気温で客数を予測したい	回帰分析の原理
10	回帰直線の計算
11 最低気温と客数の関係を知りたい	偏相関とは
12	もうひとつの偏相関係数
13 最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰モデルでの予測
14	重回帰分析の信頼性
15 まとめ	まとめと質疑応答
16 定期試験	

■参考文献

小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社
 唯是康彦編著『EXCELで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 はじめに	「社会政策」とは何か
3 社会政策の制度体系	労働経済と社会保障
4	労働時間用語の多様化
5	労働時間の歴史的推移と規制
6	日本の労働時間問題
7	労働時間と賃金の実態
8	雇用・失業問題
9 労働問題に関わる社会政策	雇用情勢の現況
10	フリーターの実態Ⅰ
11	フリーターの実態Ⅱ
12	フリーターの実態Ⅲ
13	「日本の経営」とは何か
14	閉鎖的労働市場について
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	社会政策Ⅱ			
08年度入学：社会政策総論Ⅱ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

「社会政策」とは、現段階では国民生活全般に大きな影響を与える学問である。そこで、本講義では、社会保障論の概論的意味を含めて、広く生活問題に関わって考察を行う。具体的には、労災、介護、生活保護、社会福祉などの各論を概説する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験65%・授業内小テスト20%・出席15%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。
復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

土穴文人『社会政策制度史論』啓文社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 はじめに	「社会政策」とは何か
3 社会政策の制度体系	労働経済と社会保障
4	健康保険
5	公的年金制度
6	労災保険と雇用保険
7	介護保険と要介護認定
8	介護保険の実施実態
9 生活問題に関わる社会政策	生活保護とは
10	8つの法定扶助と児童手当
11	社会福祉とは
12	パートタイマーの実態Ⅰ
13	パートタイマーの実態Ⅱ
14	不安定就業層について
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	ミクロ経済学Ⅰ			
08年度入学：ミクロ経済学Ⅰ				
担当者	渡辺 善次 Yoshitsugu Watanabe			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学は実際の経済でどのような役にたつのか、現実の社会制度を設計する上でその教えをいかに取り入れるべきなのか、といった疑問に答えることを念頭に置いてミクロ経済学の基礎理論を解説し、より高度な経済分析の理解・実践に向けた橋渡しとなる講義を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントの解説を中心とした講義形式。極力数字は用いずに、平易かつ直感的な説明を心がける。後期に開設されるミクロ経済学Ⅱと合わせて履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業中に行う小テストと定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。
復習：配布するプリントの該当箇所や各自が作成したノートを見返して理解を深めてもらいたい。

■教科書

テキストに替えてプリントを配布する。

■参考文献

J.E.スティグリッツ/C.E.ウォルシュ、『ミクロ経済学（第3版）』（東洋経済新報社、2006）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 経済学の対象と分析手法	合理的意思決定とは何か？
3	需要と供給
4	消費選択の基本問題
5	効用と選好の表し方
6 消費者（家計）行動の分析	無差別曲線と消費の決定
7	応用：労働供給の決定
8	応用：貯蓄に関する意思決定
9	企業と費用
10 生産者（企業）行動の分析	短期と長期の費用曲線
11	費用最小化原理に基づく企業行動
12	競争的企業の行動
13	消費者余剰と生産者余剰
14 完全競争均衡	競争市場と経済的効率性
15	パレート効率性と競争市場
16 定期試験	

科目名	ミクロ経済学Ⅱ			
08年度入学：ミクロ経済学Ⅱ				
担当者	渡辺 善次 Yoshitsugu Watanabe			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学は実際の経済でどのような役にたつのか、現実の社会制度を設計する上でその教えをいかに取り入れるべきなのか、といった疑問に答えることを念頭に置いてミクロ経済学の基礎理論を解説し、より高度な経済分析の理解・実践に向けた橋渡しとなる講義を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントの解説を中心とした講義形式。極力数学は用いずに、平易かつ直感的な説明を心がける。前期に開設されるミクロ経済学Ⅰと合わせて履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業中に行う小テストと定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。

復習：配布するプリントの該当箇所や各自が作成したノートを見返して理解を深めてもらいたい。

■教科書

テキストに替えてプリントを配布する。

■参考文献

J.E.スティグリッツ/C.E.ウォルシュ、『ミクロ経済学（第3版）』（東洋経済新報社、2006）

科目名	マクロ経済学Ⅰ			
08年度入学：マクロ経済学Ⅰ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

マクロ経済学によって、経済事象や財政政策、金融政策を理解することが第一目的です。政府によって公表されている最新のデータを用いて経済の現状を把握していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週出される2～3問の小テスト・レポートに回答することによって授業の予習と復習を行うことができるようになっています。

■成績評価方法・基準

小テストやレポートの評価で6割、期末テストが4割での評価になります。

■授業の予習・復習

予習：小テスト・レポートによって行います

復習：小テスト・レポートによって行います

■教科書

井堀利宏『コンパクト経済学』新世社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 完全競争モデルの復習	完全競争企業の行動原理
3	完全競争均衡の性質
4	独占企業の行動原理
5	独占と競争制限による弊害
6 独占と独占的競争	自然独占と政府の対応
7	独占的行動企業の行動原理
8	完全競争、独占、独占的競争の違い
9	戦略的行動とは何か？
10 寡占の理論	クールノー競争モデル
11	ベルトラン競争モデル
12 資源配分の失敗	政府の失敗
13	公共財と外部効果
14 不完全情報の経済理論	事前の情報の非対称性と逆選択
15	事後の情報の非対称性とモラルハザード
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	経済学の考え方重要な概念、マクロ経済の主体
2 日本のマクロ経済データとマクロ経済学の問題	日本の経済の姿、GDP、デフレ、金利、失業率、財政問題、株価、為替レート
3 GDPの三面等価	GDP成長率、実質と名目、インフレとデフレ
4 経済主体と活動	家計および企業の消費と投資、政府支出、公共投資
5 景気の定義	景気とは何か、GDPの成長率
6 景気の見方と予測	景気の見方と予測、日銀短観、DIと経済予測
7 国内所得の決定	国内所得の大きさの決定理論
8 財政政策の問題点と理解	財政政策と次世代への負担についての考え方
9 経済政策の問題点と理解	公共投資と現代の経済政策の評価
10 労働市場の問題点と理解	労働市場と失業についての現代理論
11 金融市場と金利の理解	貨幣と金利の意味の理解、債券市場と株式市場
12 IS-LM分析	IS曲線とLM曲線
13 現代の金融政策とその評価	現代の金融政策、超低金利政策
14 国際経済	貿易、国際収支と為替レート
15 まとめと補足	足りない内容を補足します
16 定期試験	

科目名	マクロ経済学Ⅱ			
08年度入学：マクロ経済学Ⅱ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

マクロ動学と呼ばれる、現在と複数の将来がある場合、すなわち異時点間の経済学を理解します。家計、企業、政府の複数の時点にまたがる意思決定を扱います。リスクの定義とリスク下の意思決定も学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。

■成績評価方法・基準

小テストやレポートの評価で6割、期末テストが4割での評価になります。

■授業の予習・復習

予習：小テスト・レポートによって行います
 復習：小テスト・レポートによって行います

■教科書

井堀利宏『コンパクト経済学』新世社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	異時点間の経済学とは何か
2 異時点間のキャッシュフローの評価	經常価値、将来価値、割引現在価値、金利とは何か、金融市場の意義
3 企業の投資決定1	企業の投資決定、プロジェクト評価
4 企業の投資決定2	永代価値、企業価値、株価
5 企業の投資決定3	資本コスト、企業の投資決定
6 家計の動学的意思決定1	貯蓄理論1、時間選好率と割引率
7 家計の動学的意思決定2	異時点間の予算制約、割引率と異時点間の効用関数
8 家計の動学的意思決定2	異時点間の効用最大化
9 動学的不整合性	時間の整合性、ナイーブな経済主体、宿題をいつやるか
10 不確実性下の意思決定1	期待効用理論
11 不確実性下の意思決定2	エルスバークパラドックス、あいまいさ回避
12 財政政策1	財政政策の世代間負担に関する主な理論
13 財政政策の動学的不整合性	財政政策がうまくいかない事例
14 成長理論	経済が成長するための要因
15 まとめ	まとめと補足
16 定期試験	

科目名	日本経済論Ⅰ			
08年度入学：日本経済論Ⅰ				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

マクロ経済の視点から日本の経済復興と高度成長、中成長への移行、バブルの発生と崩壊、経済危機と構造改革について論じる。高度成長からバブル経済の崩壊と長期不況に至る時期を中心として、日本経済がこれまでどのような問題に直面し、どのように対処してきた結果今日に至るのかを知ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

本科目では、上記の内容を中心に、経済の構造変化に直面した日本経済がどのように対応してきたのかという点から考える。テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：参考文献や毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	
2 日本経済の現在と課題	今日の日本経済の姿、直面する問題の整理
3 経済復興と経済政策	復興自立から高成長へ（高度成長を準備した諸条件）
4 高度経済成長（1）	高成長のメカニズム（投資が投資を呼ぶ）
5 // （2）	高成長の帰結（国際収支の天井と構造変化）
6 高度成長の終焉（1）	通貨危機と石油危機
7 // （2）	企業の対応と財政政策の出动
8 中成長中のバブル経済（1）	財政危機と失業の深刻化
9 // （2）	対外不均衡の拡大と円の高騰
10 // （3）	日本経済のストック化（バブルを準備したものの）
11 バブルの発生と崩壊（1）	バブル発生メカニズム
12 // （2）	バブル経済の崩壊と実物経済への打撃
13 // （3）	平成不況と財政危機
14 // （4）	構造改革政策とその評価
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／講義全体のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

正村公宏・山田節夫『日本経済論』東洋経済新報社。
 篠原総一・浅子和美編『入門日本経済（第3版）』有斐閣。
 小峰隆夫『最新日本経済入門（第3版）』日本評論社。

科目名	日本経済論Ⅱ			
08年度入学：日本経済論Ⅱ				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

今日の日本経済が直面し、解決を迫られている様々な課題について、産業、企業、雇用問題などを中心に日本的経済システムの変容という観点から分野別に展望する。かつて日本経済の強さの理由として語られていたこのシステムが、構造変動に直面してむしる改革と成長を阻む壁になりうることを明らかにすることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。

科目名	国際経済論Ⅰ			
08年度入学：国際経済論Ⅰ				
担当者	阿部 容子 Yoko Abe			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では国際経済の歴史的認識、基礎理論、現状分析、政策という幅広い視点からその成り立ちやメカニズムを把握することを通じて、自分なりに国内外の経済動向を理解する基礎力を培うことを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

国際経済に馴染みのない受講生が意欲的に授業に参加できるよう工夫します。具体的には図解や板書、PowerPointの使用、参考文献の適宜提示、新聞や雑誌記事の配布、有用な統計サイトの共有を予定しています。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、中間テスト（20%）、受講態度（30%：出席＋その他） これらを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を事前または講義後に読んでおくことを期待します。

復習：復習や宿題は必ず行うようにしてください。

■教科書

教科書は特に使用せず、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	はじめに
2	日本経済の歩み（1） 高度成長とその終焉、バブルと平成不況
3	〃（2） 日本的経済システムの限界と構造改革政策
4	日本の産業構造の変化（1） 産業構造と経済成長に伴うその変化
5	〃（2） 「リーディング・インダストリー」論について
6	日本企業の行動と構造変化（1） 近年の経済変動と企業の対応
7	〃（2） 日本の企業システム～企業を取り巻く環境変化
8	〃（3） 日本の企業システム～コーポレートガバナンス
9	〃（4） 構造変化のなかでの企業と政府の課題
10	日本の雇用システム（1） 日本的雇用システムの特徴
11	〃（2） 日本的雇用システムの変化
12	〃（3） 若年層と女性の就労をめぐる問題
13	財政と財政政策（1） 財政構造改革、公共投資の構造改革
14	〃（2） 公的部門の改革
15	まとめと試験の準備 講義で触れられなかったこと／講義全体の復習
16	定期試験

■参考文献

篠原総一・浅子和美編『入門日本経済（第3版）』有斐閣。
小峰隆夫『最新日本経済入門（第3版）』日本評論社。
上記を中心に次のものも適宜参照。
正村公宏・山田節夫『日本経済論』東洋経済新報社。
小峰隆夫『日本経済の構造変動』岩波書店。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	イントロダクション 授業内容、進め方について
2	グローバリゼーションと経済 グローバリゼーションとは何か？
3	貿易の利益 貿易活動の歴史、貿易理論ができるまで
4	絶対優位と比較優位 ある商品を作る条件はどこも同じ？
5	貿易パターンの決定 各国は何を輸出するか？
6	経済発展と貿易 比較優位の推移と産業構造の盛衰
7	貿易と為替取引 為替レート変動の影響を考える
8	国際収支とはなにか 国際収支表の見方、日本の貿易収支の推移
9	金融グローバリゼーション 国際資本移動と金融危機について
10	中間テスト 前半のまとめ、確認テスト
11	産業内貿易の拡大 水平的産業内貿易とは？
12	国際分業のグローバルな展開 グローバル生産システムの現状
13	直接投資の拡大 多国籍企業の活動について
14	DVD鑑賞 国際経済に関連したDVDの鑑賞
15	まとめ 授業のまとめ、質疑応答
16	定期試験

■参考文献

石川城太・菊地徹・棕寛著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
遠州尋美『グローバル時代をどう生きるか』法律文化社 2003年 2,500円
マンフレッド・B・スティーカー 櫻井公人、櫻井純理、高島正晴（訳）『グローバリゼーション』岩波書店 2010年 1,800円

科目名	国際経済論Ⅱ			
08年度入学：国際経済論Ⅱ				
担当者	阿部 容子 Yoko Abe			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

日常生活で新聞やインターネットを通じて得られる国際経済に関する様々な情報を、その場限りの(切り離された)理解ではなく、また記事や報道の受け売りではない、自分なりの因果関係の把握を可能とするための基礎力の育成を目標としています。

■授業の進め方(履修条件等)

国際経済に馴染みのない受講生が意欲的に授業に参加できるよう工夫します。具体的には図解や板書、PowerPointの使用、参考文献の適宜提示、新聞や雑誌記事の配布、有用な統計サイトの共有を予定しています。

■成績評価方法・基準

定期試験(50%)、中間テスト(20%)、受講態度(30%：出席+その他)これらを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を事前または講義後に読んでおくことを期待します。復習：復習や宿題は必ず行うようにしてください。

■教科書

教科書は特に使用せず、プリントを配布します。

■参考文献

田中 明彦(編集)、中西 寛(編集)『新・国際政治経済の基礎知識新版』有斐閣 2010年 2,100円
石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟(編)『現代世界経済をとらえるver.5』東洋経済 2010年 2,000円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	前期の復習、授業概要説明
2 貿易政策Ⅰ(貿易に関する国際協定)	自由貿易管理メカニズム、GATTの理念、関税自由化交渉
3 貿易政策Ⅱ(アメリカ経済と国際競争力問題)	累積赤字、プラザ合意の意味、産業空洞化と競争力問題
4 GATTの成立(日米貿易摩擦の政治経済学)	日米半導体摩擦の事例、通商法301条の「不公正」さについて
5 自由貿易管理システムの変容	GATTからWTOへ、ウルグアイラウンドの争点、WTO協定の成立と概要
6 アジアの発展	ASEANの発展から中国のWTO加盟へ
7 新興国の台頭と経済発展	BRICs経済の展望と米中貿易摩擦
8 WTOと地域経済協定	地域統合の進展と自由貿易経済協定の増加
9 拡大するサービス貿易	サービス貿易の定義と現状、膨張するオンライン取引と課金問題
10 中間テスト	前半のまとめ、確認テスト
11 グローバル化とIPR	拡張する知的財産権の保護対象、医薬品や伝統的知識をめぐる争いに関するケーススタディ
12 農産物貿易とフェアトレード	フェアトレードの仕組み、一次産品、農産物貿易の現状
13 人の移動とグローバル化	労働力移動の現状、EUの移民政策、外国人労働者受け入れ問題
14 DVD観賞	グローバルイゼーションに関連した教材
15 まとめ	授業のまとめ、質疑応答
16 定期試験	

科目名	日本経済地理			
08年度入学：日本経済地理				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

日本の首都圏、近畿圏、中京圏など場所が異なると、そこに展開する産業も違った特徴を見せています。どのように違うのか、なぜ違うのか、違うことにどのような意味があるのかについて考察していきます。授業を通して日本各地の地域性を正しく認識できるようにするのが目標です。

■授業の進め方(履修条件等)

授業は教科書を用いて行います。最初は経済地理学的なものの考え方を説明し、その後、日本を首都圏、近畿圏、中京圏などいくつかの地域に分けて、それぞれの地域の産業を中心とした経済地理的な特徴を説明していきます。毎時間、コメントカードを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験(50%)と平常点(50%、コメントカードと出席状況による)で評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおいてください

復習：授業終了後は必ず教科書やノートを見直して、疑問点があれば質問に来てください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の説明
2 経済地理学の目的と方法論	経済地理学とは何か、経済地理学の方法論
3 都市と農村	都市化、都市圏の形成
4 風土の地域差	関東と関西の相違
5 首都圏	環境と産業
6 //	一極集中の形成と変容
7 近畿圏	複核構造の都市圏と産業
8 中京圏	多核的産業都市群の形成
9 回廊地帯	交通体系の変容と産業変化
10 日本海岸	風土的特質と環日本海経済圏
11 東北	首都圏との一体化と産業変化
12 北海道	道内産業の特質
13 瀬戸内	域内連関の弱い産業
14 九州	環東シナ海経済圏の形成
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■教科書

青木英一・北村嘉行『世界を読む改訂版』原書房

■参考文献

竹内淳彦編著『日本経済地理読本 第8版』東洋経済新報社
山本健児『経済地理学入門 新版』原書房

科目名	世界経済地理			
08年度入学：世界経済地理				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

国際化が進む現在、私たちは様々な視点から世界を理解する必要があります。この授業では、経済地理的な視点すなわち空間的視点から世界を分析します。そこから、各地の空間的相違の実態やその意味を考えてみます。そして、諸君が世界の空間的な相違を理解できるようになることがこの授業の目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は教科書を用いて行います。日本との関係が特に重視される中国とアメリカ合衆国に重点を置きながら、世界各地の特徴を明らかにしていきます。各地で取り上げるテーマは異なりますが、共通項としては民族がキーワードになります

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）と平常点（50％、コメントカードと出席状況による）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおいてください。

復習：授業終了後は必ず教科書やノートを見直しておいてください。

■教科書

青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』原書房

科目名	入門経済刑法			
08年度入学：入門経済刑法				
担当者	山内 義廣 Yoshihiro Yamauchi			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

経済からみた犯罪は多様多様である。この種の犯罪は刑法犯と異なり、その範囲が広く、また、処罰体系も複雑である。本講義では、これらの犯罪に対する国家の取組みや日常生活上引き起こされるいくつかの犯罪について理解を深め、堅い経済活動ができるよう、習得した知識を生活の中で役立てられることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールに従って授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時にはコピーした資料を配布したりして理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため、小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績やレポートおよび出席状況などを基に総合的に判定する。

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールに従って教科書をしっかり読むこと。

復習：授業の内容を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の解説
2 空間的視点とは何か	空間的視点と地域的視点
3 世界地図の利用法	メルカトル地図の特徴と限界
4 人と環境から見た世界	民族問題、環境問題
5 世界の経済と貿易	国際的分業の変化
6 中国の経済改革	経済改革実施の背景
7 //	経済改革の内容
8 //	経済改革実施に伴う諸問題
9 オセアニア諸国	対日関係の強化
10 アメリカ合衆国	多様な地域性と日米関係
11 //	産業の特質と資源環境
12 ラテンアメリカ諸国	北アメリカとの開発の違い
13 アフリカ諸国	遅れる工業化
14 ヨーロッパ諸国	EUの形成と域内問題
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

高野 孟『最新・世界地図の読み方』講談社
21世紀研究会『民族の世界地図』文春新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経済刑法の概念（1）	経済犯罪の抽象的概念と範囲
2 //	（2）ドイツ・日本・アメリカにおける経済犯罪の概念
3 経済犯罪の犯罪類型	刑法典上の犯罪と経済法等特別法上の犯罪
4 経済犯罪のサンクション体系（1）	刑法典および経済法上の犯罪と刑罰
5 //	（2）経済刑法における処罰の体系
6 経済刑法と刑法の諸原則（1）	罪刑法定主義と経済刑法
7 //	（2）経済犯罪の成立要件
8 経済犯罪の刑事手続	経済犯罪の摘発と監視機構
9 経済犯罪の捜査（1）	捜査の諸原則
10 //	（2）捜査手続
11 経済犯罪の裁判（1）	裁判の流れとその特長
12 //	（2）公判手続
13 //	（3）事実認定と量刑
14 悪徳商法	悪徳商法の類型と処罰
15 法人の刑事責任	法人処罰と刑事制裁
16 定期試験	

■教科書

神山・斎藤他編著『新経済刑法入門』成文堂

■参考文献

小林敬和著『経済刑法の理論と現実』徳山大学総合経済研究所刊

科目名	サイバー刑法			
08年度入学：サイバー刑法				
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

現代社会における経済活動はサイバー機器なくして成り立たない。このような状況の中で、サイバー機器を使用して行なわれる犯罪に対する国際社会の取組やその処罰の方法を理解し、その上で、それらの知識を将来の自分自身の経済活動に生かせることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールに従って授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時にはコピーした資料を配布したりして理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績やレポートの内容および出席状況などを基に総合的に判定する。

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールに従って教科書をしっかり読むこと。

復習：授業の内容を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

科目名	商法			
08年度入学：商法				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

商法は、企業の組織と企業取引の一般的ルールを定めています。商法のなかの、総則と商行為の範囲を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

要点を黒板に書きながら授業を進めていきます。知識を身につけるために、ノートをとる習慣をつけてください。

■成績評価方法・基準

定期試験と出席状況をもとに評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。

復習：ノートをもとにしてテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編『現代商法入門（第8版）』有斐閣

■参考文献

必要に応じて授業時間に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	サイバー犯罪の意義	現代社会とサイバー犯罪の関係
2	サイバー犯罪に対する国際社会の対応	国際条約と各国の国内法の関係
3	サイバー条約（1）	サイバー条約の意味とその内容
4	〃（2）	サイバー条約の内容と国際協力
5	経済犯罪の国際化（1）	経済犯罪の類型とその国際性
6	〃（2）	裁判管轄と処罰のあり方
7	マネーロンダリング	組織犯罪とマネーロンダリング
8	コンピュータ犯罪（1）	コンピュータ犯罪の意味とその性格
9	〃（2）	コンピュータ犯罪の態様とその利益保護
10	カード犯罪（1）	キャッシュカードをめぐる犯罪
11	〃（2）	クレジットカードおよびプリペイドカードをめぐる犯罪
12	証券犯罪（1）	企業のコンプライアンス体制と法人犯罪
13	〃（2）	インサイダー取引と相場操縦
14	知的所有権に関する犯罪（1）	知的所有権の意味とその性格
15	〃（2）	知的所有権に関する犯罪の態様とその利益保護
16	定期試験	

■教科書

神山・斉藤他編著『新経済刑法入門』成文堂

■参考文献

小林敬和著『経済刑法の理論と現実』徳山大学総合経済研究所刊

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、試験の方法
2	商法の意義	形式的・実質的意義、商法企業法説
3	商法の特長	営利性、定型性、公示主義、外観主義
4	商法の適用	商事制定法、商慣習法、普通取引約款
5	商人とは何か	商人と商行為、固有の商人、擬制商人、小商人
6	商人資格の取得	自然人の営業能力、法人の権利能力
7	営業とは何か	主観的・客観的意義、のれん
8	営業譲渡、営業所	営業用財産の一括譲渡、本店・支店
9	商業登記	企業内容の公示、商業登記簿、登記手続
10	商業登記の効力	一般的効力、悪意の擬制、不実の登記
11	商号	商号自由主義、商号の登記、商号権
12	商業帳簿	企業会計原則、会計帳簿、貸借対照表
13	商業使用人	支配人、支配権、競業禁止義務、表見支配人
14	代理商	締約代理商、媒介代理商、代理商契約
15	商行為の類型	絶対的・営利的・付属的商行為
16	定期試験	

科目名	会社法			
08年度入学：会社法				
担当者	野口 明宏 Akihiro Noguchi			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

会社法は、会社の設立、株式、組織などを定めています。授業の中心は、経済の主な担い手である株式会社となります。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は、要点を黒板に書きながら進めます。ノートをとりながら知識をまとめる習慣を身につけてください。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席状況にもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んできてください。
復習：ノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編『現代商法入門（第8版）』有斐閣

■参考文献

必要に応じて授業時間に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 会社の法的意義	営利性、社団性、法人性、法人格の否認
2 会社の種類	株式・合名・合資・合同会社
3 会社の権利能力	定款の目的による制限、政治献金
4 会社法の定義	親・子会社、公開・閉鎖会社、大会社
5 会社の設立	厳格な法規制、発起人、定款の作成
6 会社設立の手續	発起・募集設立、預合、見せ金、検査役の調査
7 設立中の会社	開業準備行為、設立の登記、設立の無効
8 株式の意義	細分化された社員の地位、内容について特別の定め
9 種類株式	剰余金の配当額、残余財産の分配額など
10 株券	原則不発行、有価証券としての株券
11 株主名簿、株主	名簿の免責効果、名義書換、株主の有責任
12 株式譲渡の自由	投下資本の回収、株式の譲渡制限
13 自己株式の取得	原則取得可能、取得の要件
14 株主総会（1）	権限、種類、招集手續、株主提案権
15 株主総会（2）	説明義務、議決権、委任状、書面投票
16 定期試験	

科目名	国際貿易論			
08年度入学：国際貿易論				
担当者	阿部 容子 Yoko Abe			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

世界経済の現状をみると自由貿易体制を推進しながらも、セーフガード、米中貿易摩擦などの保護主義的措置がとられ、またWTO交渉の停滞にあらわれているように「貿易問題」として対応することが難しい 이슈が複雑に絡みあった状況となっています。このような国際関係の様相を正確に把握するための基礎理論、歴史の概略を理解し、現在の仕組みがどのように機能し（またはしていないか）を考えることをねらいとしています。また貿易実務を学ぶことでモノの流れを具体的に感じてほしいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

国際貿易に馴染みのない受講生が意欲的に授業に参加できるよう工夫します。具体的には図解や板書、PowerPointの使用、参考文献の適宜提示、新聞や雑誌記事の配布、有用な統計サイトの共有を予定しています。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講態度（50%：出席＋その他）これらを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を事前または講義後に読んでおくことを期待します。
復習：復習や宿題は必ず行うようにしてください。

■教科書

教科書は特に使用せず、プリントを配布します。

■参考文献

バトリック・ラヴ、ラルフ・ラティモア著『よくわかる国際貿易－自由化・公正取引・市場開放』明石書店、2010年
リチャード・ケイプス、ジェフリー・フランケル、ロナルド・ジョーンズ著『国際経済学入門 国際貿易編』日本経済新聞社、2003年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	授業内容、進め方について
2 国際貿易と日本経済	日本の貿易の現状、貿易依存度の国際比較
3 貿易の基礎理論	比較優位を理解する
4 多国籍企業と対外直接投資	1980年代以降のダイナミックな国際分業体制、企業内貿易
5 外国為替と貿易収支	為替レートの変動が貿易に与えるリスク、国際収支とはなにか
6 貿易実務	国際貿易と国内取引の違い、貿易実務とは何か、輸出入の仕組みと商品の流れ、保険
7 貿易取引のメカニズム	決済方法、貨物の運送、国際物流体制、貿易契約
8 保護貿易の目的と理論	関税や数量規制による経済効果と厚生、幼稚産業保護論、貿易政策の政治経済
9 国際自由貿易管理メカニズム	GATTの理念、関税自由化交渉、ウルグアイラウンドの問題点
10 WTO交渉、FTAの動向	WTOと自由貿易交渉、紛争処理システム、拡大するFTA
11 ICT貿易の拡大と課題	インド、中国、アイルランドにおけるアウトソーシング、オフショアリングの現状、国際課税問題
12 開発途上国と貿易	貿易拡大と貧困問題、労働と企業のCSR活動
13 国際貿易と環境問題	WTOにおける環境と貿易をめぐる貿易紛争
14 DVD観賞	貿易関連のビデオ教材を使用
15 まとめ	授業の総括、補足、質疑応答
16 定期試験	

科目名	ヨーロッパ経済論Ⅰ			
08年度入学：ヨーロッパ経済論Ⅰ				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論Ⅰでは第2次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、“moodle”というe-learning（パソコンを使った授業）を部分的に行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの翌週に行うmoodleの講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業でのmoodle講習などを受け、必ずmoodleのアカウントをとっておいて下さい。

リジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事の原因や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストをたびたび行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事の原因や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評し、moodle上で短いコメントをお返します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出来ればとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

科目名	ヨーロッパ経済論Ⅱ			
08年度入学：ヨーロッパ経済論Ⅱ				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論Ⅱでは1980年代から新段階に入った欧州統合、そして欧州通貨統合への道、現状について勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、“moodle”というe-learning（パソコンを使った授業）を行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの翌週に行うmoodleの講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業でのmoodle講習などを受け、必ずmoodleのアカウントをとっておいて下さい。

リジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事の原因や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストをたびたび行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事の原因や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評し、moodle上で短いコメントをお返します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出来ればとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評点等
2 Moodle登録	今後授業で使うe-learningのアカウントを作りませす。これと小テストが受けられず、出席もとれないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。アカウントをお持ちの方は「登録キー」だけメディアセンターで聞いて頂き、ご自身でヨーロッパ経済論Ⅰのコース登録も出来ます。
3 第2次大戦後のヨーロッパ	第2次大戦の諸結果、IMF-GATT体制
4	小テスト（小論文形式）
5	ヨーロッパ復興計画、アメリカのドル散布による国内経済の拡大
6 ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ諸国の経済的自立化と課題
7	ヨーロッパ経済の復興－ドイツとフランスの例
8	小テスト（小論文形式）
9	ヨーロッパ共同市場の必然性
10 EECの成立	小テスト（小論文形式）
11 EECの成立後のヨーロッパ	50-60年代ヨーロッパ貿易の拡大・経済成長
12	小テスト（小論文形式）
13 ヨーロッパ経済の停滞（1970年代）	IMF体制の崩壊と世界的インフレ・ヨーロッパ高度成長要因の消失
14	小テスト（小論文形式）
15 定期試験	

■教科書

テキストはありません。メモをとり、検索技術を磨いて下さい。

■参考文献

田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治著『現代ヨーロッパ経済 新版』（有斐閣アルマ）発行年月 2006年5月、定価2500円（税込2625円）ISBNコード 4-641-12286-5（メディアセンターにあります）他は、各回プリント参照

■授業内容（後期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評点等、ヨーロッパ経済論Ⅰのエッセンス
2 ヨーロッパ経済の停滞（1980年代）	産業のME化とヨーロッパの地位低下
3	小テスト（小論文形式）
4	今までの統合は不十分、3つの障壁
5 1992年欧州市場統合	1992年欧州市場統合期待と現実
6	小テスト（小論文形式）
7	欧州通貨統合へのプロセス（戦後ヨーロッパ通貨の歩み）
8 欧州通貨統合	欧州通貨統合の効果
9	ECBの金融政策
10	小テスト（小論文形式）
11	産業、労働市場
12 21世紀のヨーロッパ経済	金融危機・ギリシャ問題とヨーロッパ経済
13	各国経済の現状（ドイツを中心に）
14	小テスト（小論文形式）
15 定期試験	

■教科書

テキストはありません。メモをとり、検索技術を磨いて下さい。

■参考文献

田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治著『現代ヨーロッパ経済 新版』（有斐閣アルマ）2006年、田中素香『ユーロ』（岩波新書）2010年、田中素香他『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房、2010年、後は配布プリント参照

科目名	アメリカ経済事情Ⅰ			
08年度入学：アメリカ経済事情Ⅰ				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

経済にウェイトを置きながら、地域研究・総合研究の視点からアメリカのアメリカ的なもの（本質・特性）について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%

出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

ハロルド・U・フォークナー著 小原敬士訳『アメリカ経済史』
至誠堂

高木八尺 著『近代アメリカ政治史』岩波書店
アメリカ経済研究会編『ニューディールの経済政策』慶応通信
古米淑郎編『第二次大戦後のアメリカ経済』ミネルヴァ書店
神原・藤原・馬場 共著『アメリカ経済をみる眼』有斐閣新書
林 敏彦 著『大恐慌のアメリカ』岩波書店
その他については講義中随時紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アメリカの地域研究・総合研究	オリエンテーション
2	〃	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格
3	〃	〃
4	〃	アメリカの自然と人文
5	〃	〃
6	〃	西部とフロンティア
7	〃	〃
8	〃	アメリカ経済史の特殊性
9	〃	〃
10	〃	新大陸の意味するもの
11	〃	〃
12	〃	多元的国民の統一の問題と先住民インディアン
13	〃	アメリカのビジネス風土
14	〃	〃
15	〃	アメリカ経済の現状
16	定期試験	

科目名	アメリカ経済事情Ⅱ			
08年度入学：アメリカ経済事情Ⅱ				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

アメリカ資本主義の発展過程を概観し、現代アメリカ経済の歴史的基礎、プログレッシブ・ムーヴメントとニュー・ディールの歴史的意義について解説し、現代アメリカ資本主義の特質を理解せしめる。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%

出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アメリカのダイナミックな経済発展	オリエンテーション
2	〃	アンティ・ベラム期の工業化とその要因
3	〃	〃
4	〃	南北戦争の経済的原因とその結果
5	〃	ビッグ・ビジネスの成立と政府の果たした役割
6	〃	〃
7	〃	資本主義的発展のもたらした欠陥と弊害
8	改革の時代（Ⅰ）	プログレッシブ・ムーヴメントの性格
9	〃	〃
10	第一次世界大戦と1920年代	アメリカの参戦と20年代の経済
11	改革の時代（Ⅱ）	大恐慌とニュー・ディール
12	〃	〃
13	第二次世界大戦と戦後	第二次大戦とアメリカ
14	〃	大戦後の経済発展
15	〃	世界経済とアメリカ
16	定期試験	

科目名	アジア経済論			
08年度入学：アジア経済論				
担当者	中川 雅彦 Masahiko Nakagawa			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

経済発展論での重要な諸概念を日本や韓国、その他アジア諸国の例によって解説する。

■授業の進め方（履修条件等）

シラバスにしたがって、講義をすすめることを原則とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

- ・資料持込み可の試験とする。
- ・出席はとらないが、授業における有益な質問や意見は試験に加点する。

■授業の予習・復習

授業中に指示する。

■教科書

特に指定なし

■参考文献

授業で示す。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 二重経済論（1）	ルイス理論とその例
3 //（2）	//
4 後発性優位論	ガーシェンクロン理論とその例
5 輸入代替論	輸入代替工業化の諸例とその結果
6 複線型発展論	韓国の工業化の例
7 生産サイクル論	直接投資の役割
8 従属論	従属の事例
9 社会主義工業化（1）	自力更生と改革・開放
10 //（2）	アジア社会主義の例
11 //（3）	一党支配での経済
12 経済発展と文化変容（1）	福沢諭吉の脱亜入欧論
13 //（2）	伝統社会と近代社会
14 経済発展と教育	高学歴化とその問題点
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	中東経済論			
08年度入学：中東経済論				
担当者	水口 章 Akira Mizuguchi			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深める。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけて欲しい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

- 予習：紹介された書籍・資料を読んでおくこと。
- 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月

■参考文献

- 糠谷英輝『拡大するイスラム金融』蒼天社出版、2007年9月
- 加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005年7月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について
2 インド洋貿易と中東	ベルシャ湾、紅海の交易ルートについて
3 工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について
4 アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について
5 グループ討論「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える
6 イスラムとは	イスラムにとっての「財」について
7 イスラム金融のスキーム	「ムダラバ」「ムシャラカ」について
8 イスラム金融市場	マレーシア、インドネシアなどについて
9 イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について
10 グループ討論「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える
11 サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について
12 エジプト	肥大化した公共部門について
13 ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について
14 トルコ	復活するトルコ経済について
15 グループ討論「経済発展と格差」	「イスラムと経済発展」を考える
16 定期試験	

科目名	労働経済論Ⅰ			
08年度入学：労働経済論Ⅰ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2 単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

総論的講義として、成立史を迎える中から、その法則性・必然性と本質の把握を行う。具体的には、ドイツに始まる「学」としての社会政策が、わが国の「労働経済」として定着するまでの史的考察を行う。「歴史的必然性」と「限界」とをキー概念として用いる。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験65%・授業内小テスト20%・出席15%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。

復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

大河内一男『社会政策（総論）』有斐閣

科目名	労働経済論Ⅱ			
08年度入学：労働経済論Ⅱ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2 単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

各論的講義として、労働者・国民の労働・生活条件に密接に関わる現代的な社会問題について、資本制社会という枠組みの中で考察を行う。具体的には、国際比較を交えながら、現代の日本の労働問題について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験65%・授業内小テスト20%・出席15%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。

復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

戸塚秀夫・徳永重良『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 はじめに	「労働経済論」の学問領域概説
3 労働経済論の対象領域	実践としての労働経済論
4	学問としての労働経済論
5	成立の歴史的背景
6	ビスマルクの労働者政策
7 古典的政策論	「新歴史学派」の政策論
8	日本における「新歴史学派」の継承
9 MaxWeberの社会	「価値自由性」とは
10 科学方法論	Weber方法論の検討
11 新たな政策論の三潮流	第二次大戦までの政策論概説
12	大河内「理論」概説
13 大河内一男の政策	「社会政策本質論争」とは
14 「理論」	大河内「理論」の検討
15 まとめ	
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 日本的雇用慣行の転換	「日本的経営」の三種の神器とは
3	労働組合とは
4 労働組合	労働組合をめぐる政策史
5	日本の労働組合
6	いわゆる「連合の時代」のいま
7	最賃制の成立、決定方式、基準
8 最低賃金制度	日本の最低賃金制度Ⅰ
9	日本の最低賃金制度Ⅱ
10	女子労働をめぐる学問
11	女性の「社会進出」とは
12 女子労働	「同一価値労働同一賃金」とは
13	日本の女子労働Ⅰ
14	日本の女子労働Ⅱ
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	環境と生活			
08年度入学：人文地理学Ⅰ				
担当者	永野 征男 Yukio Nagano			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

地理学的な視点に立って、「土地環境」を考察することを目的にする。そこで、地理学にとって重要な資料である「地形図」を読むことから、その土地に生じてきた様々な事象を解説する。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：地歴科の教職課程履修者は必ず受講すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）に出席状況（30％）を加味し、総合的に評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

とくに使わない。配布する資料を主体にする。

■参考文献

授業の進行に合わせ、講義の中で関連書籍を紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境の捉え方
2	地図の歴史
3	地形図の特徴（1）土地の読み取り
4 土地の表現	地形図の特徴（2）図上に表現されている内容
5	地形図の特徴（3）読み取れる地表形態
6	古代社会における居住地の選択
7 古代の歴史環境	古代都市の立地環境（1）生活基盤としての平野
8	古代都市の立地環境（2）都市設計の基本
9	近世都市における市民生活
10	近世城下町構造の特徴
11 近世の歴史環境	大城下町「江戸」の自然環境
12	江戸城下町の後背地：武蔵野の土地環境（1）
13	江戸城下町の後背地：武蔵野の土地環境（2）
14 現代の歴史環境	歴史性と市民生活との問題点
15 まとめ	地図から環境を理解する有効性
16 定期試験	

科目名	開発と環境			
08年度入学：人文地理学Ⅱ				
担当者	永野 征男 Yukio Nagano			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

地域開発にともなう環境の変化を、出来るだけ具体的な事例を呈示しながら講述する。地理的な視点から開発を取り扱うために、自然環境の中から丘陵地・台地地域に絞って解説する。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：地歴科の教職課程履修者は、必ず受講すること。講義時に資料類をプリントして配布する。1時間に一つの内容が完結するように考えたい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）に出席状況（30％）を加味して、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

■教科書

とくに使用する予定はない。

■参考文献

講義の中で、その都度、紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	開発に対する学問上のアプローチ
2	自然に対する人間の修景
3 人口変化	人工変化の是非を問う
4	都市飲用水の歴史的な開発（1）
5 用水確保の開発	都市飲用水の歴史的な開発（2）
6	都市飲用水の歴史的な開発（3）
7	近年のニュータウン開発
8 丘陵・台地の開発	郊外開発の英国流思考
9	住宅地開発の問題点
10	干拓事業の盛衰
11 沿岸域の開発	沿岸部の埋め立て事業の実態（1）
12	沿岸部の埋め立て事業の実態（2）
13	都心活性化策としての開発
14 都心開発	開発にともなう新旧の都心部の競合
15 まとめ	将来の開発事業への提言
16 定期試験	

科目名	都市環境とまちづくり			
08年度入学：都市地理学Ⅱ				
担当者	永野 征男 Yukio Nagano			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

都市地域における市民生活を考えるとき、行政側のさまざまな政策（法規）は重要なことからなる。近年は都市計画というより、市民参画などを目ざした町づくりの語句が多く目につく。そこで、私たちの生活と都市施策の関係を、できるだけ具体例を示しながら講述する。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「都市地理学」を履修済みであること。地歴科の教職課程の履修者は受講することが望ましい。毎回、一つの完結した内容で進める。内容に必要な最新の資料類はプリントで配布するが、講義の基本的な事項は教科書を使う。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）に、出席状況（30％）を加味して、総合的に評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

永野征男著『都市地理学研究ノート』富山房インターナショナル

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の概要説明
2 都市化	都市発展と都市化
3 日本の都市化	先進国と途上国の比較
4	分析指標の解説（1）人口統計の処理
5 都市化分析	分析指標の解説（2）土地利用変化
6	分析指標の解説（3）都市農業の現状
7	都市計画関連法の概要
8	土地区画整理法の問題点
9	歴史環境と古都保存法
10	景観法の解釈
11	具体的事例（1） 城下町から観光都市へ：川崎市
12	具体的事例（2） 重伝建地区指定：村上市
13	具体的事例（3） 歴史的環境保全の先進地：近江八幡市
14	具体的事例地（4） 古都保全の現状：鎌倉市
15 まとめ	講義全体の流れを要約
16 定期試験	

■参考文献

授業の進行に合わせて、講義の中で紹介する。

科目名	環境ビジネス			
08年度入学：環境ビジネス				
担当者	柳瀬 雄二 Yuji Yanase			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

鳩山総理（当時）が日本のCO₂削減目標25%を標榜して大きな反響を呼んだことはまだ記憶に新しく、今日では環境が重要な外交上のテーマにもなっています。また環境問題の解決には、ビジネスの様々な分野に新規事業の可能性をもたらします。この授業ではいくつかの事例を紹介しつつ、そのような可能性を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では毎回、映像資料を使います。TV特集等で放映（録画）されたテーマの中から最新、最適なものを選んで教材とし、その経済的な意義・背景を説明します。（従って右の「講義スケジュール」はあくまでも目安です）

■成績評価方法・基準

この授業では出席を重視します。出席状況に加え、時間中に実施する小テストで成績評価。定期試験は実施しません。

■授業の予習・復習

予習：この授業のための特別な予習は求めません。日常的に新聞・雑誌（総合誌）やTVの環境特集に関心を持つようにして下さい。

復習：授業後のノートの整理などを通して、問題意識を高めていくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	この授業の意図、半年間の進め方
2 総論①	COP16と、温暖ガス削減の考え方
3 総論②	外部経済と不経済、誰がコストを負担するか
4 農業と環境①	農業の与える環境負荷、土壌流失など
5 農業と環境②	農林業による環境貢献、砂漠の緑地化など
6 農業と環境③	農業の生産性回復、農産物が輸出産業に
7 技術と環境①	太陽光発電、風力発電と環境政策
8 技術と環境②	石油から電気、自動車産業の変化
9 技術と環境③	スマートグリッド、アメリカの環境政策
10 技術と環境④	熱変換とナノテクノロジー
11 情報と環境①	排出権取引の基本
12 情報と環境②	フードバンクの思想、廃棄される食品を活かす
13 地球と環境①	アジア、アフリカ、経済成長の陰の環境破壊
14 地球と環境②	人の知恵を活かす（バングラディッシュの例）
15 地球と環境③	水をめぐるビジネス、先進国のエゴと良心
16 定期試験	

■教科書

テキストは特に指定しませんが、日経新聞（朝刊）の「経済教室」「やさしい経済学」には目を通すこと。

■参考文献

レスター・ブラウン『プランB 2.0』『プランB 3.0』（ワールドウォッチジャパン刊）など。

科目名	環境政策			
08年度入学：環境アセスメント				
担当者	作本 直行 Naoyuki Sakumoto			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

環境問題の底流を流れる開発と環境の考え方、国内・地球規模の環境問題、わが国の環境政策の枠組みと具体的な管理手法、わが国の国際環境協力等のテーマを通して、環境政策に関する基礎知識を学ぶ。環境問題の対立要因と背景について理解を深め、経済活動と環境保護との関連で、持続可能な開発のあり方を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

環境問題の入門的知識から、環境対策の実務的な知識までを理解する。授業の流れは、環境問題の理解方法、問題事例、わが国の公害経験と過去の取り組み、環境対策と個々の環境管理手法、国際的な環境協力、環境配慮。

■成績評価方法・基準

レポート提出（60%）、授業中提出物（20%）、出席（20%）

■授業の予習・復習

予習：新聞などによる日常的な環境報道に関心を深めていただきたい。
復習：授業時に配布した資料を丁寧に読んでほしい。

■教科書

特に使用しない。教材は、授業の際に配布する。

■参考文献

阿部泰隆・淡路剛久編『環境法』（第3版）、有斐閣、2006年。
作本直行編『アジア諸国の経済社会開発と法』、アジア経済研究所、2002年。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	概論	授業全体の概観、授業の進め方
2	「開発と環境」と「環境と開発」	「環境と開発」をめぐる議論対立、持続可能な開発概念
3	アジアの環境問題と地球環境問題	アジアの環境問題と地球規模の環境問題
4	日本の四大公害事例とその教訓	水俣病の具体事例の検討とその教訓
5	わが国の環境対策と歴史的な発展	明治時代以降のわが国の環境対策とその歴史的発展
6	環境政策と法	わが国の環境基本法の体系と環境政策
7	環境基本法の理念	環境保護の理念、環境権、環境主体
8	環境管理のための具体的な手法（1）	環境基本計画、環境施策、環境配慮
9	環境管理のための具体的な手法（2）	経済的な環境手法
10	環境管理のための具体的な手法（3）	環境アセスメント、戦略的環境アセスメント
11	循環型経済とリサイクル	循環型経済基本法、リサイクル
12	自然環境保護と生物多様性	生物多様性国家戦略、生物多様性基本法
13	自然環境保護のための手法	天然記念物制度、外来生物、国立公園制度
14	環境社会配慮とODA	ODAと主要援助機関の環境社会配慮
15	国際的な環境規制とその動向	国際環境条約、EUの環境規制
16	定期試験	

科目名	家族と地域社会			
08年度入学：社会学Ⅱ				
担当者	菊池 真弓 Mayumi Kikuchi			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

第二次大戦後の日本家族や地域社会の変動と、それに伴う社会問題のあいつく発生は、今日の家族や地域研究をますます拡大化させている。本授業では、家族と地域社会に関する社会学的な理論や方法論を基礎として学び、わが国における家族関係や地域社会の現状を分析し、その課題について考える力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方では、家族社会学と地域社会学の基礎的な理論と技法に基づき、現代社会に起こっている子育て、介護、環境、まちづくりなどの問題を取り上げ、その課題と対策について学び、考える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、授業内小レポート（20%）、授業態度（10%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次のテーマを事前予告して、資料収集や身近な社会問題に関心をもってもらう。

復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。
②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	家族・地域社会とは	家族・地域社会を捉える視点・方法
2	家族（1）	家族とは何か
3	家族（2）	家族の機能・役割とその変化
4	家族（3）	現代家族における夫婦関係
5	家族（4）	現代家族における子育て
6	家族（5）	現代家族における老親扶養
7	家族問題と課題	現代社会における家族問題と課題
8	地域社会（1）	地域社会とは何か
9	地域社会（2）	都市と農村、過密と過疎
10	地域社会（3）	地域社会におけるネットワーク形成
11	地域社会（4）	地域社会におけるコミュニティ形成
12	地域社会（5）	生活の質とライフスタイル
13	地域問題と課題	現代社会における地域問題と課題
14	社会調査・社会計画	社会調査・社会計画とは
15	社会学を応用する	全体のまとめと今後の展望
16	定期試験	

■教科書

教科書は使用しない。新聞や統計・世論調査などの資料を必要に応じて資料を配布する。

■参考文献

清水・森・岩上・山田編『家族革命』弘文堂、2004年
森岡清志編『地域の社会学』有斐閣アルマ、2008年

科目名	福祉経済論			
08年度入学：福祉経済論				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

「豊かな社会」と言われるわが国では、貧困問題は既に解消された過去のものとして扱われる場合が多い。しかし、国際的に貧困は現代的課題であり、わが国でも高齢者を中心に、全国民が貧困に陥る危険性があることを認識するため、実態調査を中心に考察を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験50%・授業内小テスト40%・出席10%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。
 復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

科目名	社会福祉論			
08年度入学：社会福祉論				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

「社会福祉」という学問領域は限りなく拡大解釈可能であるが、本講義では社会保障制度の一環としての「狭義」の社会福祉について考察する。その歴史的展開過程を辿り、国際比較を交えつつ、生活最低限という視点から分析を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験60%・授業内小テスト30%・出席10%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。
 復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

寺久保光良「福祉」が人を殺すとき」あけび書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	はじめに
3	路上生活者問題Ⅰ
4	路上生活者問題Ⅱ
5	路上生活者問題Ⅲ
6	日雇労働者問題Ⅰ
7	日雇労働者問題Ⅱ
8	失業者問題Ⅰ
9	失業者問題Ⅱ
10	フリーター問題Ⅰ
11	フリーター問題Ⅱ
12	医療保障
13	生活保障とその課題
14	医療供給体制
14	雇用保障
15	まとめ
16	定期試験

■参考文献

日本労働研究機構「フリーターの意識と実態－97人へのヒアリング結果より－」

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	はじめに
3	「社会福祉論」の学問領域概説
4	「エリザベス救貧法」と貧困観
5	「改正救貧法」と貧困観
6	救貧制度史
7	公衆衛生について
8	日本の救貧制度史
9	生活保護法とは
10	生活保護をめぐる訴訟・事件Ⅰ
11	生活保護をめぐる訴訟・事件Ⅱ
12	生活保護の現況
13	生活保護と公的年金制度
14	高齢者福祉
15	障害者福祉
16	児童福祉
17	まとめ
18	定期試験

科目名	保険論			
08年度入学：生活経済論Ⅱ				
担当者	千々松 愛子 Aiko Chijimatsu			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、保険とはどのような制度であり、われわれの経済生活においてどのように機能しているのか、経済学的・法的・史的側面等、多面的な視点で概観する。そうした視点を通して、最終的に、われわれの生活に密着している保険制度の基本概念と理論を理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特に要求しない。レジュメを配布し、基本的に講義形式で行う。新聞等で取り上げられる最新情報や、耳目を集めた事件の解説も適宜行う。また、視聴覚教材等を利用した時間も設ける予定である。

■成績評価方法・基準

平常点と学期末の定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：日々報道される保険関連のニュースに目を通し、自分なりに理解しておくことが最良の予習である。
復習：ノートを見直し、理解できていなかった点、わからなかった用語等をチェックすること。

■教科書

テキストは使用しない。

■参考文献

近見正彦ほか「新・保険学」（有斐閣アルマ、2006年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義内容、授業の到達目標について説明する。
2	保険制度の役割としくみ	経済的損失に備える制度のしくみを概観する。
3	保険制度の生成と発展	英国を中心に、保険制度生成の背景について説明する。
4	近代保険制度の生成とわが国への導入	わが国における近代保険制度導入の経緯。
5	保険とリスクⅠ	われわれを取り巻くリスクとその対処手段を知る。
6	保険とリスクⅡ	保険制度におけるリスク概念について理解する。
7	保険制度の構造	三大原則などの基礎概念について理解する。
8	保険契約とは	保険制度の契約としての側面を知る。
9	契約当事者の権利義務	保険者と保険契約者等の権利義務につき解説する。
10	損害保険契約Ⅰ	損害保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。
11	損害保険契約Ⅱ	契約の成立から損害の填補までの流れを知る。
12	生命保険契約Ⅰ	生命保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。
13	生命保険契約Ⅱ	契約の成立から支払いまでの流れを知る。
14	保険法の解説	保険法重要論点と実務上の問題を解説する。
15	まとめ	全体のまとめとポイント
16	定期試験	

科目名	民法Ⅰ			
08年度入学：民法Ⅰ				
担当者	古川 晴雄 Haruo Furukawa			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

民法は私法の基本であり、民法総則及び物権を学び理解することは社会生活を営む上で、有益であり、寧ろ必要最小限度の知識は必須であると言える。民法の基礎理論及び物権について講義し、学生が社会に出た際に発生するであろう私法問題について、自らの判断で対処できるに足る基礎的知識を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

法律を学んだことのない学生が理解できるように、民法の基本原則を中心に、裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれて出来るだけわかりやすく講義を進める予定である。また、物権法については、学生が理解しやすいように、所有権、抵当権等の各論を先に講義し、その後総論部分を講義する予定である。なお、レジュメを配布し、レジュメを中心に講義を行う予定である。

■成績評価方法・基準

試験成績、レポートに加え、出席状況を加味して成績評価を決定したい。

■授業の予習・復習

基本書による予習、レジュメによる復習が望まれる。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	民法の意義と基本原則	民法の意義、民法の基本原則
2	権利能力論、行為能力制度	権利能力の得喪、制限行為能力者の保護と相手方保護
3	法人論	法人の成立、能力、役割
4	権利の客体	物の意義と分類
5	法律行為論	法律行為の意義、分類、解釈、目的
6	意思表示Ⅰ	心裡留保、虚偽表示、錯誤
7	意思表示Ⅱ	詐欺、強迫
8	代理制度Ⅰ	代理の意義、代理の構造、復代理
9	代理制度Ⅱ	無権代理、表見代理
10	時効制度	取得時効、消滅時効
11	物権総則	物権の意義、種類
12	所有権	所有権の意義と効力
13	各種物権	占有権、抵当権等の意義と効力
14	物権の効力・変動	物権の効力と物権変動と対抗問題
15	まとめ	民法総則・物権まとめ
16	定期試験	

■教科書

『民法入門の入門 財産編』（中川淳編 法律文化社）

■参考文献

『プリメール民法1』（民法入門・総則 安井宏ほか共著）、
『プリメール民法2』（物権・担保物件 松井宏興ほか共著）（法律文化社）

科目名	民法Ⅱ			
08年度入学：民法Ⅱ				
担当者	古川 晴雄 Haruo Furukawa			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

講義は債権法が中心である。現代社会は多様化し、その対応は社会生活を営む上で、極めて重要となっている。債権法についての最低限の知識を理解することは極めて有益である。民法総則・物権（民法1）とあわせ、学生が社会に出た際に発生するであろう私法問題について対処できるに足る基礎的知識を習得してもらえるように努めたい。

■授業の進め方（履修条件等）

債権法分野は極めて広範囲であり多岐にわたっている。そこで、基本原則と重要分野を中心に、できるだけ裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれてわかりやすく講義を進める予定である。また、学生が理解しやすいように、各論を講義して、その後、総論部分を講義する方法で進めたい。分野が広範囲なこともあり、レジュメを配布し、レジュメを中心とした講義を行う予定である。

■成績評価方法・基準

試験成績、レポートに加え、出席状況を加味して成績評価を決定したい。

■授業の予習・復習

債権法は、分野が広く多岐にわたるため、基本書による予習、レジュメによる復習が望まれる。

科目名	社会保障論Ⅰ			
08年度入学：社会保障論Ⅰ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

社会保障成立に至るまでの長い歴史的過程を迎えることから、その本質とは何かについて解明し、その目的は「生存権保障」であることを確認する。現代の財政論主導の社会保障のあり方についても検討を加える。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験80%・出席20%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。

復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	物権と債権の相違	物権と債権の違い
2	売買契約	売買契約の要件、機能、効力
3	貸借契約	賃貸借、消費貸借契約等の要件と効果
4	その他契約	贈与、請負、雇用、委任等の要件と効果
5	契約総論 1	契約の成立
6	契約総論 2	契約の効力
7	契約総論 3	契約の解除
8	事務管理・不当利得	事務管理・不当利得の意義と効果
9	不法行為論 1	不法行為（709条）の要件
10	不法行為論 2	不法行為の効果
11	不法行為論 3	特殊不法行為（使用者責任等）
12	債権総論 1	債権の効力
13	債権総論 2	詐害行為取消権、債権者代位権
14	債権総論 3	多数当事者関係、債権譲渡、弁済、相殺
15	債権法のみとめ	債権法全般のみとめ
16	定期試験	

■教科書

『民法入門の入門 財産編』中川淳編 法律文化社

■参考文献

『プリメール民法3』（債権総論 宇佐見大司ほか共著）、
『プリメール民法4』（債権各論 大島俊之ほか共著）（法律文化社）

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	
2	社会保障の概念	社会保障とは何か
3		方法的視点と理論的課題
4	資本主義と生活問題	自助原則とは何か
5		賃金保障の意義
6		救貧・共済体制
7	社会保障前史	社会保険の成立
8		社会保険の本質と制約
9	社会保険から社会保障へ	イギリスの場合
10		ドイツの場合
11		第二次大戦前後の展開過程
12		目的=生存権保障について
13	社会保障の本質	制度化原則についてⅠ
14		制度化原則についてⅡ
15	まとめ	
16	定期試験	

科目名	社会保障論Ⅱ			
08年度入学：社会保障論Ⅱ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2 単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

現代社会において、社会保障にはいかなる問題があるのか。高齢化社会の進行に伴う年金・医療・介護という現在抱えている社会問題を中心に、国際比較を交えつつ、わが国の社会保障の特質について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験70%・授業内小テスト10%・出席20%の計を成績とする。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としないが、参考文献などに目を通すことが望ましい。

復習：講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 ガイダンス		
2	戦後の生活保障体制（前史）	
3	日本の社会保障史	
4		日本の社会保障計画
5		国民皆年金・皆保険体制 1980年代以降の「改革」
6	現代日本の社会保障	
7		公的年金とは何か
8		日本の公的年金制度の問題点
9		医療保障とは何か
10		日本の医療保険の問題点
11		日本の医療供給体制の問題点
12		介護保険とは何か
13		日本の介護問題 介護をめぐる死について
14 社会保障の本質	財政原則について	
15 まとめ		
16 定期試験		

科目名	資源エネルギー論			
08年度入学：新エネルギー論				
担当者	水口 章 Akira Mizuguchi			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2 単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

21世紀において経済成長を確かなものにするためには、環境問題を踏まえたエネルギーや資源の活用を考える必要がある。本講義では、エネルギー問題を中心にライフスタイルのあり方を考察し、エネルギー・ビジネスの基礎知識を身につけていく。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。

■成績評価方法・基準

授業内評価（レポート、討論参加）40%、定期試験60%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を講読すること。

復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めておく。

■教科書

特にないが適宜プリントを配布

■参考文献

ジャン＝マリー・シェヴァリエ著『世界エネルギー市場』作品社
十市勉著『21世紀のエネルギー地政学』産経新聞出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1	環境・経済成長・人口増加の関係を知る
2	地球環境の概観
3	経済成長とエネルギー
4	経済成長と資源
5	グループ討論「環境にやさしい生活」
6	産業革命までのエネルギーと社会
7	産業革命から現代までのエネルギーと社会
8	世界エネルギー市場
9	エネルギー確保と国家
10	グループ討論「資源争奪の行方」
11	太陽エネルギーと産業社会
12	原子力エネルギーと産業社会
13	再生エネルギーと産業社会
14	エネルギー産業と経済発展
15	グループ討論「21世紀の環境と人類の課題」
16	定期試験

科目名	医療の経済学			
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

財政赤字の大きな要因である医療費の増大が今日大きな課題となっている。本講義では、医療保険制度、医療費の増大のメカニズム、診療報酬制度、薬価基準など、国際比較を通して日本の医療保険制度の実態を明らかにしたのち、高齢社会において適切な医療サービスが受けられるような医療保険制度の在り方について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（20%）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。
復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

『やさしい医療経済学（第2版）』勁草書房、大内講一著

科目名	環境経済学Ⅰ			
08年度入学：環境経済学				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

環境経済学を理解するのに必要なミクロ的な基礎を学びます。受益者負担と公共経済学、配分、ゲームの理論などがその対象となります。理論を環境問題に即した事例によって理解し、環境問題の本質や、経済学のアプローチの特徴を知ります。

■授業の進め方（履修条件等）

小テストや実験を行い、理解を促します。実験の準備などによって、多少スケジュールが前後することがあります。

■成績評価方法・基準

小テストやレポートの評価で6割、期末テストが4割での評価になります。

■授業の予習・復習

予習：小テスト・レポートによって行います
復習：小テスト・レポートによって行います

■教科書

テキストに替えて、毎週プリントを配布します。

■参考文献

栗山浩一・庄子 康『環境と観光の経済評価』勁草書房
西條辰義『環境経済学への招待』勁草書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会保障費の増大と医療	高齢社会における社会保障費の増大 国民医療費の負担と増加要因
3	日本の医療保険制度	医療保険制度の沿革と特徴
4		医療制度改革の方向
5	医療サービスの供給	医療サービスの生産要素
6		医療提供体制
7	医療サービスの需要	医療保険と医療サービス消費
8		医療保険制度の国際比較（英国とスエーデンの医療制度）
9		医療保険制度の国際比較（米国の医療保険制度：メディケアとメディケイド）
10	診療報酬制度とドクターズフィー	
11	医療サービスの料金	薬価基準と薬価差益
12		診療報酬制度の国際比較
13	介護保険	介護保険導入の経緯
14		現行の介護保険の課題
15	医療保障制度の課題	高齢社会における医療制度の在り方
16	定期試験	

■参考文献

『日経文庫ベーシック 医療問題』日本経済新聞社、池上直己著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	環境経済学とは何か、環境問題への経済学のアプローチ
2	環境経済学のテーマ	廃棄物と温暖化問題、排出権取引
3	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学の基礎
4	公共経済学の基礎	公共財の定義、公共財の提供理論
5	配分	配分とは何かさまざまな配分方法と価格メカニズム
6	資源配分	パレート効率性、アローの一般不可能性
7	ゲームの理論	ゲームの定義、囚人のジレンマ
8	公共財の提供	公共財の提供、環境問題
9	ただ乗り問題	家庭ごみの問題とただ乗り問題
10	社会選択の理論	選挙と多数決原理、選好についての真理表明とただ乗り問題
11	排出権取引1	排出権取引とは何か、なぜ必要なのか
12	排出権取引2	排出権取引の理論的な理解
13	環境評価	公園や干潟の評価
14	環境評価の理論と実践	CVMを用いたアンケートと環境評価
15	まとめと補足	まとめと補足
16	定期試験	

科目名	環境経済学Ⅱ			
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

環境経済学Ⅰでも扱った理論的な枠組みについて、より精緻な理論とともに紹介します。後半では、様々な環境政策について整理しながら理解します。さらに環境評価のうち、とくに観光資源の評価方法を紹介します。後者は、マーケティングにおいてよく用いられるCVM法を用いています。

■授業の進め方（履修条件等）

PPTを用いてスライドを見せる講義形式で行い、適宜小テストを行って復習をしていきます。またアンケート実験を行うこともあります。

■成績評価方法・基準

6割を小テスト、4割を期末の試験で評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んで行ってまいります
復習：小テストによって行います

■教科書

バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社

■参考文献

栗山浩一・庄子 康編著『環境と観光の経済評価』勁草書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	環境経済学とは何か再論
2 経済と環境	経済・社会資源としての環境を理解する。専門用語の導入、汚染物質の類型
3 費用便益分析1	支払意思と需要曲線、便益の定義
4 費用便益分析2	限界費用と供給曲線
5 経済効率性と市場	外部経済、外部不経済、公共財とただ乗り問題
6 環境質の経済学	環境汚染規制のモデル、トレードオフ、被害関数、削減費用関数、効率的排出水準の決定
7 環境分析	対費用効果分析、被害評価、費用便益分析
8 費用便益分析1	公共政策プロジェクトの評価 割引率、リスク評価
9 費用便益分析2	費用の評価、機会費用
10 環境政策の評価	環境政策の評価基準
11 分権的政策	責任法、財産権、道徳的勧告
12 環境評価1	環境と観光、自然公園の価値、過剰利用と管理
13 環境評価2	観光資源の評価法、トラベルコスト法、CVM法
14 環境評価3	コンジョイント分析
15 まとめと補足	半年の講義を振り返り補足をします
16 定期試験	

科目名	環境問題Ⅰ			
担当者	金子 林太郎 Rintaro Kaneko			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と環境政策の特徴に注意を向ける。前期は総論、後期は各論である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごとに）レジュメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1、2回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2年生も受講可とする。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60%、出席点等40%）

■授業の予習・復習

予習：日頃から環境問題・環境政策に関心を持って新聞等を読んで欲しい。

復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 環境とは	環境の概念
3 環境問題とは(1)	環境問題とは何か
4 // (2)	環境問題の分類と変遷
5 様々な環境問題(1)	大気汚染
6 // (2)	水質汚濁、土壌汚染
7 // (3)	悪臭と騒音
8 // (4)	酸性雨
9 // (5)	オゾンホール
10 // (6)	地球温暖化
11 環境問題の経済学的理解	市場と政府の失敗としての環境問題
12 環境政策の種類と特徴(1)	環境政策の目標と体系
13 // (2)	環境政策手段の経済学的理解
14 // (3)	環境政策手段の相互比較とポリシー・ミックス
15 まとめ	この講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

藤倉良・藤倉まなみ『文系のための環境科学入門』有斐閣
諸富徹・浅野耕太・森昌寿『環境経済学講義』有斐閣

科目名	環境問題Ⅱ			
担当者	金子 林太郎 Rintaro Kaneko			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と環境政策の特徴に注意を向ける。後期は各論である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごとに）レジュメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1、2回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2年生も受講可とする。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60%、出席点等40%）

■授業の予習・復習

予習：日頃から環境問題・環境政策に関心を持って新聞等を読んで欲しい。

復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

科目名	公共経済学			
08年度入学：公共経済学				
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本講義においては、まず市場経済の特質と限界を明らかにする。さらに、環境汚染などの外部性の問題やフリーライダー（ただ乗り）を排除できない公共財の問題について概説し、公共部門が果たすべき役割を明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・授業内小テスト（15%）・出席（15%）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 前期の復習	各種環境問題の特徴整理
3 廃棄物問題と政策(1)	廃棄物の基礎
4 // (2)	一般廃棄物問題の現状と課題
5 // (3)	一般廃棄物政策
6 // (4)	産業廃棄物問題の現状と課題
7 // (5)	産業廃棄物政策
8 // (6)	産業廃棄物税
9 // (7)	循環型社会に向けて
10 地球温暖化問題と政策(1)	地球温暖化問題の現状
11 // (2)	地球温暖化問題の社会経済的メカニズム
12 // (3)	環境税（炭素税）
13 // (4)	排出権取引
14 // (5)	ポリシー・ミックス
15 まとめ	持続可能な社会の形成に向けて
16 定期試験	

■参考文献

金子林太郎『産業廃棄物税の制度設計』（白桃書房）

諸富徹『環境政策のポリシー・ミックス』（ミネルヴァ書房）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 公共経済学の目的と方法	公共経済学の考え方とは
2	市場経済と指令経済の比較
3 市場経済のメカニズム	市場経済の効率性と社会的厚生
4	市場の失敗
5 効率と公平	効率性とパレート最適
6	功利主義かロールズ主義か
7	外部経済と外部不経済
8 外部性をめぐる問題	外部性と市場の失敗
9	規制と罰金
10	規制措置の問題点
11	公共財とは
12 公共財	フリーライダーの問題
13	公共財の最適供給
14	公共財のための効率性条件
15 授業のまとめ	
16 定期試験	

■参考文献

『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著

『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著

科目名	公共選択論			
08年度入学：公共選択論				
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

公共選択論は経済学の分析手法を適用して政治的意思決定に関する課題について考察することを目的としている。本講義では公共選択論の基本課題（多数決ルールの採択、投票のパラドックス、票の取引など）を概説し、現代の政治制度の持つ限界や陥穽について、有権者の行動、官僚制など具体的問題から明らかにする予定である。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・授業内小テスト（15%）・出席点（15%）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない

科目名	行政法 I			
08年度入学：行政法 I				
担当者	小野寺 邦広 Kunihiko Onodera			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、行政法の中の、基本原理、行政組織法、行政作用法について講義します。これらについての基礎知識の修得が到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事等のコピーも配布します。

■成績評価方法・基準

定期テストを中心に評価しますが、出席状況によっては数回出席をとり出席点を加えることもあります。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読むこと

復習：授業中とったノートや配布されたプリント、教科書を読むこと

■教科書

櫻井敬子・橋本博之『行政法』（最新版）弘文堂 3,300円程度
『判例セレクト六法 平成23年版』岩波書店 2,000円

■参考文献

『行政判例百選 I』（第5版）有斐閣 2,200円

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	公共選択論とは何か	
2	意思決定ルールの分析	公共選択のルールと多数決原理
3		投票のパラドックス
4		票の取引
5		情報の不完全性と投票行動
6	直接民主制と代議制	
7	現実の政治における諸問題	投票者の合理的無視の効果
8		圧力団体と特殊利益集団
9		政治家の得票最大化行動
10	官僚の役割と政策決定	官僚の役割と非効率性（1）
11		官僚の役割と非効率性（2）
12		日本の政策決定における官僚の関与
13		英・米の政治形態と官僚の役割
14		官僚主導型政策形成から政治主導政策形成へ
15	授業のまとめ	
16	定期試験	

■参考文献

『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著
『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	行政、行政法の意味等
2	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理
3	行政法の基本原理（2）	適正手続等（含む行政手続法、情報公開法）
4	行政法の基本原理（3）	法の一般原理
5	行政の組織（1）	官庁理論、国と地方の行政組織
6	行政の組織（2）	国と地方の関係（地方分権改革）
7	行政立法	法規命令、行政規則
8	行政行為（1）	行政行為の意味、種類
9	行政行為（2）	行政行為の効力
10	行政行為（3）	瑕疵論
11	行政行為（4）	取消と撤回、附款
12	行政裁量	概念、構造、審査基準
13	行政指導、行政計画	意義、法的統制等
14	行政上の義務履行確保	総論、行政代執行法等
15	行政調査	任意調査、強制調査
16	定期試験	

科目名	行政法Ⅱ			
08年度入学：行政法Ⅱ				
担当者	小野寺 邦広 <i>Kunihiro Onodera</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、行政法の中の、行政救済法と国家補償法について講義します。これらについての基礎知識の修得が到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事等のコピーも配布します。

■成績評価方法・基準

定期テストを中心に評価しますが、出席状況によっては数回出席をとり出席点を加えることもあります。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読むこと。

復習：授業中とったノートや配布されたプリント、教科書を読むこと。

■教科書

櫻井敬子・橋本博之『行政法』（最新版）弘文堂 3,300円程度
『判例セレクト六法 平成24年版』岩波書店（10月頃出版予定）2,000円程度

■参考文献

『行政判例百選Ⅱ』（第5版）有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 行政上の救済手続	行政不服審査法、同法の改正問題など
2 司法権の範囲と限界	司法権と法律上の争訟、統治行為など
3 行政事件訴訟法（1）	行政事件訴訟の諸類型（住民訴訟など）
4 行政事件訴訟法（2）	行政事件訴訟の諸類型（当事者訴訟）
5 行政事件訴訟法（3）	抗告訴訟の諸類型
6 行政事件訴訟法（4）	取消訴訟の訴訟要件（概説）
7 行政事件訴訟法（5）	取消訴訟の訴訟要件（処分性）
8 行政事件訴訟法（6）	取消訴訟の訴訟要件（原告適格）
9 行政事件訴訟法（7）	取消訴訟の訴訟要件（原告適格、訴えの利益）
10 行政事件訴訟法（8）	取消訴訟の審理、判決、執行停止など
11 国家賠償法（1）	国家賠償法の意義、1条（責任の本質、賠償の要件）
12 国家賠償法（2）	1条（賠償の要件）、2条（意義、要件）
13 国家賠償法（3）	2条（道路、河川管理の瑕疵等）
14 損失補償	意義、補償の要否の判定基準等
15 国家賠償と損失補償の「谷間」の問題	予防接種禍訴訟など
16 定期試験	

科目名	労働法Ⅰ			
08年度入学：労働法Ⅰ				
担当者	高橋 良裕 <i>Yoshihiro Takahashi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

労働基準法の基本的な枠組みの理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

労働基準法上の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・出席（20%）。レポートは、救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。

■授業の予習・復習

予習：当回のレジュメは、配布されたレジュメの項目を見て流れてを掴んでおいて欲しいと思います。

復習：レジュメ、授業内容のメモ、教科書・参考文献を参照しつつ各自理解を深めていただきたいと思います。

■教科書

新世社『ライブラリ法学基本講義 基本講義 労働法』（土田道夫著）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 労働法総論	労働法の意義・労働法の理念・指導原理
3 労働契約関係（1）	労働契約・労働協約（1）
4 労働契約関係（2）	労働契約・労働協約（2）
5 労働契約関係（3）	就業規則（1）
6 労働契約関係（4）	就業規則（2）
7 労働関係の成立に関する法規整（1）	採用の自由
8 労働関係の成立に関する法規整（2）	採用内定、試用
9 非典型的労働関係（1）	期間雇用労働者
10 非典型的労働関係（2）	パートタイム労働者
11 非典型的労働関係（3）	他企業労働者
12 賃金（1）	賃金の意義と体系（1）
13 賃金（2）	賃金の意義と体系（2）
14 賃金（3）	労基法による賃金保護
15 賃金（4）	最低賃金制度、賃金債権の履行確保
16 定期試験	

■参考文献

六法、有斐閣『別冊ジュリスト 労働判例百選（第8版）』、弘文堂『労働法（第8版）』（菅野和夫著）、有斐閣『労働契約法』土田道夫

科目名	労働法Ⅱ			
08年度入学：労働法Ⅱ				
担当者	高橋 良裕 <i>Yoshihiro Takahashi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

労働基準法の基本的な枠組みの理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

労働基準法上の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・出席（20%）。レポートは、救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。

■授業の予習・復習

予習：当回のレジュメは、配布されたレジュメの項目を見て流れを掴んでおいて欲しいと思います。

復習：レジュメ、授業内容のメモ、教科書・参考文献を参照しつつ各自理解を深めていただきたいと思います。

■教科書

新世社「ライブラリ法学基本講義 基本講義 労働法」（土田道夫著）

科目名	地方自治論Ⅰ			
担当者	伊藤 和歌子 <i>Wakako Ito</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本科目では、住民の生活に最も身近な政治・行政の窓口である地方自治体について、幅広い観点から、基礎的な知識を身につけることを到達目標とします。日本における地方自治の位置づけについて学んだ後、自治体を政策面、財政面等さまざまな観点から学習し、現在の自治体が抱える課題と解決方法について考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式ですが、人数によっては、授業の中で浮かび上がった地方自治体の諸課題について、各々が政策をつくる立場になって解決案を考えるなど、できるだけ受講者が参加できるような形にします。

■成績評価方法・基準

成績評価は平常点とレポートで行います。レポートは原則2回提出とします。

■授業の予習・復習

予習：講義スケジュールをみながら、事前に次回講義範囲について、テキストを読んでおいてください。

復習：講義終了後、授業で配ったレジュメや資料を見直してください。

■教科書

『ホーンプック地方自治』（磯崎初仁他著、北樹出版、2007年）。その他授業内で関連資料及びコピーを配布予定です。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	
2 労働時間・休暇（1）	労働時間・休日の原則、時間外・休日労働
3 労働時間・休暇（2）	法定労働時間の弾力化、柔軟な労働時間制度
4 労働時間・休暇（3）	年次有給休暇
5 少子高齢化社会と労働関係	高齢・少子社会の就業援助
6 労働災害の補償（1）	労災補償制度、労災保険制度（1）
7 労働災害の補償（2）	労災保険法（2）
8 労働災害の補償（3）	法定外補償
9 企業秩序と懲戒（1）	服務規律、企業秩序
10 企業秩序と懲戒（2）	内部告発の保護、懲戒の意義、根拠と限界等
11 人事（1）	教育訓練、昇進・昇給・降給
12 人事（2）	配転・出向、退職
13 労働関係の終了に関する法規整（1）	解雇以外の終了事由
14 労働関係の終了に関する法規整（2）	解雇（1）
15 労働関係の終了に関する法規整（3）	解雇（2）
16 定期試験	

■参考文献

六法、有斐閣『別冊ジュリスト 労働判例百選（第8版）』、弘文堂『労働法（第8版）』（菅野和夫著）、有斐閣『労働契約法』土田道夫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の狙い、進め方を説明します。
2 地方自治：その範囲の変化	地方自治制度の歴史について学びます。
3 自治体の管轄範囲とその類型	自治体の類型とその管轄範囲について学びます。
4 基礎自治体としてのあり方	新宿区をケーススタディとして学びます。
5 自治体の政治・行政	首長・議会・行政機構の関係をみていきます。
6 自治体の組織管理と人事制度	自治体の組織構成や業務分担を学びます。
7 自治体の財政運営	自治体の財政のしくみについて学びます。
8 自治体の政策（1）	政策形成の概要について学びます。
9 自治体の政策（2）	政策法務と条例について学びます。
10 自治体の政策（3）	社会保障関連政策について学びます。
11 自治体の政策（4）	産業政策と地域振興について学びます。
12 自治体シンクタンクの意義	昨今増えている自治体シンクタンクについて学びます。
13 国際化社会への自治体の対応	自治体の外国人施策について学びます。
14 コミュニティと自治体	自治体と自治会や町内会との関係について学びます。
15 自治体の行方	今後の自治体のあり方について考えていきます。

■参考文献

『分権と自治のデザイン』（森田朗他著、有斐閣、2003年）。

科目名	地方自治論 II			
担当者	牧瀬 稔 Minoru Makise			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

地方自治の現場には政策力が必要です。本授業は政策力を身につけることを目的とします。この政策力は「問題を発見し、その問題を解決するため、一定の政策目標を立て、それを実現するために必要な枠組み・しくみをつくり上げる能力」としています。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業は、今日の自治体政策の動きについて、具体的な事例を踏まえながら、その時々トピックを交えて講義をします。また適宜、自治体職員等を招き、実際の事例を話してもらう予定です。

■成績評価方法・基準

論文・レポートによる評価を80%として、出席による評価を20%とします。

■授業の予習・復習

予習：自分の住む地方自治体に関心を持ってください。
復習：授業で得た知識を自分の住む地方自治体と比較してください。

■教科書

牧瀬稔（2009）『条例で学ぶ政策づくり入門』東京法令出版
授業は、毎回資料を配付します。配付資料は、講師のホームページから入手できます。講師のホームページ：http://homepage3.nifty.com/makise_minoru/

■参考文献

牧瀬稔・戸田市政策研究所（2009）『政策開発の手法と実践』東京法令出版

■授業内容

下記の内容で進めますが、あくまでも現時点における「案」です。受講生と相談して、最終的に決定します。

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の概要を説明します
2	地方の時代の到来	到来した「地方の時代」について詳述します
3	都市間競争の展開	自治体と自治体の競争を話します
4	基本構想	地方自治体の行政計画の構造を紹介し ます
5	特徴的な政策の開発	最近の特徴的な政策を紹介し ます
6	地域ブランド	地域ブランドに関する政策を紹介し ます
7	住民参加・協働	住民参加・協働に関する政策を紹介し ます
8	コミュニティの再生	コミュニティの再生に関する政策を紹介し ます
9	子ども・青少年	子ども・青少年に関する政策を紹介し ます
10	自治基本条例	地方自治体の憲法について話します
11	子ども・青少年	子ども・青少年に関する政策を紹介し ます
12	住民投票	住民投票に関する政策を紹介し ます
13	食の安全・迷惑防止	食の安全・迷惑防止に関する政策を紹介し ます
14	生活安全・交通事故	生活安全・交通事故に関する政策を紹介し ます
15	求められる自治体職員像	これから求められる自治体職員像を話し ます
16	定期試験	

■講義スケジュール

地方自治論演習は、地方自治体への中・長期のインターンシップを意図しています。そのため、講義はありません。

■教科書

牧瀬稔・戸田市政策研究所（2009）『政策開発の手法と実践』東京法令出版
牧瀬稔・戸田市政策研究所（2010）『選ばれる自治体の条件』東京法令出版

■参考文献

特に指定しません。

科目名	地方自治論実習			
担当者	牧瀬 稔 Minoru Makise			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

地方自治論演習は、夏季休暇等を活用して、地方自治体でのインターンシップの実施を想定しています。地方自治の現場で政策づくりを行い、最終的には自治体職員へプレゼンテーションを実施します。具体的なインターンシップ先としては、戸田市役所、三芳町役場、春日部市役所等を想定しています（変更もあります）。

■授業の進め方（履修条件等）

夏季休暇の間に、地方自治体に出社し、自治体職員の指導のもと、政策づくりに励みます。その地方自治体への出社日や出社時間等の諸条件は、個別に相談して決定します（アルバイト料、交通費等は支給しません）。

■成績評価方法・基準

インターンシップ期間の勤務状況と提案されたレポートにより成績をつけます。

■授業の予習・復習

予習：インターンシップ先及び自分の住む地方自治体に関心を持ってください。
復習：一日のインターンシップの経験を振り返ってください。

科目名	地方財政論 I			
08年度入学：地方財政論 I				
担当者	金子 林太郎 Rintaro Kaneko			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

地方自治体（市町村や都道府県）は私たちにとって身近な公共サービスを提供しているが、その財政状況は厳しい。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を知り、対応策を考える手がかりを得ることをねらいとする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って、板書を交えて解説しながら進める。適宜資料プリントも配布する。出席は毎回取る。出席カードのコメント欄にその日の授業内容に関することを書かないと、無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60%、出席点等40%）

■授業の予習・復習

予習：指定したテキストの範囲を読んでくること。また、テレビや新聞で地方財政関連のニュースに注意して欲しい。
復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

林宜嗣『地方財政（新版）』有斐閣

科目名	地方財政論 II			
08年度入学：地方財政論 II				
担当者	金子 林太郎 Rintaro Kaneko			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

地方自治体（市町村や都道府県）は私たちにとって身近な公共サービスを提供しているが、その財政状況は厳しい。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を知り、対応策を考える手がかりを得ることをねらいとする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って、板書を交えて解説しながら進める。適宜資料プリントも配布する。出席は毎回取る。出席カードのコメント欄にその日の授業内容に関することを書かないと、無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数に、出席点・レポート点を加えて総合評価する。（期末試験60%、出席点等40%）

■授業の予習・復習

予習：指定したテキストの範囲を読んでくること。また、テレビや新聞で地方財政関連のニュースに注意して欲しい。
復習：配布物やノートを整理し、疑問点や興味を持った点をメディアセンターやインターネット等で調べて欲しい。

■教科書

林宜嗣『地方財政（新版）』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 制度としての地方財政(1)	地方自治、地方財政制度
3 // (2)	地方の財政支出
4 // (3)	地方の財政運営
5 国と地方の機能分担(1)	財政の機能と役割分担
6 // (2)	地方分権の意義
7 地方公共支出の経済学(1)	公共支出の効率化
8 // (2)	公共支出の最適供給
9 // (3)	公共サービスにおける非効率性の諸要因
10 地方団体の行財政改革(1)	地方行財政運営の効率化
11 // (2)	行政の守備範囲の見直し
12 // (3)	公共サービスの生産性の改善
13 // (4)	公共サービスの費用負担、公会計改革
14 広域行政と狭域行政	最適な行政区域、道州制、広域行政
15 まとめ	この講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

中井・齊藤・堀場・戸谷『新しい地方財政論』有斐閣
その他は講義の中で随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 地方税の体系と原則(1)	地方税体系
3 // (2)	地方税原則
4 地方税の改革(1)	住民税・地方消費税の改革
5 // (2)	法人課税・固定資産税の改革
6 // (3)	地方分権との関連
7 国庫支出金と地方財政(1)	国庫支出金の構造
8 // (2)	国庫支出金の経済分析
9 // (3)	国庫支出金の動向と改革の方向
10 地方交付税と財政調整(1)	財政調整と財源保障
11 // (2)	地方交付税のしくみと財政調整効果
12 // (3)	地方交付税の改革
13 地方債(1)	地方債のしくみ
14 // (2)	地方財政と地方債、地方債の最適水準
15 まとめ	この講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

中井・齊藤・堀場・戸谷『新しい地方財政論』有斐閣
その他は講義の中で随時紹介する。

科目名	財政赤字の経済学			
担当者	仁平 耕一 Koichi Nidaira			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

日本の財政赤字は膨大な規模に達しているが、このような状況に陥った原因を探り、それが日本経済にどのような影響を及ぼすかを考察するのが本講義の目的である。本講義では日本の財政状況の推移と現状、公共サービスの需要と供給、赤字財政の政治・経済的要因について明らかにする。同時に、公債、国債の国民負担に関する問題について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（20%）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。
復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない

科目名	経済統計 I			
08年度入学：経済統計 I				
担当者	稲葉 弘道 Hiromichi Inaba			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	2 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とします。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である法人企業統計と家計調査を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

データ整理や分析にはパソコン（EXCEL）を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

唯是康彦編著『Excelで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1	日本の財政収支
2	日本の財政赤字の実態と推移
3	公共サービスの供給と公債費の増大
4	デフレ経済と高齢社会の到来
5	社会保障費をめぐる問題
6	景気対策による財政赤字の拡大
7	政治的要請と官僚主導の予算
8	公債負担転嫁論の概説：公債はだれの負担か？
9	内国債と外債、および国債と地方債
10	モジリアニの負担転嫁論
11	リカード＝バローの等価定理
12	クラウドファンディングアウトと民間投資への影響
13	公共投資の抑制と課題
14	財政健全化に向けて 社会保障制度の改革 財政支出による景気刺激策の限界と財政均衡への課題
15	全体のまとめ
16	定期試験

■参考文献

『赤字財政の政治経済学』文真堂、J.M.ブキャナン／R.E.ワグナー著
『公共経済学』日本評論社、野口悠紀雄著

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	授業内容の概要
3	インターネットで経済統計を検索
4	ネットワーク操作
5	表計算操作法
6	表、グラフ作成
7	絶対参照座標
8	統計と情報
9	統計データとは何か
10	全数調査と標本調査
11	統計データの種類
12	「法人企業統計」の説明
13	「貸借対照表」と「損益計算書」
14	「法人企業統計年表」とは
15	「法人企業統計」で経営分析
16	経営指標を計算する
17	主要経営指標の計算
18	「家計調査年報」を統計的に分析する
19	「家計調査」とは
20	統計の作表と構成の計算
21	5分位階級データの分析
22	まとめ
23	定期試験

■参考文献

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社
向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、「関係」の統計学』技術評論社

科目名	経済統計Ⅱ			
08年度入学：経済統計Ⅱ				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

経済統計Ⅱの知識を前提に、経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とする。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である家計調査と国民経済計算（SNA）を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

データ整理や分析にはパソコン（EXCEL）を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行つておく。特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

唯是康彦編著「Excelで学ぶ経済統計入門」東洋経済新報社

科目名	金融事情Ⅰ			
08年度入学：金融事情Ⅰ				
担当者	飯野 由美子 <i>Yumiko Iino</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

21世紀に入り、金融業のあり方は大きく変わってきました。この授業では、その変化を1980年代から追ひ、日本、アメリカ、ヨーロッパにおける革新の背景、本質を明らかにしていきます。そして、IT革命以前に出現した金融の新技术のポイントを勉強していきますよ。

■授業の進め方（履修条件等）

レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストをたびたび行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点し、moodle上で短いコメントをお返します。人数が少ない場合は、問答を中心とした授業を行います。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合の目安としては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）出席（0%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出来ていればとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章でちゃんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にし、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■教科書

テキストはありません。メモをとり、検索技術を磨いて下さい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	平均と標準偏差の計算
3 『家計調査年報』から統計指標をつくる	所得階層の度数分布
4	標本からの度数分布作成
5	正規分布と食料費
6	新SNAとは
7 「国内総生産」で景気と成長をみる	時系列統計の処理
8	成長と景気
9	所得の定義
10 回帰分析で「消費関数」を計測する	相関関係
11	消費関数
12	回帰分析
13 気楽に「線形計画法」を覚えよう	最適化問題
14	ソルバーによる線形計画法
15 まとめ	
16 定期試験	

■参考文献

向後千春・富永敦子著「統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学」技術評論社
 向後千春・富永敦子著「統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、「関係」の統計学」技術評論社

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評点等
2 Moodle登録	今後授業で使うe-learningのアカウントを作ります。これをしないと小テストが受けられず、出席もとれないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。アカウントをお持ちの方は「登録キー」だけメディアセンターで聞いて頂き、ご自身でヨーロッパ経済論Ⅰのコース登録も出来ます。
3 高度成長期の日本の金融	高度成長期の日本の金融
4	小テスト（小論文形式）
5	金融自由化（1）金利自由化の流れ
6 日本における金融革新の流れ	金融自由化（2）金利自由化の影響・業際規制緩和
7	金融革新の流れ
8 アメリカの金融革新	アメリカにおける金融革新の流れ
9	小テスト（小論文形式）
10	金融のグローバル化
11	デリバティブズ
12 金融のグローバル化と金融の新技术	金融におけるコンピュータの利用
13	セキュリティゼーション
14	小テスト（小論文形式）
15 定期試験	

■参考文献

円居総一「ベーシック金融自由化入門」（日経文庫 653）出版社：日本経済新聞社、発行年月1995年7月、価格（税込）918円、ISBNコード978-4-532-10653-9（4-532-10653-2）はコンパクトに各国金融自由化の流れがまとめてあり便利です。書籍の他に金融の新しい事象や用語などについてはweb検索を積極的にご利用下さい。他は、moodleのサイト（http://shujou.u-keiai.ac.jp）ヨーロッパ経済論Ⅱのコース参照

科目名	金融事情Ⅱ			
08年度入学：金融事情Ⅰ				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

21世紀に入り、金融業のあり方は大きく変わってきました。この授業では、1980年代後半バブルの背景から失われた10年と言われた1990年代におけるその崩壊、不良債権問題の話から、その間進化したIT革命を受けて進行する金融の新しい波について勉強しましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストをたびたび行います。小論文式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点し、moodle上で短いコメントをお返します。人数が少ない場合は、問答を中心とした授業を行います。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合の目安としては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）出席（0%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出ていければとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章をきちんと因果関係等の説明が出来るよう用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■教科書

テキストはありません。メモをとり、検索技術を磨いて下さい。

科目名	資産運用論			
08年度入学：生活経済論Ⅰ				
担当者	佐藤 正明 Masaaki Sato			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

低金利の時代が長く続いている状況下においても、資産運用の方法によって収益を上げることが可能である。そのためには、リスクの考え方、資産運用の理論、金融商品の内容等を理解しておくが必要である。この講義を受講することによって、自らの判断と責任において運用商品を決定できる知識を習得することを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には、テキストを活用して基礎から応用へと展開していきます。適宜、パワーポイント等を利用するとともに、必要に応じて資料を配布する予定。

■成績評価方法・基準

定期試験（20%）・出席（50%）授業態度（30%）出席と授業態度を重視する。

■授業の予習・復習

授業の予習としては、テキスト等を授業の前に読んでおくことが望ましく、復習としては授業内容の再確認として講義内容をを中心にテキスト読み返して、知識を自分のものとする。

■教科書

佐藤正明著「資産運用論概説」

■参考文献

講義において紹介する。

■授業内容〔後期〕

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評点等
2 Moodle登録	今後授業で使うe-learningのアカウントを作ります。これをしないと小テストが受けられず、出席もとれないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。アカウントをお持ちの方は「登録キー」だけメディアセンターで聞いて頂き、ご自身でヨーロッパ経済論Ⅰのコース登録も出来ます。
3	国民経済と株式市場
4	小テスト（小論文形式）
5 バブル崩壊と不良債権問題	バブルの発生
6	バブル崩壊と不良債権問題
7	小テスト（小論文形式）
8	IT革命概要・Eコマースの意味
9	金融のIT化、未来の金融
10 金融のIT化	ヴェンチャー・ビジネス、ヴェンチャー・キャピタル
11	小テスト（小論文形式）
12	サブプライム問題、世界金融危機の構図
13 金融の現状	世界金融危機下の世界経済・ソブリン危機
14	小テスト（小論文形式）

■参考文献

野村総合研究所 コンサルティング事業本部 NRIAアメリカ「2010年の金融」－変貌するリテールと次なるビジネス戦略－、出版社：東洋経済新報社、出版年：2006年9月、定価：本体1,600円＋税、ISBN 4-492-65386-4（メディアセンターの指定図書コーナーに入っています）書籍の他にweb検索によって多くの政府資料や充実した文献が出てきます。検索技術を磨き、よい資料を発掘して下さい。他は、moodleのサイト（<http://shujou.u-keiai.ac.jp>）ヨーロッパ掲載論Ⅱのコース参照

■授業内容〔前期〕

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	資産運用論の講義内容
2 投資のためのマーケット指標	投資のための経済・投資情報の活用方法
3 リスクとリターン	リスクとリターンの考え方
4 投資理論	ポートフォリオ理論や行動ファイナンスを理解
5 資産運用の基本	分散投資やドルコスト平均法等の仕組みを理解
6 DCF法	ディスカウント・キャッシュフロー法の仕組みを理解
7 元本確保商品	預貯金等の金融商品および複利運用の仕組みを理解
8 外国為替運用	外貨預金等の金融商品の仕組みを理解
9 債券投資	債券の仕組みを理解
10 株式投資	株式投資を行うためのポイントを理解
11 投資信託	投資信託の仕組みや投資への活用方法を理解
12 デリバティブ運用	オルタナティブ投資としてのスワップやオプション等の仕組みを理解
13 不動産投資	不動産運用およびREIT等の商品を理解
14 資産運用に関する税務	預貯金、債券、株式等の投資運用に関する税務
15 まとめ	修得した知識を活用した資産運用計画のポイント
16 定期試験	

科目名	有価証券法Ⅰ			
08年度入学：有価証券法Ⅰ				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

手形法・小切手法のなかで、手形・小切手の定義から白地手形の範囲を解説します。手形・小切手が経済社会で果たしている役割とその法規制を理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

要点を黒板に書いて授業を行います。ノートをとって知識をまとめてください。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席状況にもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。
復習：自分のノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編『現代商法入門（第8版）』有斐閣

■参考文献

必要な時に、授業のなかで紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講上の注意、試験の方法
2 約束手形とは何か	信用の道具、支払の先送り、手形割引
3 為替手形・小切手とは	送金・取立の道具、支払委託証券、自己宛小切手
4 有価証券としての特徴	定義、完全有価証券、設権・無因・呈示証券
5 手形行為とは何か	振出・裏書・保証、要式・文言性、客観解釈の原則
6 手形行為の無因性、独立性	原因債務の影響を受けない、手形行為の独立性
7 手形行為の成立	署名、記名捺印、手形の交付、手形理論の対立
8 意思表示の瑕疵	制限行為能力者、心裡留保、錯誤、詐欺
9 他人を使った手形行為	代理方式、機関方式
10 手形の偽造	追認、表見代理の成立、偽造者の手形責任
11 手形の変造	手形行為の内容の偽り、変造文言による責任
12 手形の振出	振出人の絶対的義務、手形債務・原因債務の併存
13 基本的手形行為	絶対的・有益的・有害の記載事項
14 白地手形（1）	受取人白地手形、主観・客観・折衷説
15 白地手形（2）	白地の不当補充、補充の期間
16 定期試験	

科目名	有価証券法Ⅱ			
08年度入学：有価証券法Ⅱ				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

手形・小切手法のなかで、手形の裏書から小切手の範囲を解説します。法律の重要な柱は、善意取得と人的抗弁の切断です。確実に理解してください。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の要点は黒板に書きます。ノートを取りながら知識をまとめてください。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席状況にもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。
復習：自分のノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編『現代商法入門（第8版）』有斐閣

■参考文献

必要に応じて授業のなかで紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 手形の裏書（1）	当然の指図証券、裏書の方式・効力
2 手形の裏書（2）	裏書の連続、形式的資格者、裏書の不連続
3 善意取得	即時取得より強い保護、三つの成立要件
4 手形抗弁	物的・人的抗弁、無権利の抗弁
5 人的抗弁の切断	切断が原則、悪意の抗弁、権利濫用の抗弁
6 特殊な裏書（1）	白地式・無担保・裏書禁止・戻裏書
7 特殊な裏書（2）	期限後・取立委任・質入裏書
8 手形保証	保証債務の付従性、合同責任
9 手形の支払	支払呈示、支払免責、満期前の支払
10 遡求	手形の不渡、銀行取引停止処分
11 消滅時効	短期時効期間、時効の中断
12 利得償還請求権	不公正の是正、手形の所持不要
13 手形の喪失	公示催告、除権決定、公示催告期間中の善意取得
14 為替手形	支払人が主たる債務者、引受呈示
15 小切手	現金代用物、先日付・自己宛・線引小切手
16 定期試験	

科目名	国際金融論 I			
08年度入学：国際金融論 I				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

国際金融論とは、「国境を超える金融」をめぐる議論です。金融論の国際版であるとともに、国際経済学の金融領域でもあります。国際化が飛躍的に進展した今日、様々な経済分析において、国際金融論の知識や視点が必要不可欠になります。国際金融論は様々な議論から構成されますが、本講義では、外国為替論を取り上げます。国際金融のイメージを鮮明にする第1歩となります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義レジュメを使い、外国為替の諸概念を解説します。この際、興味を深めてもらうために、現実の具体的な事例を多数紹介します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・出席（40%）

なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を中心に行ってください。

復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを配布します。

科目名	国際金融論 II			
08年度入学：国際金融論 II				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

原則として「国際金融論 I」の履修者を対象に、国際収支分析と国際通貨制度を取り上げ、解説します。国際金融に関する現実の問題を論理的に考察する力を養います。また、より専門的な国際金融論を勉強するための足がかりを作ります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義レジュメを使い、国際金融論の必要不可欠な部分を解説します。この際、興味が途切れないように、新聞・雑誌記事を多数活用します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・出席（40%）

なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を中心に行ってください。

復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを配布します。

■参考文献

桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社
経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会
その他、講義の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 外国為替のしくみと形態 1	外国為替のしくみ・諸形態
3 外国為替のしくみと形態 2	荷為替信用状取引
4 外国為替のしくみと形態 3	輸入実務に見る決済の具体例
5 外国為替市場 1	外国為替市場のすがた
6 外国為替市場 2	世界の主要為替市場－BIS統計を中心に
7 外国為替市場 3	中央銀行の市場介入
8 外国為替相場 1	直物為替相場と先物為替相場
9 外国為替相場 2	直先スプレッドの計算
10 外国為替相場 3	銀行間相場と対顧客相場
11 記事読解 1	外国為替関連記事の読み込み
12 記事読解 2	外国為替関連記事の読み込み
13 為替リスクの回避策 1	各種デリバティブのしくみ、多国籍企業の実例
14 為替リスクの回避策 2	通貨オプション
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社
経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会
その他、講義の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 国際収支の概念としくみ 1	国際収支とは何か、各収支項目の内容と関係
3 国際収支の概念としくみ 2	経常収支とIS理論、国際収支発展段階論など
4 国際収支と為替相場の関係	為替相場の貿易収支調整機能、弾力性アプローチ
5 為替相場の決定理論	古典的学説、近代理論
6 国際通貨制度のしくみと評価	国際通貨（制度）、国際通貨発行国の便益と負担
7 国際通貨制度の変遷 1	国際金本位制
8 国際通貨制度の変遷 2	国際金為替本位制
9 国際通貨制度の変遷 3	ブレトンウッズ体制
10 国際通貨制度の変遷 4	変動相場制
11 ヨーロッパの通貨統合 1	経済統合から通貨統合へ、EMS
12 ヨーロッパの通貨統合 2	単一通貨ユーロの誕生
13 アジア共通通貨	円の国際化、アジア共通通貨の可能性
14 記事読解	国際収支・国際通貨制度関連記事の読み込み
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

科目名	証券経済論 I			
08年度入学：証券経済論 I				
担当者	加藤 史夫 <i>Fumio Kato</i>			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

金融市場の全体像をつかんだうえで、企業などの主要な資金調達手段である、借入、債券、株式の特徴・相違を把握します。次に、株式、国債、社債の歴史に簡単に理解したうえで、株価、債券価格の変動要因について検討します。

■授業の進め方（履修条件等）

問題形式の資料を配布し、応答形式で進めます。

■成績評価方法・基準

試験の結果に、授業態度を加味して評価します。なお、授業にただ出席していても、授業態度は必ずしもプラスの評価とはなりません。（授業態度が他の学生の受講を妨害すると考えられる場合には、マイナスの評価となることもありうる）

■授業の予習・復習

授業の復習に力を入れてください。授業内容は系統的に発展していきますので、休むと追いつくのが大変です。休んだ場合には、その講義の資料を学内のネットワークから必ずダウンロードしてキャッチアップしてください。

■教科書

なし

■参考文献

『入門日本の証券市場』東京証券取引所編、東洋経済新報社刊

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の方法について説明
2 金融市場	日本をもとに金融市場、システムの全体像を説明
3 直接金融と間接金融	金融市場を2分する直接金融と間接金融の世界の概要、特徴
4 資金循環	国民経済全体の資金の流れを概観する資金循環表、統計について
5	
6 預金（借入）、債券、株式	預金（借入）、債券、株式の比較、有価証券とは何か
7 資金運用者からの視点	資金運用者である投資家、預金者から預金、債券、株式の比較
8 資金調達の方法について	資金調達の方法である借入、債券、株式の比較検討
9 株式の歴史	株式の歴史
10 株価の動きに影響を与える要因	株価に影響を与える要因にはどのようなものがあるか、業績、景気、金利、物価、金融政策、為替相場はどのような影響を与えるか
11	
12 国債・社債の歴史	国債・社債の歴史
13	
14 債券の価格、利回りに影響を与える要因	債券の価格に影響を与える要因にはどのようなものがあるか、特に金利はどのような影響を与えるのか、債券の利回りの計算方法（単利の場合）
15	
16 定期試験	

科目名	証券経済論 II			
08年度入学：証券経済論 II				
担当者	加藤 史夫 <i>Fumio Kato</i>			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

証券経済論 I の内容をもとに、まず株式投資の評価基準について検討します。次に、株式会社にとり証券取引所に上場することの意味について検討します。さらに証券会社、証券取引所などの証券市場の担い手の現状と、証券市場の歴史について検討します。

■授業の進め方（履修条件等）

問題形式の資料を配布し、応答形式で進めます。

■成績評価方法・基準

試験の結果に、授業態度を加味して評価します。なお、授業にただ出席していても、授業態度は必ずしもプラスの評価とはなりません。（授業態度が他の学生の受講を妨害すると考えられる場合には、マイナスの評価となることもありうる）

■授業の予習・復習

授業の復習に力を入れてください。授業内容は系統的に発展していきますので、休むと追いつくのが大変です。休んだ場合には、その講義の資料を学内のネットワークから必ずダウンロードしてキャッチアップしてください。

■教科書

なし

■参考文献

『入門日本の証券市場』東京証券取引所編、東洋経済新報社刊

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の方法について説明、前期の内容の概観（前期試験の解説など）
2 債券利回りの計算方法	債券の利回りについて、単利計算の場合と複利計算の違いを説明
3 債券の価値についての考え方	債券の将来価値と現在価値について説明
4 金利と債券価格の関係	金利水準が変動した場合、債券価格はどうか金利水準が与えられた場合の債券価格の計算方法
5 株式投資の評価指標	株式投資の基本的な指標である配当利回り、PERについて説明、さらにそれらの指標の動きの特徴、日本における特徴について説明
6	株式投資の基本的な指標である、ROE、ROA、PBRについて説明、さらにそれらの指標の動きの特徴、日本における特徴について説明
7 転換社債、劣後債などについて	株式と債券の相違点について再確認した上で、そのあいだに位置する転換社債、劣後債の特徴について説明
8 証券取引所について	証券取引所における取引の基本と取引所の役割について説明
9 株式を上場することの意義	株式会社に、自社の株式を証券取引所に上場することはどのようなメリットがあるかを検討
10 証券取引所へ上場するための条件	証券取引所に株式を上場するためには、どのような条件を満たさなければならないかについて検討
11 証券市場の担い手	証券市場の担い手である証券会社の業務、経営について
12 日本証券市場の歴史	日本の証券市場の歴史を概観し、その中で、個人投資家、外国人投資家、機関投資家、金融機関の株式保有などがどのように変遷したかを説明
13	
14 国債の大量発行の影響	日本における国債の発行残高は先進国の中でも群を抜いている。この大量発行された国債は、どのような影響をもたらすのかを検討
15	
16 定期試験	

科目名	銀行論Ⅰ			
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

銀行は、決済システムの中核を担うなど、経済上極めて大きな役割を果たしています。そこで、本講義では、銀行の経済的な役割について解説します。後期開講の「銀行論Ⅱ」と比べると、経済学としての銀行論と言えるかもしれません。キーワードとしては、銀行の機能、理論、制度、マクロ分析などが上げられます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを用いますが、説明のない項目や不足している部分については、講義レジュメ（プリント）を基に解説します。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・出席（40％）

なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：テキストや参考文献を中心に行ってください。

復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社

■参考文献

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社

その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	銀行論Ⅱ			
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単 位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

銀行は経済全般に大きな影響を及ぼすため、その経営は、一業界の問題として軽視することができません。そこで、本講義では、銀行の業務や経営、動向について解説します。前期開講の「銀行論Ⅰ」と比べると、ビジネスとしての銀行論と言えるかもしれません。また、特に千葉県の地域金融機関についても論じます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを用いますが、説明のない項目や不足している部分については、講義レジュメ（プリント）を基に解説します。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・出席（40％）

なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：テキストや参考文献を中心に行ってください。

復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社

■参考文献

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社

その他、講義の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 日本の金融のすがた1	資金循環表と金融のマクロ動向
3 日本の金融のすがた2	直接金融と間接金融
4 銀行の機能1	銀行の様々な機能、金融仲介機能
5 銀行の機能2	信用創造機能
6 銀行の機能3	資金決済機能
7 日本の金融制度と銀行1	大手行を中心に
8 日本の金融制度と銀行2	地域金融機関を中心に
9 金融市場と銀行	インターバンク市場を中心に
10 銀行への規制・監督1	銀行法、健全性規制、BIS 規制
11 銀行への規制・監督2	その他の規制、監督行政
12 中央銀行と金融政策1	日本銀行の目的と機能
13 中央銀行と金融政策2	日本銀行の組織、他国の中央銀行制度
14 銀行をめぐるミクロ経済理論	一例として、銀行の意義を理論的に捉える
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 銀行の業務1	預金業務
3 銀行の業務2	貸出業務
4 銀行と顧客1	個人の銀行取引
5 銀行と顧客2	中小企業の銀行取引
6 銀行の業務3	決済業務
7 銀行の業務4	証券業務
8 銀行の業務5	国際業務
9 銀行の業務6	デリバティブ・証券化関連業務
10 銀行の経営	収益構造、経営指標、グループ経営など
11 千葉県の地域金融機関1	千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行
12 千葉県の地域金融機関2	信用金庫、信用組合、系統金融機関など
13 銀行業界事情1	新聞記事を用いた時事問題の解説
14 銀行業界事情2	新聞記事を用いた時事問題の解説
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

科目名	企業金融論 I			
担当者	三田村 智 Satoshi Mitamura			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、企業金融の基礎理論を学ぶ。具体的には、重要なキーワードである「資本コスト」と「現在価値」について解説した上で、企業の投資決定について講義する。資本調達やペイアウト政策などは企業金融論Ⅱ（後期）で取り上げる。両方を履修することで、1年間かけて、企業金融について体系的に学ぶことができる。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。

■成績評価方法・基準

2回のテストと授業への貢献度により評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。
復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。

■教科書

砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』（2004年、日本経済新聞社）

■参考文献

神原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』（2003年、有斐閣）
島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』（2010年、日本評論社）
山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』（2004年、東洋経済新報社）
その他、適宜授業中に指定する。

科目名	企業金融論 II			
担当者	三田村 智 Satoshi Mitamura			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では企業金融論Ⅰ（前期）の続きとして、企業による資本の調達や投資について学ぶ。実際の企業の財務戦略を取り上げたり、ケーススタディを行ったりすることで、企業金融の基礎を分かりやすく講義する。本講義では、特に企業の資本調達について解説する。また、ペイアウト政策やM&Aについても取り上げる。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。

■成績評価方法・基準

2回のテストと授業への貢献度により評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。
復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。

■教科書

神原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』（2003年、有斐閣）

■参考文献

砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』（2004年、日本経済新聞社）
島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』（2010年、日本評論社）
山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』（2004年、東洋経済新報社）
その他、適宜授業中に指定する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法について
2	リスクとリターン（1）	期待収益率、ファイナンスにおけるリスクについて
3	リスクとリターン（2）	リスク・プレミアム、リスクとリターンの関係
4	資本コスト（1）	債権者と株主のリスクとリターンについて
5	資本コスト（2）	資本構成と総資本コストについて
6	CAPM	資本資産評価モデル（CAPM）について
7	総資本コストの推計	総資本コストの推計について
8	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト
9	キャッシュフローの現在価値（1）	現在価値と将来価値について
10	キャッシュフローの現在価値（2）	リスクがあるキャッシュフローの現在価値
11	企業価値とキャッシュフロー	企業価値とキャッシュフローについて
12	企業の投資決定（1）	NPV法による投資の意思決定について
13	企業の投資決定（2）	IRR法、EVA法による投資の意思決定について
14	リアルオプション（1）	リアルオプションという考え方について
15	リアルオプション（2）	リアルオプションを考慮した投資の意思決定
16	定期試験	

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法
2	企業の資金調達と投資行動	企業の資金調達と投資行動の概要
3	資本構成と企業価値	資本構成と企業価値の関係（MM命題）
4	法人税とデフォルトコスト	トレードオフ理論、最適資本構成について
5	長期資金調達の制度	我が国における企業の長期資金調達チャンネル
6	エクイティファイナンス	株式による資金調達について
7	負債ファイナンスと証券化（1）	負債による資金調達について
8	負債ファイナンスと証券化（2）	スワップ取引と証券化について
9	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト
10	配当政策と自社株買い（1）	MMの配当無関連命題について
11	配当政策と自社株買い（2）	市場の不完全性と配当政策について
12	配当政策と自社株買い（3）	市場の不完全性と自社株買いについて
13	M&Aとその経営・財務上の意味（1）	M&A、そのメリット・デメリットなど
14	M&Aとその経営・財務上の意味（2）	株式譲渡、株式交換によるM&Aについて
15	M&Aとその経営・財務上の意味（3）	TOB、LBO、MBOについて
16	定期試験	

科目名	計量経済学 I			
08年度入学：計量経済学 I				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）および最小2乗法を中心とした回帰分析の基礎的概念と方法を説明する。統計学や数学に関する詳細な議論よりもむしろ、計量経済分析の方法を使って何ができるのか、を示すことを主眼としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

科目の性質上数字や数式が使用される機会が多いが、抽象的な説明だけでなく具体的なデータの検討を通じて理解を促すよう努める。金融・証券コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。また意欲のある2年生の受講を可とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

科目名	計量経済学 II			
08年度入学：計量経済学 II				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単 位	2 単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）及びその活用法を中心に、計量経済分析の実際の方法を説明する。前期科目の計量経済学 I の基礎的な理解を念頭に置きつつも、それとは独立して実際の統計データを回帰分析する手法を学んでもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

特に本科目では実証分析の方法を中心に説明する。例えば、論文執筆に際して実証分析を行いたいので理論そのものよりも分析の手順を知りたい、というケースなども想定している。金融・証券コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。また意欲のある2年生の受講を可とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに（1）	計量経済学とは
2	〃（2）	経済学としての計量分析・実証分析の意味
3	最小2乗法（1）	データの整理…データの種類と基本統計量
4	〃（2）	正規方程式の計算
5	〃（3）	回帰直線の推定と意味
6	〃（4）	回帰直線のあてはまりの尺度
7	〃（5）	この章のまとめと練習
8	単純回帰分析（1）	単純回帰モデル…古典的回帰モデルの標準的仮定
9	〃（2）	推定量の期待値と分散
10	〃（3）	仮説検定…仮説検定の考え方
11	〃（4）	仮説検定…t検定とその利用
12	〃（5）	仮説検定…変数選択の方法としてのt検定
13	〃（6）	回帰分析と予測
14	〃（7）	多重回帰分析への展開
15	まとめと試験の準備	ここまでのまとめと練習
16	定期試験	

■教科書

山本拓『計量経済学』新世社。

■参考文献

縄田和満『Excel統計解析ボックスによるデータ解析』朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに（1）	経済、経営における計量経済分析の意義
2	〃（2）	計量経済学 I の復習、最小2乗法の考え方
3	多重回帰分析（1）	係数の推定と回帰平面のあてはめ
4	〃（2）	仮説検定
5	〃（3）	自由度修正済み決定係数
6	〃（4）	多重回帰分析における係数の解釈
7	〃（5）	見せかけの相関と多重共線性
8	〃（6）	この章のまとめと練習
9	モデルの関数型（1）	変数変換と対数線形モデル
10	〃（2）	ダミー変数とトレンド変数
11	〃（3）	ダミー変数を用いた構造変化の検定
12	誤差項の系列相関（1）	時系列データと誤差項
13	〃（2）	ダービン・ワトソン検定
14	〃（3）	コ克蘭・オーカット法による推定
15	まとめと試験の準備	ここまでのまとめと練習
16	定期試験	

■教科書

山本拓『計量経済学』新世社。

■参考文献

縄田和満『Excel統計解析ボックスによるデータ解析』朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。

科目名	社会思想史 I			
08年度入学：社会思想史 I				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

塩野七生『わが友マキアヴェッリ』中央公論社（メディアセンター所定のコーナーに5冊常備してあります。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2	マキアヴェリ
3 ルネサンスの思想	トマス・モア
4	エラスムス
5 宗教改革	ルター
6	カルヴァン
7 小テスト	
8 イギリス市民革命の	トマス・ホブズ
9 展開	ジョン・ロック
10	モンテスキュー
11 フランス啓蒙思想	ヴォルテール
12	ディドロ
13	ルソー
14 小テスト	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	社会思想史 II			
08年度入学：社会思想史 II				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の後半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

市民革命以後の、ヨーロッパ社会思想史の歩みの後半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

土屋恵一郎『ベンサムという男』青土社、ナガイ・ケイ『喧嘩屋マルクス』富士書房、上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波書店、上野千鶴子『主婦論争を読む』勁草書房（すべて、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2 アダム・スミスの思	スミスの倫理学
3 想	スミスの経済学
4 功利主義	ベンサム
5	J・S・ミル
6 小テスト	
7	ロバート・オウエン
8 初期社会主義	サン・シモン
9	シャルル・フーリエ
10 マルクス主義	マルクスの生涯と思想
11	マルクスの経済学
12 フェミニズム	フェミニズムの諸理論
13	主婦論争について
14 小テスト	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	経済学方法論Ⅰ			
08年度入学：経済学方法論Ⅰ				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

このⅠでは、経済学的方法的課題を留意しつつ、経済学の成立・発展過程を概観します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

宇野弘蔵「経済学方法論」東京大学出版会（講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2	重商主義の経済学説
3	重農主義の経済学説
4 経済理論の成立過程	自由主義の経済学説①アダム・スミス
5	自由主義の経済学説②デーヴィド・リカード
6	自由主義の経済学説③J・S・ミル
7 小テスト	
8	マルクス経済学の確立
9 マルクス経済学	マルクス経済学の発展
10	宇野理論の考え方
11	限界革命の経済学
12 「近代経済学」の潮流	新古典派経済学の展開
13	ケインズの経済学
14 小テスト	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	経済学方法論Ⅱ			
08年度入学：経済学方法論Ⅱ				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

このⅡでは、前半でマルクス経済学の方法、後半で「近代経済学」の方法を取り扱います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）

■授業の予習・復習

復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

宇野弘蔵「経済学方法論」東京大学出版会（講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2	経済学の対象
3	経済学原理論と純粋資本主義
4 マルクス経済学の方法	原理論と段階論の分化
5	原理論の方法
6	段階論の方法
7	現状分析の方法
8 小テスト	
9	ロビンズとハチソン
10	ケインズ革命と新古典派総合
11 「近代経済学」の方法	マハループとフリードマン
12	ポスト・ケインジアンの方法
13	新オーストリア学派の方法
14 小テスト	
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	経済数学Ⅰ			
08年度入学：経済数学Ⅰ				
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

経済学やオペレーションズ・リサーチなどの領域で利用される線形数学の基礎を確立し、線形計画法について解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

コンピュータを使って、行列式、行列の積、逆行列等の基本概念を正確に修得し、それと同時にコンピュータの素晴らしさを体験してもらいます。受講者は「数学Ⅰ、Ⅱ」または「統計学Ⅰ、Ⅱ」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は20名以内とします。

■成績評価方法・基準

出席状況と授業態度50%、試験成績50%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

二階堂副包著「経済のための線型数学」培風館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義準備	コンピュータの取扱い方
2 線形代数概論	行列の積、行列式
3 //	逆行列、クラメル公式
4 //	ベクトルの一次独立、内積
5 線形計画法	目的、問題の定式化
6 //	変数が二つの場合
7 //	単体法、許容領域、凸領域
8 //	スラック変数、連立一次方程式
9 //	目的関数の内積表示
10 //	最大値問題、例題演習
11 //	双対定理、例題演習
12 輸送問題	モデル、定式化（1）
13 //	モデル、定式化（2）
14 Scheduling	PERT, critical path（1）
15 //	PERT, critical path（2）
16 定期試験	

科目名	経済数学Ⅱ			
08年度入学：経済数学Ⅱ				
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ゲームの理論の入門部分を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

コンピュータシミュレーションで実験確認をしてもらいます。受講者は「数学Ⅰ、Ⅱ」または「統計学Ⅰ、Ⅱ」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は20名以内とします。

■成績評価方法・基準

出席状況と授業態度50%、試験成績50%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

坂口実著「ゲームの理論」森北出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義準備	コンピュータの取扱い方
2 在庫問題	モデル、在庫管理費用の計算
3 //	定期、定量発注方式
4 動的計画法	資金の配分問題
5 階層比意思決定法	階層構造、一対比較と整合性
6 ゲームの理論	概論
7 //	鞍点、ミニマックスの定理
8 //	不動点定理
9 //	じゃんけんゲーム、定式化
10 //	行列ゲーム、定式化
11 //	混合戦略、最適戦略、ゲームの値（1）
12 //	混合戦略、最適戦略、ゲームの値（2）
13 //	混合戦略、最適戦略、ゲームの値（3）
14 //	特殊な行列ゲーム、演習（1）
15 //	特殊な行列ゲーム、演習（2）
16 定期試験	

科目名	企業文化論			
08年度入学：企業文化論				
担当者	千葉 雄二 Yuji Chiba			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

企業は経済、制度など外部環境へ対応していく過程で、固有の行動様式や価値観を形成する。これが企業文化であり、企業の意思決定はこの企業文化に強く影響される。本授業では、自動車・電機・鉄鋼メーカー等を事例に、企業文化の意味、形成過程、企業成果への影響を理解するとともに、企業文化が意思決定を介して機能する仕組みを、意思決定論、組織論から理解することにある。

■授業の進め方（履修条件等）

随時資料を配布し、これに基づいて授業を行う。授業4～5回ごとに理解度を確認しつつ、授業を進め、授業に毎回出席することで目標に到達できるものとする。

■成績評価方法・基準

出席50%、授業理解度の確認結果20%、期末試験30%を基準に総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要ない。

復習：授業後、配布資料と授業内容を整理することで理解できる。さらに授業で取り上げた諸理論を文献等で確認することで、理解度はより深まる。

科目名	食料経済論			
08年度入学：食料経済論				
担当者	稲葉 弘道 Hiromichi Inaba			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

わが国の食料需給は米などの過剰と大豆等の不足が共存している。一方、世界の食料需給については、穀物生産は量的には十分といえるが、先進国の過剰と開発途上国の不足が共存している。これは食料生産を増やせばよいというだけではなく、経済問題であることの証である。以上の困難な食料農業問題を考える能力をつけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

食料に関わる経済的な問題を基礎から説明する。まず、わが国および世界の食料農業問題の全体像を配布資料により簡潔に説明した後、教科書を使って個別の事項を詳しく学ぶ。説明にはパワーポイントを利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・レポートおよび出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。

復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。

■教科書

高橋正郎著『食料経済』理工学社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業概要の説明	企業文化論概要
2	企業文化の意味と機能
3 企業文化の理解	自動車メーカーの企業文化
4	電機メーカーの企業文化
5 企業文化と経営成果	成功と失敗にみる企業文化
6	企業文化形成の考え方
7 企業文化の形成	経済・市場・技術と企業文化
8	意思決定の意味と機能
9 意思決定の理解	意思決定の理論
10	鉄鋼業の合併事例における意思決定
11 組織と意思決定	意思決定を通じた企業文化の機能
12	製造業の新規事業進出における意思決定
13 企業文化と意思決定	自動車・鉄鋼の対米直接投資と意思決定
14	IBM・日産の企業文化変革と意思決定
15 総括	企業文化と意思決定
16 後定期試験	

■教科書

指定しない。

■参考文献

『ケースに学ぶ企業の文化』白桃書房、『意思決定のストラテジー』中央経済社、『巨象も踊る』日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	食生活の変化・主要農産物の生産動向
3 わが国の食料需給の現状	農産物の自給率と農業政策
4	農産物輸入と食料の安全保障
5	食料需給の変化と食料の南北問題
6 世界の食料需給の現状	世界の食料の需給動向
7	世界の農業政策
8 わが国の食料・農業問題と食の安全	わが国の食料供給の問題点
9	食料の安定供給と展望
10	わが国の食生活小史
11	第2次大戦後の食生活の変化
12 食生活の変遷と特徴	食生活変化の背景
13	“食”の国際比較
14	“食”の地域性とスローフード
15 まとめ	まとめと質疑応答
16 定期試験	

■参考文献

農林水産省『農業白書』農林統計協会

科目名	農業政策			
08年度入学：農業政策				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

わが国の食料需給率は50%を割り先進国では最低である。しかし、米のように自給率の高い農産物もあり、自給率が高いものと低いものとの二重構造が存在する。この二重構造には農業政策の関与も大きい。農業政策はいかにあるべきかを考える。

■授業の進め方（履修条件等）

食料経済論（前期）の内容を理解しているものとして授業を進めるので、食料経済学を受講していることが望ましい。食料需給と農業政策の関わりを説明する。説明にはパワーポイントを利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・レポートおよび出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。
 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。

■教科書

高橋正郎著『食料経済』理工学社

■参考文献

農林水産省『農業白書』農林統計協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	食料の需給システム
3 成熟期にきた食の需給	成熟期にきたわが国の食料需要
4	高齢化社会の食スタイル
5	食の外部化
6 すすむ食の外部化	飲食業と外食産業
7	外食産業の食材調達
8	フードシステム観点からの政策課題
9 日本の食料政策と食品政策	戦前から続く米政策とその変貌
10	ガット、WTO体制化の農産物貿易の自由化
11	なぜ安全な食料が供給されないか
12 食料の安全性と環境問題	安全な食料の安定的供給に向けた対応策
13	環境問題への食品企業の対応
14	21世紀の食生活の展望
15 まとめ	まとめと質疑応答
16 定期試験	

科目名	外国経済書講読 I			
08年度入学：外国書講読 I				
担当者	渡辺 善次 <i>Yoshitsugu Watanabe</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の進展にともない、英語で発信される情報にアクセスできることがビジネス・パーソンとしての必須能力となりつつある。この講義では、語学力の向上だけでなく、英語で発信された経済情報の分析能力の向上をも目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、講義開始から30分間、その日のテーマについて書かれた英文の内容理解度を問う小テストを行う。そして、教員が英文の内容解説と補足説明を行った後、ディスカッション形式で当該テーマの理解を深める。

■成績評価方法・基準

期末試験は行わず、授業に取り組む姿勢を中心とした平常点（80%）とレポート（20%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義で読み進める英文を事前に読んで内容を大まかに理解しておくこと。
 復習：英単語や英語独特の言い回しだけでなく、内容そのものの復習を心がけること。

■教科書

テキストに代えて、毎回プリントを配布する。

■参考文献

講義中に紹介する。

科目名	外国経済書講読Ⅱ			
08年度入学：外国書講読Ⅱ				
担当者	渡辺 善次 Yoshitsugu Watanabe			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の進展にともない、英語で発信される情報にアクセスできることがビジネス・パーソンとしての必須能力となりつつある。この講義では、語学力の向上だけでなく、英語で発信された経済情報の分析能力の向上をも目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、講義開始から30分間、その日のテーマについて書かれた英文の内容理解度を問う小テストを行う。そして、教員が英文の内容解説と補足説明を行った後、ディスカッション形式で当該テーマの理解を深める。

■成績評価方法・基準

期末試験は行わず、授業に取り組む姿勢を中心とした平常点（80%）とレポート（20%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義で読み進める英文を事前に読んで内容を大まかに理解しておくこと。
復習：英単語や英語独特の言い回しだけでなく、内容そのものの復習を心がけること。

■教科書

テキストに代えて、毎回プリントを配布する。

■参考文献

講義中に紹介する。

科目名	国際法Ⅰ			
08年度入学：国際法Ⅰ				
担当者	野澤 基恭 Motoyasu Nozawa			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

国際法と国内法の違いは、国際社会と国内社会の構造の違いに起因する。この講義ではまず国際社会と国内社会の違いを明らかにし、その上で国際法の特徴を理解することを目的とする。国際法はどのような形で存在するのか、国際法の担い手は何か、国家・国際組織・個人と国際法との関係について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として、講義スケジュールに従い（若干の変更もあり得る）、講義形式で授業を進めていく。しかし、授業の理解度を確認するために多くの質問をし、受講者に積極的に授業に参加してもらう。

■成績評価方法・基準

原則として期末試験による。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読
復習：テキスト、ノートなどの確認

■教科書

『国際法』中谷他著 有斐閣アルマ

■参考文献

条約集（各出版社）

■授業内容（前期）

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス、国際法の範囲	国際法Ⅰの講義に臨むに当たっての心構えと講義の進め方、国際法の射程範囲について概観する。
2	国際社会の成り立ち、国際社会の歴史	主権国家の並存により国際社会がいつどのようにして誕生したか、歴史的に考察する。
3	国際社会と国内社会の比較、国際法の法的性格	国際社会と国内社会の違いを明確にすることによって、国際法の法的性格について解説する。
4	国際法の存在形式、法源とは何か	国際法は一体どのような形で存在しているか、法源とは何を意味するのかを考察する。
5	条約	国際法の代表的な法源である条約を取り上げ、その特徴を条約法条約に従って解説する。
6	慣習国際法とその他の法源、法源間の関係	もう一つの法源である慣習国際法の果たす役割と、国際法の法典化、その他の法源について言及する。
7	国際法と国内法の関係	国際法と国内法が抵触する場合はどうなるのか、国際法の国内的効力について説明する。
8	国際法の主体、国際法の主体としての国家	国際法の担い手には何かがあるかを考え、本来的主体である国家について概観する。
9	国家の基本的権利義務	国家には本来どのような権利が付与され、義務が課されるのか、具体的に考察する。
10	国家承認と国家承継	国家が国際社会の一員となるための国家の承認と新国家誕生等による国家承継について考える。
11	国家の主権免除	国家には基本的権利として主権があり、その帰結としての国家には主権免除とは何か解説する。
12	国家機関の地位、外交特権と領事特権	国際関係を司る国家機関としての外交官と領事、そして彼らの有する特権免除について考察する。
13	国際組織と個人	国家以外の国際法主体には何か考えられるか。国際組織と個人等について考えてみたい。
14	国際法の基礎理論のまとめ	前記の授業のまとめとして、国際法をめぐる基本的な考え方について復習する。
15	定期試験	

科目名	国際法Ⅱ			
08年度入学：国際法Ⅱ				
担当者	野澤 基恭 <i>Motoyasu Nozawa</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

国際法Ⅰによる基礎知識を前提に、国際法がどのように適用されているか具体的に考察する。このことによって、国際法的視点から国際社会、国際事象を見る目を養う。領域と国際法、領土問題、環境と国際法、紛争の平和的解決などについて理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義スケジュールに従い、講義形式で授業を進めていく。国際法Ⅱを履修しておくことが望ましい。

■成績評価方法・基準

原則として期末試験による。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読

復習：テキスト、ノートなどの確認

■教科書

「国際法」中谷他著 有斐閣アルマ

■参考文献

条約集（各出版社）

■授業内容〔後期〕

授業項目	授業内容
1 領域と国際法	前期での基礎理論を利用し、領域主権の及び範囲はどこからどこまでか、わかりやすく解説する。
2 領域取得の権原	国際法において実践されてきた、領域取得のための根拠となる行為について説明する。
3 国際化地域について	世界中にはどこの国にも属していない地域が存在する。この国際化地域について解説する。
4 海洋法入門 その歴史的背景	海洋が国際法上どのように秩序づけられてきたかを歴史的に考察してみたい。
5 国連海洋法条約とは 領海、	10年間の議論の末1983年に採択された国連海洋法条約を概観し、まず領海について説明する。
6 大陸棚 公海	大陸棚の制度はいつどのようにして確立したか、また公海自由の原則とは何か解説する。
7 深海底の国際法上の地位	人類の共同の財産と言われる深海底は国連では国際法上どのように扱われているか考察する。
8 領空と宇宙	領空と宇宙も国際法によって規律されているのであるが、それらの基本条約について解説する。
9 日本をめぐる領土問題	現在日本を取り巻く領土問題には何があるか、解決手段はあるのか考えてみたい。
10 人権の国際的保障	各国の憲法のみならず、人権は国際的に保障されている。人権条約の内容とその運用を解説する。
11 国家責任の基礎	国内法上近代市民法原理として過失責任主義があるが、国家に対する責任について考察する。
12 国際環境法入門	国際的に環境保護の取組がなされているが、国際条約ではどのように規定されているのか考察する。
13 紛争の平和的解決	国家の基本的義務として、紛争の平和的解決義務があるが、その具体的な方法について解説する。
14 国際裁判制度入門	紛争の平和的解決方法としての国際裁判制度、とくに国内裁判制度との違いを考察する。
15 定期試験	

科目名	金融経済の基礎知識 (SMBC 日興証券グループ講座)			
担当者	伊崎 岳夫 <i>Takeo Izaki</i>			
対象学年	経済系	1～4年	単位	2単位
	経営系	1～4年		

■授業のねらいと到達目標

くらしに身近な経済や金融の基本的な仕組みを理解し、ライフプランや資産運用の必要性、各種金融商品の特性などを理解してもらおうことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

配布プリントを中心に講義形式で行う。

関連する時々のニュース・新聞記事等も紹介しながら解説し、身近に起きている経済問題に馴染んで頂きます。

■成績評価方法・基準

定期試験（55%）、毎回行うミニテスト及び課題（30%）、出席（15%）などから評価する。

■授業の予習・復習

予習：経済・金融に関する新聞のニュースに目を通しておく。

復習：前回の授業のプリント、下記参考文献（前回の授業範囲）を読む。

■教科書

毎回プリントを配布

■参考文献

「ファイナンス基礎（第4版）」：「金融知力普及協会」発行（講義では基本的に使用しません）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ガイダンス、金融知力の必要性
2 経済知識① くらしと経済	くらしに身近な経済問題
3 経済知識② 金融の役割	金融の役割、モノの価格
4 経済知識③ 国の財政	税、国の財政
5 経済知識④ 国際経済	国際経済、為替
6 経済知識⑤ 景気	経済のモノサシ、景気
7 ライフプランニング	人生の資金計画
8 年金	年金制度、年金問題
9 金融商品① 金融商品の特性	投資と貯蓄、金融商品の特性
10 金融商品② 預貯金・債券	預貯金、債券の基礎知識
11 金融商品③ 株式①	株式の基礎知識
12 金融商品④ 株式②	投資としての株式
13 金融商品⑤ 投資信託	資産運用とリスク管理、投資信託の基礎知識
14 金融消費者の知恵	悪質商法、ローン・クレジット
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

科目名	経営学概論 I			
08年度入学：経営学原理 I				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	経済系	2 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	1 ~ 2年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営学概論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学概論 I では、特に「戦略論」「組織論」「経営思想史」を中心に勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

科目名	経営学概論 II			
08年度入学：経営学原理 II				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	経済系	2 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	1 ~ 2年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営学概論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学概論 II では、特に日本企業の経営に焦点を絞り、勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2 経営について考える	企業および企業活動とは何か
3	戦略の定義、戦略の次元 戦略の策定、内部分析と外部分析 競争戦略① 競争戦略②
4	
5	
6 経営戦略論	
7	戦略の選択と同時追求の問題
8	全社戦略
9	国際化戦略
10	組織の定義と概念、組織vs市場 組織の構造と環境適合、組織内部の統合
11 経営組織論	
12	人間の意図・行為・役割 集団マネジメント、パワーとコンフリクト
13 組織行動論	
14	20世紀の企業経営者たちの思想と実践 経営理論はどのようにして生み出されるのか
15 経営思想史	
16 定期試験	

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2	日本的経営の功罪 日本の会計基準とグループ経営 経済産業界の慣行 日本企業が抱える財務管理上の問題 不良債権問題と資本主義ルール 経営破綻と民事再生法、会社更生法
3	
4	
5	
6 日本企業論	経営支配権と日本の株主
7	敵対的買収と買収防衛策
8	会社は誰のものか
9	日本企業の経営、その特質と課題 諸外国から見た日本と日本企業 日本における人と組織のマネジメント イノベーションとナレッジ・マネジメント 企業社会論・NPO 論
10	
11	
12	
13 現代日本企業の経営	
14	
15	
16 定期試験	

■参考文献

必要に応じて紹介します。

科目名	会計学Ⅰ			
08年度入学：会計学原理Ⅰ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は財務会計の学習を対象とする。財務会計の任務は財務諸表を通じて財務情報を開示することによって、企業及び経済の健全な発展に寄与することである。講義はこの関連を明らかにするとともに、財務諸表に馴染むことを狙う。

■授業の進め方（履修条件等）

関連する諸会計法規や財務諸表の内容等に馴染む必要があることから、教科書的説明にとどまらず、プリントを配布して現実の会計と経済の動きを理解する。

毎回、授業の開始時に前回までの授業内容とその日の授業の狙い、終了時にはその日の授業内容の概要と次回の授業の内容予定を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%

ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

科目名	会計学Ⅱ			
08年度入学：会計学原理Ⅱ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	1～2年		

■授業のねらいと到達目標

社会人として損益計算書や貸借対照表を手にとったとき、抵抗なくそれのある程度理解できるようにすることが狙いである。そのためには教科書の字句の解釈にこだわらず実際の財務諸表に馴染むようこころがける。

■授業の進め方（履修条件等）

実際の財務諸表に馴染む必要があることから、教科書的説明にとどまらず、プリントを配布して実際の財務諸表に絶えず触れる。

毎回、授業の開始時に前回までの授業内容とその日の授業の狙い、終了時にはその日の授業内容の概要と次回の授業の内容予定を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%

ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の概要、狙いと運営方針
2 財務会計の性格	財務会計の性格
3 会計諸規定Ⅰ	会計諸基準と会計法規の概要と役割
4 // Ⅱ	会計諸基準と会計法規の全体的関連
5 損益計算の仕組Ⅰ	財産法と損益法、棚卸法と誘導法
6 // Ⅱ	期間損益計算の仕組
7 会計諸基準Ⅰ	企業会計原則と会計基準の展開と内容
8 // Ⅱ	会計に関連する法律の展開と内容
9 // Ⅲ	Ⅰ、Ⅱの各論
10 // Ⅳ	//
11 財務諸表Ⅰ	財務諸表の意義と概要、連結と個別
12 // Ⅱ	貸借対照表の内容
13 // Ⅲ	損益計算書の内容
14 // Ⅳ	キャッシュ・フロー計算書の内容
15 // Ⅴ	株主資本等変動計算書の内容
16 定期試験	

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受検希望者にとって、予習は質問のチャンスを与え、復習は理解を深めることになる。

■教科書

財務会計入門 田中建二 中央経済社

■参考文献

会計法規集 中央経済社編
現代会計学 中村忠 白桃書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 貸借対照表	貸借対照表の機能と構造、連結と個別
2 資産Ⅰ	資産の意味と内容及評価
3 // Ⅱ	//
4 // Ⅲ	//
5 // Ⅳ	減価償却と費用配分
6 負債・引当金	負債及引当金の意味と内容
7 純資産	資本金、剰余金の意味と内容
8 損益計算書	損益計算書の機能と構造、連結と個別
9 利益の計算	利益計算の構造、収益と費用の対応
10 収益の認識	収益の意味と認識基準
11 費用の認識	費用の意味と認識基準
12 キャッシュ・フロー計算書等	キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の機能と構造
13 財務諸表の見方Ⅰ	財務諸表から会社の業績や状況を知る
14 // Ⅱ	//
15 // Ⅲ	//
16 定期試験	

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受検希望者にとって、予習は質問のチャンスを与え、復習は理解を深めることになる。

■教科書

財務会計入門 田中建二 中央経済社

■参考文献

会計法規集 中央経済社編
現代会計学 中村忠 白桃書房

科目名	簿記論Ⅰ（分）A			
08年度入学：簿記原理ⅠA				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	1～4年	単 位	2 単位
	経営系	1～4年		

■授業のねらいと到達目標

決算書は経営の羅針盤といわれる。決算書作成を目的とする複式簿記は企業経営に不可欠であるとともに、財産管理にも有効である。本講義は簿記の基本構造と基本的知識を学ぶ。後期の本格的な勉強と社会人としての基礎となる。

■授業の進め方（履修条件等）

簿記は人工言語といわれるように特有のルールによって成り立っている。それゆえ簿記を理解するためには、繰り返し反復練習する必要がある。授業は教科書に沿うが頻りにプリントを配布して練習する。毎回、授業の開始時に前回までの授業内容とその日の授業の狙い、終了時にはその日の授業内容の概要と次回の授業の内容予定を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%
ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

■授業の予習・復習

簿記は繰り返し練習が大切である。予習・復習は欠かせないが、特に復習が学習に効果的である。復習内容は授業中に指示する。

■教科書

『簿記の基礎』前林和寿他著 森山書店

科目名	簿記論Ⅱ（分）A			
08年度入学：簿記原理ⅡA				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	1～4年	単 位	2 単位
	経営系	1～4年		

■授業のねらいと到達目標

複式簿記の基礎知識を持つ学生を対象に、前期よりも高度な知識習得を目標とする。貸借対照表と損益計算書作成を最終目標に、より複雑な取引と決算特有の処理に取り組む。

■授業の進め方（履修条件等）

内容が複雑になることから、講義への集中と一層の繰り返し練習が必要となる。プリント配布により頻りに練習を続けるが、授業を欠席すると途端に理解不能となる。欠席は禁物である。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%
ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

■授業の予習・復習

簿記は繰り返し練習が大切である。予習・復習は欠かせないが、特に復習が学習に効果的である。

■教科書

『簿記の基礎』前林和寿他著 森山書店

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概要と今後の運営方針 複式簿記の重要性と会計法規
2 基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用
3 複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳
4 取引から決算までⅠ	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで
5 // Ⅱ	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造
6 資産勘定の処理Ⅰ	現金・預金・売掛金等の仕訳、元帳転記
7 // Ⅱ	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記
8 負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記
9 収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記
10 諸勘定の仕訳と元帳転記Ⅰ	若干複雑な取引と元帳転記
11 // Ⅱ	//
12 決算整理	試算表の作成
13 決算Ⅰ	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成
14 // Ⅱ	//
15 取引記録の仕組	帳簿組織の意義と内容
16 定期試験	

■参考文献

検定簿記講義 2 級・3 級（商業簿記）中央経済社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等
2 資産勘定の処理Ⅰ	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等
3 // Ⅱ	構築物、土地、建設仮勘定等
4 負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等
5 収益・費用勘定の処理と商品売買の処理	種々の収益・費用勘定の理解 商品売買の分割法
6 手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書、割引、不渡、金融手形の意味
7 決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造
8 決算整理Ⅰ	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価
9 // Ⅱ	貸倒引当金、諸引当金
10 // Ⅲ	減価償却
11 // Ⅳ	収益・費用の見越と繰延
12 精算表Ⅰ	精算表の仕組と作成
13 // Ⅱ	//
14 財務諸表の作成Ⅰ	貸借対照表と損益計算書の構造と作成
15 // Ⅱ	貸借対照表と損益計算書の作成練習
16 定期試験	

■参考文献

検定簿記講義 2 級・3 級（商業簿記）中央経済社

科目名	簿記論Ⅰ（分）B			
08年度入学：簿記原理ⅠB				
担当者	塚本 利平 Toshihira Tsukamoto			
対象学年	経済系	1～4年	単 位	2 単位
	経営系	1～4年		

■授業のねらいと到達目標

会計は「ビジネスの言語」とも言われ、企業の財政状態や経営成績の理解に不可欠なものである。この会計における基本原理が複式簿記である。本講義では、その最も基本となる部分を学習することを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

まず各論点についての講義を行い、次に理解を深めるために練習問題を解いてもらう形式で授業を進めていく。

■成績評価方法・基準

おおむね、定期試験（70％）・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題（10％）・出席（20％）を基準として評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくとよい。

復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。

■教科書

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

科目名	簿記論Ⅱ（分）B			
08年度入学：簿記原理ⅡB				
担当者	塚本 利平 Toshihira Tsukamoto			
対象学年	経済系	1～4年	単 位	2 単位
	経営系	1～4年		

■授業のねらいと到達目標

企業の財政状態や経営成績を理解するために不可欠な基本原理である複式簿記の理解を深めるための知識の習得を目指す。各取引事例、決算整理の処理を通して、前期に比べより、具体的に複雑な取引・仕訳を学習する。日商簿記3級程度の知識習得を到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

各論点についての講義を行い、学習上の基本ポイントを理解してもらい、さらに授業中に練習問題を解くことにも取り組んでいく。

■成績評価方法・基準

おおむね、定期試験（70％）・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題（10％）・出席（20％）をめやすとしている。

■授業の予習・復習

予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくとよい。

復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。

■教科書

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概要
2 簿記の仕組み	簿記の流れと複式の意味、仕訳の基礎
3 //	利益算定と決算書
4 取引の仕分と勘定記入	取引の概念と仕訳の法則
5 //	勘定記入の仕組み
6 //	仕訳帳と元帳
7 試算表の作成	各種試算表の仕組み
8 //	試算表の作成
9 決算①ー決算基本的な流れ	決算の意味
10 //	精算表の作成
11 //	決算本手続：損益勘定と決算振替
12 //	繰越記入と締切
13 //	繰越試算表と仕訳帳の締切、決算振替
14 //	大陸式決算法
15 まとめ	修得した知識のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『日商簿記3級』TAC簿記検定講座著 TAC出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概要
2 各取引事例の分析	現金・預金
3 //	売掛金と買掛金
4 //	手形
5 //	各種債権・債務
6 //	有価証券、有形固定資産
7 決算②ー決算整理ー	決算整理の意味
8 //	現金過不足
9 //	引当金
10 //	有価証券の評価替え
11 //	売上原価の算定
12 //	減価償却費
13 //	収益費用の見越・繰延
14 //	8桁精算表
15 まとめ	修得した知識のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『日商簿記3級』TAC簿記検定講座著 TAC出版

科目名	産業論Ⅰ			
08年度入学：産業総論Ⅰ				
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵を得ることが目的である。誤解をおそれずにあえて言うならば、楽しんで得するには、何を勉強して何になるのがいいか、知ることである。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

授業の始めに前回の復習をする。

■教科書

使用しない

■参考文献

南亮進「日本の経済発展」東洋経済新報社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	産業とは何か、企業とは何か？	付加価値のひみつ、珈琲一杯の価格
3	企業行動	市場・価格・原価、企業の目的
4	損益分岐点（1）	固定費と変動費、費用と収益の関係
5	損益分岐点（2）	損益分岐点を計算する
6	規模の経済性、外部経済	大量生産・大量販売
7	企業成長論	競争と比較優位、企業戦略、輸出戦略
8	近代経済成長論	日本の成功は何か
9	日本の産業化の経験から	初期の近代化・産業政策とその評価
10	セットアップコスト論	産業政策と貿易立国、幼稚産業育成論
11	経済成長論	付加価値生産性と賃金、成長政策論
12	乗用車産業論	産業政策と経営者、新規参入
13	ケーススタディ（1）	事例研究とその要点
14	ケーススタディ（2）	事例研究とその要点
15	試験対策	復習
16	定期試験	

科目名	産業論Ⅱ			
08年度入学：産業総論Ⅱ				
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵や手かがりを得てほしい。講義の前半は公的規制をめぐる問題を取り扱い、後半は国際化するアジア、日本、米国の産業について取り扱う。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。
復習：終わったあとと分からないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない

■参考文献

植草益「公約規制の経済学」筑摩書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	公的規制の経済学	ルールと裁量、自由と責任
3	市場の失敗	政府の規制とその根拠、目標
4	規制の目標と現実	参入規制、価格規制をめぐる議論
5	規制緩和論と事例研究	電力、鉄道、水道、政策としての問題
6	総括原価主義と問題点	特定都市鉄道整備積立金制度
7	中間とりまとめ	規制緩和論について（事例研究と要点）
8	産業育成と外国貿易	貿易立国は可能か
9	世界最適調達	JC ベニーの事例
10	技術知識と公共財的性格	外部経済と市場指向の製品戦略
11	経済成長と工業の発展	雁行形態論、空洞化論
12	産業内貿易と国際分業	付加価値を求めて
13	ケーススタディ（1）	事例研究とその要点
14	ケーススタディ（2）	事例研究とその要点
15	試験対策	復習
16	定期試験	

科目名	マーケティング論Ⅰ			
08年度入学：マーケティング論Ⅰ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

マーケティング活動の基本要素、すなわち製品政策、プロモーション政策、流通政策および価格政策（4Ps）を理解することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

「入門経済学」および「入門経営学」を履修したことが望ましい。授業は講義とディスカッションの2つからなる。講義では、パワーポイントを用いてマーケティングの基本概念を説明する。資料も毎回配布する予定である。学生にはノートをとってもらう。ディスカッションでは、分析する事例について議論してもらう。講義内容に関して腑に落ちた理解を得ることが狙いである。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。
 復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■教科書

石井淳蔵・廣田章光（2009）『1からのマーケティング 第3版』中央経済社。

科目名	マーケティング論Ⅱ			
08年度入学：マーケティング論Ⅱ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

ブランド構築、コミュニケーション、組織営業、サプライチェーン・マネジメントなど企業のマーケティング実務に関する知識を学ぶことを通じて、マーケティングの環境を分析し、企業の企画と実践を理解できるようになることが目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

「マーケティング論Ⅰ」を履修したことが望ましい。授業は講義とディスカッションの2つからなる。講義では、パワーポイントを用いて企業のマーケティング実務に関する知識を説明する。資料も毎回配布する予定である。学生にはノートをとってもらう。ディスカッションでは、分析する事例について議論してもらう。講義内容に関して深い理解を得ることが狙いである。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須である。
 復習：小テストを講義時間中行うため、復習が必須である。

■教科書

石井淳蔵・廣田章光（2009）『1からのマーケティング 第3版』中央経済社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義内容に関する説明、レポートの書き方
2 マーケティング発想の経営	マーケティング発想の経営とは何か
3 マーケティング活動の基本要素	事例分析：ニコンのデジタル一眼レフカメラ マーケティングの4Ps
4 戦略的マーケティング	製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の競争対応戦略
5 製品のマネジメント	事例分析：「1才からのかっぱえびせん」の開発 市場機会分析、製品アイデアと製品コンセプト開発、製品ライフサイクル管理
6 レポート	レポート①
7 価格のマネジメント	事例分析：携帯電話会社の価格マネジメント 価格設定、価格管理
8 広告のマネジメント	事例分析：消臭市場の創造－ファブリーズ 広告マネジメント、プロモーションミックス、メディアミックス
9 レポート	レポート②
10 チャンルのマネジメント	事例分析：化粧品メーカーのマーケティング・チャンネル チャンネル選択、チャンネル管理
11 定期試験	

■参考文献

フィリップ・コトラー（2003）『コトラーのマーケティング・コンセプト』東洋経済新報社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義内容に関する説明、レポートの書き方
2 マーケティングの基本概念	セグメンテーション、ポジショニング、マーケティングの4Ps
3 戦略的マーケティング	製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の戦略
4 サプライチェーンのマネジメント	事例分析：資生堂「TSUBAKI」 サプライチェーンのマネジメント
5 営業のマネジメント	事例分析：サントリーのウイスキー「オールド」 営業活動、個人営業から組織営業への移行
6 レポート	レポート①
7 顧客関係のマネジメント	事例分析：パナソニック「レッツノート」 顧客関係の構築、顧客関係の構築のジレンマ、顧客関係のマネジメント
8 顧客理解のマネジメント	事例分析：フジッコ「やわふく」 データの収集方法、顧客理解のマネジメント
9 レポート	レポート②
10 ブランド構築のマネジメント	事例分析：グローバルブランド「キットカット」 ブランド構築のコミュニケーション、ブランド構築の論理
11 定期試験	

■参考文献

石井淳蔵・嶋口充輝・余田拓郎・栗木契（2004）『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞社。

科目名	経営史 I			
08年度入学：経営史 I				
担当者	平山 勉 <i>Tsutomu Hirayama</i>			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

19-20世紀の外国経営史について学習していく。とりわけ、従来までとは異なる製品、生産方法、流通・販売方法、管理組織等々を創出し、既存の競争やビジネスの慣行を大きく変える役割を担った企業に注目する。歴史的な知識を身につけることは勿論、その事実を多角的、相対的に捉える力を養うことが目的となる。

■授業の進め方（履修条件等）

歴史的な流れに位置付けながら経営行動の変化を解説していく。また講義の理解を深めるため、学習テーマごとに代表的な事例を取り上げ、具体例に即して企業経営、企業家活動の展開を説明していく。

■成績評価方法・基準

成績は提出レポートおよび定期試験の結果から総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義で配布されたレジュメを読み返し、次回講義の前庭知識を得ておくことが望ましい。

復習：前後の講義との関連に注意しながら講義内容を整理することが望ましい。

科目名	経営史 II			
08年度入学：経営史 II				
担当者	平山 勉 <i>Tsutomu Hirayama</i>			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

明治期から高度成長期にかけての近現代日本経営史について学習する。それぞれの時代背景の中で、既存のビジネス慣行を変化させるような革新的な方法が如何に採用されてきたのかに注目する。企業経営の歴史的展開に関する学習を通じて、過去の出来事を学ぶだけでなく、その意味や役割を考察する力を養うことが目的となる。

■授業の進め方（履修条件等）

歴史的な流れに位置付けながら経営行動の変化を解説していく。また講義の理解を深めるため、学習テーマごとに代表的な事例を取り上げ、具体例に即して企業経営、企業家活動の展開を説明していく。

■成績評価方法・基準

成績は提出レポートおよび定期試験の結果から総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義で配布されたレジュメを読み返し、次回講義の前庭知識を得ておくことが望ましい。

復習：前後の講義との関連に注意しながら講義内容を整理することが望ましい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	前期経営史講義の概要
2 基本概念の説明	経営史研究の基本的な概念の解説
3 近代的企業の成立	工場制大工場の成立と意義
4 近代的企業の成立2	近代企業の経営と革新
5 巨大企業の形成	大量生産体制の形成
6 巨大企業の形成2	大量生産体制の展開
7 独占的企業の展開	独占企業の形成と展開
8 独占的企業の展開2	独占企業の展開とその限界
9 多国籍企業の成立	大企業における経営戦略の変化
10 近代的経営管理	フォードシステムとフォードイズム
11 近代的経営管理2	経営管理の進展と限界
12 専門生産体制の展開	アメリカ工業化過程の専門生産
13 専門生産体制2	大企業体制と専門生産体制の対比
14 中小企業と集積	産業集積論にみる中小企業の展開
15 まとめと要点の確認	前期講義の要点とまとめ
16 定期試験	

■教科書

テキストを使用しない。講義時にレジュメを配布する。

■参考文献

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人〔著〕『ビジネスの歴史』有斐閣アルマ、2004年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	後期経営史授業の概要
2 基本概念の説明	日本経営史研究の基本概念
3 近代経営の成立	近代経営の成立と展開
4 近代経営の成立2	近代的企業組織の形成と経営管理
5 大企業時代の到来	企業合併・集中とカルテル活動
6 大企業時代の到来2	新興産業の勃興と産業開拓活動
7 都市型産業の誕生	都市化の進展と「都市型」産業
8 戦後の企業経営	大型設備投資の進展
9 大衆消費社会の到来	耐久消費財生産企業の展開
10 流通革命の進展	流通組織の変化と再編
11 日本型企業システム	トヨタ生産方式の形成
12 戦後の企業家活動	事業転換による成功例
13 戦後の企業家活動2	ベンチャー企業の展開
14 中小企業の役割	生産の柔軟性と技術の蓄積
15 まとめと要点の確認	後期講義の要点整理
16 定期試験	

■教科書

テキストは使用しない。講義の際に、レジュメを配布する。

■参考文献

経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣ブックス、2004年。

科目名	経営戦略論 I			
08年度入学：経営戦略論 I				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、事業戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する（ケーススタディー）という内容です。この2つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』（日本経済新聞社）

■参考文献

伊丹敬之・西野和美編著『ケースブック経営戦略の論理』（日本経済新聞社）

科目名	経営戦略論 II			
08年度入学：経営戦略論 II				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、全社戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する（ケーススタディー）という内容です。この2つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 事業戦略とは	経営戦略論（事業戦略分野）の全体像
3 マーケティング戦略①	理論紹介：顧客のニーズをとらえる
4 マーケティング戦略②	理論紹介：ニーズの多様性と相互作用を利用する
5 マーケティング戦略③	ケーススタディー：花王
6 競争戦略①	理論紹介：競争優位をつくる
7 競争戦略②	理論紹介：反撃を見越す、敵にしない
8 競争戦略③	ケーススタディー：三星電子
9 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
10 ビジネスシステム戦略①	理論紹介：ビジネスシステムで差別化する
11 ビジネスシステム戦略②	理論紹介
12 ビジネスシステム戦略③	ケーススタディー：ミスミ
13 技術戦略①	理論紹介：技術を活かし、技術が動かす
14 技術戦略②	理論紹介：
15 技術戦略③	ケーススタディー：セイコーエプソン
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 全社戦略とは	経営戦略論（全社戦略分野）の全体像
3 多角化戦略①	理論紹介：多角化
4 多角化戦略②	理論紹介：事業ポートフォリオのマネジメント
5 多角化戦略③	ケーススタディー：シャープ
6 M&A戦略①	理論紹介：M&A
7 M&A戦略②	理論紹介：戦略的提携
8 M&A戦略③	ケーススタディー：セコム
9 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
10 国際化戦略①	理論紹介：国のポートフォリオ戦略
11 国際化戦略②	理論紹介：経営資源の移転と政治・為替問題への対応
12 国際化戦略③	ケーススタディー：日産自動車
13 戦略の組織適合①	理論紹介：戦略自体が組織を動かし、刺激する
14 戦略の組織適合②	理論紹介：
15 戦略の組織適合③	ケーススタディー：アサヒビール
16 定期試験	

■参考文献

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』日本経済新聞社

科目名	経営組織論Ⅰ			
08年度入学：経営組織論Ⅰ				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営組織論ⅠとⅡを合わせて受講することをお勧めします。経営組織論Ⅰでは、特に「マイクロ組織論」を中心に勉強します。授業では、主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に関して詳細な議論を行います。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

科目名	経営組織論Ⅱ			
08年度入学：経営組織論Ⅱ				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営組織論ⅠとⅡを合わせて受講することをお勧めします。経営組織論Ⅱでは、特に「マクロ組織論」を中心に勉強します。授業では、主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に関して詳細な議論を行います。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図	
2 組織への基本的理解	組織の定義、人間行動と意思決定	
3	マイクロ組織論	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15 組織論の学説史		マイクロ組織論の諸学説
16 定期試験		

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図	
2 組織への基本的理解	なぜ組織が必要なのか	
3	マクロ組織論	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15 組織論の学説史		マクロ組織論の諸学説
16 定期試験		

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■参考文献

必要に応じて紹介します。

科目名	経営分析Ⅰ			
08年度入学：経営分析Ⅰ				
担当者	平屋 伸洋 <i>Nobuhiro Hiraya</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、収益性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。

■授業の進め方（履修条件等）

企業会計の役割、経営分析の目的と方法などについて理解したうえで、収益性を分析するために、資本利益率、売上高利益率、資本回転率という三つのテーマを取り上げていく。

■成績評価方法・基準

定期試験を50%、出席を40%、報告を10%の割合で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当章を3回読み、疑問点を明らかにする。
復習：計算方法、分析の仕方について確認する。

■教科書

森久・関利恵子・徳山英邦・蔭飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011年。

■参考文献

桜井久勝著『財務会計講義〈第11版〉』中央経済社、2010年。

■講義スケジュール

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法
2 会計と社会、企業	企業会計の役割
3 経営分析の課題	経営分析の目的と方法
4 分析資料	財務データの入手方法
5 貸借対照表	貸借対照表の形式と内容
6 損益計算書	損益計算書の形式と内容
7 資本利益率（その1）	資本利益率についての講義
8 資本利益率（その2）	資本利益率に関する計算
9 資本利益率（その3）	資本利益率による収益性の分析
10 売上高利益率（その1）	売上高利益率についての講義
11 売上高利益率（その2）	売上高利益率に関する計算
12 売上高利益率（その3）	売上高利益率による収益性の分析
13 資本回転率（その1）	資本回転率についての講義
14 資本回転率（その2）	資本回転率に関する計算
15 資本回転率（その3）	資本回転率による収益性の分析
16 定期試験	

科目名	経営分析Ⅱ			
08年度入学：経営分析Ⅱ				
担当者	平屋 伸洋 <i>Nobuhiro Hiraya</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、生産性と安全性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。

■授業の進め方（履修条件等）

生産性と安全性の分析方法を学ぶ。生産性はそれ自体で一つのテーマとする。安全性については、ストック指標、キャッシュ・フロー分析、その他の指標という三つのテーマを取り上げる。

■成績評価方法・基準

定期試験を50%、出席を40%、報告を10%の割合で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当章を3回読み、疑問点を明らかにする。
復習：計算方法、分析の仕方について確認する。

■教科書

森久・関利恵子・徳山英邦・蔭飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011年。

■参考文献

桜井久勝著『財務会計講義〈第11版〉』中央経済社、2010年。

■講義スケジュール

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法
2 財務諸表	経営分析の資料
3 収益性分析	収益性分析の方法
4 生産性分析（その1）	生産性の分析についての講義
5 生産性分析（その2）	生産性の分析に関する計算
6 生産性分析（その3）	財務比率による生産性の分析
7 安全性分析Ⅰ（その1）	ストック指標についての講義
8 安全性分析Ⅰ（その2）	ストック指標に関する計算
9 安全性分析Ⅰ（その3）	ストック指標による安全性の分析
10 安全性分析Ⅱ（その1）	フロー指標についての講義
11 安全性分析Ⅱ（その2）	フロー指標に関する計算
12 安全性分析Ⅱ（その3）	フロー指標による安全性の分析
13 安全性分析Ⅲ（その1）	その他の指標についての講義
14 安全性分析Ⅲ（その2）	その他の指標に関する計算
15 安全性分析Ⅲ（その3）	その他の指標による安全性の分析
16 定期試験	

科目名	原価計算論Ⅰ			
08年度入学：原価計算論Ⅰ				
担当者	柴田 寛幸 <i>Hiroyuki Shibata</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

原価計算の目的、個別原価計算、総合原価計算を理解することを目的とし、日商簿記検定2級レベルを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

簿記原理または会計学を履修した学生を対象とする。製造原価の計算方法を説明したのちに、各自で製造原価を計算してもらう。電卓を必ず用意することが必要です。

■成績評価方法・基準

定期試験（80％）・授業内テスト（10％）・出席（10％）

■授業の予習・復習

予習：テキストに従って授業を進めていくので、次回分を予習して下さい。

復習：練習問題を必ず自宅で復習して下さい。

■教科書

『合格テキスト日商簿記2級〔工業簿記〕Ver.5.0〕TAC出版 2,000円

■参考文献

嵐村剛雄監修、岩崎勇著『日商簿記検定（2級）教科書・2級工業簿記』一橋出版 1,200円

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	原価計算総論	原価計算の目的、原価計算制度、原価の本質
2	原価の分類	形態別、機能別、製品別、操業度別
3	費目別計算（1）	材料費
4	費目別計算（2）	労務費、経費
5	費目別計算（3）	製造間接費の実際配賦と予定配賦
6	部門別計算	製造部門、補助部門
7	個別原価計算（1）	部門個別費、部門共通費
8	個別原価計算（2）	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
9	総合原価計算（1）	平均法
10	総合原価計算（2）	先入先出法
11	総合原価計算（3）	減損、仕損
12	工程別総合原価計算	平均原価法、先入先出法
13	組別総合原価計算	組別総合原価計算表
14	等級別総合原価計算	等価係数
15	まとめ	
16	定期試験	

科目名	原価計算論Ⅱ			
08年度入学：原価計算論Ⅱ				
担当者	柴田 寛幸 <i>Hiroyuki Shibata</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

標準原価計算、直接原価計算、CVP、投資決定論、資本コストを理解することを目的とし、日商簿記検定2級から1級レベルを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

簿記原理または会計学を履修し、なおかつ、原価計算論Ⅰを修得した学生を対象とする。数多くの計算問題を実際に解きながら授業を進めていく。

■成績評価方法・基準

定期試験（80％）・授業内テスト（10％）・出席（10％）

■授業の予習・復習

予習：テキストに従って授業を進めていくので、次回分を予習して下さい。

復習：練習問題を必ず自宅で復習して下さい。

■教科書

『合格テキスト日商簿記2級〔工業簿記〕Ver.5.0〕TAC出版 2,000円

■参考文献

嵐村剛雄監修、岩崎勇著『日商簿記検定（1級）教科書・原価計算』一橋出版 1,200円

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	標準原価計算（1）	価格差異、数量差異
2	標準原価計算（2）	賃率差異、作業時間差異
3	標準原価計算（3）	予算差異、能率差異、操業度差異
4	直接原価計算（1）	貢献利益
5	直接原価計算（2）	固定費調整
6	CVP分析（1）	損益分岐点
7	CVP分析（2）	固定費と変動費の分解方法
8	最適セールス・ミックス	グラフによる解法
9	資本予算（1）	回収期間法、会計的利率法、正味現在価値法
10	資本予算（2）	内部利率法、収益性指数法、原価比較法
11	資本予算（3）	練習問題
12	資本コスト	加重平均資本コスト
13	活動基準原価計算（ABC）	多品種少量生産、コスト・ドライバー
14	特殊原価	差額原価、機会原価、埋没原価等
15	まとめ	
16	定期試験	

科目名	税務会計論 I			
08年度入学：税務会計論 I				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

最終的には法人（会社）の課税所得と税額算出を学ぶ。これらを規定する法人税法は、会社法や金融商品取引法と一体となつてわが国の会計制度を形成しそれぞれ関連しあうことから、あわせてこの概要を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。

毎回、授業の開始時に前回までの授業内容とその日の授業の狙い、終了時にはその日の授業内容の概要と次回の授業の内容予定を説明する。簿記論の履修終了者が望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%
ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

科目名	税務会計論 II			
08年度入学：税務会計論 II				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

法人〔会社〕の課税所得と税額算出やその根底にある基礎理念を学ぶが、法人税法の特徴を知るためあわせて個人の課税関係〔所得税法〕も検討する

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。

毎回、授業の開始時に前回までの授業内容とその日の授業の狙い、終了時にはその日の授業内容の概要と次回の授業の内容予定を説明する。簿記論の履修終了者が望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、授業内小テスト5%、レポート及びその他の課題5%、出席20%
ただし、これはあくまでも目安であり、通常は出席1回につき1点ないし2点とし、これをペーパーテストの素点に加算する。小テストや課題はそのつど指示する。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験希望者にとって、予習は質問のチャンスを与え、復習は理解を深めることになるので、予習・復習は必要である。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	運営方針と講義の概要
2 法人税の特質と体系	法人税の役割と特徴
3 法人税の法源性	租税法律主義と関連法規
4 法人税の本質	法人税、配当金二重課税の排除
5 基礎概念	法人、同族会社、事業年度他
6 企業会計	企業会計の概要及会計法規
7 企業会計と税務会計 I	会計法規と税務会計の関連
8 // II	確定決算基準、国際会計と会社法・税法
9 課税所得 I	課税所得の特徴
10 // II	課税所得の算出と税務調整
11 益金・損金 I	益金の内容及と計上原則
12 // II	損金の内容及と計上原則
13 // III	資産評価益・損
14 // IV	主要項目の損金・益金の概要
15 課税所得と税額の算出	計算練習
16 定期試験	

■授業の予習・復習

特に会計資格の受験希望者にとって、予習は質問のチャンスを与え、復習は理解を深めることになるので、予習・復習は必要である。

■教科書

『セメスター法人税法』鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会

■参考文献

『税務会計総論』富岡幸雄 森山書店
『体系法人税法』山本守之 税務経理協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	運営方針と講義の概要
2 所得税と法人税 I	所得税と法人税の特徴・差異
3 // II	//
4 会社法決算と課税所得	確定決算基準と課税所得の算出
5 益金各論 I	売上と益金
6 // II	その他の収益と益金
7 損金各論 I	売上原価、減価償却費と損金
8 // II	給与、交際費と損金
9 // III	租税公課、貸倒損失と損金
10 // IV	その他の諸費用と損金
11 資産	資産の計上と評価益・損の取扱
12 引当金、準備金	税法上と会計上の引当金・準備金
13 資本・課税所得と税額	資本及課税所得、税率、欠損金の繰越・繰戻し
14 申告等	申告、更正・決定、修正、附帯税、不服申立
15 課税所得と税額の算出	計算練習と解説
16 定期試験	

■教科書

『セメスター法人税法』鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会

■参考文献

『税務会計総論』富岡幸雄 森山書店
『体系法人税法』山本守之 税務経理協会

科目名	財務管理論			
08年度入学：財務管理論				
担当者	石鍋 信孝 <i>Nobutaka Ishinabe</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

会計学の初学者にもわかりやすく、利益管理と資金管理を実務に即した内容で展開します。企業経営のお金に関する分野をマスターして、就職活動を強力に、また、就職後も実務に役立ちます。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、鮮度の高い情報や実務で役立つ知識を学習します。企業経営のお金に関する基礎事項は、この講義でマスターできます。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

教科書の事前通読

■教科書

『経営に活かす財務マネジメント』産業能率大学出版社
石鍋信孝著

■参考文献

『与信管理の戦略と実戦』産業能率大学出版社 石鍋信孝著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	
2	財務管理の概要	制度会計、企業会計原則、指導原理
3	簿記	仕訳、帳簿組織、工業簿記
4	財務諸表（1）	損益計算書（P/L）
5	〃（2）	貸借対照表（B/S）
6	〃（3）	キャッシュフロー計算書（C/S）
7	最近の潮流	IFRSと財務管理
8	財務分析	財務分析モデル
9	企業税務	法人税等、実効税率
10	資金管理	資金の調達、事業ポートフォリオ
11	予算管理	予算と予算管理
12	採算分析（1）	損益分岐点分析
13	〃（2）	投資分析
14	ケース・スタディ（1）	S社の財務政策
15	〃（2）	ソフトウェア産業と財務
16	定期試験	

科目名	国際経営論			
08年度入学：国際経営論				
担当者	長島 芳枝 <i>Yoshie Nagashima</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

国際経営の理解には、国際的な政治・経済環境や企業の競争戦略、経営管理手法といった多様な課題を検討することが必要となる。本講義では履修者が、多国籍企業とそれらを取り巻く環境について、興味を持つようになることを目的の一つとする。基礎知識を習得しながら、その知識をベースとして次のステップへ進む準備とすることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式でパワー・ポイントを利用して説明する。事例考察では国際的に事業展開する多国籍企業を対象とした映像教材も活用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（40%）・小テスト・レポート（40%）・出席状況（20%）の割合で総合的に成績を評価する。小テストは講義時間中に行う。レポートは事例考察にあたって作成・提出する。

■授業の予習・復習

予習：授業で紹介する参考文献や資料を読むこと。
復習：復習は配布資料を中心に行ない、講義内容を理解したか確認する。尚、本講義では復習が重要となる。

■教科書

教科書は特に使用せず、講義資料を配布する。

■参考文献

江夏健一・太田正孝・藤井健編『国際ビジネス入門』中央経済社、2008年
江夏健一・桑名義晴・IBI国際ビジネス研究センター著『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館出版、2006年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義計画、成績評価基準の説明および教材の紹介
2	国際経営を取り巻く環境	グローバル経済と企業活動
3	多国籍企業とは	多国籍企業の定義と特徴
4	先進国の多国籍企業	先進国を中心とした多国籍企業の活動
5	新興国市場での事業展開	事例考察
6	国際経営の諸理論	国際経営活動の変遷と理論
7	非製造業のグローバル展開	さまざまな非製造業による事業展開
8	小テスト	
9	グローバル・マーケティング	市場のグローバル化にともなうマーケティング活動
10	グローバル・アライアンス	グローバルな戦略提携の役割
11	海外生産と技能の国際移転①	事例考察
12	海外生産と技能の国際移転②	国際的な生産体制の変遷と特徴
13	国際経営組織と人的資源管理	多国籍企業の組織モデルと人的資源管理
14	異文化経営と新たな潮流	異文化における経営とビジネスコミュニケーション
15	まとめ	全講義内容の主要な点について復習する。
16	定期試験	

科目名	企業倫理論			
08年度入学：企業倫理論				
担当者	川島 孝夫 <i>Takao Kawashima</i>			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

企業活動は経済効率性を追求した20世紀と異なり、21世紀では「社会的責任を果す（CSR）」ことが求められている。本講座では、21世紀に求められるCSR経営を企業倫理の視点で解説し、CSR視点醸成を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

「倫理」とは「企業」とはから始め、21世紀に存続するために必要な「企業倫理」の確立について味の素グループの事例で解説する。

■成績評価方法・基準

- ①毎週の出席点、及び出席カードによる意見（30点）
- ②期末筆記試験（70点）

■授業の予習・復習

予習：教科書の予習
復習：教科書及び板書の内容

■教科書

講師作成教科書（授業時配付）

■参考文献

特になし

科目名	情報社会と倫理			
08年度入学：情報社会と倫理				
担当者	井手 雅哉 <i>Masaya Ide</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

情報技術の向上により社会における情報化が進展し、様々な分野にその成果をもたらしているが、同時に負の影響も少なからず存在する。本科目では、情報化の浸透を概観し、状況を理解するとともに、トラブルに巻き込まれたり、他者へ迷惑をかけたらないような心構えを身につけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

通常の講義形式で、プリントを配布。事例の紹介を多く取り入れていく予定である。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

■授業の予習・復習

■教科書

なし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	「企業倫理論」講義の進め方
2 企業倫理の定義	企業とは、倫理とは、企業倫理とは
3 良い会社	良い会社とは
4 良い会社	従業員から見て良い会社
5 良い会社	顧客・得意先・取引先から見て良い会社
6 CSR経営と良い会社	社会から見て良い会社
7 CSR経営	経済の側面（財務諸表の見方）
8 CSR経営	環境の側面（地球温暖化防止）
9 CSR経営	人間・社会の側面（コーポレートガバナンス）
10 CSR経営	コンプライアンス（法体系・法の必要性）
11 CSR経営	コンプライアンス（企業活動に必要な法律）
12 CSR経営	コンプライアンス（商法概説）
13 リスクマネジメント	リスクマネジメントの進め方・目的
14 食の安全・安心	「食の安全・安心」の現状と課題
15 前期まとめ	
16 定期試験	

■授業内容（前期）

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	コンピュータの普及と情報処理能力の向上
3	ネットワークの形成
4 社会における情報化の進展	産業における情報化の進展
5	行政における情報化の進展
6	生活における情報化の進展
7	情報社会の概念
8	
9	セキュリティ確保の必要性1（機密性）
10	セキュリティ確保の必要性2（完全性）
11 情報化の進展に伴う諸問題	犯罪との関わり
12	情報発信能力の一般化とモラルの低下
13	ネチケット
14	著作権の保護
15	
16 定期試験	

科目名	ハードウェアシステム論			
08年度入学：ハードウェアシステム論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、コンピュータを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータのハードウェアの仕組みに関する知識を習得することです。パソコンの全体構成および各装置の仕組み、特にパソコンの中心である中央処理装置（CPU）とメモリスステムの機能と仕組みを詳しく説明し、深い知識の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません。
復習：キーワードとその内容を覚えてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■参考文献

日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』日経BP社

科目名	OS論			
08年度入学：OS論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、コンピュータを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータの基本ソフトウェアであるOS（オペレーティングシステム）の仕組みに関する知識を習得することです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、ハードウェアシステム論（前期）を履修していることです。配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません。
復習：キーワードとその内容を覚えてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■参考文献

日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 OS編』日経BP社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 アーキテクチャ	パソコンの全体構成とバスの構造
3 インタフェース	IDE,USB,IEEE1394
4	CISCとRISCおよび命令セット
5	基本素子、組み合わせ回路、順序回路
6 CPU	レジスタ、算術論理演算回路、制御回路
7	CPUの基本動作
8	高速化実装技術、省電力化技術
9	メインメモリとキャッシュメモリ
10	ハードディスク、光ディスク
11 グラフィックス	グラフィックス機構、アクセラレータ
12 ディスプレイ	CRTとLCD
13 プリンタ	ページプリンタ、インクジェットプリンタ
14 その他周辺装置	PCカード、キーボード、マウス他
15 まとめ	
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2	パソコンの全体構成とOSの役割
3	ユーザインタフェース
4	カーネル
5 OSの要素技術	カーネルのアーキテクチャ
6	ファイルシステム
7	ソフトウェア連携
8	ネットワーク
9	インターネット
10	WindowsNT / 2000 / XP / Vista / 7
11	Windows95 / 98 / Me
12 各OSの特徴	UNIX / Linux
13	Mac OS
14	その他のOS
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	ネットワークシステム論			
08年度入学：ネットワークシステム論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータネットワーク、特にインターネットの仕組みに関する知識を習得することです。情報通信の仕組みを理解することで、より良い情報の管理とその利用が可能になります。そのための深い知識の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、パソコンのハードソフトに関する基本的知識があることです。配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません。
 復習：その授業で説明した内容は次回以降利用しますので理解しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

科目名	情報セキュリティ論			
08年度入学：情報セキュリティ論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。しかし、インターネット利用の急激な普及とともに、セキュリティの確保が大きな問題となっています。本講義の目的はインターネットの危険性およびセキュリティ対策の仕組みに関する知識を習得することです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、前期の「ネットワークシステム論」を履修していることです。配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません。
 復習：その授業で説明した内容は次回以降利用しますので理解しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 ネットワークの仕組み	OSI参照モデル、ネットワークとインターネット
3	MACアドレスとCSMA/CDによるデータ通信の仕組み
4 ハードウェアレベル	LANボード、共有ハブ/スイッチングハブの仕組み
5	ルーターによるネットワーク間の通信
6	レイヤー 3スイッチングハブとVLAN
7	TCP/IPの仕組み
8	DNSの仕組み
9 ネットワークプロトコル	グローバルアドレス、プライベートアドレスとNAT
10	IPアドレスと経路制御の仕組み
11	プロバイダとIXの役割と経路制御
12	メールとDNS
13 ネットワークサービス	WWWとインターネットの混雑
14	インターネットセキュリティ
15 まとめ	
16 定期試験	

■参考文献

熊谷誠治著『誰も教えてくれなかったインターネットのしくみ』日経BP社
 日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』日経BP社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 インターネットの危険性	インターネット利用に潜む危険性
3 セキュリティへの脅威	脅威の分類、コンピュータ犯罪
4 安全を守る技術	セキュリティ対策の分類
5	ユーザ認証技術
6 アクセス管理技術	アクセス制限技術
7	ファイアウォールの仕組み
8	暗号の仕組み、共通鍵暗号、公開鍵暗号
9 暗号技術	暗号によるセキュリティ対策の実際
10	暗号技術の限界
11 コンピュータウィルス	コンピュータウィルスの種類と対策
12 間接的対策	セキュリティ監視、セキュリティ教育他
13 個人レベルのセキュリティ対策	ユーザ自身がやるべきこと
14 企業レベルのセキュリティ対策	企業が信頼を失わないためのセキュリティ対策
15 まとめ	
16 定期試験	

■参考文献

佐々木良一著『インターネットセキュリティ入門』岩波新書
 熊谷誠治著『誰も教えてくれなかったインターネットセキュリティのしくみ』日経BP社

科目名	アルゴリズム論 I			
08年度入学：アルゴリズム論 I				
担当者	豊原 明 Akira Toyohara			
対象学年	経済系	2 ～ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ～ 3年		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法である「アルゴリズム」の基礎を学び、応用させることです。到達目標は、代表的なアルゴリズムを理解することと、これを通じて応用できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありませんが、プログラム言語を履修していることが望ましい。基本的にプリントを配って授業を行います。サンプルプログラムによるデモをする場合があります。また、理解を深めるために、毎回授業の途中で小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（毎回）：50%
定期試験：50%

■授業の予習・復習

予習：毎回、次の授業の内容を予告し、テキストの該当部分を読んでおいてください。

復習：授業時間内で理解するよう努めてください。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』藤原暁宏著 森北出版社 2006年

■参考文献

プリントを配布します。

科目名	アルゴリズム論 II			
08年度入学：アルゴリズム論 II				
担当者	豊原 明 Akira Toyohara			
対象学年	経済系	2 ～ 3年	単 位	2 単位
	経営系	2 ～ 3年		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、アルゴリズム論 I で学んだ基本的な内容をさらに深めて、より高度なアルゴリズムを学ぶことです。到達目標は、アルゴリズムの設計手法を理解することと、これを通じて応用できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

できれば、アルゴリズム論 I を履修していることが望ましい。基本的にプリントを配って授業を行います。サンプルプログラムによるデモをする場合があります。また、理解を深めるために、毎回授業の途中で小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（毎回）：50%
定期試験：50%

■授業の予習・復習

予習：毎回、次の授業の内容を予告し、テキストの該当部分を読んでおいてください。

復習：授業時間内で理解するよう努めてください。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』藤原暁宏著 森北出版社 2006年

■参考文献

プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらい、到達目標、評価方法
2 アルゴリズムの表現方法	アルゴリズムのイントロダクション
3	配列、連結リスト
4 アルゴリズムの基本データ構造	スタック、キュー
5	木
6	線形探索、2分探索
7	ハッシュ
8 探索アルゴリズム	ハッシュ
9	探索アルゴリズムのまとめ
10	選択ソート
11	挿入ソート
12 ソートアルゴリズム	ヒープソート
13	クックソート
14	ソートアルゴリズムのまとめ
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらい、到達目標、評価方法
2 データ構造	データ構造の基本
3 探索アルゴリズム	代表的な探索アルゴリズムの紹介
4 ソートアルゴリズム	代表的なソートアルゴリズムの紹介
5	分割統治法
6 アルゴリズムの設計手法	グリーディ法
7	バックトラック法、分枝限定法
8 グラフアルゴリズム	最短経路問題
9 アルゴリズムの設計手法	アルゴリズムの設計手法のまとめ
10	文字列照合アルゴリズムの基本
11	ポイヤール・ムーア法A
12 文字列照合アルゴリズム	ポイヤール・ムーア法B
13	両ポイヤール・ムーア法の融合
14 アルゴリズムの限界	アルゴリズムの限界
15 まとめ	まとめ
16 定期試験	

科目名	システム設計論 I			
08年度入学：システム設計論 I				
担当者	高橋 和子 <i>Kazuko Takahashi</i>			
対象学年	経済系	2 ~ 3年	単位	2単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、システムの中でも特に「情報システム」に焦点を当て、システム設計を行う上で必要となる基礎的な知識を身につけることです。到達目標は、企業や官庁、教育機関などさまざまな職場で情報技術に携わる業務をこなし、担当業務に対して情報技術を活用することができる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『コンピュータと情報システム』草薙信昭著
サイエンス社 2007年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法
2 情報システムの概要	情報システムの必要性と事例
3 コンピュータの基礎知識	ハードウェアとソフトウェア インターネット
4 コンピュータと情報処理	情報の表現（数値、文字、画像、音声）
5 データベース	リレーショナルデータベース
6 システムの設計技法(1)	システムのライフサイクルと開発モデル
7 システムの設計技法(2)	要求定義
8 システムの設計技法(3)	外部設計
9 システムの設計技法(4)	ファイル設計
10 システムの設計技法(5)	内部設計
11 システムの設計技法(6)	プログラム設計
12 システムの設計技法(7)	テスト
13 システムの運用と管理(1)	システムの運用管理と評価指標
14 システムの運用と管理(2)	セキュリティ管理と権利の保護
15 まとめ	システム設計に必要な基礎知識の総復習
16 定期試験	

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

科目名	流通情報論			
08年度入学：流通情報論				
担当者	畢 滔滔 <i>Taotao Bi-Matsui</i>			
対象学年	経済系	3 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	3 ~ 4年		

■授業のねらいと到達目標

売れ筋商品の欠品と死に筋商品の在庫増大の問題は、メーカーと流通業者が直面しているもっとも大きな問題となっている。この問題を解決する1つの取り組みは、新しい情報処理システムの活用である。この授業では、日本の大量生産・大量流通システムが直面している問題を紹介した上で、POS、EOS、QR、SCMなど流通業における情報化の進展を説明する。

■授業の進め方（履修条件等）

この科目を履修するには、「流通論」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義を通じて流通業における情報化の進展を説明する。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポート作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 日本の流通	大量生産・大量流通
3	日本型流通システム
4 延期-投機原理	延期-投機原理
5	POSシステムの仕組み
6	POSデータの活用
7 POSシステム	事例分析：店頭品揃え施策のための顧客データ活用
8	レポート①
9	EOSの仕組み
10 EOS	小売業の発注システム、卸売業の受注システム
11	レポート②
12 QRシステム	アパレル業界でのQRの取り組み
13 製販統合	製販統合
14	サプライチェーン、SCM
15 SCM	SCMの導入
16 定期試験	

■教科書

使用しない。

■参考文献

ポール・ウェスターマン（2003）『ウォルマートに学ぶデータ・ウェアハウジングー流通業界“巨人”の躍進を支える情報基盤の全貌』翔泳社。

科目名	データベース論			
08年度入学：データベース論Ⅱ				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、情報システムが様々な業務を支えています。データベース・マーケティング(DBM)は、情報技術の進展により入手可能になった様々な顧客情報をもとに、顧客の購買行動を企業の望む方向へ誘導するための手段を提供してくれます。情報システムをビジネスに活用するための技術と方法論を修得してもらうのがこの講義の到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心ですが、実習も含まれます。ExcelやAccessの基本操作が可能の人が履修してください。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、実習の課題（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません。

復習：その回でやったことを次回以降使いますので、身に付けておいてください。

■教科書

なし。

科目名	情報経済論			
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

情報社会では、情報に価値があり、情報サービスそのものが商品として取引されています。本講義の目的は、そのような情報社会の特性を理解し、活用できるように、基本的な考え方や仕組みの理解を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：とくに必要ありません

復習：基本的な考え方や実例を理解しておいてください

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■参考文献

永谷敬三『入門情報の経済学』東洋経済新報社
 新宅純二郎・柳川範之編『フリーコピーの経済学』日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 データベースの活用	データベースを活用したビジネス
3 DBMとは	DBMの歴史
4	DBMの目的：顧客の生涯価値を高める
5 DBM戦略	顧客ポートフォリオ
6	実行計画
7 DB技術	マーケティングのためのDB技術（その1）
8	マーケティングのためのDB技術（その1）
9	データの加工
10 データから情報へ	多変量解析（その1）
11	多変量解析（その2）
12	データマイニング
13 データの収集と活用	CRMの概要
14	CRMの実際
15 まとめ	
16 定期試験	

■参考文献

ルディー和子『データベース・マーケティングの実際（新版）』日経文庫468 日本経済新聞社
 中村史朗『データベース入門』日経文庫779 日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概要、注意事項他
2 情報とは何か	情報社会における情報の価値と特徴
3 情報の経済学的意義	伝統的経済学と情報の関係
4 不確実性と情報の価値	不確実性と期待効用理論および情報の価値
5 非対称情報と市場	非対称情報の基礎理論と市場への影響
6	保険ビジネス
7 非対称情報の実例	広告ビジネス
8	無料ビジネス（その1）
9	無料ビジネス（その2）
10 情報財	情報財とデジタルコンテンツ産業
11	コンテンツ産業とフリーコピー
12 デジタルコンテンツ産業	映画・音楽産業
13	ゲームソフト産業
14	オンラインゲーム産業
15 まとめ	
16 定期試験	

科目名	産業立地論 I			
08年度入学：産業立地論 I				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

企業経営や産業経営を考える上で産業立地論の考え方は欠かせません。その産業立地論の考え方とはどのようなものなのかを、チューネンの農業立地論、ヴェーバーの工業立地論、レッシュの市場地域論を通して学びます。立地論の考え方を理解することが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

前半では、立地についての考え方を具体的事例を通して説明します。後半では、世界に知られた代表的な3つの立地論を、配付資料をもとにできるだけ易しく説明します。理解度を確認するために毎時間コメントカードを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）と平常点（40％、コメントカードの内容と出席状況による）で評価します

■授業の予習・復習

予習：参考文献を利用して予め授業内容のポイントをつかんでおいてください

復習：ノートや配付資料を必ず見直しておいてください

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説
2 立地とは何か	立地の概念、立地論の目的
3 //	各種の立地事例
4 立地研究の推移	研究内容・方法の変化
5 立地因子	立地条件との違い、立地因子の分類、収入因子
6 //	費用因子、集積因子
7 立地条件	立地条件の性質
8 //	立地条件の種類
9 農業の立地	チューネンの立地論（地代概念）
10 //	// （耕作限界と耕作境界）、演習
11 工業の立地	ヴェーバーの立地論（前提、輸送費指向論）
12 //	// （労働費指向論）
13 //	// （評価と批判）、演習
14 市場の形成	レッシュの市場地域論
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

西岡久雄『経済地理分析』大明堂
 富田和暁『地域と産業』大明堂
 松原 宏編著『立地論入門』古今書院

科目名	産業立地論 II			
08年度入学：産業立地論 II				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2 ~ 4年	単位	2単位
	経営系	2 ~ 3年		

■授業のねらいと到達目標

現実の産業立地がどのような経緯で決定されたのかを知り、立地論の理論通りに説明できる場合と説明できない場合があることを具体例を通して学びます。日本の産業立地がどのような仕組みの中で成立しているのかを理解できるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の工業立地を具体的事例として取り上げ、立地上の特色を各工業ごとに配付資料をもとに検討していきます。ソニー、トヨタなどできるだけ多くの企業を取り上げ、解りやすく説明します。千葉県工業立地についても説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）と平常点（40％、コメントカードと出席状況による）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を利用して予め各工業の立地の特色をつかんでおいてください

復習：ノートや配置資料をよく見直しておいてください

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説
2 鉄鋼業の立地	生産工程と立地の特質
3 //	日本の鉄鋼業立地、事例企業研究（新日本製鐵）
4 アルミニウム工業の立地	生産工程と立地の特質
5 電気機械工業の立地	立地を規定する要因
6 //	日本の電気機械工業の形成
7 //	事例企業研究（ソニー）
8 自動車工業の立地	立地を規定する要因、自動車工業の形成
9 //	事例企業研究（トヨタ、ホンダ）
10 造船工業の立地	立地を規定する要因、形成と変化
11 食料品工業の立地	品目による立地の相違
12 情報サービス産業の立地	立地を規定する要因、立地の特質
13 商業の立地	小売業の立地
14 千葉県の工業立地	工業の形成、立地の特質
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

北村嘉行・矢田俊文編著『日本工業の地域構造』大明堂
 ソニー広報センター『ソニー自叙伝』ワック

科目名	流通論			
08年度入学：流通総論				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

流通機能は、消費者が毎日利用している小売業者だけではなく、卸売業者、運輸業者、メーカーなど様々な機関によって担われている。このように流通システムは極めて複雑なシステムである。この授業の目的は、流通システム全体を注目し、複雑な流通全体図を示し、流通問題の分析のツールと理論枠組みを説明することである。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は講義を中心に進めていく。講義を通じて流通問題の分析のツールと理論枠組みを説明する。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポート作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。
 復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

科目名	流通経営論 I			
08年度入学：流通経営論 I				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi-Matsui			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業の目的は、小売業態の発展史を紹介した上で、小売経営の基本的知識を説明することである。小売競争の本質は店舗差別化活動であるといえる。店舗差別化とは何か。また、店舗差別化はどのようにして実現するのか。こうした問題を授業で説明する。

■授業の進め方（履修条件等）

「流通論」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。
 復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 流通とは何か	流通の定義、流通システム
3	商流、物流、情報流
4	卸売流通
5	日本の卸売業
6	小売流通
7 現代の流通	日本の小売業
8	ロジスティクス
9	レポート①
10	消費者行動と流通
11	商品開発と流通
12	広告と流通
13 流通経営	販売促進と流通
14	レポート②
15	国際流通、eビジネスと流通
16	定期試験

■教科書

宮澤永光・武井寿（2004）『流通新論』八千代出版。

■参考文献

矢作敏行（1996）『現代流通一理論とケースで学ぶ』有斐閣。
 石原武政・竹村正明（2008）『1からの流通論』中央経済社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 小売業活動	小売、小売機能、小売経営者の意思決定
3 小売業の分類	業種、業態
4 商業統計	商業統計の読み方
5	日本の小売構造（業種、規模別から）
6	日本の小売構造（業態別から）
7 日本の小売業	日本における小売業態の発展史
8	小売業態発展の理論
9	小売業の日米比較
10 レポート	レポート①
11	競争、小売競争
12 小売経営の理論枠組み	小売ミックス
13	市場細分化戦略
14	消費者の店舗選択行動
15 レポート	レポート②
16	定期試験

■教科書

使用しない。

■参考文献

Levy, Michael and Barton A. Weitz (2008), *Retailing Management*, 7th Edition, Irwin Professional Pub.

科目名	流通経営論Ⅱ			
08年度入学：流通経営論Ⅱ				
担当者	畢 滔滔 <i>Taotao Bi-Matsui</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

この授業の目的は、小売店舗を運営する知識を説明することである。小売競争の本質は店舗差別化活動であるといえる。店舗差別化は、立地政策、仕入れ管理、価格政策、小売広告、レイアウトと陳列などさまざまな要素によって実現される。この授業では、以上のような小売店舗の具体的な運営方法を紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

「流通経営論Ⅰ」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席と授業内小テスト（20%）で評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

科目名	観光事業論Ⅰ			
08年度入学：観光事業論Ⅰ				
担当者	奥山 隆哉 <i>Takaya Okuyama</i>			
対象学年	経済系	2～3年	単 位	2 単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

観光産業は21世紀を牽引する産業の一つであると言われており、今後の成長分野と期待されている。観光を通して国内外の人々の交流が深まり、経済的、社会的、文化的に様々な効果が期待できる。当授業では、先ず、観光の重要性と観光の基本をしっかりと理解する。次に様々な観光（事業）の要となる旅行業に関する基礎知識を習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とディスカッションにより授業を進める。ディスカッションへの参加（素朴な疑問、発表etc.）が評価される。講義はパワーポイントを用いて行う。ディスカッションは小グループに分かれ参加してもらう場合もある。

■成績評価方法・基準

定期試験（60点）＋クラス参加度（40点）

■授業の予習・復習

予習：日経電子版のニュースで「輸送・レジャー」産業の記事を日頃から見ておく。

復習：授業を聞いて、自分なりに「考えたもの」を150字以上300字以内のメモにし、提出した場合、クラス参加度に評価される。

■教科書

講義中にレジュメ、資料プリントを配布する。参考資料、参考文献は適宜紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 日本の小売業	小売機能、日本の小売業の構造
3	小売企業の財務目標と小売戦略
4 小売戦略	立地政策
5	商圏の需要予測
6 レポート	レポート①
7	仕入れ管理
8	価格管理
9	小売店舗の運営
10	小売広告
11	顧客サービス管理
12	店舗のレイアウト
13	商品の陳列
13 レポート	レポート②
14	小売企業の経営
14	小売企業の組織構造と人事管理
15	小売情報システムの構築
16 定期試験	

■教科書

使用しない。

■参考文献

Levy, Michael and Barton A. Weitz (2008), *Retailing Management*, 7th Edition, Irwin Professional Pub.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義の概要説明	講義の狙い、全体構成、成績評価方法の説明
2 観光・ツーリズム 1	日本と世界の観光の現状、最新の観光事業の動向
3 観光・ツーリズム 2	観光の意義と概念、多様な形態と新しい観光
4 旅・観光の世界史	ミトコンドリアイブ、近代ツーリズム、大交流時代
5 旅・観光の日本史	古事記、伊勢参り、奥の細道、海外渡航自由化
6 観光事業 1	観光事業の効果と役割、経済規模
7 観光事業 2	観光産業の俯瞰、観光事業の経営状況と動向
8 観光マーケティング 1	日本人の余暇活動、国内旅行
9 観光マーケティング 2	日本人の海外旅行
10 観光マーケティング 3	訪日外国人旅行
11 旅行産業 1	旅行業の発展と今後の適応
12 旅行産業 2	旅行会社の経営戦略と特性
13 旅行産業 3	旅行商品、旅行取引と消費者
14 旅行産業 4	旅行業の存在、「情報」「流通」「集客・交流」の変遷
15 旅行産業 5	インターネット・情報化社会と旅行業との緊張関係
16 定期試験	

■参考文献

観光白書

科目名	観光事業論Ⅱ			
08年度入学：観光事業論Ⅱ				
担当者	奥山 隆哉 Takaya Okuyama			
対象学年	経済系	2～3年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

観光事業は世界的規模で高い成長が期待されている産業分野であるが、日本の観光産業の国際競争力は必ずしも強いとは言えない。この視点を持ちつつ、観光事業の実際の理解が重要となる。この授業では、「観光立国」政策の展開、グローバル化に巻き込まれざるをえない宿泊、航空等の事業の実態や事業運営の基礎となる事項を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とディスカッションにより授業を進める。ディスカッションへの参加（素朴な疑問、発表etc.）が評価される。講義はパワーポイントを用いて行う。ディスカッションは小グループに分かれ参加してもらう場合もある。

■成績評価方法・基準

定期試験（60点）＋クラス参加度（40点）

■授業の予習・復習

予習：日経電子版のニュースで「輸送・レジャー」産業の記事を日頃から見ておく。

復習：授業を聞いて、自分なりに「考えたもの」を150字以上300字以内のメモにし、提出した場合、クラス参加度に評価される。

■教科書

講義中にレジメ、資料プリントを配布する。参考資料、参考文献は適宜紹介する。

科目名	地域調査論			
08年度入学：地域調査論				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

自治体職員や教員、企業の企画担当など、社会に出ると地域調査を行う機会が多くなります。そうした地域調査を行うときに役立つように、調査の視点や課題の設定方法、具体的な調査研究方法、調査後のまとめ方などについて研究します。この授業を通して、実際に地域調査ができるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

工業やサービス業など具体的なテーマごとに、調査事例を基に調査方法などを説明していきます。ほぼ毎時間（合計10回）、理解度を確認するために、小テストを実施します。最後に、実際に地域調査を行い、レポートを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

レポート（50%）・授業内小テスト（50%）で総合的に評価します。小テスト合計が50点満点中15点を超えないと、レポートを提出できません。

■授業の予習・復習

予習：新聞の経済欄、特に産業関係の記事に日頃から目を通しておいてください。

復習：授業終了後はプリントや小テスト結果をよく検討しておいてください。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義の概要説明	講義の狙い、全体構成、成績評価方法の説明
2	観光立国 1	観光政策の変遷と観光事業、観光立国推進基本計画
3	観光立国 2	地域活性化と観光事業、観光の経済波及効果、
4	観光立国 3	国際観光、国の観光競争力
5	宿泊産業 1	ホテルの発展史、旅館の歴史、宿泊業の動向
6	宿泊産業 2	ホテルの機能と業務、ホスピタリティマネジメント
7	宿泊産業 3	旅館の特質と課題、生き残り戦略、
8	航空産業 1	民間航空の歴史、世界の航空市場とプレイヤー
9	航空産業 2	航空政策と空の自由化、今後の航空需要と航空産業
10	航空産業 3	航空会社の経営とアライアンス、LCC
11	様々な観光事業 1	医療観光の市場規模、アジアの取組み
12	様々な観光事業 2	MICEと国の引力、経済効果
13	様々な観光事業 3	ディズニーランドの顧客満足経営、エンタテインメント
14	観光事業の意義と将来性	21世紀の観光事業（ネスビッツ）、環境経営
15	リキャップ	講義全体のまとめ
16	定期試験	

■参考文献

観光白書

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、小テストについて
2	地域と地域調査	地域とは何か、地域調査の意義
3	工業地域の調査	機械工業地域の特質と研究視点
4	//	// 調査方法
5	//	地場産業地域の特質と研究視点
6	//	// 調査方法
7	農業地域の調査	農業・農村構造の研究視点と調査方法
8	//	近郊農業・遠郊農業の研究視点と調査方法
9	商業地域の調査	小売業の研究視点と調査方法
10	//	サービス業の研究視点と調査方法
11	都市地域の調査	都市化の研究視点と調査方法
12	//	都市構造の研究視点と調査方法
13	地域調査実践指導	小テスト結果と地域調査の実施方法、テーマ決定
14	//	地域調査の個別発表・改善指導（1次）
15	//	//（2次）
16	レポート提出	

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

■参考文献

科目名	地域産業論			
08年度入学：地域産業論				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～3年		

■授業のねらいと到達目標

地域で生まれた地域産業は現在、衰退の危機を迎えているところが多くみられます。地域産業がどのようにして成立し、どのように変化した、現在、なぜ衰退の危機を迎えることになったのかを考察し、課題解決の方法を考えます。地域産業が抱える課題を的確に判断できるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

最初は地域産業を取り巻く環境について検討します。第7週目以降の地域産業の事例研究では、各地の具体例を通して、地域産業がどのように形成され、いかに発展あるいは衰退しているかを説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、授業内小テスト（20%）、出席（10%）から総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献や新聞、ウェブ検索などで授業に出てくる地域の産業を調べておくこと。

復習：地域産業の課題解決方法を考えてみる。

■教科書

使用しません。プリントを配布します。

科目名	サービス産業論			
08年度入学：サービス産業論				
担当者	横山 貞夫 Sadao Yokoyama			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

わが国経済においては、サービス産業の重要度が急速に増しつつある。本講座では、サービス産業の概要、モノとサービスの違い、サービスに関わるマネジメントやマーケティングについて解説する。また事例として、ビジネス支援サービス、流通業、外食業、公共サービス等の現状と業態について学習する。サービス産業の特性を理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講師がパワーポイントで独自に作成したビジュアルな資料を中心に授業を進める。また授業内容に関連深い文献や資料を紹介し、学生の理解を深めるようにする。毎時限、産業や企業を巡る最新の動向を解説し、学生の社会的興味を深耕する。

■成績評価方法・基準

授業への出席率と定期試験の成績で評価。各々の比重は各50%とする。

■授業の予習・復習

予習：新聞や経済誌を読むこと。授業で紹介する文献や資料を読むこと。

復習：講義の内容を復習し、未消化部分については自分で調べ確認すること。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針、参考文献紹介
2 地域産業を取り巻く環境	工業を取り巻く環境（外部からの影響）
3 //	//（内部に抱える問題）
4 //	商業を取り巻く環境
5 //	農業を取り巻く環境
6 地域産業の事例研究（1）	木材関連工業の和歌山県新宮市
7 //	（2）水産加工業の宮城県塩竈市と神奈川県小田原市
8 //	（3）陶磁器工業の三重県四日市市と石川県能美市
9 //	（4）家具工業の岐阜県高山市と長野県松本市
10 //	（5）建具工業の山武市
11 //	（6）観光産業に生きる静岡県東伊豆町
12 //	（7）存続の危機にある名古屋仏壇産地
13 //	（8）新たな道を模索する有松・鳴海絞産地
14 //	（9）楽器とオートバイのまち静岡県浜松市
15 まとめ	授業内容のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

伊藤正昭『地域産業論』学文社

下平尾 勲『地場産業』新評論

山崎 充『豊かな地方づくりを目指して』中公新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、授業の進め方
2 経済と産業	経済のサービス化
3 //	サービス産業の分類と概要
4 //	サービス産業の発展と課題
5 サービス産業	サービス財の基本特性
6 //	サービス供給者と消費者行動
7 //	サービスの品質と生産性
8 //	産業成長の要因と雇用創出
9 //	サービス・マネジメント
10 //	サービス・マーケティング
11 //	サービス・サイエンス
12 業種研究	ビジネス支援サービス
13 //	流通業、物流業
14 //	外食業、観光・娯楽業
15 //	公共サービス
16 定期試験	

■教科書

市販のテキストは使用しない。講師が作成した資料を使用する。

■参考文献

飯盛信男著『サービス産業』新日本出版社

野村清著『サービス産業の発想と戦略』ランダムハウス講談社

山本昭二著『サービス・マーケティング入門』

日本経済新聞出版社

科目名	ITサービス産業論			
08年度入学：ITサービス産業論				
担当者	横山 貞夫 Sadao Yokoyama			
対象学年	経済系	3～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

情報化社会を支えるITサービス産業は、市場規模18兆円、雇用者数85万人と、今やわが国の重要なインフラ産業の一つとなりつつある。本講座では、ITの本質、企業経営とIT、ITサービス産業の特性や業界を取り巻く新潮流について解説する。同産業の概要とトレンドならびに情報化社会の現状と展望について理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講師がパワーポイントで独自に作成したビジュアルな資料を中心に授業を進める。また授業内容に関連深い文献やWEBを紹介し、学生の理解を深めるようにする。毎時限、ITサービス業界を巡るホットなトピックスを解説し、学生の興味を深耕する。

■成績評価方法・基準

授業への出席率と定期試験の成績で評価。各々の比重は各50%とする。

■授業の予習・復習

予習：新聞や経済誌ならびに授業で紹介した文献や資料を読むこと。
復習：講義の内容を復習し、未消化部分については自分で調べ確認すること。

科目名	産業組織論 I			
08年度入学：産業組織論 I				
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に協動的に行動することに注目する。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。
復習：終わったあとと分らないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない

■参考文献

R. ケイヴス「産業組織論」東洋経済新報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、授業の進め方
2 情報化社会	コンピュータの歴史
3 //	データ・情報・知識・IT
4 //	情報化社会と情報産業
5 企業経営とIT	企業経営と情報化
6 //	情報共有と情報システム
7 //	内部統制とIT活用
8 ITサービス産業	ITアウトソーシング
9 //	ITサービス産業の成立と概要
10 //	産業の特長、市場構造、顧客、雇用
11 //	技術、人材、国際化、標準化
12 //	産業の課題と展望
13 ビジネスのトレンド	ソリューション・ビジネス
14 //	電子商取引とネットビジネス
15 //	クラウド・コンピューティング
16 定期試験	

■教科書

市販のテキストは使用しない。講師が作成した資料およびスライドを使用する。

■参考文献

JISA編『わが国の情報サービス産業』情報サービス産業協会
佐藤博子著『業種研究－ITサービス』日本経済新聞社
横山貞夫著『企業IT化の教科書』駿河台出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2 生産性とは何か？	豊かな社会は何故可能か、落花生のケース
3 産業組織の必要性	相互依存関係と産業組織、産業組織の決定
4 ミクロ経済と産業組織	付加価値を増やすために
5 アパレル産業のケース	売れる商品を調達する仕組みをどうする
6 中間とりまとめ	市場か、社内か、系列取引先か
7 市場構造①	アタリ社
8 市場行動②	ロックフェラーのスタンダード石油
9 市場成果③	スタンダード石油の分割命令
10 独占禁止法とその運用	八幡・富士合併と公正取引委員会
11 巨大合併の審査	新日本製鉄の誕生
12 供給責任と日本企業	住友化学の事故
13 ケーススタディ①	事例研究とその要点
14 ケーススタディ②	事例研究とその要点
15 試験対策	復習
16 定期試験	

科目名	産業組織論Ⅱ			
08年度入学：産業組織論Ⅱ				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に強制的に行動することに注目する。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。
復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない

■参考文献

清成、下川『現代の系列』日本産業評論社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	設備投資と技術進歩	経済成長と賃金、付加価値の増加
3	日本の経済成長	無資源の優位性、自由貿易と比較優位
4	技術進歩と経済成長	鉄鋼と自動車、新鋭工場と輸出
5	産業組織とケイレツ	部品産業の育成、系列取引は合理的か
6	対米産業政策	自動車産業政策、小型車戦略、現地生産
7	産業技術と産業政策	電子工業の産業組織
8	イノベーション	新しい商品開発、価格低下と大量生産
9	中間とりまとめ	企業行動、競争と協力、多国籍生産
10	空洞化論	付加価値と分業と貿易
11	系列取引とサプライチェーン	取引コストの低減
12	産業組織と環境問題	家電リサイクル法、PPP、RRR
13	ケーススタディ①	事例研究とその要点
14	ケーススタディ②	事例研究とその要点
15	試験対策	復習
16	定期試験	

科目名	中小企業論Ⅰ			
08年度入学：中小企業論				
担当者	岸本 太一 <i>Taichi Kishimoto</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の‘経営戦略面’を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業の現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容は大きく2つに分かれます。一つは、理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介するという内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』日本経済新聞社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2	中小企業のマーケティング①	理論編
3	中小企業のマーケティング②	事例編
4	中小企業の競争戦略①	理論編
5	中小企業の競争戦略②	事例編
6	中小企業の事業システム①	理論編
7	中小企業の事業システム②	事例編
8	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
9	中小企業の事業転換①	理論編
10	中小企業の事業転換②	事例編
11	中小企業の国際化①	理論編
12	中小企業の国際化②	事例編
13	産業集積論①	理論編
14	産業集積論②	事例編
15	まとめ	中小企業の経営戦略面でのマネジメントとは
16	定期試験	

■参考文献

伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社

科目名	中小企業論Ⅱ			
担当者	岸本 太一 <i>Taichi Kishimoto</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の「オペレーション面」を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業の現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容は大きく2つに分かれます。一つは、理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介するという内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

藤本隆宏著『生産マネジメント入門Ⅰ【生産システム編】』
日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 中小企業の生産管理①	コストと生産性の管理
3 中小企業の生産管理②	納期と工程の管理
4 中小企業の生産管理③	品質の管理
5 中小企業の生産管理④	フレキシビリティの確保
6 中小企業の生産管理⑤	設備の管理
7 中小企業の研究開発①	開発期間とその短縮
8 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
9 中小企業の研究開発②	開発コスト・開発生産性とその向上
10 サプライヤーシステム論①	日本の自動車産業のサプライヤーシステム
11 サプライヤーシステム論②	グローバル化とサプライヤーシステム
12 中小企業の存続と成長①	中小企業が企業へと成長するための条件と論理
13 中小企業の存続と成長②	長期存続という企業目的、成長と存続のトレードオフ
14 中小企業への政策支援	中小企業への政策支援の歴史の変遷
15 まとめ	中小企業のオペレーション面でのマネジメントとは
16 定期試験	

■参考文献

藤本隆宏著『生産マネジメント入門Ⅱ【生産資源・技術管理編】』
日本経済新聞出版社

科目名	都市地理学			
08年度入学：都市地理学Ⅰ				
担当者	永野 征男 <i>Yukio Nagano</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	3～4年		

■授業のねらいと到達目標

人間が創造した最高の芸術品は、「都市社会」であると云う学者がいる。それほど、都市とは複雑で魅力のある地域社会である。そこにおける市民生活を考えることは、多くの学問分野がこれまでに取り組んできた。この授業では、地理学の観点から独特な分析をしてみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：「地理歴史科」の教職課程履修者は、履修することが望ましい。
毎回、一つの課題が完結する形で講述する。資料は教科書から引用し、補足的な内容はプリントで配布する。また、できるだけ多くの国内外の事例を取り上げ、都市のもつ実態に迫りたい。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）に出席（30%）を加味して、総合的な評価を行う。

■授業の予習・復習

■教科書

永野征男著『都市地理学研究ノート』富山房インターナショナル

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義全体に関わる内容の説明
2 身近な話題	住居表示のシステム
3	都市の広がり
4 都市の特徴	日本の都市の特性
5	都市の発展段階と都市史
6 都市発達史	現代都市の基盤である近世都市（1）
7	現代都市の基盤である近世都市（2）
8	代表的な都市構造理論（1）
9	代表的な都市構造理論（2）
10	事例都市における構造分析
11 都市機能	住宅機能の拡大
12	海外におけるニュータウン政策
13	日本における郊外開発の実情
14	都市拡大における交通機能
15 まとめ	都市化の将来予測
16 定期試験	

■参考文献

授業の進行に合わせて、講義の中で紹介する。

科目名	ベンチャービジネス論			
08年度入学：ベンチャービジネス論				
担当者	川西 正己 Masami Kawanishi			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

昨今では、企業全体の7割が赤字であり、しかも、勝ち組といわれる企業は、全体の1割程度という厳しい市場・経営環境にある。そのような前提に立つて、学生自身が起業する、あるいは会社内で新規事業を立ち上げる(社内ベンチャー)という場合において、勝ち残れるだけの「力相応の勝てる場、勝てる条件」を備えた経営法について学ぶ。しかも、「大きな会社」と「小さな会社」の経営法はまるで別物であるということを確認する。

■授業の進め方(履修条件等)

起業の準備段階から「事業計画書」(マーケティングプラン、マネジメントプラン)の作成までを段階的に授業を進める。成功する経営者の条件、成功する経営法、時流の捉え方と適応法、ヒットする商品開発アイデアの発想法、中小企業の事業スタイルとチェックポイント、経営の原理・原則等についてを交えながら授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験(60%)、出席(40%)で評価する。ただし、出席回数が授業回数の半数に満たない場合は不合格とする。

■授業の予習・復習

予習：新聞やニュースなどで、世の中の経済の流れや企業の動きについて関心をもってほしい。
復習：授業で学んだことを、実社会での企業活動に当てはめて考えてほしい。また、自らが起業したり、会社内で新規事業を立ち上げる際にはヒントとしてほしい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

必要に応じてコピーを配布する。

科目名	地域企業会計論			
08年度入学：地域企業会計論				
担当者	高橋 隆明 Takaaki Takahashi			
対象学年	経済系	2～4年	単位	2単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

地域の中堅企業の企業会計を念頭に置き、制度会計と会計理論の違いを明らかにしつつ財務諸表の表す意味・内容を理解する。

■授業の進め方(履修条件等)

特に資産と負債の時価評価に着目し、社会問題でもある不良債権について発生の原因を探るとともに、解消方法も明らかにする。実務的な問題も具体的に取り上げることで、地域企業における会計を広く理解する。

■成績評価方法・基準

定期試験(10%)・授業内小テスト(30%)・レポート及びその他の課題(30%)・出席(30%)

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業内容を復習すれば足りる

■教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じてコピーを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「儲かる業種」と「儲かる人間」	この世に「儲かる業種」はないが「儲かる人間」はいる
2 三方良しの近江商人の経営法	「自分よし、相手よし、第3者よし」が本物経営
3 「商い」とは	「商い」とはお客様に飽きられない工夫をする。明相は明運を呼び、暗相は暗運を呼ぶ
4 経営の基本は「不易流行」にあり	「時流に適應すること」(流行)と「経営の原理・原則を踏まえること」(不易)
5 消費者は商品を通じて「経営理念」を見抜く	「必要無きものはこの世に存在しない」、必要あるところビジネスチャンスあり
6 生き残る者は「時流」(流行)に適應しえた者①	「何を基準に商品を選ぶか」は時代によって移り変わる
7 生き残る者は「時流」(流行)に適應しえた者②	質の良い下限商品はインパクトを与える。安さは品質・サービス劣化の言い訳にならない
8 生き残る者は「時流」(流行)に適應しえた者③	「世のため、人のため、自分のため」のソーシャルビジネスに注目
9 「経営の原理原則」(不易)①	「1点突破全面展開法」(小さくても何かで1番のものをもつこと)が原則
10 「経営の原理原則」(不易)②	1番になるための視点は「ODSR」の4点が切り口となる
11 「経営の原理原則」(不易)③	地域1番商品化を目指すための絞り込み方法とは
12 儲けられて喜ばれる商品開発する	既存マーケットの中で差別化を図る。既存の要素を合体させるアイデア発想法。
13 事業スタイルと狙うマーケット	ニッチ市場でのトップを目指す(鶏口牛後の戦略発想)
14 起業・新事業を成功させるには	新事業は「小さく産んで、大きく育てる」のが原則。事業を起こす3つの相性判断
15 「事業計画書」のつくり方	マーケティングプランとマネジメントプランの作成ポイント
16 定期試験	

■授業内容

授業項目	授業内容
1 地域企業の概要	地域企業会計とは何か。経営成績とは何か
2 財務諸表の意味	財務諸表の種類と内容。P/L、B/Sの表す意味
3 損益計算書(総論)	経営成績について会計学の立場から理解する
4 損益計算書(各論)	収益・費用のとりえ方を会計学の立場から理解する
5 貸借対照表(総論)	財政状態について、会計学の立場から理解する
6 貸借対照表(各論)	資産・負債・資本のとりえ方を理解する
7 キャッシュフロー会計	キャッシュの動きに着目して財務諸表を理解する
8 財務諸表の読み方	実際の財務諸表を理解する
9 経営指標	経営指標の意味を理解する
10 資産・負債の時価価値	簿価と時価の違いを理解する
11 信用リスクとは	地域企業における信用リスクとは何かを理解する
12 不良債権の実態	不良債権の発生原因、解消方法を明らかにする
13 借入金過剰企業の問題	借入金過剰の地域企業の問題を明らかにする
14 経営破綻と企業倒産	経営が破綻する地域企業の問題を明らかにする
15 まとめ	講義全体のまとめと試験(レポート)対策
16 定期試験	

科目名	企業再生論			
08年度入学：企業再生論				
担当者	高橋 隆明 <i>Takaaki Takahashi</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

ベンチャー企業の経営にあたっては、企業を起業することから始まる。さらに企業経営に行き詰った場合には企業の再編という形で起業することもある。中堅企業を念頭に置き企業再生の基本を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

会社法を念頭に置き、会計学の立場から企業再生にかかわる実務的な問題を明らかにする。法的側面と会計的側面の双方を重視しながら、実社会で役立つ知識の習得を目指す。

■成績評価方法・基準

定期試験（10%）・授業内小テスト（30%）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業内容を復習すれば足りる

■教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

『法的整理に頼らない事業再生のすすめ』ファーストプレス、高橋隆明
必要に応じてコピーを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	起業とは何か	起業にあたっての会計的側面と法的側面を整理する
2	起業にあたっての会計的問題	起業にあたっての会計的問題を明らかにする
3	起業にあたっての法的問題	起業にあたっての法的問題を明らかにする
4	再生にあたっての収益と費用	企業再生にかかわる収入と費用を理解する
5	再生にあたっての資産と負債	企業再生にかかわる資産と負債を理解する
6	再生と起業の関係	企業再生と起業との関係を明らかにする
7	会社分割と事業譲渡、会社譲渡	起業再生の方法を具体的に整理する
8	法的整理（破産と再生）	破産と再生の法的手続を理解する
9	私的整理（任意整理）	私的整理の実態を明らかにする
10	不確実性と期待効用仮説	企業再生に関わる不確実性を考える
11	情報の非対称性	情報の非対称性がもたらす問題と解決策を探る
12	再生の成功例	再生の成功例について原因を探る
13	再生の失敗例	再生の失敗例について原因を探る
14	企業再生シミュレーション	企業再生のシミュレーションを行う
15	まとめ	講義全体のまとめと試験（レポート）対策
16	定期試験	

科目名	外国経営書講読 I			
08年度入学：外国書講読 I				
担当者	黄 和秀 <i>Kazuhide Kou</i>			
対象学年	経済系	2～4年	単 位	2 単位
	経営系	2～4年		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、大学生としての基本的な専門書英語文書が理解できることを目標として進めます。特に、半期あるいは一年間の講義を通じて、英語による専門用語の理解や正確な使い方ができることを期待します。

■授業の進め方（履修条件等）

先生による文書の読み方や内容の説明が行われます。特に、マーケティング経営を中心とした理論への理解が日本語としてやさしく説明されます。英語の理解に限らず、関連する諸理論や現象への理解ができるようスローペースで進めて行きます。

■成績評価方法・基準

出席：50% 定期試験：30% 授業態度：20%

■授業の予習・復習

授業の前には、必ず該当するところの単語などを調べて欲しい。最後には専門用語や文書の読解などのテストがありますので、十分な復習をしないと成果が得られないと思います。

■教科書

最初の授業でマーケティング経営に関連する英語資料を配布します。特に、教科書はありません。

■参考文献

特にありません。

科目名	外国経営書講読Ⅱ		
08年度入学：外国書講読Ⅱ			
担当者	黄 和秀 Kazuhide Kou		
対象学年	経済系	2～4年	単 位 2単位
	経営系	2～4年	

■授業のねらいと到達目標

本講義は、大学生としての基本的な専門書英語文書が理解できることを目標として進めます。特に、半期あるいは一年間の講義を通じて、英語による専門用語の理解や正確な使い方ができることを期待します。

■授業の進め方（履修条件等）

先生による文書の読み方や内容の説明が行われます。特に、マーケティング経営を中心とした理論への理解が日本語としてやさしく説明されます。英語の理解に限らず、関連する諸理論や現象への理解ができるようスローペースで進めて行きます。後期は前期の続きとして進めて行きますので、可能であれば、1年通じての履修が良いと思います。

■成績評価方法・基準

出席：50% 定期試験：30% 授業態度：20%

■授業の予習・復習

授業の前には、必ず該当するところの単語などを調べて欲しい。最後には専門用語や文書の読解などのテストがありますので、十分な復習をしないと成果が得られないと思います。

■教科書

最初の授業でマーケティング経営に関連する英語資料を配布します。特に、教科書はありません。

■参考文献

特にありません。

科目名	基礎学力総合講座Ⅰ（国語）		
担当者	羽村 美和子 Miwako Hamura		
対象学年	1～4年	単 位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学生として身につけておきたい基礎的な漢字力、語彙力や文章読解力を身につける。また、文章の要旨をまとめたり、書いたりすることにより自己表現力を養う力に繋いでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回文章読解と、漢字・語彙力演習の問題を解き、解説をする。また小テストを行ない、基礎力の定着を図る。テキスト、国語辞書は、毎回持参すること。欠席は最小限に留め、休んだ箇所は友人や教員に聴き、補っておくこと。

■成績評価方法・基準

定期試験、小テスト、受講態度、出席状況などにより、総合的に算出する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを予め読み、解らない言葉は辞書で調べておくこと。

復習：漢字、語彙はその都度、何度もくり返し復習し覚える。

■教科書

スーパーパーフェクト演習（尚文出版）

■参考文献

国語辞書（電子辞書可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2	
3 小説の読解と	『嵯峨野明月記』（辻 邦生）『草の花』（福永武彦）などの読解 漢字・語彙演習
4 漢字・語彙	
5	小テスト
6	『無為について』（上日三四二）『鬼の研究』（馬場あき子）などの読解 漢字・語彙演習
7 評論文の読解と	
8 漢字・語彙	
9	小テスト
10	『大和古寺風物誌』（亀井勝一郎）『冬の花』（立原正秋）などの読解 漢字・語彙演習
11 随筆の読解と	
12 漢字・語彙	
13	小テスト
14	文章表現
15	紹介文を書く
16	まとめ
17	
18	定期試験

科目名	基礎学力総合講座Ⅱ (国語)		
担当者	羽村 美和子 <i>Miwako Hamura</i>		
対象学年	1～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

大学生として身につけておきたい基礎的な漢字力、語彙力や文章読解力を身につける。また、文章の要旨をまとめたり、書いたりすることにより自己表現力を養う力に繋いでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回文章読解と、漢字・語彙力演習の問題を解き、解説をする。また小テストを行ない、基礎力の定着を図る。テキスト、国語辞書は、毎回持参すること。欠席は最小限に留め、休んだ箇所は友人や教員に聴き、補っておくこと。

■成績評価方法・基準

定期試験、小テスト、受講態度、出席状況などにより、総合的に算出する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを予め読み、解らない言葉は辞書で調べておくこと。

復習：漢字、語彙はその都度、何度もくり返し復習し覚える。

■教科書

スーパーパーフェクト演習（尚文出版）

■参考文献

国語辞書（電子辞書可）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2	
3 小説の読解と漢字・語彙	『帰れぬ人々』（鷲沢 萌）『清兵衛と瓢箪』（志賀直哉）などの読解 漢字・語彙演習
4	小テスト
5	
6 評論文の読解と漢字・語彙	『文化開国への挑戦』（山崎正和）『文字の森を歩く』（池内 紀）などの読解 漢字・語彙演習
7	小テスト
8	
9	
10 随筆の読解と漢字・語彙	『こんなこと』（幸田 文）『現代詩の鑑賞』（伊藤信吉）などの読解 漢字・語彙演習
11	小テスト
12	
13 文章表現	意見文を書く
14	
15	まとめ
16 定期試験	

科目名	基礎学力総合講座Ⅲ (数学)		
担当者	前田 弘 <i>Hiroshi Maeda</i>		
対象学年	1～4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

本講座は大学生としてまたは近い将来の社会人として恥ずかしくない学力を身につけるためのものです。基礎学力に少しでも不安のある人は積極的に受講して下さい。

■授業の進め方（履修条件等）

毎授業プリントを配布し、演題を通して、基礎学力の充実を計り、SPIの問題が解答できるよう努める。

■成績評価方法・基準

出席状況、受講態度、定期試験等をもて総合的に判断する。

■授業の予習・復習

予習：問題点を整理し、質問できるようにする。

復習：必ず期間を置いて反復して行う。

■教科書

毎回プリント配布

■参考文献

SPI問題集 成美堂出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 小数	
3 分数	
4 数量とグラフ	
5 式と計算	
6 1次方程式	
7 2次方程式	
8 連立方程式	計算・演習
9 文章題	
10 不等式	
11 1次関数	
12 2次関数	
13 ブラックボックス	
14 位置と方向	
15 n乗根	
16 定期試験	

科目名	基礎学力総合講座Ⅳ (数学)		
担当者	前田 弘 <i>Hiroshi Maeda</i>		
対象学年	1 ~ 4年	単位	1単位

■授業のねらいと到達目標

本講座は大学生としてまたは近い将来の社会人として恥ずかしくない学力を身につけるためのものです。基礎学力に少しでも不安のある人は積極的に受講して下さい。

■授業の進め方（履修条件等）

毎授業プリントを配布し、演題を通して、基礎学力の充実を計り、SPIの問題が解答できるよう努める。

■成績評価方法・基準

出席状況、受講態度、定期試験等をみて総合的に判断する。

■授業の予習・復習

予習：問題点を整理し、質問できるようにする。
 復習：必ず期間を置いて反復して行う。

■教科書

毎回プリント配布

■参考文献

SPI問題集 成美堂出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	計算・演習
2 仕事算	
3 年齢算	
4 鶴亀算	
5 水槽算	
6 損益算	
7 速さ・時間・距離	
8 濃度算	
9 植木算	
10 通過算	
11 流水算	
12 てこ・滑車	
13 電気回路	
14 n進法	
15 確率	
16 定期試験	

シラバス

Ⅲ ライセンスプログラム

平成23年度 ライセンスプログラムの取り扱い

ライセンスプログラムの取り扱いについては、次の通りとします。

なお、資格取得支援講座については、実施部署より、別途掲示等によりお知らせします。

I 概要

- ①本プログラムは、就職に有利な資格取得を支援するために設置されています。
- ②資格試験合格に対して、単位を認定します。
- ③単位の認定は、カリキュラムに掲げた科目の資格試験（主として学外の公の機関により実施）に限定します。
- ④本学では、資格取得支援講座の開講及び資格試験を実施（ただし、全ての講座ではありません）しております。
- ⑤この講座は正規の授業ではありません。したがって、必ずしも正規の時間中に行われるものではありません。
- ⑥各資格取得支援講座は有料です。

II 共通取り扱い事項

- ①敬愛大学在学中に合格した資格試験に限り、単位認定します。
- ②単位認定には、合格を証明するものを提示する必要があります。
 ※4年生は、当該年度の2月末日までに合格を証明するものを提示しなければ、当該年度の単位認定はいたしません。
 なお、前期末卒業予定者の場合は、当該年度の7月末日までとします。
- ③認定単位は、自由選択科目枠の卒業単位に参入することとし、合計で12単位までとします。

III 成績評価

- ①原則として、単位認定は80点（優）とします。
- ②ライセンスプログラムで認定された単位は、各学年に履修登録できる単位数の上限に含みません。

IV ライセンスプログラム認定科目及び単位一覧

科目名	認定単位数		成績評価要件
	09・11カリ	08・07カリ	
※ 検定英語Ⅰ	2	2	TOEIC® 500点以上取得者
※ 検定英語Ⅱ	4	4	TOEIC® 560点以上取得者
検定経営学	2	2	初級合格
検定経済学	2	2	偏差値37～41
			偏差値42～46
			偏差値47～49
			偏差値50以上
財務諸表論	4	4	税理士試験合格
簿記論	4	4	
税法	4	4	
※ 建設業経理士Ⅰ	2	2	3級合格
※ 建設業経理士Ⅱ	4	4	2級合格
※ 情報処理入門Ⅰ	1	2	®Microsoft Office Specialist Word 2003 合格
※ 情報処理入門Ⅱ	1	2	®Microsoft Office Specialist Excel 2003 合格
情報処理Ⅰ	2	2	®Microsoft Office Specialist Word 2003 Expert 合格
			MCAS Using Microsoft Office Word 2007 合格
情報処理Ⅱ	2	2	®Microsoft Office Specialist Excel 2003 Expert 合格
			MCAS Using Microsoft Office Excel 2007 合格
情報処理入門Ⅲ	2	2	®Microsoft Office Specialist Power Point 2003 合格
			MCAS Using Microsoft Office Power Point 2007 合格
情報処理入門Ⅳ	2	2	®Microsoft Office Specialist Access 2003 合格
			MCAS Using Microsoft Office Access 2007 合格
情報システム概論	4	4	®IC3（以下の2科目）合格 ・コンピューティングファンダメンタルズ ・リビングオンライン
			パソコン検定試験（P検）2級 合格
			ITパスポート（国家資格）合格
※ 検定簿記Ⅰ	2	2	日商簿記検定3級合格
※ 検定簿記Ⅱ	4	4	日商簿記検定2級合格
※ 秘書検定Ⅰ	2	2	秘書検定試験3級合格
※ 秘書検定Ⅱ	4	4	秘書検定試験2級合格
※ 販売士Ⅰ	2	2	販売士検定試験3級合格
※ 販売士Ⅱ	4	4	販売士検定試験2級合格
※ 検定ビジネス能力Ⅰ	2	2	ビジネス能力検定試験3級合格
※ 検定ビジネス能力Ⅱ	4	4	ビジネス能力検定試験2級合格

※の科目については、Ⅰを取得後Ⅱを取得した場合、Ⅰの単位は取り消され、Ⅱの単位のみとなる。
 評価は90点となる。Ⅱだけを取得した場合も4単位、90点となる。

シラバス

Ⅳ 教職及び教科に関する科目

科目名	教育原論Ⅰ		
08年度入学：教育原論Ⅰ			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
対象学年	1～2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教職を志望する学生諸君に健全な教育観、人間観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と第二次大戦後の教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質と課題に関心を深めることを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとにしながら授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読んでおく。

復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

中山幸夫・田中正浩編著『教育学のグランドデザイン』八千代出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状
2 教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育
3 教育の目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性 教育目的の歴史の変遷
4	
5	西洋古代・中世の教育思想
6 教育の思想	西洋近世・近代の教育思想
7	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立
8	新教育の思想と新教育運動の展開
9	近代公教育の導入と明治期の教育
10 日本の近代化と教育	大正デモクラシーと新教育
11	戦争と教育
12	戦後教育改革の始動と展開
13 教育改革の軌跡	高度経済成長と教育
14	教育改革の模索と臨時教育審議会
15	今日の教育改革
16 定期試験	

■参考文献

授業時に紹介する。

科目名	教育原論Ⅱ		
08年度入学：教育原論Ⅱ			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
対象学年	1～2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教育原論Ⅰ（前期）の学習をふまえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の制度や学校における教育課程編成の方法について理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとにしつつ授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次のテーマに関してテキスト等の指定範囲を読んでおく。

復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍
 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房
 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房
 文部科学省『小学校学習指導要領解説－総則編－』東京書籍

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	教育課程の意義と課題（総論）
2	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム
3 教育課程の類型	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム
4	学習指導要領（1）昭和22年版、昭和26年版
5 学習指導要領の変遷	学習指導要領（2）昭和33年版、昭和42年版
6	学習指導要領（3）昭和52年版、平成元年版
7	学習指導要領（4）平成10年版、平成20年版
8 教育課程編成の原理	教育課程にかかわる法令と編成基準
9	小学校における教育課程編成の方法
10 教育課程編成の方法	中学校における教育課程編成の方法
11	高等学校における教育課程編成の方法
12	総合的な学習の時間をめぐる問題
13 教育改革と教育課程	総合学科のカリキュラムをめぐる問題
14	教育課程と学力をめぐる問題
15	教育課程の改善に向けて（総括）
16 定期試験	

■参考文献

授業時に紹介する。

科目名	教育心理学（分）A・B		
08年度入学：教育心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
対象学年	1～2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（10％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（30％）で評価する予定である。

■授業の予習・復習

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

山崎史郎編『教育心理学ルック・アラウンド』ブレイン出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	教育心理学の領域と課題	分野の紹介
3	発達（1）	発達理論、発達段階
4	〃（2）	母性剥奪について
5	教育と発達（1）	成熟と学習の関係について
6	〃（2）	英才教育は役に立つのか？
7	知能	知能とは。知能指数の出し方
8	性格（1）	性格の形成過程について
9	〃（2）	エゴグラム
10	動機づけ	「やる気」とは
11	授業の過程	教授学習過程について
12	評価	教育評価の内容
13	適応と障害（1）	適応と教育
14	〃（2）	障害の理解
15	まとめ	まとめと質問
16	定期試験	

科目名	発達心理学（分）A・B		
08年度入学：発達心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
対象学年	1～2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関する知識を修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（10％）・レポート及びその他の課題（10％）・出席（30％）

■授業の予習・復習

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

使用しない。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について
3	本能的行動	「インプリンティング」を例に、本能と学習を考える
4	遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について
5	胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について
6	幼児期	幼児期の特徴について
7	児童期	児童期の特徴について
8	青年期	青年期の特徴について
9	発達障害（1）	LD、ADHD、広汎性発達障害について
10	〃（2）	事例紹介
11	〃（3）	事例紹介
12	発達理論（1）	ピアジェの発達理論について
13	〃（2）	エリクソンの発達理論
14	〃（3）	その他の発達理論
15	まとめ	まとめと質問
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 教職概論		
08年度入学：教職概論			
担当者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto		
対象学年	1～2年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教員を目指す者にとって教職の意義を理解し、教職への進路意識をより明確にするとともに、教師としての使命感、責任感を自覚できるようにすること。

■授業の進め方（履修条件等）

教職に関する事項を広範囲に講義する予定である。したがって、学生自らが教職に向っての意欲や適性を振り返ったり、確認したりできるように進める。

■成績評価方法・基準

出席点、平常点、レポート、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

『教職概論』（第3次改訂版）ISBN978-4-313-61137-5 C1037

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教職の意義（1）	教職を目指す者にとって
2 //（2）	教員養成について
3 //（3）	教職課程で学ぶこと
4 教員の任用と服務（1）	教職員の配置と任用
5 //（2）	服務と勤務条件
6 教師の職務内容（1）	校務分掌について
7 //（2）	管理職と主任
8 //（3）	学習指導
9 //（4）	生徒指導
10 //（5）	学級経営と教育相談
11 //（6）	職場の人間関係とPTA
12 教師の資質向上（1）	研修制度
13 //（2）	教師のライフステージ
14 教育実習	教育実習の意義と心得
15 教員採用	教員採用選考の現状
16 定期試験	

科目名	【教職科目】 教育行政		
08年度入学：教育行政			
担当者	小西 紀男 Norio Konishi		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教育改革が進む中で、学校現場では多様化する児童生徒・保護者への適切な対応が重要視され、新しい時代に対応した教育行政のあり方が問われています。そこで、わが国における教育行政の特質と課題、及び行政改革の内容について考え、教職員の任免や服務等を学校現場の実務に即して学びます。また、この授業は、教員採用試験受験者に役立つ内容と方法に重点を置いて進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間配布する資料を読解するとともに、各自が「学習ノート」を完成させながら幅広い教職教養を身につけていきます。また、履修者は「教育原論」「教職概論」等の単位を取得した2～3年生が対象となります。

■成績評価方法・基準

定期考査時に論述試験を実施します。また、教員養成の観点から授業に臨む姿勢及び出席状況を評価に加えます。

■授業の予習・復習

授業に臨む前に、新聞・テレビ等の情報で教育時事問題に関する教養を身につけておくことが大切です。

■教科書

教科書は使用しない。毎時間配布する資料および「学習ノート」を利用する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と内容および評価
2 民主的教育行政の確立①	戦前の教育
3 民主的教育行政の確立②	憲法・教育基本法の成立
4 民主的教育行政の確立③	民主的教育行政の現状
5 教育行政の組織と機能①	国の教育行政
6 教育行政の組織と機能②	地方自治と教育行政
7 教育関係職員①	教育職員の身分と現状
8 教育関係職員②	校長・教頭及び教育職員の職務
9 教育関係職員③	教育職員の分限及び懲戒
10 教育関係職員④	教育職員の服務と研修
11 教育関係職員⑤	勤務の現状と教職員団体
12 教育行政の課題①	学校の施設設備と環境整備
13 教育行政の課題②	教育改革への取り組み
14 教育行政の課題③	関係法規の改訂
15 教育行政の課題④	学習指導要領の改訂
16 定期試験	

■参考文献

解説教育六法（三省堂）・学習指導要領（文部科学省）

科目名	【教職科目】 教育法規		
08年度入学：教育法規			
担当者	小西 紀男 <i>Norio Konishi</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

近年、学校現場では多様化する児童生徒・保護者への適切な対応が重要視され、教育法規に関する基礎知識が強く求められてきています。そこで、憲法・教育基本法・学校教育法など、教育に関する主たる法規について学び、教育活動の法的根拠を理解するとともに、教育現場での応用力を身につけます。また、この授業は、教員採用試験受験者に役立つ内容と方法に重点を置いて進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間配布する資料を読解するとともに、各自が「学習ノート」を完成させながら幅広い知識と応用力を身につけていきます。また、履修者は「教育原論」「教職概論」等の単位を取得した2～3年生が対象となります。

■成績評価方法・基準

定期考査時に論述試験を実施します。また、教員養成の観点から授業に臨む姿勢及び出席状況を評価に加ええます。

■授業の予習・復習

授業に臨む前に、新聞・テレビ等の情報で教育時事問題に関する教養を身につけておくことが大切です。

■教科書

教科書は使用しない。毎時間配布する資料および「学習ノート」を利用する。

科目名	教育方法論		
08年度入学：教育方法論			
担当者	柳原 由美子 <i>Yumiko Yanagihara</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開して行きます。

■成績評価方法・基準

次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。

- 1) 筆記試験（中間・期末）70%
- 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したミニ授業 30%
- 3) プログラム学習教材の作成 30%

■授業の予習・復習

予習：初回の授業の際に提示された参考文献のうち、次の授業に必要な単元について眼を通しておくこと
復習：レジュメに書かれている各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

毎回配布する印刷物（レジュメetc.）を利用します。

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と内容および評価
2 教育に関する法の基礎知識	国と地方自治体の教育法規
3 基本的法規①	日本国憲法①（憲法と教育条項）
4 基本的法規②	日本国憲法②（基本的人権の尊重）
5 基本的法規③	教育基本法①（教育の目標と機会均等）
6 基本的法規④	教育基本法②（学校・家庭・社会の教育）
7 人権と福祉の法規①	児童憲章・人権宣言・児童福祉法
8 人権と福祉の法規②	権利条約・虐待の防止に関する法規
9 学校教育の法規①	学校教育法①（学校の設置管理と就学）
10 学校教育の法規②	学校教育法②（学校種別の設置目的）
11 学校教育の法規③	学校法施行規則・学校保健法
12 行財政に関する法規	地方教育行政に関する法規
13 職員に関する法規①	地方公務員法・教育公務員特例法
14 職員に関する法規②	教育職員免許法・労働基準法
15 他の法規	少年法・国家賠償法・情報公開法
16 定期試験	

■参考文献

解説教育六法（三省堂）教育法令百選（有斐閣）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、評価、プレゼンテーションについての説明
2 教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTとは、スキーマとは
3 変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違
4 授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化
5 授業の歴史（1）	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立、
6 授業の歴史（2）	ベスタロッチ、ヘルバルト、ツィラー等の教授の変遷
7 授業の歴史（3）	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育
8 中間試験	試験の解説（復習）
9 いろいろな教育（1）	オープン教育の発展と現状、その難しさと可能性
10 いろいろな教育（2）	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境
11 いろいろな教育（3）	視覚メディアの特質とその利用、視覚教育の変遷
12 プレゼンテーション（1）	学生による視覚覚機器を利用した発表
13 プレゼンテーション（2）	学生による視覚覚機器を利用した発表
14 授業のパラダイム転換（1）	行動科学のパラダイム、行動科学への批判（1）
15 授業のパラダイム転換（2）	行動科学への批判（2）、参与観察による研究
16 定期試験	

科目名	社会科・地歴科指導法Ⅰ		
08年度入学：社会科・地歴科教育法			
担当者	坂東 佶司 Takeshi Bandou		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

社会科の授業は、知識注入型の授業から、「学び方を学ぶ学習」の指導が重視され、調査、思考、表現、作業学習など実践的な課題解決的学習活動が求められている。地理・歴史の学習を中心に、基礎理論、教材理解・研究の方法、授業の方法論等について実践例によって検証する。

■授業の進め方（履修条件等）

教師作成のプリントならびに中学校学習指導要領解説—社会編に基づいて授業をすすめる。授業では、各自が「学習指導要領」を分担し、レポートすることで内容理解に努める。

■成績評価方法・基準

課題小論文（50点） 定期試験（50点）

■授業の予習・復習

レポートするときには必ずレジュメを作成する。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—社会編 文部科学省

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、アンケート
2		社会科教育の理念
3	社会科教育の基本	社会科教育の歴史
4		社会科教育の展望（今日的課題）
5	社会科の学力観	社会認識の過程と社会科の学力
6	社会科の授業観	わかる授業・楽しい授業
7		地理的分野の学習
8		地理的分野の指導と方法
9	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の学習
10		歴史的分野の指導と方法
11		問題解決学習と系統学習の理論
12		地理・歴史の教材研究
13	社会科授業の方法論	地理・歴史の指導技術
14		社会科の作業的・体験的学習の方法
15	社会科の評価	社会科の評価と展望

科目名	社会科・地歴科指導法Ⅱ		
担当者	坂東 佶司 Takeshi Bandou		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

社会科・地歴科指導法Ⅰで学んだ理論がどのような観点で学習が行われているか、中学校学習指導要領解説—社会編の教科指導の方針や理念について、実際に使用されている教科書によって検証し、学習内容や指導方法について理解するとともに学習指導案が作成できるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・地歴科指導法Ⅰを履修した者が受講できる。教科書を使用し学習指導要領の内容と関連させ指導のポイントを理解する。

■成績評価方法・基準

レポート作成40点 課題発表60点

■授業の予習・復習

授業では、毎回、発表方式を採用しているので発表者は必ず準備をして授業に臨む。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—社会編 文部科学省
 中学校教科書 東京書籍版
 （地理的分野）新編新しい社会 地理
 （歴史的分野）新編新しい社会 歴史

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1		オリエンテーション（授業の進め方）
2		中学校社会科の構造（地歴分野と公民的分野の関連性）
3		地理的分野学習内容の分析Ⅰ（世界の様々な地域）
4		Ⅱ（ // 教科書による分析）
5		Ⅲ（日本の様々な地域）
6		Ⅳ（ // 教科書による分析）
7		Ⅴ（地理的内容の取り扱いに関する考察）
8		歴史的分野学習内容の分析Ⅰ（小・中・高の歴史学習の関連）
9		Ⅱ（古代までの日本）
10		Ⅲ（中世の日本）
11		Ⅳ（近世の日本）
12		Ⅴ（近代の日本と世界）
13		Ⅵ（現代の日本と世界）
14		地理・歴史的分野の学習指導計画案の作成（課題）
15		中学校社会科授業参観とレポート提出（佐倉市立根郷中学校）

科目名	地理歴史科指導法		
08年度入学：地理歴史科教育法			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

主に高校の地歴科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校地歴科の日本史、世界史、地理の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式及び演習。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地歴科を教えるということ	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2	地理・歴史を学ぶ意味をどう伝えるか	学問としての地理・歴史と授業としてのそれとの違い
3	講義録とプリントをどう作るか	魅力的な講義、わかりやすいプリントとは
4	地理的空間認識演習-1	アジア地域の地図の作成演習
5	日本史で地域教材をどう扱うか-1	律令体制の崩壊から荘園の発生
6	日本史で地域教材をどう扱うか-2	荘園の発展と武士団の形成
7	日本史で地域教材をどう扱うか-3	鎌倉幕府の成立と千葉常胤
8	地理的空間認識演習-2	ヨーロッパ地域の地図の作成演習
9	世界史で環境問題をどう扱うか-1	神話に残った森の伐採
10	世界史で環境問題をどう扱うか-2	森の木材が海軍力を決める
11	世界史で環境問題をどう扱うか-3	ロンドン、パリにおける都市問題の解決
12	地理的空間認識演習-3	アメリカ地域の地図の作成演習
13	地理で隣国中国をどう扱うか-1	中国の歩みと人びと
14	地理で隣国中国をどう扱うか-2	多様な自然と農業
15	地理で隣国中国をどう扱うか-3	世界の工場としての中国
16	定期試験	

科目名	社会科・公民科指導法 I		
08年度入学：社会科・公民科教育法			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる教員としての心構え、教育上の諸技法の基礎的理論と現実を理解する

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式及び演習
教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2011
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2011

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	教師とはどんな仕事か	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2	教育における「場」の設定	生徒理解、生徒との間合いの取り方
3	社会科を教えるということ	社会科教員としての基礎的資質
4	生徒の思考回路を回すということ	発問の仕方、プリントの作り方
5	社会科における評価	生徒を多角的に評価するということ
6	学習指導案の書き方	学習指導案作成上の留意点
7	社会科における基礎知識演習-1	日本の行政区分
8	日本国憲法の扱い方-1	平和主義を例に
9	日本国憲法の扱い方-2	基本的人権を例に
10	社会科における基礎知識演習-2	世界の国家と国家連合
11	経済分野の扱い方-1	生産活動と物の価格を例に
12	経済分野の扱い方-2	金融と財政を例に
13	社会科における基礎知識演習-3	20世紀以降の日本と世界の主な出来事
14	時事問題の扱い方-1	裁判員制度を例に
15	時事問題の扱い方-2	環境問題を例に
16	定期試験	

科目名	社会科・公民科指導法Ⅱ		
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる、心構え、知識、授業展開の技能などを実践的に育成する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・公民科指導法Ⅰの先修を原則とする。模擬授業を数多く行い、実践的訓練をする。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』
帝国書院 2011
- 『新編中学校社会科地図』
帝国書院 2011

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中学校学習指導要領について	平成20年版学習指導要領中学校社会科改訂の要点
2	視聴覚教材の扱い方-1	視聴覚教材を使う上での留意点
3	視聴覚教材の扱い方-2	視聴覚教材の実例
4	社会科と国際理解教育	社会科の観点から見た国際理解教育の目指すもの
5	社会科学習指導の研究-1	学生による模擬授業 企業の活動
6	社会科学習指導の研究-2	学生による模擬授業 市場経済
7	社会科学習指導の研究-3	学生による模擬授業 税金の使い道
8	社会科学習指導の研究-4	学生による模擬授業 基本的人権
9	社会科学習指導の研究-5	学生による模擬授業 国会のあり方
10	社会科学習指導の研究-6	学生による模擬授業 地方自治
11	社会科学習指導の研究-7	学生による模擬授業 裁判員制度
12	社会科学習指導の研究-8	学生による模擬授業 国連と地域機構
13	社会科学習指導の研究-9	学生による模擬授業 地球温暖化
14	社会科学習指導の研究-10	学生による模擬授業 地域紛争
15	高校入試（社会科）について	公立高校入試問題への対応
16	定期試験	

科目名	公民科指導法		
08年度入学：公民科教育法			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

主に高校の公民科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校公民科の政経、倫理、現代社会の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

おおむね出席状況25%、小テスト、課題レポート等25%、試験（またはレポート）50%の割合で評価する。授業の出席日数が2/3以下の者については、原則として単位認定をしない。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	高校学習指導要領について	平成21年版学習指導要領高校公民科改訂の要点
2	戦争と平和をどう教えるか-1	二つの世界大戦
3	戦争と平和をどう教えるか-2	キューバ危機
4	戦争と平和をどう教えるか-3	有事法制
5	経済事象の取り扱い方-1	市場経済の原理
6	経済事象の取り扱い方-2	経済現象の図式化
7	経済事象の取り扱い方-3	市場の失敗
8	経済事象の取り扱い方-4	価格弾力性
9	宗教をどう教えるか-1	キリスト教
10	宗教をどう教えるか-2	仏教
11	宗教をどう教えるか-3	イスラム教
12	哲学をどう教えるか-1	宗教と哲学の違い、哲学の諸課題
13	哲学をどう教えるか-2	ソクラテスの「無知の知」をテーマに
14	哲学をどう教えるか-3	ソクラテスの「よく生きる」ということをテーマに
15	教員採用試験	教員採用試験の実際
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 商業科指導法		
08年度入学：商業科教育法			
担当者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

商業教育に関する基本的な事項について学習するとともに、商業科教師としての知識・技術の修得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

高等学校における商業教育の担当者として活躍できるように、できるだけ実践的な内容とするとともに、学生からの質問や回答をとおして、学生が意欲的に学習できるように進める。

■成績評価方法・基準

出席点、平常点、レポート、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

『高等学校学習指導要領解説商業編』ISBN978-4-407-32002-2

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	学校教育と学習指導要領	後期中等教育としての高校教育
2	普通教育と専門教育	普通科高校と専門高校
3	商業高校と商業教育	産業教育としての商業教育
4	教科「商業」の目標	商業教育の目指すもの
5	教科の組織	学習分野と科目の構成
6	商業諸科目の内容(1)	基礎的な科目について
7	〃 (2)	総合的な科目について
8	〃 (3)	マーケティング分野の科目について
9	〃 (4)	ビジネス経済分野の科目について
10	〃 (5)	会計分野の科目について
11	〃 (6)	ビジネス情報分野の科目について
12	商業に関する学科	各専門学科の特色
13	学習指導と資格取得	商業に関する資格とその指導
14	商業教育とキャリア教育	商業高校における進路指導
15	まとめ	商業教育の現状と課題
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 商業科教材研究		
08年度入学：商業科教材研究			
担当者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

商業科教員としての指導力、実践力の育成を主たる目標とし、各科目の具体的な指導法を身に付けさせる。

■授業の進め方（履修条件等）

指導計画や学習指導案を実際に作成し、模擬授業をとおして、学習指導にかかる計画、実施、評価についての実践力が身につくように進める。なお、「商業科指導法」を履修済であること。

■成績評価方法・基準

出席点、平常点、レポート、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

『高等学校学習指導要領解説商業編』ISBN978-4-407-32002-2

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	学校指導の工夫(1)	学習指導計画について
2	〃 (2)	指導形態や指導方法について
3	〃 (3)	教科書や副教材について
4	学習指導案(1)	指導案の意義とその作成方法
5	〃 (2)	模擬授業用指導案の検討
6	模擬授業(1)	基礎的な科目による
7	〃 (2)	マーケティング分野の科目による
8	〃 (3)	ビジネス経済分野の科目による
9	〃 (4)	会計分野の科目による
10	〃 (5)	ビジネス情報分野の科目による
11	教育課程の編成(1)	教育課程の意義とその編成
12	〃 (2)	商業科の教育課程表の実際
13	商業教育と評価	評価のあり方と単位認定
14	商業教育と研修	指導力の向上を目指した研修
15	まとめ	商業教育の展望(これまでとこれから)
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 情報科指導法 I		
08年度入学：情報科教育法 I			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

情報化社会の現状と進展を考察するとともに、必修教科「情報」が設置された趣旨を理解し、小・中・高等学校を通じた情報教育を体系的に把握した上で、教科「情報」の各科目の目標、内容等について検討し効果的な指導方法・評価法を考察する

■授業の進め方（履修条件等）

小・中・高における情報教育全体の体系と高校生が身に付けるべき内容、及び実際に授業を行う際の指導法および留意すべき点について、前期は主に講義を中心に進める。

■成績評価方法・基準

出席状況、平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：高等学校の教科体系を把握するとともに、授業の展開を通して教科「情報」の全容を周知できるよう学習すること。
復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

高等学校学習指導要領解説 情報編（H22.5.12初版発行）
文部科学省 海隆堂出版
その他、プリント教材を配布して使用する。

■参考文献

『情報科教育のための指導法と展開例』
岡本敏雄、西野和典編著 実教出版
『新しい情報教育の理論と実践の方法』 宮地 功著 実教出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と概要
2 情報化社会の現状と進展	産業社会及び学校教育における情報化
3 学校教育に係る法制度	法体系の概要と学習指導要領
4 情報教育の設置経緯	教科「情報」の設定に至る背景と目標
5 情報教育の体系と目標	小・中・高校を通じた教育体系
6 高校における情報教育	現行及び新学習指導要領の変化
7 普通教科「情報」の科目（1）	「社会と情報」の学習目標と指導内容
8 普通教科「情報」の科目（2）	「情報の科学」の学習目標と指導内容
9 専門教科「情報」の科目	各科目の学習目標と指導内容
10 教育評価	情報科教育における教育評価と工夫
11 情報倫理とセキュリティ	学校教育における指導内容
12 学校の情報管理	ネットワーク社会における管理
13 情報の表現と発信	情報とデータ、情報量とデータ量
14 社会における情報システム	具体例とシステムの役割
15 まとめ	講義のまとめ
16 定期試験	

科目名	【教職科目】 情報科指導法 II		
08年度入学：情報科教育法 II			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教科「情報」担当教員としての実践力を育成することを主たる目標とし、これまでに得た情報に関する知識・技術を学校教育における学習指導的視点で再構築する方策や、教材・教具の工夫、活用等について学ぶことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

教材の分析や問題把握、評価法等についての実践力を育成するため模擬授業を行うとともに、指導内容や方法等について互いにディスカッションする時間を多くとる。

■成績評価方法・基準

出席状況、レポート、模擬授業、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：高等学校学習指導要領に示された教科「情報」の目標及び内容とその取り扱いを熟読しておくこと。
復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

高等学校学習指導要領解説 情報編（H22.5.12初版発行）
文部科学省 海隆堂出版
その他、プリント教材を配布して使用する

■授業内容

授業項目	授業内容
1 年間指導計画と学習指導案	作成の意義と内容
2 学習評価	学習指導と評価の工夫
3 情報通信ネットワーク	学習指導への利用
4 学習指導の工夫（1）	教材・教具の作成及び利用
5 学習指導の工夫（2）	プレゼンテーションの技法
6 模擬授業準備（1）	年間学習指導計画の作成
7 模擬授業準備（2）	学習指導案の内容、留意点
8 模擬授業準備（3）	学習指導案検討、教材研究
9 模擬授業（1）	模擬授業、授業内容・方法・評価法等 討論
10 模擬授業（2）	模擬授業、授業内容・方法・評価法等 討論
11 模擬授業（3）	模擬授業、授業内容・方法・評価法等 討論
12 模擬授業評価、総括	効果的な授業法
13 情報倫理とセキュリティ	情報倫理・セキュリティの指導
14 校務分掌と情報管理	校務分掌組織と情報管理
15 まとめ	講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『情報科教育のための指導法と展開例』
岡本敏雄、西野和典編著 実教出版
『新しい情報教育の理論と実践の方法』 宮地 功著 実教出版

科目名	【教職科目】 情報と職業		
08年度入学：情報と職業			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

情報化社会の進展と情報関連職業、並びに情報倫理を含む職業観などを学び、情報に関する職業人としての在り方等を理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

配布プリントによる講義形式を中心とし、情報化社会における情報産業の役割とそこで働く職業人として必要な基本的事柄を具体的な事例に基づき学習する。

■成績評価方法・基準

出席状況、平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：情報関連の記事や文献等に日常的に目を通し、情報化社会の現状を把握しておくこと。

復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■参考文献

『情報と職業』豊田雄彦・加藤 晃・鈴木和雄共著
（株）日本教育訓練センター
 『実践情報システム』秋山哲男著 中央経済社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「情報と職業」の意義	目標と授業計画
2 情報産業と職業	産業の情報化と情報の産業化
3 情報関連の業種	情報に関連した仕事
4 情報化の進展と専門職	情報処理と情報関連専門職
5 オフィス・コンピューティング	仕事の効率化と業績の向上
6 情報に関連する職業資格	職業資格と職業適性
7 キャリア形成と自己理解	キャリア形成と企業が求める人材像
8 情報に関わる法制度(1)	法体系と情報に関する法令
9 情報に関わる法制度(2)	情報化の進展と法制度の整備
10 情報倫理	情報倫理の要素と情報モラル
11 情報化とプライバシー	プライバシーポリシーとガイドライン
12 情報リスクマネジメント	マネジメントとセキュリティポリシー
13 キャリアデザイン	キャリア形成とキャリア支援
14 情報技術とビジネス	ビジネスへの情報技術の活用
15 まとめ	講義のまとめ
16 定期試験	

科目名	道徳教育研究（分）A・B		
08年度入学：道徳教育研究			
担当者	中山 幸夫 <i>Yukio Nakayama</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

今日のが国社会の現状に関心を寄せながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通して、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標とした。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料（副読本）や実践例について検討を加える。課題図書を読むことも履修条件とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を動案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：課題レポートの作成。

復習：課題レポートの再検討

■教科書

文部科学省『小学校／学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版
 文部科学省『中学校／学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版
 宇佐美 寛『「道徳」授業に何が出来るか』明治図書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題（総論）
2 わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育 戦後の道徳教育
4 道徳教育の思想・理論	道徳教育の思想 道徳性の発達理論
6 家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育 地域社会における道徳教育
8 「道徳」授業のあり方	学習指導要領における「道徳」の時間 「道徳」授業の現実 「道徳」授業の課題 「道徳」授業の改善
12 学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育 特別活動と道徳教育 総合的な学習の時間と道徳教育
15 総括	道徳的実践力の育成はいかにして可能となり得るか
16 定期試験	

■参考文献

授業時に紹介する。

科目名	特別活動研究		
08年度入学：特別活動研究			
担当者	坂東 侑司 <i>Takeshi Bandou</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

特別活動は、「なすことによって学ぶ」実践的な学習機会になっている。生徒の自主的・実践的な活動、集団生活の人間関係づくり、体験活動の教育的効果、指導力が期待される学級担任の在り方等についての理解深めて特別活動の方向性について考察するようにします。

■授業の進め方（履修条件等）

教師が配布する学習プリント、中学校学習指導要領解説－特別活動編を中心教材として使用し発表等を重視する主体的学習機会となるようにする。理論に基づいた特別活動の実践事例及び研究成果の紹介をとおして内容を理解できるようにします。

■成績評価方法・基準

毎時間提出のレポート内容の評価（50点）及び定期試験（50点）で行います。

■授業の予習・復習

特に必要ありません

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－特別活動編
文部科学省 ぎょうせい

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方・特別活動の現状と課題
2 特別活動とは何か	特別活動の目標・教育的意義
3	特別活動の歴史
4	学級経営の理論・学級経営の内容
5	学級活動指導計画の作成と評価
6 特別活動の理論・内容・方法	生徒会活動の理論
7	生徒会活動の方法論
8	学校行事の理論
9	学校行事の方法論
10	学級づくりの方法論
11 特別活動の技法	自然体験・社会体験等の指導法
12	生徒活動の支援と指導法
13	教科・道徳・生徒指導と特別活動の関連性
14 学校経営と特別活動	特別活動指導計画の作成
15	特別活動における評価と活用

科目名	生徒指導論		
08年度入学：生徒指導論			
担当者	坂東 侑司 <i>Takeshi Bandou</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

生徒指導は、生徒の望ましい人格形成、自己実現を支援するために組織的、計画的、継続的に行われ、教育目標達成に欠かせない教育活動になっています。学校生活の充実、将来の人生設計に必要な自己指導能力の育成、主体的な進路選択ができる指導、支援の理論や方法について事例によって理解することになります。

■授業の進め方（履修条件等）

生徒指導や進路指導の在り方、学校生活の様々な場面で応用される指導理論や指導方法について、個々の体験、学校における様々な実践事例を題材として取り上げ具体的に検証することになります。

■成績評価方法・基準

レポート50点、テスト（50点）で行います。

■授業の予習・復習

必要ありません。

■教科書

生徒指導提要 文部科学省 290円

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の方法・生徒指導の現状と課題
2	生徒指導の意義・性格・機能
3 学校における生徒指導	生徒指導の組織・目標・計画
4	生徒指導と教科・道徳・特別活動
5	適応と発達課題
6	自己指導能力
7 生徒指導の理論と方法	生徒理解
8	問題行動
9	生徒指導と法規
10	進路指導の現状と課題・歴史
11	進路指導の方法原理（意義・性格・機能）
12 学校における進路指導	進路指導の組織と運営（計画の作成）
13	高校中退、進路相談
14	進路指導の教育課題（キャリア教育）と評価
15 生徒指導・進路指導と学級担任	

科目名	教育相談		
08年度入学：教育相談			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関する知識を修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教育相談における生徒理解の考え方を概説する。その後、教科書の各章を学生が各自分担し、報告を行う。その報告内容に対して教員が補足説明を行う形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席（40%）・発表及びその他の課題（40%）・授業態度（20%）

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書を読んでおくこと。

■教科書

川島・勝倉編著『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』ブレイン出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	生徒指導、教育相談とは	発達の視点からの教育相談
3	学校での社会的スキル	対人行動の基本的技術について
4	学校でのカウンセリング	カウンセリングマインドについて
5	システムアプローチ	問題行動をどうとらえるのか
6	発達障害	LD、ADHD等について
7	キレル子ども（1）	キレル子の特徴
8	〃（2）	キレないための生徒指導
9	不登校	様々な事例から考える
10	いじめ	いじめ防止には何が必要なのか
11	孤立児童・生徒	集団内での孤立状態について考える
12	スクールカウンセラーとは	スクールカウンセラーの意義
13	教師のメンタルヘルス	教師自身の精神衛生について
14	学校と地域	地域との連携について
15	まとめ	まとめと質問
16	定期試験	

■参考文献

上杉賢士著『総合的な学習を楽しむコツー チャータースクールからの示唆一』明治図書
 上杉賢士著『総合学習進化論 一12年間で育てる学力一』明治図書

科目名	教職総合演習		
08年度入学：教職総合演習			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

人類に共通する課題、わが国社会全体に関わる諸課題の複雑性・総合的な性格を理解しつつ、具体的な研究テーマについての分析・検討を進め、「知の総合化」をめざす。併せて、これらのテーマを学校現場（小・中・高等学校）で児童・生徒が学習できるように教材化の工夫を図ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

以下の取り組みを中心に授業を進める。

- ①グループで諸課題に関する研究テーマを設定し、それらについて文献、資料を収集し、まとめ、発表する。
- ②文献・資料の収集だけでなく、インターネットを活用した情報の収集および整理、実在の人を介しての情報収集など、見通しを立てたうえでの取り組みを進める。
- ③発表においては、情報機器などを活用した効果的なプレゼンテーションが望まれる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、テーマ発表（30%）、レポート（20%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

グループでの発表準備。

■教科書

使用しない。

科目名	教職時事演習		
08年度入学：教職時事演習			
担当者	上野 正道 Masamichi Ueno		
対象学年	3～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

今日、学校は大きな転換点に位置している。社会の変化とともに、教育と人間と社会の関わりが変化を促されている。この授業では、教育と学習の理論、発達と学習、教師と子ども、カリキュラムと学力、世界の教育などについて、教職の時事にかかわる観点から検討を行う。それによって、教育とは何か、人間とは何か、といった主題に迫ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では、受講者が教育の理解と考え方を深める契機となるように、受講生によるレポート課題を積極的に取り入れる。

■成績評価方法・基準

平常点（出席と参加）とレポート課題を重視する。

■授業の予習・復習

■教科書

柏木恭典、上野正道、藤井佳世、村山拓『学校という対話空間』北大路書房、2011年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	
2 教育改革の課題	21世紀を生きる児童・生徒の教育、個性を生かす教育、生きる力
3 //	特色ある学校づくり、少人数学級、中高一貫校
4 カリキュラム	主体的な学習、授業がわからない生徒の対応
5 //	カリキュラムの弾力化と多様化、選択学習の拡大
6 //	学力低下論争、一斉学力テスト
7 //	総合的な学習
8 生徒指導	いじめと不登校への対応、スクールカウンセラー制度、心の教育
9 //	部活動、学校行事
10 教師	教師-生徒関係
11 //	専門職としての教師
12 学校と社会	家庭・学校・地域の連携
13 //	国際化と教育

★集中講義、授業時間＝9月5日～8日（4日間）

科目名	教育実践研究		
08年度入学：教育実践研究			
担当者	坂東 佶司 Takeshi Bandou		
対象学年	3～4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

教育実習を前に教育者としての心構えを学ぶ。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など教員としての責務、役割等について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説－総則編を中心教材に、あわせて配布プリントにより実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。習熟に必要な指導方法や指導技術、教材研究の方法等は講義のなかの発表・報告等の機会をとらえ実践的に指導する。

■成績評価方法・基準

教育実習・教職員の適性検査に備え、参観実習、講義の中で行われた提案や発表態度、レポート（8000字以上）によって評価する。

■授業の予習・復習

レポートするときにはレジュメ等の作成によって行えるようにする。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－総則編
文部科学省 ぎょうせい

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方、現代の教育課題
2	学校の教育機能
3 学校教育の条件	学校の組織・施設・教職員
4	教育課程の編成及び実施（基準、法則、一般方針）
5	//（道徳、体育・健康）
6	//（内容の取り扱いに関する共通的事項）
7	//（授業時数等）
8	//（指導計画の作成）
9 学校の教育活動の展開（教育課程）	//（体験・問題解決・自発的自主的学習）
10	//（生徒指導、進路、ガイダンス）
11	//（学習活動、個に応じた指導）
12	//（特別支援、帰国生徒、情報）
13	//（部活動、指導の評価、地域連携）
14 学校の理解	学校参観の意義と方法（学校参観事前研修）
15	学校参観実習（千葉市立轟町中学校）

科目名	中学校・高等学校教育実習		
08年度入学：中学校・高等学校教育実習			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		
対象学年	4年	単位	中学校： 4単位 高等学校： 2単位

■授業のねらいと到達目標

実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための資質力量を身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

余裕をもって教育実習に臨むために、履修者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」（4月下旬）、実習終了後の「教育実習報告会」（7月上旬）には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。

■成績評価方法・基準

教育実習校の実習生評価（50%）、教育実習録の内容等（50%）を助案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

十分な事前準備と心構えが求められる。実習後も教育実習報告会等への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。

科目名	教育福祉論		
08年度入学：教育福祉論			
担当者	佐藤 真生子 Makiko Sato		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

本科目の目的は、①教育、福祉現場での介護等体験実習に備えるため、社会福祉に関する基本的な知識を習得し、更に、②福祉社会の中で教師に求められる視点、発想などについて学習を深めることにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は、介護等体験実習の事前準備としての学習を深めるものです。そのため、途中、現場の方を招いての授業なども組んでいきますので、積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください。また、実習記録（ノート）については、実習前、実習後に提出してもらいますので、配布後は、毎回授業に持参してください。

■成績評価方法・基準

定期試験の代わりとしてレポート（60%）、出席（40%）授業終了時に受講感想、意見を記載する用紙を配布します。これによって毎回の授業を積極的に受講できたか、理解できたかを確認し、出席点とします。また、度重なる遅刻や欠席はマイナス評価になりますので、注意してください。

■授業の予習・復習

毎回、予習・復習するの必要はありませんが、新聞、テレビのニュースは一日に一度は観て下さい。

■教科書

指定なし

■参考文献

- ① 阪野真／監修 新崎国広／編著 立石宏昭／編著：『福祉教育の進め方』ミネルヴァ書房、2006
- ② 茂木俊彦／著：『障害児教育を考える』岩波新書 新赤版1110、岩波書店、2007
- ③ 志村健一／岩田直子 編著：『障害のある人の支援と社会福祉』障害者福祉入門 ミネルヴァ書房、2008

■教科書

敬愛大学教職課程年報「教職への里程」

■参考文献

直前指導等で紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義予定、社会福祉と教育とのかかわりなどについてのガイダンス
2	福祉って何ですか？	福祉という言葉の意味を身近な生活問題を挙げながら考えます。
3	福祉社会とはどのような社会か。	福祉社会とは一体どのような社会であるかを学習していきます。
4	日本の子どもと福祉問題	日本の子どもたちが、どのような福祉問題を抱えているかをデータ、VTRなどから読み取っていきます。
5	福祉教育とは？	福祉教育とは何か？現代社会での福祉教育の意義や役割などについて理解を深めます。
6	障がい児・者の実態～障がいとは何だろうか？～	障がいとは何か？どのような障がいがあるのか等について様々な角度から学びます。
7	障がい児・者と地域福祉～どんな生活課題がある？～	障がいをもつ人たちが、地域社会でどのような生活課題を抱えているのか、また、彼らが自ら選んだ場で暮らし続けるためには何かが必要であるのか、などについて学習します。
8	介護等体験実習前ガイダンス	特別支援学校への実習を前に、実習先などに関するオリエンテーションを行います。（※日程は前後する可能性あり）
9	障がい児・者への支援①	障害者福祉関連の法律や制度の概要を学びます。
10	障がい児・者への支援②	障がい児の発達を支援するための療育や教育はどのようなになっているのか、特別支援学校を中心に理解を深めます。
11	高齢社会と高齢者の生活① 高齢者ってどんな人？	高齢者にはどのような心身の特性があるのか？についてVTRなどを活用しながら学習します。
12	高齢社会と高齢者の生活② 日本の高齢者はどんな暮らし？	高齢者の家族関係、所得、地域との関わりなど生活の実態について学習します。
13	高齢社会と高齢者の生活③ 高齢者を支える社会資源は？	高齢者関連サービスの概要を学習します。
14	高齢社会と高齢者の生活④ 実習先を理解しよう！	実習先の施設についての理解を深めます。
15	福祉と教育をどうつなぐ？～地域の中でできること	地域の中のさまざまな人たちが関わり合い、支えあっている事例を元に、多くの世代にわたって協力し合う地域づくりの可能性について学習します。
16	定期試験	

科目名	【教職科目】 職業指導 I		
08年度入学：職業指導 I			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>		
対象学年	2 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。教員として生徒を指導するために必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。

■授業の進め方（履修条件等）

職業指導の概念、歴史的背景等について考察し、職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論を中心に進める。

■成績評価方法・基準

出席状況、平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：自らの職業観・勤労観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも展望しつつ情報を収集し学習すること。

復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と概要
2 社会の変化と職業	職業の発生、職業の種類
3 職業指導と進路指導	概念と定義
4 職業指導とキャリア教育	草創と社会的背景
5 キャリア教育	概念と定義
6 我が国の職業指導	学校教育への導入と歴史的発展
7 職業指導・キャリア教育	選択理論、適応理論、発達理論
8 職業適性	適正の分類と検査法
9 進路指導の理念と性格	基本的性格、進路指導の一般原理
10 進路学習指導	教育課程への位置づけ
11 進路指導の現状と課題	高等学校の進路指導の状況
12 校内組織体制の確立	校内組織と指導体制
13 進路指導・キャリア教育	各教員の役割
14 進路指導と進路相談	進路相談の目的、担任の役割
15 まとめ	講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠 翰著
日本文化科学社
『進路指導の理論と方法』日本進路指導学会編 福村出版

科目名	【教職科目】 職業指導 II		
08年度入学：職業指導 II			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>		
対象学年	2 ~ 4年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。教員として生徒を指導するために必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。

■授業の進め方（履修条件等）

高等学校における進路キャリア教育の実践に必要な知識：手法についての具体的な内容を取り上げ、教員としての実践力をつけることを主体に進める。

■成績評価方法・基準

出席状況、平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：自らの職業観・勤労観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも展望しつつ情報を収集し学習すること。

復習：毎回講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 学校におけるキャリア教育	現状と重要性
2 学ぶ力の育成とキャリア教育	キャリア教育の意義
3 キャリア発達のガイドライン	育成する能力領域
4 自己情報の理解	理解に当たっての留意点とその方法
5 進路情報の理解	進路情報に関する指導及び支援
6 啓発的経験	キャリア教育における体験と経験
7 キャリアカウンセリング	展開と手順並びに基礎的スキルと留意点
8 進路選択決定への支援	進路選択・決定への支援
9 進路指導	内容と学校キャリア教育の評価
10 キャリア教育計画・実践・評価	目標と留意点
11 産業界が重視する能力	企業が採用時に重視する能力
12 インターンシップ	実施と意義
13 労働界における職業指導	経済・雇用状況と諸課題
14 職業に関する関係法規	関係法規、雇用対策
15 まとめ	講義のまとめ
16 定期試験	

■参考文献

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠 翰著
日本文化科学社
『キャリア教育入門』三村隆男著 実業之日本社

科目名	学校事務概論		
担当者	向笠 博昭 <i>Hiroaki Mukasa</i>		
対象学年	2～3年	単位	2単位

■授業のねらいと到達目標

学校教育法令や学校事務の職務内容を理解させる。更に他大学（短大）を訪問して事務職員のあり方等を研修する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回プリントを配布して、学校事務職員が教育制度の中でいかに重要であるかを考えていく。

■成績評価方法・基準

授業での課題レポート・出席状況・授業態度等を総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：学校事務職について、事前に調べておく。
復習：授業内容を整理する。課題レポートの執筆。

■教科書

指定しない。

■参考文献

『学校事務職員制度の研究』清原正義著学事出版
『学校事務』学事出版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と内容
2	学校事務職員	学校教育法
3	学校事務の職務内容	総務・人事・学務
4		財務・福利厚生・統計
5	行政職員と学校事務	学校教育法
6		学校事務の身分等
7	学校事務の実状	高等学校の状況
8		大学・短大の状況
9	学校組織マネジメント	学校運営・管理運営
10		「働く」意識
11	社会人の基礎	社会人の基礎力
12		仕事力
13	教職員の採用状況	教員採用情報と試験対策
14	授業の復習	ディスカッション
15	まとめ	
16	定期試験	

シラバス

V 2008～2011年度科目名変更一覧

2008－2011年度 科目名変更一覧

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】	
学 部 共 通 科 目	基 礎 科 目 A	必修	文章表現	文章表現	
		口頭表現	口頭表現		
		基礎数学	基礎数学		
		入門経済学	入門経済学	入門経済学	
		入門経営学	入門経営学	入門経営学	
		キャリアプランニング	キャリアプランニング		
		健康科学	健康運動科学	健康運動科学	
		情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅰ	
	情報基礎Ⅱ	情報基礎Ⅱ	情報基礎Ⅱ		
	基 礎 科 目 B	選択科目	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座
		入門経済学実習	入門経済学実習		
		入門経営学実習	入門経営学実習		
	言 語 科 目 A	必修科目	英語Ⅰ	英語Ⅰ	英語Ⅰ
		英語Ⅱ	英語Ⅱ		
		英語Ⅲ	英語Ⅲ	英語Ⅱ	
		英語Ⅳ	英語Ⅳ		
	言 語 科 目 B	選択科目	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ
		フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱ		
		フランス語Ⅲ	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅱ	
		フランス語Ⅳ	フランス語Ⅳ		
ドイツ語Ⅰ		ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰ		
ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅱ			
ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅱ		
ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅳ			
中国語Ⅰ		中国語Ⅰ	中国語Ⅰ		
中国語Ⅱ		中国語Ⅱ			
中国語Ⅲ		中国語Ⅲ	中国語Ⅱ		
中国語Ⅳ		中国語Ⅳ			
日本語Ⅰ		日本語Ⅰ	日本語Ⅰ		
日本語Ⅱ		日本語Ⅱ			
日本語Ⅲ		日本語Ⅲ	日本語Ⅱ		
日本語Ⅳ		日本語Ⅳ			
英会話Ⅰ		英会話Ⅰ	英会話Ⅰ		
英会話Ⅱ		英会話Ⅱ			
英会話Ⅲ		英会話Ⅲ	英会話Ⅱ		
英会話Ⅳ		英会話Ⅳ			
ビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語			
ビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語Ⅱ				
時事英語Ⅰ	時事英語Ⅰ	時事英語			
時事英語Ⅱ	時事英語Ⅱ				
教 養 科 目	選択科目	敬愛プログラム	敬愛プログラム		
	スポーツ教育	スポーツ教育	スポーツ教育		
	哲学	哲学	哲学Ⅰ		
	心理学	心理学	心理学Ⅰ		
	社会心理学	社会心理学	心理学Ⅱ		
	日本の文学	日本の文学	文学Ⅰ		

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】
学 部 共 通 科 目	教 養 科 目	比較文学	比較文学	文学Ⅱ
		歴史学	歴史学	歴史学Ⅰ
		法学	法学	法学Ⅰ
		憲法Ⅰ	憲法Ⅰ	憲法Ⅰ
		憲法Ⅱ	憲法Ⅱ	憲法Ⅱ
		政治学	政治学	政治学Ⅰ
		日本の政治	日本の政治	政治学Ⅱ
		社会学	社会学	社会学Ⅰ
		数学Ⅰ	数学Ⅰ	数学
		数学Ⅱ	数学Ⅱ	
		統計学Ⅰ	統計学Ⅰ	統計学
		統計学Ⅱ	統計学Ⅱ	
		環境科学	環境科学	環境科学Ⅰ
		地球科学	地球科学	地球科学Ⅰ
		情報概論	情報概論	情報概論
		Web デザイン	Web デザイン	Web デザイン
		Excel データ解析	Excel データ解析	Excel データ解析
		プログラミング入門 VB	プログラミング入門 VB	プログラミング入門 VB
		プログラミング入門 C	プログラミング入門 C	プログラミング入門 C
		プログラミング入門 Perl	プログラミング入門 Perl	プログラミング入門 Perl
		VB プログラミング	VB プログラミング	VB プログラミング
		C プログラミング	C プログラミング	C プログラミング
		Perl プログラミング	Perl プログラミング	Perl プログラミング
		情報検索入門	情報検索入門	情報検索入門
		データベースオペレーション	データベースオペレーション	データベース論Ⅰ
		プレゼンテーション論Ⅰ	プレゼンテーション論Ⅰ	プレゼンテーション論Ⅰ
		プレゼンテーション論Ⅱ	プレゼンテーション論Ⅱ	プレゼンテーション論Ⅱ
		総合科目Ⅰ	総合科目Ⅰ	総合科目 AⅠ
	総合科目Ⅱ	総合科目Ⅱ	総合科目 AⅡ	
	海外事情研修Ⅰ (アメリカ)	海外事情研修Ⅰ (アメリカ)	海外事情研修Ⅰ (アメリカ)	
	海外事情研修Ⅱ (中国)	海外事情研修Ⅱ (中国)	海外事情研修Ⅱ (中国)	
	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)	
	海外事情研修Ⅳ (イギリス)	海外事情研修Ⅳ (イギリス)	海外事情研修Ⅳ (イギリス)	
	地域ボランティア活動	地域ボランティア活動	地域ボランティア活動	
教 職 専 門 科 目	選 択 科 目	* 日本史概論Ⅰ	* 日本史概論Ⅰ	日本史概論Ⅰ
		* 日本史概論Ⅱ	* 日本史概論Ⅱ	日本史概論Ⅱ
		* 世界史概論Ⅰ	* 世界史概論Ⅰ	世界史概論Ⅰ
		* 世界史概論Ⅱ	* 世界史概論Ⅱ	世界史概論Ⅱ
		* 地誌学Ⅰ	* 地誌学Ⅰ	地誌学Ⅰ
		* 地誌学Ⅱ	* 地誌学Ⅱ	地誌学Ⅱ
		* 地理学概論Ⅰ	* 地理学概論Ⅰ	地理学Ⅰ
		* 地理学概論Ⅱ	* 地理学概論Ⅱ	地理学Ⅱ
		* 哲学概論Ⅰ	* 哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ
		* 哲学概論Ⅱ	* 哲学概論Ⅱ	哲学概論Ⅱ
		* 比較政治学	* 比較政治学	比較政治学
		* 社会学概論	* 社会学概論	社会学概論
		* 自然地理学Ⅰ	* 自然地理学Ⅰ	自然地理学Ⅰ
		* 自然地理学Ⅱ	* 自然地理学Ⅱ	自然地理学Ⅱ

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】	
学部 共通 科目	教職専科 選択科目	* 環境地理学Ⅰ * 環境地理学Ⅱ	* 環境地理学Ⅰ * 環境地理学Ⅱ	環境地理学Ⅰ 環境地理学Ⅱ	
	キャリア科目 選択科目	実践会話Ⅰ 実践会話Ⅱ キャリア基礎開発Ⅰ キャリア基礎開発Ⅱ キャリア基礎開発Ⅲ キャリアディベロップメント キャリア教育特殊講義 インターンシップ	実践会話Ⅰ 実践会話Ⅱ キャリア基礎開発Ⅰ キャリア基礎開発Ⅱ キャリア基礎開発Ⅲ キャリアディベロップメント キャリア教育特殊講義 インターンシップ	会話表現Ⅰ 会話表現Ⅱ キャリア教育特殊講義 インターンシップ	
	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅰ	演習Ⅰ
		基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅱ	演習Ⅱ
		専門導入演習Ⅰ	専門導入演習Ⅰ	専門導入演習Ⅰ	演習Ⅲ
		専門導入演習Ⅱ	専門導入演習Ⅱ	専門導入演習Ⅱ	演習Ⅳ
		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰ	
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱ	
		卒業演習Ⅰ	卒業演習Ⅰ	卒業演習Ⅰ	
		卒業演習Ⅱ	卒業演習Ⅱ	卒業演習Ⅱ	
	卒業論文	卒業論文	卒業論文		
	経済系 専門科目	基本科目A 必修科目(選択)	経済理論Ⅰ	経済理論Ⅰ	経済原論
			経済理論Ⅱ	経済理論Ⅱ	
			日本経済史Ⅰ	日本経済史Ⅰ	日本経済史
			日本経済史Ⅱ	日本経済史Ⅱ	
			西洋経済史Ⅰ	西洋経済史Ⅰ	西洋経済史
			西洋経済史Ⅱ	西洋経済史Ⅱ	
		基本科目B 選択科目	経済政策Ⅰ	経済政策Ⅰ	経済政策総論
			経済政策Ⅱ	経済政策Ⅱ	
			経済学史Ⅰ	経済学史Ⅰ	経済学史Ⅰ
経済学史Ⅱ			経済学史Ⅱ	経済学史Ⅱ	
金融論Ⅰ			金融論Ⅰ	金融論Ⅰ	
金融論Ⅱ			金融論Ⅱ	金融論Ⅱ	
財政学Ⅰ			財政学Ⅰ	財政学総論Ⅰ	
財政学Ⅱ			財政学Ⅱ	財政学総論Ⅱ	
統計学総論Ⅰ			統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ	
統計学総論Ⅱ			統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ	
社会政策Ⅰ			社会政策Ⅰ	社会政策総論Ⅰ	
社会政策Ⅱ			社会政策Ⅱ	社会政策総論Ⅱ	
ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ			
ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ			
マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ			
マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ			
日本・世界 経済 選択科目	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ		
日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ			
国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅰ			
国際経済論Ⅱ	国際経済論Ⅱ	国際経済論Ⅱ			

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】
経 済 系 専 門 科 目	日本・世界経済コース科目 選 択 科 目	日本経済地理	日本経済地理	日本経済地理
		世界経済地理	世界経済地理	世界経済地理
		入門経済刑法	入門経済刑法	入門経済刑法
		サイバー刑法	サイバー刑法	サイバー刑法
		商法	商法	商法
		会社法	会社法	会社法
		国際貿易論	国際貿易論	国際貿易論
		開発経済学	開発経済学	開発経済学
		ヨーロッパ経済論Ⅰ	ヨーロッパ経済論Ⅰ	ヨーロッパ経済論Ⅰ
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	ヨーロッパ経済論Ⅱ	ヨーロッパ経済論Ⅱ
		アメリカ経済事情Ⅰ	アメリカ経済事情Ⅰ	アメリカ経済事情Ⅰ
		アメリカ経済事情Ⅱ	アメリカ経済事情Ⅱ	アメリカ経済事情Ⅱ
		アジア経済論	アジア経済論	アジア経済論
		中東経済論	中東経済論	中東経済論
	労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅰ	
	労働経済論Ⅱ	労働経済論Ⅱ	労働経済論Ⅱ	
	環境・福祉コース科目 選 択 科 目	環境と生活	環境と生活	人文地理学Ⅰ
		開発と環境	開発と環境	人文地理学Ⅱ
		都市環境とまちづくり	都市環境とまちづくり	都市地理学Ⅱ
		環境ビジネス	環境ビジネス	環境ビジネス
		環境政策	環境政策	環境アセスメント
		家族と地域社会	家族と地域社会	社会学Ⅱ
		福祉経済論	福祉経済論	福祉経済論
		社会福祉論	社会福祉論	社会福祉論
		保険論	保険論	生活経済論Ⅱ
		民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ
		民法Ⅱ	民法Ⅱ	民法Ⅱ
		社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ
		社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ
		労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅰ
		労働経済論Ⅱ	労働経済論Ⅱ	労働経済論Ⅱ
		資源エネルギー論	資源エネルギー論	新エネルギー論
		医療の経済学	医療の経済学	
環境経済学Ⅰ		環境経済学Ⅰ	環境経済学	
環境経済学Ⅱ		環境経済学Ⅱ		
環境問題Ⅰ	環境問題Ⅰ			
環境問題Ⅱ	環境問題Ⅱ			
公共サービスコース科目 選 択 科 目	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	
	日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	
	公共経済学	公共経済学	公共経済学	
	公共選択論	公共選択論	公共選択論	
		地域経済論	地域経済学	
	入門経済刑法	入門経済刑法	入門経済刑法	
	サイバー刑法	サイバー刑法	サイバー刑法	
	行政法Ⅰ	行政法Ⅰ	行政法Ⅰ	
	行政法Ⅱ	行政法Ⅱ	行政法Ⅱ	
	労働法Ⅰ	労働法Ⅰ	労働法Ⅰ	
労働法Ⅱ	労働法Ⅱ	労働法Ⅱ		

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】
公共サービスコース科目	選択科目	民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ
		民法Ⅱ	民法Ⅱ	民法Ⅱ
		地方自治論Ⅰ	地方自治論Ⅰ	
		地方自治論Ⅱ	地方自治論Ⅱ	
		地方自治論実習	地方自治論実習	
		地方財政論Ⅰ	地方財政論Ⅰ	地方財政論Ⅰ
		地方財政論Ⅱ	地方財政論Ⅱ	地方財政論Ⅱ
		財政赤字の経済学	財政赤字の経済学	
		経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ
		経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ
		社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ
		社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ
金融・証券コース科目	選択科目	金融事情Ⅰ	金融事情Ⅰ	金融事情Ⅰ
		金融事情Ⅱ	金融事情Ⅱ	金融事情Ⅱ
		資産運用論	資産運用論	生活経済論Ⅰ
		保険論	保険論	生活経済論Ⅱ
		商法	商法	商法
		会社法	会社法	会社法
		有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ
		有価証券法Ⅱ	有価証券法Ⅱ	有価証券法Ⅱ
		国際金融論Ⅰ	国際金融論Ⅰ	国際金融論Ⅰ
		国際金融論Ⅱ	国際金融論Ⅱ	国際金融論Ⅱ
		証券経済論Ⅰ	証券経済論Ⅰ	証券経済論Ⅰ
		証券経済論Ⅱ	証券経済論Ⅱ	証券経済論Ⅱ
		銀行論Ⅰ	銀行論Ⅰ	
		銀行論Ⅱ	銀行論Ⅱ	
		企業金融論Ⅰ	企業金融論Ⅰ	
		企業金融論Ⅱ	企業金融論Ⅱ	
計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅰ		
計量経済学Ⅱ	計量経済学Ⅱ	計量経済学Ⅱ		
展開科目	選択科目	簿記論Ⅰ	簿記論Ⅰ	簿記原理Ⅰ
		簿記論Ⅱ	簿記論Ⅱ	簿記原理Ⅱ
		社会思想史Ⅰ	社会思想史Ⅰ	社会思想史Ⅰ
		社会思想史Ⅱ	社会思想史Ⅱ	社会思想史Ⅱ
		経済学方法論Ⅰ	経済学方法論Ⅰ	経済学方法論Ⅰ
		経済学方法論Ⅱ	経済学方法論Ⅱ	経済学方法論Ⅱ
		経済数学Ⅰ	経済数学Ⅰ	経済数学Ⅰ
		経済数学Ⅱ	経済数学Ⅱ	経済数学Ⅱ
		経営学概論Ⅰ	経営学概論Ⅰ	経営学原理Ⅰ
		経営学概論Ⅱ	経営学概論Ⅱ	経営学原理Ⅱ
		産業論Ⅰ	産業論Ⅰ	産業総論Ⅰ
		産業論Ⅱ	産業論Ⅱ	産業総論Ⅱ
		会計学Ⅰ	会計学Ⅰ	会計学原理Ⅰ
		会計学Ⅱ	会計学Ⅱ	会計学原理Ⅱ
		産業立地論Ⅰ	産業立地論Ⅰ	産業立地論Ⅰ
		産業立地論Ⅱ	産業立地論Ⅱ	産業立地論Ⅱ
産業組織論Ⅰ	産業組織論Ⅰ	産業組織論Ⅰ		

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】
経済系 専門科目	展開 選択科目	産業組織論Ⅱ	産業組織論Ⅱ	産業組織論Ⅱ
		流通論	流通論	流通総論
		中小企業論Ⅰ	中小企業論	中小企業論
		中小企業論Ⅱ		
		財務管理論	財務管理論	財務管理論
		都市地理学	都市地理学	都市地理学Ⅰ
		企業文化論	企業文化論	企業文化論Ⅰ
		地域産業論	地域産業論	地域産業論
		地域調査論	地域調査論	地域調査論
		知的財産権論Ⅰ	知的財産権論Ⅰ	知的財産権論Ⅰ
		知的財産権論Ⅱ	知的財産権論Ⅱ	知的財産権論Ⅱ
		食料経済論	食料経済論	食料経済論
		農業政策	農業政策	農業政策
		外国経済書講読Ⅰ	外国経済書講読Ⅰ	外国書講読Ⅰ
		外国経済書講読Ⅱ	外国経済書講読Ⅱ	外国書講読Ⅱ
		国際法Ⅰ	国際法Ⅰ	国際法Ⅰ
		国際法Ⅱ	国際法Ⅱ	国際法Ⅱ
		金融経済の基礎知識	金融経済の基礎知識	
経営系 専門科目	基本科目A	経営学概論Ⅰ	経営学概論Ⅰ	経営学原理Ⅰ
		経営学概論Ⅱ	経営学概論Ⅱ	経営学原理Ⅱ
		会計学Ⅰ	会計学Ⅰ	会計学原理Ⅰ
		会計学Ⅱ	会計学Ⅱ	会計学原理Ⅱ
	基本科目B	簿記論Ⅰ	簿記論Ⅰ	簿記原理Ⅰ
		簿記論Ⅱ	簿記論Ⅱ	簿記原理Ⅱ
		産業論Ⅰ	産業論Ⅰ	産業総論Ⅰ
		産業論Ⅱ	産業論Ⅱ	産業総論Ⅱ
		マーケティング論Ⅰ	マーケティング論Ⅰ	マーケティング論Ⅰ
		マーケティング論Ⅱ	マーケティング論Ⅱ	マーケティング論Ⅱ
		経営史Ⅰ	経営史Ⅰ	経営史Ⅰ
		経営史Ⅱ	経営史Ⅱ	経営史Ⅱ
		経営戦略論Ⅰ	経営戦略論Ⅰ	経営戦略論Ⅰ
		経営戦略論Ⅱ	経営戦略論Ⅱ	経営戦略論Ⅱ
		経営組織論Ⅰ	経営組織論Ⅰ	経営組織論Ⅰ
		経営組織論Ⅱ	経営組織論Ⅱ	経営組織論Ⅱ
		経営分析Ⅰ	経営分析Ⅰ	経営分析Ⅰ
		経営分析Ⅱ	経営分析Ⅱ	経営分析Ⅱ
	経済理論Ⅰ	経済理論Ⅰ	経済原論Ⅰ	
	経済理論Ⅱ	経済理論Ⅱ	経済原論Ⅱ	
	経営・会計コース科目	人的資源管理Ⅰ	人的資源管理Ⅰ	人的資源管理Ⅰ
		人的資源管理Ⅱ	人的資源管理Ⅱ	人的資源管理Ⅱ
		消費者行動論Ⅰ	消費者行動論Ⅰ	消費者行動論Ⅰ
		消費者行動論Ⅱ	消費者行動論Ⅱ	消費者行動論Ⅱ
		商法	商法	商法
		会社法	会社法	会社法
		民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ
民法Ⅱ		民法Ⅱ	民法Ⅱ	
原価計算論Ⅰ		原価計算論Ⅰ	原価計算論Ⅰ	
原価計算論Ⅱ		原価計算論Ⅱ	原価計算論Ⅱ	

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】	
経営系専門科目	経営・会計コース科目 選択科目	税務会計論Ⅰ	税務会計論Ⅰ	税務会計論Ⅰ	
		税務会計論Ⅱ	税務会計論Ⅱ	税務会計論Ⅱ	
		財務管理論	財務管理論	財務管理論	
		マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチ	
		国際経営論	国際経営論	国際経営論	
		企業倫理論	企業倫理論	企業倫理論	
		企業文化論	企業文化論	企業文化論Ⅰ	
		中小企業論Ⅰ	中小企業論	中小企業論	
		中小企業論Ⅱ			
		有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ	
		有価証券法Ⅱ	有価証券法Ⅱ	有価証券法Ⅱ	
	ビジネス情報コース 選択科目	経営情報論Ⅰ	経営情報論Ⅰ	経営情報論Ⅰ	
		経営情報論Ⅱ	経営情報論Ⅱ	経営情報論Ⅱ	
		情報社会と倫理	情報社会と倫理	情報社会と倫理	
		ハードウェアシステム論	ハードウェアシステム論	ハードウェアシステム論	
		OS論	OS論	OS論	
		ネットワークシステム論	ネットワークシステム論	ネットワークシステム論	
		情報セキュリティ論	情報セキュリティ論	情報セキュリティ論	
		アルゴリズム論Ⅰ	アルゴリズム論Ⅰ	アルゴリズム論Ⅰ	
		アルゴリズム論Ⅱ	アルゴリズム論Ⅱ	アルゴリズム論Ⅱ	
		システム設計論Ⅰ	システム設計論Ⅰ	システム設計論Ⅰ	
		システム設計論Ⅱ	システム設計論Ⅱ	システム設計論Ⅱ	
		情報システム開発論	情報システム開発論	情報システム開発論	
		流通情報論	流通情報論	流通情報論	
		データベース論	データベース論	データベース論Ⅱ	
		シミュレーション論	シミュレーション論	シミュレーション論	
		知的財産権論Ⅰ	知的財産権論Ⅰ	知的財産権論Ⅰ	
		知的財産権論Ⅱ	知的財産権論Ⅱ	知的財産権論Ⅱ	
		サイバー刑法	サイバー刑法	サイバー刑法	
		情報経済論	情報経済論		
		現代産業コース 選択科目	産業立地論Ⅰ	産業立地論Ⅰ	産業立地論Ⅰ
			産業立地論Ⅱ	産業立地論Ⅱ	産業立地論Ⅱ
			流通論	流通論	流通総論
			流通情報論	流通情報論	流通情報論
			流通経営論Ⅰ	流通経営論Ⅰ	流通経営論Ⅰ
			流通経営論Ⅱ	流通経営論Ⅱ	流通経営論Ⅱ
			観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅰ
			観光事業論Ⅱ	観光事業論Ⅱ	観光事業論Ⅱ
			地域調査論	地域調査論	地域調査論
			地域産業論	地域産業論	地域産業論
	サービス産業論		サービス産業論	サービス産業論	
	ITサービス産業論		ITサービス産業論	ITサービス産業論	
産業組織論Ⅰ	産業組織論Ⅰ	産業組織論Ⅰ			
産業組織論Ⅱ	産業組織論Ⅱ	産業組織論Ⅱ			
中小企業論Ⅰ	中小企業論	中小企業論			
中小企業論Ⅱ					
	地域経済論	地域経済学			
都市地理学	都市地理学	都市地理学Ⅰ			
都市環境とまちづくり	都市環境とまちづくり	都市地理学Ⅱ			

科目区分		2011年度入学者の科目名 【11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2009～2010年度入学者の科目名 【09カリキュラム 科目名】 (*は教職科目を示す)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】
経営系 専門科目	展開選 択科目	経済政策Ⅰ	経済政策Ⅰ	経済政策総論
		経済政策Ⅱ	経済政策Ⅱ	
		金融論Ⅰ	金融論Ⅰ	金融論Ⅰ
		金融論Ⅱ	金融論Ⅱ	金融論Ⅱ
		統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ
		統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ
		ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ
		ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ
		マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ
		マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ
		日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ
		日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ
		経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ
		経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ
		国際貿易論	国際貿易論	国際貿易論
		ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論
		地域企業会計論	地域企業会計論	地域企業会計論
		企業再生論	企業再生論	企業再生論
		環境ビジネス	環境ビジネス	環境ビジネス
		環境問題Ⅰ	環境問題Ⅰ	
		環境問題Ⅱ	環境問題Ⅱ	
		企業金融論Ⅰ	企業金融論Ⅰ	
		企業金融論Ⅱ	企業金融論Ⅱ	
		労働法Ⅰ	労働法Ⅰ	労働法Ⅰ
		労働法Ⅱ	労働法Ⅱ	労働法Ⅱ
		外国経営書講読Ⅰ	外国経営書講読Ⅰ	外国書講読Ⅰ
外国経営書講読Ⅱ	外国経営書講読Ⅱ	外国書講読Ⅱ		
金融経済の基礎知識	金融経済の基礎知識			
教職及び 教科に関する 科目	選 択 科 目	*教育原論Ⅰ	*教育原論Ⅰ	教育原論Ⅰ
		*教育原論Ⅱ	*教育原論Ⅱ	教育原論Ⅱ
		*教育心理学	*教育心理学	教育心理学
		*発達心理学	*発達心理学	発達心理学
		*教職概論	*教職概論	教職概論
		*教育行政	*教育行政	教育行政
		*教育法規	*教育法規	教育法規
		*教育方法論	*教育方法論	教育方法論
		*社会科・地歴科指導法Ⅰ	*社会科・地歴科指導法Ⅰ	社会科・地歴科教育法
		*社会科・地歴科指導法Ⅱ	*社会科・地歴科指導法Ⅱ	
		*地理歴史科指導法	*地理歴史科指導法	地理歴史科教育法
		*社会科・公民科指導法Ⅰ	*社会科・公民科指導法Ⅰ	社会科・公民科教育法
		*社会科・公民科指導法Ⅱ	*社会科・公民科指導法Ⅱ	
		*公民科指導法	*公民科指導法	公民科教育法
		*商業科指導法	*商業科指導法	商業科教育法
		*商業科教材研究	*商業科教材研究	商業科教材研究
		*情報科指導法Ⅰ	*情報科指導法Ⅰ	情報科教育法Ⅰ
		*情報科指導法Ⅱ	*情報科指導法Ⅱ	情報科教育法Ⅱ
		*情報と職業	*情報と職業	情報と職業
		*道徳教育研究	*道徳教育研究	道徳教育研究
*特別活動研究	*特別活動研究	特別活動研究		

シラバス

Ⅵ カリキュラム表

1. 2011年度入学者カリキュラム表	216
2. 2009～2010年度入学者カリキュラム表	224
3. 2008年度入学者カリキュラム表	232

2011年度入学者カリキュラム表①

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通 科 目	基礎科目A 必修科目	文章表現	2	1				全科目16単位履修
		口頭表現						
		基礎数学						
		入門経済学						
		入門経営学						
		キャリアプランニング						
		健康科学						
		情報基礎Ⅰ						
		情報基礎Ⅱ						
	基礎科目B 選択科目	敬天愛人講座	2	1				3科目から2単位以上履修
		入門経済学実習	1					
		入門経営学実習	1					
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ	1	1				全科目4単位履修
		英語Ⅱ						
		英語Ⅲ						
		英語Ⅳ						
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ	1	1				4単位以上履修 (同一言語科目を継続して履修する。「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」、「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。)
		フランス語Ⅱ						
		フランス語Ⅲ						
		フランス語Ⅳ						
		ドイツ語Ⅰ						
		ドイツ語Ⅱ						
		ドイツ語Ⅲ						
		ドイツ語Ⅳ						
		中国語Ⅰ						
		中国語Ⅱ						
		中国語Ⅲ						
		中国語Ⅳ						
		日本語Ⅰ						
		日本語Ⅱ						
		日本語Ⅲ						
		日本語Ⅳ						
英会話Ⅰ								
英会話Ⅱ								
英会話Ⅲ								
英会話Ⅳ								
ビジネス英語Ⅰ								
ビジネス英語Ⅱ								
時事英語Ⅰ								
時事英語Ⅱ								
教養科目 選択科目	敬愛プログラム	2	1	2	3	4	16単位以上履修	
	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1	1	2				
	哲学	2	1	2	3	4		
	心理学							
	社会心理学							
	日本の文学							
	比較文学							
	歴史学							
	法学							
	憲法Ⅰ							
	憲法Ⅱ							
	政治学							
	日本の政治							
社会学								

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通	教 養 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	16単位以上履修
		数学Ⅰ						
		数学Ⅱ						
		統計学Ⅰ						
		統計学Ⅱ						
		環境科学						
		地球科学						
		情報概論						
		Web デザイン						
		Excel データ解析						
		プログラミング入門 (VB)						
		プログラミング入門 (C)						
		プログラミング入門 (Perl)						
		VB プログラミング						
		C プログラミング						
		Perl プログラミング						
		情報検索入門						
		データベースオペレーション						
		プレゼンテーション論Ⅰ						
		プレゼンテーション論Ⅱ						
		総合科目Ⅰ「国際社会を知る」						
		総合科目Ⅱ「国際社会を知る」						
		海外事情研修Ⅰ (アメリカ)						
海外事情研修Ⅱ (中国)								
海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)								
海外事情研修Ⅳ (イギリス)								
地域ボランティア活動								
科	教 職 専 門 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	教職課程履修者のみ履修可
		* 日本史概論Ⅰ						
		* 日本史概論Ⅱ						
		* 世界史概論Ⅰ						
		* 世界史概論Ⅱ						
		* 地理学概論Ⅰ						
		* 地理学概論Ⅱ						
		* 地誌学Ⅰ						
		* 地誌学Ⅱ						
		* 哲学概論Ⅰ						
		* 哲学概論Ⅱ						
		* 比較政治学						
		* 社会学概論						
		* 自然地理学Ⅰ						
		* 自然地理学Ⅱ						
* 環境地理学Ⅰ								
* 環境地理学Ⅱ								
キャリア科目	選 択 科 目	実践会話Ⅰ	2		2	3	4	4 単位以上履修
		実践会話Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅰ						
		キャリア基礎開発Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅲ						
		キャリアディベロップメント						
		キャリア教育特殊講義						
インターンシップ								

シラバス

Ⅵ
カリキュラム表

2011年度入学者カリキュラム表②

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年		備考
学部共通科目	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ	1	1		全科目10単位履修
		基礎演習Ⅱ				
		専門導入演習Ⅰ		2		
		専門導入演習Ⅱ				
		専門演習Ⅰ		3		
		専門演習Ⅱ				
		卒業演習Ⅰ		4		
		卒業演習Ⅱ				
		卒業論文	2			
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ	2	1	2	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位履修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位履修
		経済理論AⅡ				
		経済理論BⅠ				
		経済理論BⅡ				
		日本経済史Ⅰ				
		日本経済史Ⅱ				
		西洋経済史Ⅰ				
		西洋経済史Ⅱ				
	基本科目B 選択科目	経済政策AⅠ	2	2	3	16単位以上履修
		経済政策AⅡ				
		経済政策BⅠ				
		経済政策BⅡ				
		経済学史Ⅰ				
		経済学史Ⅱ				
		金融論Ⅰ				
		金融論Ⅱ				
		財政学Ⅰ				
		財政学Ⅱ				
		統計学総論Ⅰ				
		統計学総論Ⅱ				
		社会政策Ⅰ				
		社会政策Ⅱ				
		ミクロ経済学Ⅰ				
		ミクロ経済学Ⅱ				
	マクロ経済学Ⅰ					
	マクロ経済学Ⅱ					
	日本・世界経済コース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2	3	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		日本経済論Ⅱ				
国際経済論Ⅰ						
国際経済論Ⅱ						
日本経済地理						
世界経済地理						
入門経済刑法						
サイバー刑法						
商法						
会社法						
国際貿易論		3		4		
開発経済学						
ヨーロッパ経済論Ⅰ						
ヨーロッパ経済論Ⅱ						
アメリカ経済事情Ⅰ						
アメリカ経済事情Ⅱ						
アジア経済論						
中東経済論						
労働経済論Ⅰ						
労働経済論Ⅱ						

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
経済系	環境・福祉コース科目 選択科目	環境と生活	2	2 3	環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		開発と環境			
		都市環境とまちづくり			
		環境ビジネス			
		環境政策			
		家族と地域社会			
		福祉経済論			
		社会福祉論			
		保険論			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		社会保障論Ⅰ			
		社会保障論Ⅱ			
		労働経済論Ⅰ			
		労働経済論Ⅱ			
		資源エネルギー論			
		医療の経済学			
		環境経済学Ⅰ			
環境経済学Ⅱ					
環境問題Ⅰ					
環境問題Ⅱ					
専門科目	公共サービスコース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		日本経済論Ⅱ			
		公共経済学			
		公共選択論			
		入門経済刑法			
		サイバー刑法			
		行政法Ⅰ			
		行政法Ⅱ			
		労働法Ⅰ			
		労働法Ⅱ			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		地方自治論Ⅰ			
		地方自治論Ⅱ			
		地方自治論実習			
		地方財政論Ⅰ			
		地方財政論Ⅱ			
		財政赤字の経済学			
経済統計Ⅰ					
経済統計Ⅱ					
社会保障論Ⅰ					
社会保障論Ⅱ					
金融・証券コース科目	選択科目	金融事情Ⅰ	2	2 3	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		金融事情Ⅱ			
		資産運用論			
		保険論			
		商法			
		会社法			
		有価証券法Ⅰ			
		有価証券法Ⅱ			
		国際金融論Ⅰ			
		国際金融論Ⅱ			
		証券経済論Ⅰ			
		証券経済論Ⅱ			

2011年度入学者カリキュラム表③

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
金融・証券コース科目	選択科目	銀行論Ⅰ	2		3	4	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		銀行論Ⅱ						
企業金融論Ⅰ								
企業金融論Ⅱ								
計量経済学Ⅰ								
計量経済学Ⅱ								
経済系専門科目	選択科目	簿記論Ⅰ A	2	1	2	3	4	この欄の科目群並びに経済系基本科目 A・B 各コース科目の中から14単位以上履修
		簿記論Ⅱ A						
		簿記論Ⅰ B						
		簿記論Ⅱ B						
		社会思想史Ⅰ						
		社会思想史Ⅱ						
		経済学方法論Ⅰ						
		経済学方法論Ⅱ						
		経済数学Ⅰ						
		経済数学Ⅱ						
		経営学概論Ⅰ						
		経営学概論Ⅱ						
		産業論Ⅰ						
		産業論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
		産業立地論Ⅰ						
		産業立地論Ⅱ						
		産業組織論Ⅰ						
		産業組織論Ⅱ						
		流通論						
		中小企業論Ⅰ						
		中小企業論Ⅱ						
		財務管理論						
		都市地理学						
		企業文化論						
		地域産業論						
		地域調査論						
		知的財産権論Ⅰ						
		知的財産権論Ⅱ						
		食料経済論						
		農業政策						
		外国経済書講読Ⅰ						
外国経済書講読Ⅱ								
国際法Ⅰ								
国際法Ⅱ								
金融経済の基礎知識								
経営系専門科目	必修科目	経営学概論Ⅰ	2	1	2			全科目8単位履修
		経営学概論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
		簿記論Ⅰ A						
		簿記論Ⅱ A						
基本科目 B	選択科目	簿記論Ⅰ B	2	1	2	3		16単位以上履修
		簿記論Ⅱ B						
		産業論Ⅰ						
		産業論Ⅱ						

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
基本科目B	選択科目	マーケティング論Ⅰ	2	2 3	16単位以上履修
		マーケティング論Ⅱ			
		経営史Ⅰ			
		経営史Ⅱ			
		経営戦略論Ⅰ			
		経営戦略論Ⅱ			
		経営組織論Ⅰ			
		経営組織論Ⅱ			
		経営分析Ⅰ			
		経営分析Ⅱ			
		経済理論AⅠ			
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
		経営系専門科目			
人的資源管理Ⅱ					
消費者行動論Ⅰ					
消費者行動論Ⅱ					
商法					
会社法					
民法Ⅰ					
民法Ⅱ					
原価計算論Ⅰ					
原価計算論Ⅱ					
税務会計論Ⅰ					
税務会計論Ⅱ					
財務管理論					
マーケティングリサーチ					
国際経営論					
目	ビジネス情報コース 選択科目	経営情報論Ⅰ	2	2 3	ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		経営情報論Ⅱ			
		情報社会と倫理			
		ハードウェアシステム論			
		OS論			
		ネットワークシステム論			
		情報セキュリティ論			
		アルゴリズム論Ⅰ			
		アルゴリズム論Ⅱ			
		システム設計論Ⅰ			
		システム設計論Ⅱ			
		情報システム開発論			
		流通情報論			
		データベース論			
		シミュレーション論			
				3 4	
				3 4	

2011年度入学者カリキュラム表④

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備 考
現代産業コース	選択科目	産業立地論Ⅰ	2	2 3	現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		産業立地論Ⅱ			
		流通論			
		流通情報論		3 4	
		流通経営論Ⅰ			
		流通経営論Ⅱ		2 3	
		観光事業論Ⅰ			
		観光事業論Ⅱ			
		地域調査論		3 4	
		地域産業論			
		サービス産業論			
		ITサービス産業論			
		産業組織論Ⅰ			
		産業組織論Ⅱ			
		中小企業論Ⅰ		3 4	
		中小企業論Ⅱ			
		都市地理学		3 4	
		都市環境とまちづくり			
スポーツビジネスコース	選択科目	スポーツ科学概論	2	2	スポーツビジネスコースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		スポーツ経営論			
		スポーツ産業論			
		スポーツキャリア実習		3	
		スポーツビジネス論			
		スポーツマーケティング論			
		生涯スポーツ実習Ⅰ			
生涯スポーツ実習Ⅱ	4				
専門科目	展開科目	経済政策 A Ⅰ	2	2 3 4	この欄の科目群並びに経営系基本科目 B 各コース科目の中から14単位以上履修
		経済政策 A Ⅱ			
		経済政策 B Ⅰ			
		経済政策 B Ⅱ			
		金融論Ⅰ			
		金融論Ⅱ			
		統計学総論Ⅰ			
		統計学総論Ⅱ			
		ミクロ経済学Ⅰ			
		ミクロ経済学Ⅱ			
		マクロ経済学Ⅰ			
		マクロ経済学Ⅱ			
		日本経済論Ⅰ			
		日本経済論Ⅱ			
		経済統計Ⅰ			
		経済統計Ⅱ			
		国際貿易論			
		ベンチャービジネス論			
		地域企業会計論			
		企業再生論			
		環境ビジネス			
		環境問題Ⅰ			
		環境問題Ⅱ			
		企業金融論Ⅰ			
		企業金融論Ⅱ			
		労働法Ⅰ			
		労働法Ⅱ			
		外国経営書講読Ⅰ			
外国経営書講読Ⅱ					
金融経済の基礎知識	1 2 3 4				

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備 考			
ライセンスプログラム	自由選択科目	検定英語Ⅰ	2	1	2	3	4	演習科目等の必修科目を除き、 (ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、18単位以上履修			
		検定英語Ⅱ	4								
		検定経営学	2								
		検定経済学	2								
		財務諸表論	4	1	2	3	4				
		簿記論									
		税法									
		建設業経理士Ⅰ	2								
		建設業経理士Ⅱ	4								
		情報処理入門Ⅰ	1	1	2	3	4				
		情報処理入門Ⅱ									
		情報処理入門Ⅲ	2						2	3	4
		情報処理入門Ⅳ									
		情報処理Ⅰ	4	1	2	3	4				
		情報処理Ⅱ									
		情報システム概論	4								
		検定簿記Ⅰ	2								
		検定簿記Ⅱ	4								
		秘書検定Ⅰ	2	2	3	4					
		秘書検定Ⅱ	4								
販売士Ⅰ	2	1	2	3	4						
販売士Ⅱ	4										
検定ビジネス能力Ⅰ	2										
検定ビジネス能力Ⅱ	4										
教職及び教科に関する科目	選択科目	* 教育原論Ⅰ	2	1	2			(教職課程履修者のみ履修可)			
		* 教育原論Ⅱ									
		* 教育心理学									
		* 発達心理学									
		* 教職概論									
		* 教育行政									
		* 教育法規									
		* 教育方法論									
		* 社会科・地歴科指導法Ⅰ									
		* 社会科・地歴科指導法Ⅱ									
		* 地理歴史科指導法									
		* 社会科・公民科指導法Ⅰ									
		* 社会科・公民科指導法Ⅱ									
		* 公民科指導法									
		* 商業科指導法									
		* 商業科教材研究									
		* 情報科指導法Ⅰ									
		* 情報科指導法Ⅱ									
		* 情報と職業									
		* 道德教育研究									
		* 特別活動研究									
		* 生徒指導論									
		* 教育相談									
		* 教職総合演習									
		* 教職時事演習									
		* 教育実践研究	3	4							
		* 中学校教育実習			4						
		* 高等学校教育実習	2	2		3	4				
		* 教育福祉論	2								
		* 職業指導Ⅰ	2	2	3	4					
* 職業指導Ⅱ											
* 学校事務概論											
卒業要件単位数			124単位								

2009～2010年度入学者カリキュラム表①

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考	
学 部 共 通 科 目	基礎科目A	必修科目	文章表現	2	1			全科目16単位履修	
			口頭表現						
			基礎数学						
			入門経済学						
			入門経営学						
			キャリアプランニング						
			健康運動科学						
			情報基礎Ⅰ						
			情報基礎Ⅱ						
	基礎科目B	選択科目	敬天愛人講座	2	1			3科目から2単位以上履修	
			入門経済学実習	1					
			入門経営学実習	1					
	言語科目A	必修科目	英語Ⅰ	1	1			全科目4単位履修	
			英語Ⅱ						
			英語Ⅲ						
			英語Ⅳ						2
	言語科目B	選択科目	フランス語Ⅰ	1	1			4単位以上履修 (同一言語科目を継続して履修する。「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」、「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。)	
			フランス語Ⅱ						
			フランス語Ⅲ						
			フランス語Ⅳ						2
			ドイツ語Ⅰ						
			ドイツ語Ⅱ						
			ドイツ語Ⅲ						
			ドイツ語Ⅳ						2
			中国語Ⅰ						
			中国語Ⅱ						
			中国語Ⅲ						
中国語Ⅳ			2						
日本語Ⅰ									
日本語Ⅱ									
日本語Ⅲ									
日本語Ⅳ			2						
英会話Ⅰ									
英会話Ⅱ									
英会話Ⅲ									
英会話Ⅳ			2						
ビジネス英語Ⅰ									
ビジネス英語Ⅱ									
時事英語Ⅰ	1	2							
時事英語Ⅱ									
教養科目	選択科目	敬愛プログラム	2	1	2	3	4	16単位以上履修	
		スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1	1	2				
		哲学	2	1	2	3	4		
		心理学							
		社会心理学							
		日本の文学							
		比較文学							
		歴史学							
		法学							
		憲法Ⅰ							
		憲法Ⅱ							
		政治学							
		日本の政治							
社会学									

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通	教 養 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	16単位以上履修
		数学Ⅰ						
		数学Ⅱ						
		統計学Ⅰ						
		統計学Ⅱ						
		環境科学						
		地球科学						
		情報概論						
		Web デザイン						
		Excel データ解析						
		プログラミング入門 (VB)						
		プログラミング入門 (C)						
		プログラミング入門 (Perl)						
		VB プログラミング						
		C プログラミング						
		Perl プログラミング						
		情報検索入門						
		データベースオペレーション						
		プレゼンテーション論Ⅰ						
		プレゼンテーション論Ⅱ						
		総合科目Ⅰ「国際社会を知る」						
		総合科目Ⅱ「国際社会を知る」						
		海外事情研修Ⅰ (アメリカ)						
海外事情研修Ⅱ (中国)								
海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)								
海外事情研修Ⅳ (イギリス)								
地域ボランティア活動								
科	教 職 専 門 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	教職課程履修者のみ履修可
		* 日本史概論Ⅰ						
		* 日本史概論Ⅱ						
		* 世界史概論Ⅰ						
		* 世界史概論Ⅱ						
		* 地理学概論Ⅰ						
		* 地理学概論Ⅱ						
		* 地誌学Ⅰ						
		* 地誌学Ⅱ						
		* 哲学概論Ⅰ						
		* 哲学概論Ⅱ						
		* 比較政治学						
		* 社会学概論						
		* 自然地理学Ⅰ						
		* 自然地理学Ⅱ						
* 環境地理学Ⅰ								
* 環境地理学Ⅱ								
キャリア科目	選 択 科 目	実践会話Ⅰ	2		2	3	6単位以上履修	
		実践会話Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅰ						
		キャリア基礎開発Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅲ						
		キャリアディベロップメント						
		キャリア教育特殊講義						
インターンシップ								

シラバス

Ⅵ
カリキュラム表

2009～2010年度入学者カリキュラム表②

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
学部共通科目	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ	1	1	全科目10単位履修
		基礎演習Ⅱ			
		専門導入演習Ⅰ		2	
		専門導入演習Ⅱ			
		専門演習Ⅰ		3	
		専門演習Ⅱ			
		卒業演習Ⅰ		4	
		卒業演習Ⅱ			
		卒業論文	2		
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論 AⅠ	2	1 2	経済理論 AⅠ・AⅡ又は BⅠ・BⅡから1科目4単 位履修、日本経済史Ⅰ・ Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱ から1科目4単位履修
		経済理論 AⅡ			
		経済理論 BⅠ			
		経済理論 BⅡ			
		日本経済史Ⅰ			
		日本経済史Ⅱ			
		西洋経済史Ⅰ			
		西洋経済史Ⅱ			
	基本科目B 選択科目	経済政策 AⅠ	2	2 3	
		経済政策 AⅡ			
		経済政策 BⅠ			
		経済政策 BⅡ			
		経済学史Ⅰ			
		経済学史Ⅱ			
		金融論Ⅰ			
		金融論Ⅱ			
日本・世界経済コース科目 選択科目	財政学Ⅰ	2	2 3	16単位以上履修	
	財政学Ⅱ				
	統計学総論Ⅰ				
	統計学総論Ⅱ				
	社会政策Ⅰ				
	社会政策Ⅱ				
	ミクロ経済学Ⅰ				
	ミクロ経済学Ⅱ				
日本・世界経済コース科目 選択科目	マクロ経済学Ⅰ	2	2 3		日本・世界経済コースに 属する者は、この欄の科 目群の中から12単位以上 履修
	マクロ経済学Ⅱ				
	日本経済論Ⅰ				
	日本経済論Ⅱ				
	国際経済論Ⅰ				
	国際経済論Ⅱ				
	日本経済地理				
	世界経済地理				
	入門経済刑法				
	サイバー刑法				
	商法		3 4		
	会社法				
	国際貿易論				
	開発経済学				
	ヨーロッパ経済論Ⅰ				
	ヨーロッパ経済論Ⅱ				
アメリカ経済事情Ⅰ					
アメリカ経済事情Ⅱ					
アジア経済論					
中東経済論					
労働経済論Ⅰ					
労働経済論Ⅱ					

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
経済系	環境・福祉コース科目 選択科目	環境と生活	2	2 3	環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		開発と環境			
		都市環境とまちづくり			
		環境ビジネス			
		環境政策			
		家族と地域社会			
		福祉経済論			
		社会福祉論			
		保険論			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		社会保障論Ⅰ			
		社会保障論Ⅱ			
		労働経済論Ⅰ			
		労働経済論Ⅱ			
	資源エネルギー論	3 4			
	医療の経済学				
	環境経済学Ⅰ				
	環境経済学Ⅱ				
	環境問題Ⅰ				
環境問題Ⅱ					
専門科目 公共サービスコース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
	日本経済論Ⅱ				
	公共経済学				
	公共選択論				
	入門経済刑法				
	サイバー刑法				
	行政法Ⅰ				
	行政法Ⅱ				
	労働法Ⅰ				
	労働法Ⅱ				
	民法Ⅰ				
	民法Ⅱ				
	地方自治論Ⅰ				
	地方自治論Ⅱ				
	地方自治論実習				
地方財政論Ⅰ	3 4				
地方財政論Ⅱ					
財政赤字の経済学					
経済統計Ⅰ					
経済統計Ⅱ					
社会保障論Ⅰ					
社会保障論Ⅱ					
金融・証券コース科目 選択科目	金融事情Ⅰ	2	2 3	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
	金融事情Ⅱ				
	資産運用論				
	保険論				
	商法				
	会社法				
	有価証券法Ⅰ				
	有価証券法Ⅱ				
	国際金融論Ⅰ				3 4
	国際金融論Ⅱ				
証券経済論Ⅰ					
証券経済論Ⅱ					

2009～2010年入学者カリキュラム表③

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備 考							
金融・証券コース科目	選択科目	銀行論Ⅰ	2		3	4	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修								
		銀行論Ⅱ													
企業金融論Ⅰ															
企業金融論Ⅱ															
計量経済学Ⅰ															
計量経済学Ⅱ															
経済系専門科目	選択科目	簿記論Ⅰ A	2	1	2	3	4	この欄の科目群並びに経済系基本科目 A・B 各コース科目の中から14単位以上履修							
		簿記論Ⅱ A													
		簿記論Ⅰ B													
		簿記論Ⅱ B													
		社会思想史Ⅰ													
		社会思想史Ⅱ													
		経済学方法論Ⅰ													
		経済学方法論Ⅱ													
		経済数学Ⅰ													
		経済数学Ⅱ													
		経営学概論Ⅰ													
		経営学概論Ⅱ													
		産業論Ⅰ													
		産業論Ⅱ													
		会計学Ⅰ													
		会計学Ⅱ													
		産業立地論Ⅰ													
		産業立地論Ⅱ													
		産業組織論Ⅰ													
		産業組織論Ⅱ													
		流通論													
		中小企業論Ⅰ													
		中小企業論Ⅱ													
		財務管理論													
		都市地理学													
		企業文化論													
		地域産業論													
		地域調査論													
		知的財産権論Ⅰ													
		知的財産権論Ⅱ													
		食料経済論													
		農業政策													
		外国経済書講読Ⅰ													
		外国経済書講読Ⅱ													
国際法Ⅰ															
国際法Ⅱ															
金融経済の基礎知識															
経営系専門科目	基本科目 A	経営学概論Ⅰ	2	1	2			全科目 8 単位履修							
		経営学概論Ⅱ													
		会計学Ⅰ													
		会計学Ⅱ													
	基本科目 B	選択科目							簿記論Ⅰ A	2	1	2	3		16単位以上履修
									簿記論Ⅱ A						
簿記論Ⅰ B															
簿記論Ⅱ B															
産業論Ⅰ															
産業論Ⅱ															

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
基本科目B	選択科目	マーケティング論Ⅰ	2	2 3	16単位以上履修
		マーケティング論Ⅱ			
		経営史Ⅰ			
		経営史Ⅱ			
		経営戦略論Ⅰ			
		経営戦略論Ⅱ			
		経営組織論Ⅰ			
		経営組織論Ⅱ			
		経営分析Ⅰ			
		経営分析Ⅱ			
		経済理論AⅠ			
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
		経営系専門科目			
人的資源管理Ⅱ					
消費者行動論Ⅰ					
消費者行動論Ⅱ					
商法					
会社法					
民法Ⅰ					
民法Ⅱ					
原価計算論Ⅰ					
原価計算論Ⅱ					
税務会計論Ⅰ					
税務会計論Ⅱ					
財務管理論					
マーケティングリサーチ					
国際経営論					
目	ビジネス情報コース 選択科目	経営情報論Ⅰ	2	2 3	ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		経営情報論Ⅱ			
		情報社会と倫理			
		ハードウェアシステム論			
		OS論			
		ネットワークシステム論			
		情報セキュリティ論			
		アルゴリズム論Ⅰ			
		アルゴリズム論Ⅱ			
		システム設計論Ⅰ			
		システム設計論Ⅱ			
		情報システム開発論			
		流通情報論			
		データベース論			
		シミュレーション論			
				3 4	

シラバス

VI
カリキュラム表

2009～2010年度入学者カリキュラム表④

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備 考	
経 営 系 専 門 科 目	現代産業コース 選択科目	産業立地論Ⅰ	2	2	3			現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修	
		産業立地論Ⅱ							
		流通論		3	4				
		流通情報論							
		流通経営論Ⅰ		2	3				
		流通経営論Ⅱ							
		観光事業論Ⅰ		2	3				
		観光事業論Ⅱ							
		地域調査論		3	4				
		地域産業論							
	サービス産業論	3	4						
	IT サービス産業論								
	産業組織論Ⅰ	3	4						
	産業組織論Ⅱ								
	中小企業論Ⅰ	3	4						
	中小企業論Ⅱ								
	都市地理学	3	4						
	都市環境とまちづくり								
	展 開 科 目	選択科目	経済政策 AⅠ	2	2	3	4		この欄の科目群並びに経営系基本科目 B 各コース科目の中から14単位以上履修
			経済政策 AⅡ						
経済政策 BⅠ									
経済政策 BⅡ									
金融論Ⅰ									
金融論Ⅱ									
統計学総論Ⅰ									
統計学総論Ⅱ									
ミクロ経済学Ⅰ									
ミクロ経済学Ⅱ									
マクロ経済学Ⅰ									
マクロ経済学Ⅱ									
日本経済論Ⅰ									
日本経済論Ⅱ									
経済統計Ⅰ									
経済統計Ⅱ									
国際貿易論									
ベンチャービジネス論									
地域企業会計論									
企業再生論									
環境ビジネス									
環境問題Ⅰ									
環境問題Ⅱ									
企業金融論Ⅰ									
企業金融論Ⅱ									
労働法Ⅰ									
労働法Ⅱ									
外国経営書講読Ⅰ									
外国経営書講読Ⅱ									
金融経済の基礎知識	1	2	3	4					
プログラム	自由選択科目	検定英語Ⅰ	2	1	2	3	4	演習科目等の必修科目を除き、(ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、16単位以上履修	
		検定英語Ⅱ	4						
		検定経営学	2						
		検定経済学	2						

科目区分	科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考	
ライセンスプログラム	自由選択科目	財務諸表論			演習科目等の必修科目を除き、 (ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、16単位以上履修
		簿記論	4		
		税法			
		建設業経理士Ⅰ	2		
		建設業経理士Ⅱ	4	1 2 3 4	
		情報処理入門Ⅰ	1		
		情報処理入門Ⅱ			
		情報処理入門Ⅲ			
		情報処理入門Ⅳ	2		
		情報処理Ⅰ		2 3 4	
		情報処理Ⅱ			
		情報システム概論	4		
		検定簿記Ⅰ	2	1 2 3 4	
		検定簿記Ⅱ	4		
		秘書検定Ⅰ	2	2 3 4	
		秘書検定Ⅱ	4		
		販売士Ⅰ	2		
		販売士Ⅱ	4	1 2 3 4	
検定ビジネス能力Ⅰ	2				
検定ビジネス能力Ⅱ	4				
教職及び教科に関する科目	選択科目	* 教育原論Ⅰ		1 2	(教職課程履修者のみ履修可)
		* 教育原論Ⅱ			
		* 教育心理学			
		* 発達心理学			
		* 教職概論			
		* 教育行政			
		* 教育法規			
		* 教育方法論			
		* 社会科・地歴科指導法Ⅰ			
		* 社会科・地歴科指導法Ⅱ			
		* 地理歴史科指導法			
		* 社会科・公民科指導法Ⅰ			
		* 社会科・公民科指導法Ⅱ			
		* 公民科指導法	2		
		* 商業科指導法		2 3	
		* 商業科教材研究			
		* 情報科指導法Ⅰ			
		* 情報科指導法Ⅱ			
		* 情報と職業			
		* 道德教育研究			
		* 特別活動研究			
		* 生徒指導論			
		* 教育相談			
		* 教職総合演習			
		* 教職時事演習			
		* 教育実践研究		3 4	
		* 中学校教育実習	4		
* 高等学校教育実習	2				
* 教育福祉論	2	2 3			
* 職業指導Ⅰ		2 3 4			
* 職業指導Ⅱ	2				
* 学校事務概論		2 3			
卒業要件単位数		124単位			

2008年度入学者 経済学部カリキュラム表①

(経済学部規程 第4条)

科目区分	科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次	履修方法	経済系	経営系	備考
基 本 科 目	人文分野	哲学Ⅰ	1 2	人文・社会・自然 の各分野から最低 4単位を選択必修 した上で、スポー ツ教育を含め14単 位選択必修 (法学Ⅲは日本国 憲法2単位を含 む)	14	14	*印は教職課程履 修者のみ履修可
		哲学Ⅱ					
		心理学Ⅰ					
		心理学Ⅱ					
		文学Ⅰ					
		文学Ⅱ					
		歴史学Ⅰ					
		歴史学Ⅱ					
		人文地理学Ⅰ					
		人文地理学Ⅱ					
		*日本史概論Ⅰ					
		*日本史概論Ⅱ					
		*世界史概論Ⅰ					
		*世界史概論Ⅱ					
		*地理学Ⅰ					
		*地理学Ⅱ					
		*地誌学Ⅰ					
	*地誌学Ⅱ						
	*哲学概論Ⅰ						
	*哲学概論Ⅱ						
	社会分野	法学Ⅰ	1 2	人文・社会・自然 の各分野から最低 4単位を選択必修 した上で、スポー ツ教育を含め14単 位選択必修 (法学Ⅲは日本国 憲法2単位を含 む)	14	14	教職課程履修者 は法学Ⅲ必修
		法学Ⅱ					
		政治学Ⅰ					
		政治学Ⅱ					
		社会学Ⅰ					
		社会学Ⅱ					
		入門経済学					
		入門経営学					
		*比較政治学					
		*社会学概論					
	自然分野	生命科学Ⅰ	1 2	人文・社会・自然 の各分野から最低 4単位を選択必修 した上で、スポー ツ教育を含め14単 位選択必修 (法学Ⅲは日本国 憲法2単位を含 む)	14	14	教職課程履修者 は法学Ⅲ必修
		生命科学Ⅱ					
		数学					
統計学							
環境科学Ⅰ							
環境科学Ⅱ							
地球科学Ⅰ							
地球科学Ⅱ							
*自然地理学Ⅰ							
*自然地理学Ⅱ							
*環境地理学Ⅰ							
*環境地理学Ⅱ							
育保 科健 目体	選択科目	1					
	必修科目	2	1	2単位必修	2	2	
入専 科系 目導	科目選 系A 目通	4	1 2	4単位以上選択必 修	4	4	
	科目選 系B 目通	4	1 2	4単位以上選択必 修	4	4	

科目区分		科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次		履修方法	経済系	経営系	備考
系共通科目	選択科目A群	日本経済史	4	1	2	4単位以上選択必修	4	4	
		西洋経済史							
		経済政策総論A		2	3	4単位以上選択必修			
		経済政策総論B							
	経済系科目	選択科目B1群	経済学史Ⅰ	2	2	3	12単位以上選択必修 の上で、B群全体から 16単位以上選択必修	16	
			経済学史Ⅱ						
			日本経済論Ⅰ						
			日本経済論Ⅱ						
			国際経済論Ⅰ						
			国際経済論Ⅱ						
			金融論Ⅰ						
			金融論Ⅱ						
			財政学総論Ⅰ						
			財政学総論Ⅱ						
			統計学総論Ⅰ						
統計学総論Ⅱ									
社会政策総論Ⅰ									
社会政策総論Ⅱ									
ミクロ経済学Ⅰ									
ミクロ経済学Ⅱ									
マクロ経済学Ⅰ									
マクロ経済学Ⅱ									
経営系科目	選択科目B2群	簿記原理Ⅰ	2	1	2	12単位以上選択必修 の上で、B群全体から 16単位以上選択必修	16		
		簿記原理Ⅱ							
		産業総論Ⅰ		2	3				
		産業総論Ⅱ							
		経営学原理Ⅰ							
		経営学原理Ⅱ							
		会計学原理Ⅰ							
		会計学原理Ⅱ							
		マーケティング論Ⅰ							
		マーケティング論Ⅱ							
		経営史Ⅰ							
経営史Ⅱ									
経済系科目	選択科目C1群	経済学方法論Ⅰ	2	2	3	20単位以上選択必修	20		
		経済学方法論Ⅱ							
		経済数学Ⅰ							
		経済数学Ⅱ							
		公共経済学							
		公共選択論							
		日本経済地理		3	4				
		世界経済地理							
		地方財政論Ⅰ							
		地方財政論Ⅱ							
		計量経済学Ⅰ							
		計量経済学Ⅱ							
		国際金融論Ⅰ							
国際金融論Ⅱ									

2008年度入学者 経済学部カリキュラム表②

(経済学部規程 第4条)

区分	科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次	履修方法	経済系	経営系	備考	
選択導入科目・ 基幹科目・ 展開科目	経済系科目 選択科目C1群	2	国際貿易論	3 4	20単位以上選択必修	20		
			経済統計Ⅰ					
			経済統計Ⅱ					
			ヨーロッパ経済論Ⅰ					
			ヨーロッパ経済論Ⅱ					
			アメリカ経済事情Ⅰ					
			アメリカ経済事情Ⅱ					
			社会保障論Ⅰ					
			社会保障論Ⅱ					
			労働経済論Ⅰ					
			労働経済論Ⅱ					
			証券経済論Ⅰ					
			証券経済論Ⅱ					
			環境経済学					
			アジア経済論					
			中東経済論					
			多国籍企業論					
			新エネルギー論					
			開発経済学					
			生活経済論Ⅰ					2 3
	生活経済論Ⅱ							
	福祉経済論							
	社会福祉論							
	経営系科目 選択科目C2群	2	20単位以上選択必修	3 4	20	20		
								産業立地論Ⅰ
								産業立地論Ⅱ
								産業組織論Ⅰ
								産業組織論Ⅱ
人的資源管理Ⅰ								
人的資源管理Ⅱ								
原価計算論Ⅰ								
原価計算論Ⅱ								
経営分析Ⅰ								
経営分析Ⅱ								
地域産業論								
税務会計論Ⅰ								
税務会計論Ⅱ								
流通経営論Ⅰ								
流通経営論Ⅱ								
経営戦略論Ⅰ								
経営戦略論Ⅱ								
サービス産業論								
ITサービス産業論								
経営組織論Ⅰ								
経営組織論Ⅱ								
国際経営論								
ベンチャービジネス論								
地域企業会計論								
企業再生論								

区分	科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次	履修方法	経済系	経営系	備考	
選択導入科目・基幹科目・展開科目	経営系科目 選択科目C2群	2	経営情報論Ⅰ	20単位以上選択必修				
			経営情報論Ⅱ					
			流通総論					
			流通情報論					
			中小企業論					
			マーケティングリサーチ					
			消費者行動論Ⅰ					
			消費者行動論Ⅱ					
			財務管理論					3 4
			企業倫理論					
			観光事業論Ⅰ					2 3
			観光事業論Ⅱ					
			データベース論Ⅱ					3 4
			情報システム開発論					
			アルゴリズム論Ⅰ					
			アルゴリズム論Ⅱ					2 3
			システム統計論Ⅰ					
			システム統計論Ⅱ					
			シミュレーション論					
			情報社会と倫理					1 2
	ハードウェアシステム論							
	OS論	2 3						
	ネットワークシステム論							
	情報セキュリティ論							
	系共通科目 選択科目D群	2	外国書講読Ⅰ	3 4	法律科目8単位以上を含め14単位以上選択必修	14	14	
			外国書講読Ⅱ					
			社会思想史Ⅰ	1 2				
社会思想史Ⅱ								
都市地理学Ⅰ								
都市地理学Ⅱ			2 3					
金融事情Ⅰ								
金融事情Ⅱ								
食料経済論								
農業政策			3 4					
地域調査論								
環境ビジネス								
環境アセスメント								
環境マネジメント								
地域経済学			2 3					
企業文化論Ⅰ								
企業文化論Ⅱ								
ジェンダーの社会学								
知的財産権論Ⅰ	3 4							
知的財産権論Ⅱ								
法律科目	2	憲法Ⅰ	1 2					
		憲法Ⅱ						
		民法Ⅰ	2 3					
		民法Ⅱ						

シラバス

VI
カリキュラム表

2008年度入学者 経済学部カリキュラム表③

(経済学部規程 第4条)

区分	科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次				履修方法	経済 系	経営 系	備 考	
展開科目	選択科目D群 法律科目	入門経済刑法	2					6単位以上選択必修	6	6	
		サイバー刑法									
		労働法Ⅰ									
		労働法Ⅱ									
		商法			2	3					
		会社法									
		行政法Ⅰ									
		行政法Ⅱ									
		有価証券法Ⅰ									
		有価証券法Ⅱ									
		国際法Ⅰ				3	4				
		国際法Ⅱ									
	選択科目E群 キャリア科目	基礎学力総合講座Ⅰ(国語)	1	1	2	3	4	6単位以上選択必修	6	6	
		基礎学力総合講座Ⅱ(国語)									
		基礎学力総合講座Ⅲ(数学)									
		基礎学力総合講座Ⅳ(数学)									
		キャリア教育特殊講義	2		2	3					
		インターンシップ			3						
		キャリア基礎開発Ⅰ		1	2	3	4				
キャリア基礎開発Ⅱ											
キャリア基礎開発Ⅲ											
会話表現Ⅰ		2		3	4						
会話表現Ⅱ											
金融・経済の基礎知識	1	2									
演習科目	必修科目	演習Ⅰ		1			10単位必修(演習Ⅳは卒業論文2単位を含む)	10	10		
		演習Ⅱ	2		2						
		演習Ⅲ				3					
		演習Ⅳ	4			4					
コミュニケーション科目	必修科目	英語Ⅰ	2	1			4単位必修	4	4		
		英語Ⅱ			2						
	選択必修科目	フランス語Ⅰ	2		1			1ヶ国語4単位必修	4	4	
		フランス語Ⅱ				2					
		ドイツ語Ⅰ				1					
		ドイツ語Ⅱ					2				
		中国語Ⅰ				1					
		中国語Ⅱ					2				
		日本語Ⅰ				1					
		日本語Ⅱ					2				
		英会話Ⅰ				1					
		英会話Ⅱ					2				
		時事英語									
		ビジネス英語				2	3				4
		情報		必修科目	情報基礎Ⅰ	1	1				
情報基礎Ⅱ											
選択科目	情報概論		2		1		(専門導入科目及び展開科目並びにコミュニケーション科目(言語)からの選択を含め20単位以上必要ただしライセンスプログラムの卒業認定単位数は12単位までとする)	20	20	教職課程履修者は情報処理関連科目の何れかを選択必修	
	Webデザイン				1	2					
	Excelデータ解析										

区分		科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次				履修方法	経済系	経営系	備考				
コミュニケーション科目	情報 総合科目	プログラミング入門 (VB)	2	2	3										
		プログラミング入門 (C)													
		プログラミング入門 (Perl)													
		情報検索入門													
		VB プログラミング													
		C プログラミング													
		Perl プログラミング													
		データベース論 I													
		プレゼンテーション論 I													
		プレゼンテーション論 II													
総合科目	選択科目	総合科目 A I	2	1	2	3	4								
		総合科目 A II													
		敬天愛人講座													
特別教育科目	選択科目	海外事情研修 I (アメリカ)	2	1	2	3	4								
		海外事情研修 II (中国)													
		海外事情研修 III (オーストラリア)													
		海外事情研修 IV (イギリス)													
		地域ボランティア活動													
	ライセンスプログラム (選択科目)	検定簿記 I	2	1	2	3	4								
		検定簿記 II	4												
		検定英語 I	2												
		検定英語 II	4												
		情報処理入門 I	2												
		情報処理入門 II													
		情報処理入門 III													
		情報処理入門 IV													
		情報処理 I	2									2	3	4	
		情報処理 II													
		情報システム概論													
		システム管理論													
		情報システム論	2									1	2	3	4
		検定ビジネス能力 I													
		検定ビジネス能力 II	4												
		販売士 I	2												
		販売士 II	4												
		検定経営学	2									1	2	3	4
		検定経済学													
		財務諸表論	4												
簿記論															
税法															
建設業経理士 (3級)	2														
建設業経理士 (2級)	4														
に 関 する 科 目	教職及び教員 に関する科目	*教育原論 I	2	1	2					教育原論以降の 科目は教職課程履 修者のみ履修					
		*教育原論 II													
		*発達心理学													
		*教育心理学													
		*教職概論													
		*教育行政									2	3			

2008年度入学者 経済学部カリキュラム表④

(経済学部規程 第4条)

区 分	科目名 (*は教職科目を示す)	開講 単位	開講年次		履修方法	経済系	経営系	備 考
特別教育科目	*教育法規	2	2	3				
	*教育方法論							
	*社会科・地歴科教育法							
	*地理歴史科教育法							
	*社会科・公民科教育法							
	*公民科教育法							
	*商業科教育法							
	*商業科教材研究							
	*情報科教育法Ⅰ							
	*情報科教育法Ⅱ							
	*情報と職業							
	*道徳教育研究							
	*特別活動研究							
	*生徒指導論							
	*教育相談							
	*教職総合演習							
	*教職時事演習	1		3	4			
	*教育実践研究							
	*中学校教育実習	4			4			
	*高校教育実習	2						
*教育福祉論	3	2	3				(介護等体験含む)	
*職業指導Ⅰ	2	2	3	4				
*職業指導Ⅱ								
*学校事務概論								2
卒業要件単位						124	124	

(付表1)

卒業するためには4年以上在学し、下記の区分に従って科目を履修し、単位を修得しなければなりません。
2008(平成20)年度入学者に適用

※この概念図は、実際のカリキュラム表とは一部変更があります

区 分				卒業必要 単 位	摘 要
基 本 科 目	選択科目	人文分野		4	14単位以上 人文・社会・自然の各分野から最低4単位を選択必修した上で、スポーツ教育を含めて14単位選択必修
		社会分野		4	
		自然分野		4	
保健体育科目	科必修	スポーツ教育			2単位必修
		健康運動科学		2	
専 門 導 入 科 目	系共通科目	A群	経済原論A	4	12単位以上選択必修(経済原論A・Bから4単位選択必修、日本・西洋経済史から4単位選択必修、経済政策総論A・Bから4単位必修)
			経済原論B	4	
			日本経済史 西洋経済史	4	
基 幹 科 目	選択科目	経済系	B1群	16	B1群を最低12単位以上選択した上で、B1～2群全体から16単位以上選択必修
			C1群	20	20単位以上選択必修
		経営系	B2群	16	B2群を最低12単位以上選択した上で、B1～2群全体から16単位以上選択必修
			C2群	20	20単位以上選択必修
		展 開 科 目	系共通科目	D群	法律科目
E群	キャリア科目				6
				14	
演 習 科 目	科必修	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (卒業必修)		10	10単位 10単位必修
コミュニケーション科目 (言語)	科必修	英語		4	4単位 4単位必修
	選択科目	フランス語		4	4単位以上 4単位選択必修
		ドイツ語			
		中国語			
		日本語			
選択英語					
コミュニケーション科目 (情報)	科必修	情報基礎Ⅰ・Ⅱ		2	2単位 2単位必修
総 合 科 目	選択科目	コミュニケーション科目 (情報科目)		20単位以上	A～E群及びコミュニケーション科目(言語)からの選択を含めて20単位以上選択必修(ただし、ライセンスプログラムの卒業認定単位数は12単位まで)
特別教育科目 (ライセンスプログラム)		総合科目・敬天愛人講座			
卒業所要単位 124単位以上 (ただし、124単位以上取得していても各分野において最低必要単位数を充足していない場合は卒業できません。)					

規程

I 敬愛大学経済学部規程

(総 則)

第1条 敬愛大学経済学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、敬愛大学学則に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(学 科)

第2条 本学部に、次の学科を置く。
経済学科

(教育課程)

第3条 本学部経済学科の教育課程は、学部共通科目、経済系専門科目、経営系専門科目、ライセンスプログラム及び教職及び教科に関する科目により編成する。

- (1) 学部共通科目には、基礎科目 A、基礎科目 B、言語科目 A、言語科目 B、教養科目、教職専門科目、キャリア科目、演習科目をおく。
- (2) 経済系専門科目には、基本科目 A、基本科目 B、日本・世界経済コース科目、環境・福祉コース科目、公共サービスコース科目、金融・証券コース科目、展開科目をおく。
- (3) 経営系専門科目には、基本科目 A、基本科目 B、経営・会計コース科目、ビジネス情報コース科目、現代産業コース科目、展開科目をおく。
- (4) ライセンスプログラム及び教職及び教科に関する科目をおく。

2 本学部経済学科に、次に掲げる系・コースを置く。

一 経済系

- 日本・世界経済コース
- 環境・福祉コース
- 公共サービスコース
- 金融・証券コース

二 経営系

- 経営・会計コース
- ビジネス情報コース
- 現代産業コース

(授業科目、単位数、履修方法及び卒業に必要な修得単位数)

第4条 授業科目、単位数、履修方法及び卒業に必要な修得単位数は、別表のとおりとする。

(履修登録及び履修制限等)

第5条 授業科目の履修については、前期開講科目は前期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。

- 2 後期開講科目は後期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。
- 3 履修登録の取り扱いについては別に定める。

4 年次別の履修単位数は46単位とする。

ただし、第3条第1項(4)に規定するライセンスプログラムと教職及び教科に関する科目の履修単位は上記の単位に含まれない。

(他学部等の履修)

第6条 他学部等の授業科目を履修する場合は当該学部の許可を得て履修し、単位を修得したときは、相当する科目群の科目として、単位を認定することができる。

(考 査)

第7条 授業科目を履修したときは、考査を行い、合格に対して単位を与える。

- 2 考査は、試験、論文レポート、試問、その他の方法により行う。
- 3 試験は、原則として学期末に行う。

(追試験)

第8条 病気その他やむを得ない事由によって、受験できなかった者には、願い出により追試験を行う。

- 2 追試験の実施要件は別に定める。

(再試験)

第9条 各学年で一定の修得単位に満たない場合、願い出により再試験を行うことができる。

- 2 再試験の実施要件は別に定める。

(編入学・転入学)

第10条 編入学を志願する者があるときは、次の年次及び定員について、選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 2年次 5名
- (2) 3年次 5名

- 2 転入学を志願する者があるときは、欠員がある場合に限り選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。
- 3 編入学・転入学の取り扱いは、経済学部編入学・転入学に関する規程による。

(再入学)

第11条 再入学を志願する者があるときは、欠員がある場合に限り選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

- 2 再入学に関する規程は別に定める。

(聴講生)

第12条 聴講生の入学資格は、学則第7条に定める入学資格による。

- 2 聴講生に対しては、単位の認定は行わないものとする。
- 3 聴講のための諸納金は、当該年度の科目等履修生と同額とする。

(外国人留学生)

第13条 外国人留学生の取扱は、外国人留学生規程の定めるところとする。

- 2 学費は、私費外国人留学生授業料減免規定の定めるところによる。
- 3 学生生活全般の相談は、学生支援室が行う。

(既修得単位の認定)

第14条 学則第11条第4項及び第26条に定める既修得単位の認定は、次の各号の単位を超えない範囲で学則第28条に定める単位として一括認定し、各科目群に配分する。

- (1) 1年次 19単位
- (2) 2年次 38単位
- (3) 3年次 65単位

2 前項は、外国における大学等を卒業又は退学した者にまた適用する。

(教育職員免許状)

第15条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

(福利及び厚生)

第16条 学生の福利・厚生施設として、保健室及び学生食堂をおき利用に供する。

(改 廃)

第17条 この規程の改廃は、教授会の議を経なければならない。

附 則

この規程は平成14年7月2日から施行する。

附 則

- 1 この規程は平成18年4月1日から施行する。
- 2 第3条第2項の改正は、平成15年度入学者から適用する。
- 3 年次別履修単位数に関する内規及び留年制度に関する内規は廃止する。

附 則

- 1 この規程は平成21年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第3条及び第4条に定める教育課程及び授業科目、単位数、及び履修方法に必要な修得単位数は、平成20年度以前の入学者はなお従前のおりとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第5条第4項に定める年次別履修単位数の規定は平成20年度入学者から適用する。
- 4 第1項の規定にかかわらず、第14条に定める既修得単位の規定は平成20年度入学者から適用する。
- 5 第2年次留年制度に関する規定は平成20年度より廃止する。

五十音順索引

五十音順索引

2009～2011年度入学生
(09・11カリキュラム)

ア

IT サービス産業論	177
アジア経済論	120
アメリカ経済事情Ⅰ	119
アメリカ経済事情Ⅱ	119
アルゴリズム論Ⅰ	169
アルゴリズム論Ⅱ	169

イ

医療の経済学	129
--------	-----

ウ

Web デザイン	65
----------	----

エ

英会話Ⅰ	49
英会話Ⅱ	50
英会話Ⅲ	50
英会話Ⅳ	51
英語Ⅰ-1	13
英語Ⅰ-2	14
英語Ⅰ-3	15
英語Ⅰ-4	16
英語Ⅰ-5	17
英語Ⅰ-6	18
英語Ⅰ-EX	12
英語Ⅰ-P	19
英語ⅠR (a)・ⅠR (a)	20
英語ⅠR (b)・ⅠR (b)	21
英語Ⅱ-1	14
英語Ⅱ-2	15
英語Ⅱ-3	16
英語Ⅱ-4	17
英語Ⅱ-5	18
英語Ⅱ-6	19
英語Ⅱ-EX	13
英語Ⅱ-P	20
英語ⅢR (b)・ⅢR (b)	28
英語Ⅲ-1	21
英語Ⅲ-2	22
英語Ⅲ-3	23
英語Ⅲ-4	24

英語Ⅲ-5	25
英語Ⅲ-6	26
英語ⅢR (a)・ⅢR (a)	27
英語Ⅳ-1	22
英語Ⅳ-2	23
英語Ⅳ-3	24
英語Ⅳ-4	25
英語Ⅳ-5	26
英語Ⅳ-6	27
Excel データ解析	65

オ

OS 論	167
------	-----

カ

海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	72
海外事情研修Ⅱ(中国)	72
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	73
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	73
会計学Ⅰ	154
会計学Ⅱ	154
外国経営書講読Ⅰ	181
外国経営書講読Ⅱ	182
外国経済書講読Ⅰ	150
外国経済書講読Ⅱ	151
会社法	117
開発と環境	122
家族と地域社会	124
学校事務概論	203
環境科学	63
環境経済学Ⅰ	129
環境経済学Ⅱ	130
環境政策	124
環境地理学Ⅰ	81
環境地理学Ⅱ	82
環境と生活	122
環境ビジネス	123
環境問題Ⅰ	130
環境問題Ⅱ	131
観光事業論Ⅰ	174
観光事業論Ⅱ	175

キ

企業金融論Ⅰ	144
企業金融論Ⅱ	144
企業再生論	181
企業文化論	149
企業倫理論	166
基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ	86
基礎演習ⅠR (a)・ⅠR (a)	87

基礎演習 I R (b)・II R (b)	87	経済政策 B I	104
基礎数学 1・2・3・4	3	経済政策 B II	105
キャリア基礎開発 I	83	経済統計 I	137
キャリア基礎開発 II	84	経済統計 II	138
キャリア基礎開発Ⅲ	84	経済理論 A I	99
キャリア教育特殊講義	85	経済理論 A II	100
キャリアディベロップメント	85	経済理論 B I	100
キャリアプランニング	5	経済理論 B II	101
教育行政	190	敬天愛人講座 (分) A	10
教育原論 I	188	敬天愛人講座 (分) B	11
教育原論 II	188	計量経済学 I	145
教育実践研究	200	計量経済学 II	145
教育心理学 (分) A・B	189	原価計算論 I	163
教育相談	199	原価計算論 II	163
教育福祉論	201	健康科学 A・B	6
教育法規	191	憲法 I	59
教育方法論	191	憲法 II	59
教職概論	190		
教職時事演習	200	コ	
教職総合演習	199	公共経済学	131
行政法 I	132	公共選択論	132
行政法 II	133	口頭表現 1・2・3・4	2
銀行論 I	143	公民科指導法	194
銀行論 II	143	国際金融論 I	141
金融経済の基礎知識	152	国際金融論 II	141
金融事情 I	138	国際経営論	165
金融事情 II	139	国際経済論 I	113
金融論 I	106	国際経済論 II	114
金融論 II	107	国際法 I	151
		国際法 II	152
ケ		国際貿易論	117
敬愛プログラム	53		
経営学概論 I	153	サ	
経営学概論 II	153	サービス産業論	176
経営史 I	159	財政赤字の経済学	137
経営史 II	159	財政学 I	107
経営戦略論 I	160	財政学 II	108
経営戦略論 II	160	サイバー刑法	116
経営組織論 I	161	財務管理論	165
経営組織論 II	161	産業組織論 I	177
経営分析 I	162	産業組織論 II	178
経営分析 II	162	産業立地論 I	172
経済学史 I	105	産業立地論 II	172
経済学史 II	106	産業論 I	157
経済学方法論 I	147	産業論 II	157
経済学方法論 II	147		
経済数学 I	148	シ	
経済数学 II	148	C プログラミング	68
経済政策 A I	103	資源エネルギー論	128
経済政策 A II	104	資産運用論	139

時事英語Ⅰ	52
時事英語Ⅱ	53
システム設計論Ⅰ	170
自然地理学Ⅰ	80
自然地理学Ⅱ	81
実践会話Ⅰ	82
実践会話Ⅱ	83
社会科・公民科指導法Ⅰ	193
社会科・公民科指導法Ⅱ	194
社会科・地歴科指導法Ⅰ	192
社会科・地歴科指導法Ⅱ	192
社会学	61
社会学概論	80
社会思想史Ⅰ	146
社会思想史Ⅱ	146
社会心理学	56
社会政策Ⅰ	109
社会政策Ⅱ	110
社会福祉論	125
社会保障論Ⅰ	127
社会保障論Ⅱ	128
商業科教材研究	195
商業科指導法	195
証券経済論Ⅰ	142
証券経済論Ⅱ	142
商法	116
情報概論	64
情報科指導法Ⅰ	196
情報科指導法Ⅱ	196
情報基礎Ⅰ	6
情報基礎Ⅰ	7
情報基礎Ⅰ	7
情報基礎ⅠR	9
情報基礎Ⅱ	8
情報基礎Ⅱ	8
情報基礎Ⅱ	9
情報基礎ⅡR	10
情報経済論	171
情報検索入門	69
情報社会と倫理	166
情報セキュリティ論	168
情報と職業	197
職業指導Ⅰ	202
職業指導Ⅱ	202
食料経済論	149
心理学	56

ス

数学Ⅰ	61
数学Ⅱ	62

スポーツ教育Ⅰ(シーズンスポーツⅠ:ゴルフ1)	54
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(キャンパススポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	54
スポーツ教育Ⅲ(シーズンスポーツⅢ:ゴルフ2)	55

セ

政治学	60
生徒指導論	198
税務会計論Ⅰ	164
税務会計論Ⅱ	164
西洋経済史Ⅰ	102
西洋経済史Ⅱ	103
世界経済地理	115
世界史概論Ⅰ	75
世界史概論Ⅱ	76
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔青木〕	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔折原〕	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔飯野〕	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔小山〕	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔鈴木〕	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔添田〕	95
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔仁平〕	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔野口〕	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔馬場〕	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔畢〕	95
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔牧野〕	92
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔森島〕	94
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔森谷〕	93
専門演習Ⅰ・Ⅱ〔和田〕	94
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔青木〕	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔折原〕	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔飯野〕	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔金子〕	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔加茂川〕	87
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔岸本〕	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔小山〕	89
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔鈴木〕	87
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔添田〕	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔仁平〕	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔野口〕	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔馬場〕	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔畢〕	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔星〕	91
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔牧野〕	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔森島〕	90
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔森谷〕	88
専門導入演習Ⅰ・Ⅱ〔和田〕	90

ソ

総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	71
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	71

チ

地域企業会計論	180
地域産業論	176
地域調査論	175
地域ボランティア活動	74
地球科学	64
地誌学Ⅰ	77
地誌学Ⅱ	78
地方財政論Ⅰ	136
地方財政論Ⅱ	136
地方自治論Ⅰ	134
地方自治論Ⅱ	135
地方自治論実習	135
中国語ⅠA・B	36
中国語ⅠR(A)	37
中国語ⅠR(B)	38
中国語ⅡA・B	37
中国語ⅡR(A)	38
中国語ⅡR(B)	39
中国語Ⅲ-A・B・C	39
中国語ⅢR	40
中国語Ⅳ-A・B・C	40
中国語ⅣR	41
中小企業論Ⅰ	178
中小企業論Ⅱ	179
中東経済論	120
地理学概論Ⅰ	76
地理学概論Ⅱ	77
地理歴史科指導法	193

テ

データベースオペレーションA・B	69
データベース論	171
哲学	55
哲学概論Ⅰ	78
哲学概論Ⅱ	79

ト

ドイツ語Ⅰ-A	32
ドイツ語Ⅰ-B	33
ドイツ語Ⅱ-A	33
ドイツ語Ⅱ-B	34
ドイツ語Ⅲ-A	34
ドイツ語Ⅲ-B	35
ドイツ語Ⅳ-A	35
ドイツ語Ⅳ-B	36
統計学Ⅰ	62
統計学Ⅱ	63
統計学総論Ⅰ	108

統計学総論Ⅱ	109
道徳教育研究(分)A・B	197
特別活動研究	198
都市環境とまちづくり	123
都市地理学	179

ニ

日本経済史Ⅰ	101
日本経済史Ⅱ	102
日本経済地理	114
日本経済論Ⅰ	112
日本経済論Ⅰ	112
日本経済論Ⅱ	113
日本経済論Ⅱ	113
日本経済論Ⅱ	113
日本語Ⅰ-A	41
日本語Ⅰ-B	42
日本語Ⅰ-C	43
日本語Ⅰ-D	44
日本語Ⅰ-E	45
日本語Ⅱ-A	42
日本語Ⅱ-B	43
日本語Ⅱ-C	44
日本語Ⅱ-D	45
日本語Ⅱ-E	46
日本語Ⅲ-A	46
日本語Ⅲ-B	47
日本語Ⅲ-C	48
日本語Ⅳ-A	47
日本語Ⅳ-B	48
日本語Ⅳ-C	49
日本史概論Ⅰ	74
日本史概論Ⅱ	75
日本の政治	60
日本の文学	57
入門経営学A	4
入門経営学B	5
入門経営学実習	12
入門経済学A	3
入門経済学B	4
入門経済学実習	11
入門経済刑法	115

ネ

ネットワークシステム論	168
-------------	-----

ノ

農業政策	150
------	-----

ハ

ハードウェアシステム論	167
Perl プログラミング	68
発達心理学 (分) A・B	189

ヒ

比較政治学	79
比較文学	57
ビジネス英語 I	51
ビジネス英語 II	52

フ

VB プログラミング	67
福祉経済論	125
フランス語 I-A	28
フランス語 I-B	29
フランス語 II-A	29
フランス語 II-B	30
フランス語 III-A	30
フランス語 III-B	31
フランス語 IV-A	31
フランス語 IV-B	32
プレゼンテーション論 I A・B	70
プレゼンテーション論 II	70
プログラミング入門 C	66
プログラミング入門 Perl	67
プログラミング入門 VB	66
文章表現 1・2・3・4	2

ヘ

ベンチャービジネス論	180
------------	-----

ホ

法学	58
簿記論 I (分) A	155
簿記論 II (分) B	156
保険論	126

マ

マーケティング論 I	158
マーケティング論 II	158
マクロ経済学 I	111
マクロ経済学 II	112
ミクロ経済学 I	110
ミクロ経済学 II	111

ミ

民法 I	126
民法 II	127

ユ

有価証券法 I	140
有価証券法 II	140

ヨ

ヨーロッパ経済論 I	118
ヨーロッパ経済論 II	118

ラ

ライセンスプログラム (科目一覧)	186
-------------------	-----

リ

流通経営論 I	173
流通経営論 II	174
流通情報論	170
流通情報論	170
流通論	173
流通論	173

レ

歴史学	58
-----	----

ロ

労働経済論 I	121
労働経済論 II	121
労働法 I	133
労働法 II	134

2008年度入学生 (08カリキュラム)

ア

IT サービス産業論	177
アジア経済論	120
アメリカ経済事情Ⅰ	119
アメリカ経済事情Ⅱ	119
アルゴリズム論Ⅰ	169
アルゴリズム論Ⅱ	169

ウ

Web デザイン	65
----------	----

エ

英会話Ⅰ(英会話Ⅰ)	49
英会話Ⅰ(英会話Ⅱ)	50
英会話Ⅱ(英会話Ⅲ)	50
英会話Ⅱ(英会話Ⅳ)	51
英語ⅠR(a)(英語ⅠR(a)・ⅡR(a))	20
英語ⅠR(b)(英語ⅠR(b)・ⅡR(b))	21
英語ⅡR(a)(英語ⅢR(a)・ⅣR(a))	27
英語ⅡR(b)(英語ⅢR(b)・ⅣR(b))	28
Excel データ解析	65
演習ⅠR(a)(基礎演習ⅠR(a)・ⅡR(a))	87
演習ⅠR(b)(基礎演習ⅠR(b)・ⅡR(b))	87
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[青木]	89
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[飯野]	89
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[折原]	89
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[金子]	91
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[加茂川]	87
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[岸本]	91
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[小山]	89
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[鈴木]	87
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[添田]	91
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[仁平]	88
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[野口]	88
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[馬場]	90
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[畢]	90
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[牧野]	88
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[森島]	90
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[森谷]	88
演習Ⅱ(専門導入演習Ⅱ)[和田]	90
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[青木]	93
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[飯野]	93
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[折原]	93
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[小山]	94
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[鈴木]	92

演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[添田]	95
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[仁平]	92
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[野口]	92
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[馬場]	94
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[畢]	95
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[牧野]	92
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[森島]	94
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[森谷]	93
演習Ⅲ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)[和田]	94
演習Ⅳ[青木]	96
演習Ⅳ[飯野]	97
演習Ⅳ[折原]	97
演習Ⅳ[金子]	99
演習Ⅳ[小山]	97
演習Ⅳ[鈴木]	95
演習Ⅳ[添田]	99
演習Ⅳ[仁平]	96
演習Ⅳ[野口]	96
演習Ⅳ[馬場]	98
演習Ⅳ[畢]	98
演習Ⅳ[星]	98
演習Ⅳ[牧野]	95
演習Ⅳ[森島]	98
演習Ⅳ[森谷]	96
演習Ⅳ[和田]	97

オ

OS 論	167
------	-----

カ

海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	72
海外事情研修Ⅱ(中国)	72
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	73
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	73
会計学原理Ⅰ(会計学Ⅰ)	154
会計学原理Ⅱ(会計学Ⅱ)	154
外国書講読Ⅰ(外国経営書講読Ⅰ)	181
外国書講読Ⅰ(外国経済書講読Ⅰ)	150
外国書講読Ⅱ(外国経営書講読Ⅱ)	182
外国書講読Ⅱ(外国経済書講読Ⅱ)	151
会社法	117
会話表現Ⅰ(実践会話Ⅰ)	82
会話表現Ⅱ(実践会話Ⅱ)	83
学校事務概論	203
環境アセスメント(環境政策)	124
環境科学Ⅰ(環境科学)	63
環境経済学(環境経済学Ⅰ)	129
環境経済学Ⅱ	130
環境地理学Ⅰ	81
環境地理学Ⅱ	82

環境ビジネス	123
観光事業論Ⅰ	174
観光事業論Ⅱ	175

キ

企業再生論	181
企業文化論Ⅰ(企業文化論)	149
企業倫理論	166
基礎学力総合講座Ⅰ(国語)	182
基礎学力総合講座Ⅱ(国語)	183
基礎学力総合講座Ⅲ(数学)	183
基礎学力総合講座Ⅳ(数学)	184
キャリア基礎開発Ⅰ	83
キャリア基礎開発Ⅱ	84
キャリア基礎開発Ⅲ	84
キャリア教育特殊講義	85
教育行政	190
教育原論Ⅰ	188
教育原論Ⅱ	188
教育実践研究	200
教育心理学(分)A・B	189
教育相談	199
教育福祉論	201
教育法規	191
教育方法論	191
教職概論	190
教職時事演習	200
教職総合演習	199
金融事情Ⅰ	138
金融事情Ⅱ	139
金融論Ⅰ	106
金融論Ⅱ	107

ケ

経営学原理Ⅰ(経営学概論Ⅰ)	153
経営学原理Ⅱ(経営学概論Ⅱ)	153
経営史Ⅰ	159
経営史Ⅱ	159
経営戦略論Ⅰ	160
経営戦略論Ⅱ	160
経営組織論Ⅰ	161
経営組織論Ⅱ	161
経営分析Ⅰ	162
経営分析Ⅱ	162
経済学史Ⅰ	105
経済学史Ⅱ	106
経済学方法論Ⅰ	147
経済学方法論Ⅱ	147
経済原論A(経済理論AⅠ・AⅡ)	99・100
経済原論B(経済理論BⅠ・BⅡ)	100・101

経済数学Ⅰ	148
経済数学Ⅱ	148
経済政策総論A(経済政策AⅠ・AⅡ)	103・104
経済政策総論B(経済政策BⅠ・BⅡ)	104・105
経済統計Ⅰ	137
経済統計Ⅱ	138
敬天愛人講座ⅠA・B	10・11
計量経済学Ⅰ	145
計量経済学Ⅱ	145
原価計算論Ⅰ	163
原価計算論Ⅱ	163
健康運動科学A・B	6
憲法Ⅰ	59
憲法Ⅱ	59

ク

公共経済学	131
公共選択論	132
公民科教育法	194
国際金融論Ⅰ	141
国際金融論Ⅱ	141
国際経営論	165
国際経済論Ⅰ	113
国際経済論Ⅱ	114
国際法Ⅰ	151
国際法Ⅱ	152
国際貿易論	117

サ

サービス産業論	176
財政学総論Ⅰ(財政学Ⅰ)	107
財政学総論Ⅱ(財政学Ⅱ)	108
サイバー刑法	116
財務管理論	165
産業総論Ⅰ(産業論Ⅰ)	157
産業総論Ⅱ(産業論Ⅱ)	157
産業組織論Ⅰ	177
産業組織論Ⅱ	178
産業立地論Ⅰ	172
産業立地論Ⅱ	172

シ

Cプログラミング	68
時事英語(時事英語Ⅰ・Ⅱ)	52
システム設計論Ⅰ	170
自然地理学Ⅰ	80
自然地理学Ⅱ	81
社会科・地歴科教育法(社会科・地歴科指導法Ⅰ)...	192
社会学Ⅰ(社会学)	61
社会学Ⅱ(家族と地域社会)	124

社会学概論	80
社会科公民科教育法(社会科・公民科指導法Ⅰ)...	193
社会思想史Ⅰ	146
社会思想史Ⅱ	146
社会政策総論Ⅰ(社会政策Ⅰ)	109
社会政策総論Ⅱ(社会政策Ⅱ)	110
社会福祉論	125
社会保障論Ⅰ	127
社会保障論Ⅱ	128
商業科教育法	195
商業科教材研究	195
証券経済論Ⅰ	142
証券経済論Ⅱ	142
商法	116
情報概論	64
情報科教育法Ⅰ	196
情報科教育法Ⅱ	196
情報基礎ⅠR	9
情報基礎ⅡR	10
情報検索入門	69
情報社会と倫理	166
情報セキュリティ論	168
情報と職業	197
職業指導Ⅰ	202
職業指導Ⅱ	202
食料経済論	149
新エネルギー論(資源エネルギー論)	128
人文地理学Ⅰ(環境と生活)	122
人文地理学Ⅱ(開発と環境)	122
心理学Ⅰ(心理学)	56
心理学Ⅱ(社会心理学)	56

ス

数学(数学Ⅰ・Ⅱ)	61
スポーツ教育Ⅰ(シーズンスポーツⅠ:ゴルフ1)...	54
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ~Ⅳ)	54
スポーツ教育Ⅲ(シーズンスポーツⅢ:ゴルフ2)...	55

セ

生活経済論Ⅰ(資産運用論)	139
生活経済論Ⅱ(保険論)	126
政治学Ⅰ(政治学)	60
政治学Ⅱ(日本の政治)	60
生徒指導論	198
税務会計論Ⅰ	164
税務会計論Ⅱ	164
西洋経済史(西洋経済史Ⅰ・Ⅱ)	102・103
世界経済地理	115
世界史概論Ⅰ	75

世界史概論Ⅱ	76
--------	----

ソ

総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	71
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	71

チ

地域企業会計論	180
地域産業論	176
地域調査論	175
地域ボランティア活動	74
地球科学Ⅰ(地球科学)	64
地誌学Ⅰ	77
地誌学Ⅱ	78
地方財政論Ⅰ	136
地方財政論Ⅱ	136
中学校・高等学校教育実習	201
中国語ⅠR(a)(中国語ⅠR(a))	37
中国語ⅠR(a)(中国語ⅡR(a))	38
中国語ⅠR(b)(中国語ⅠR(b))	38
中国語ⅠR(b)(中国語ⅡR(b))	39
中国語ⅡR(中国語ⅢR)	40
中国語ⅡR(中国語ⅣR)	41
中小企業論(中小企業論Ⅰ)	178
中東経済論	120
地理学Ⅰ(地理学概論Ⅰ)	76
地理学Ⅱ(地理学概論Ⅱ)	77
地理歴史科教育法	193

テ

データベース論Ⅰ (データベースオペレーションA・B)	69
データベース論Ⅱ(データベース論)	171
哲学Ⅰ(哲学)	55
哲学概論Ⅰ	78
哲学概論Ⅱ	79

ト

ドイツ語Ⅰ-A(ドイツ語Ⅰ-A)	32
ドイツ語Ⅰ-A(ドイツ語Ⅱ-A)	33
ドイツ語Ⅰ-B(ドイツ語Ⅰ-B)	33
ドイツ語Ⅰ-B(ドイツ語Ⅱ-B)	34
ドイツ語Ⅱ-A(ドイツ語Ⅲ-A)	34
ドイツ語Ⅱ-A(ドイツ語Ⅳ-A)	35
ドイツ語Ⅱ-B(ドイツ語Ⅲ-B)	35
ドイツ語Ⅱ-B(ドイツ語Ⅳ-B)	36
統計学(統計学Ⅰ・Ⅱ)	62
統計学総論Ⅰ	108
統計学総論Ⅱ	109
道徳教育研究(分)A・B	197

特別活動研究	198
都市地理学 I (都市地理学)	179
都市地理学 II (都市環境とまちづくり)	123

二

日本経済史 (日本経済史 I・II)	101・102
日本経済地理	114
日本経済論 I	112
日本経済論 II	113
日本語 I-A (日本語 I-A)	41
日本語 I-A (日本語 II-A)	42
日本語 I-B (日本語 I-B)	42
日本語 I-B (日本語 II-B)	43
日本語 I-C (日本語 I-C)	43
日本語 I-C (日本語 II-C)	44
日本語 I-D (日本語 I-D)	44
日本語 I-D (日本語 II-D)	45
日本語 I-E (日本語 I-E)	45
日本語 I-E (日本語 II-E)	46
日本語 II-A (日本語 III-A)	46
日本語 II-A (日本語 IV-A)	47
日本語 II-B (日本語 III-B)	47
日本語 II-B (日本語 IV-B)	48
日本語 II-C (日本語 III-C)	48
日本語 II-C (日本語 IV-C)	49
日本史概論 I	74
日本史概論 II	75
入門経済学 A	3
入門経済学 B	4
入門経済刑法	115

ヌ

ネットワークシステム論	168
-------------	-----

ネ

農業政策	150
------	-----

ノ

ハードウェアシステム論	167
Perl プログラミング	68
発達心理学 (分)A・B	189

ヒ

比較政治学	79
ビジネス英語 (ビジネス英語 I・II)	51

フ

VB プログラミング	67
福祉経済論	125
フランス語 I-A (フランス語 I-A)	28

フランス語 I-A (フランス語 II-A)	29
フランス語 I-B (フランス語 I-B)	29
フランス語 I-B (フランス語 II-B)	30
フランス語 II-A (フランス語 III-A)	30
フランス語 II-A (フランス語 IV-A)	31
フランス語 II-B (フランス語 III-B)	31
フランス語 II-B (フランス語 IV-B)	32
プレゼンテーション論 I A・B	70
プレゼンテーション論 II	70
プログラミング入門 C	66
プログラミング入門 Perl	67
プログラミング入門 VB	66
文学 I (日本の文学)	57
文学 II (比較文学)	57

ヘ

ベンチャービジネス論	180
------------	-----

ホ

法学 I (法学)	58
簿記原理 I A (簿記論 I A)	155
簿記原理 I B (簿記論 I B)	156
簿記原理 II A (簿記論 II A)	155
簿記原理 II B (簿記論 II B)	156

マ

マーケティング論 I	158
マーケティング論 II	158
マクロ経済学 I	111
マクロ経済学 II	112

ミ

ミクロ経済学 I	110
ミクロ経済学 II	111
民法 I	126
民法 II	127

ユ

有価証券法 I	140
有価証券法 II	140

ヨ

ヨーロッパ経済論 I	118
ヨーロッパ経済論 II	118

ラ

ライセンスプログラム (科目一覧)	186
-------------------	-----

リ

流通経営論 I	173
---------	-----

流通經營論Ⅱ	174
流通情報論	170
流通總論（流通論）	173



歴史学Ⅰ（歴史学）	58
-----------	----



労働經濟論Ⅰ	121
労働經濟論Ⅱ	121
労働法Ⅰ	133
労働法Ⅱ	134

